Shukyo or Religion. Vol. II, (7-12) Publ...
by Japan Unitarian Association,
...

○合本第貳册

宗教

（自第七號
至第拾貳號）

May - Oct., 189[illegible]

Tokio
1892

主義之宣言

宗教は上帝を知覺し、自ら神意と信ずる所に從ひ、生活の方向を決する所のものなり、

「宗教」はユニテリアン弘道會に於て發行し、其目的は純正宗教の智識を明にし、實踐を勵まし、之れが改良進歩を計るにあり、元來ユニテリアン教は、宗教上の一運動にして、其本源と歴史とに於て基督教たり、然れども「宗教」は、決して表題に掲げたる濶大包容の名目に背き、一宗一派に偏するものにあらざるなり、

ユニテリアン教は、基督教の自由及び進歩的發達にして、普及倫理及び普及宗教と、異名同義たらしめんとの希望を有す、故に曰く世界の宗教は、千差萬別各其形狀を異にすと雖ども、均しく是れ圓滿なる一大宗教の一面に過ぎざるなりと、されば、ユニテリアン教徒は、誠實に上帝を尊崇し、宗教的智識と生活とを探求するの徒に向つて同情を表し、交友たらん事を希望するものなり、

日本ユニテリアン教徒は、上帝の天父なる事及び人類の同胞なる事を信じ、此雜誌を奉じて以て完全なる至眞と正道との本領を、世界に擴張せんとす、

余輩は「ユニテリアン」教の何者たるを一層明瞭にせんが爲め、左に該教徒基本の主義及び其普通信仰を記せん、

ユニテリアン教 基本の主義

一基礎　ユ教は口碑の教權によらず、合理的大道、科學的眞理を以て基礎となす、

二方法　ユ教は全く自由討究を以て方法となす、

三目的　ユ教は個人的及び社會的たる人類の德性を最も高尚に發達せしむるを以て目的となす、

ユニテリアン教徒 普通の信仰

一ユ教徒は信ず　宗教は人類の上帝に關係する所以及び人類の義務（上帝の意志とも稱すべき義務）に關係する所以を自然に表明するものなり、

二ユ教徒は信ず　基督教は其基本の教理に於て上帝を天父となし人類を同胞となすの宗教なり、

三ユ教徒は信ず　上帝は永遠無窮の權力、智惠、慈悲にして物質界、精神界の源泉、教導及び整理者なり、

四ユ教徒は信ず　人類は神造力の最も高大なる生産なり、人類は發達すべき智力と精神とを賦與せられ、宗教的及び道德的感情を有し、併せて上帝を知覺し、生命無窮の希望を有す、故に曰く人類は上帝の子なりと、

五ユ教徒は信ず　舊新約全書は人類幾多の著書を蒐集せるものにして誤謬の存するあるも人類の宗教的性質を表明せる最良の書籍なり、

六ユ教徒は信ず　基督は精神界の最大なる豫言者なり、宗教上の發達に於て人類を導きたる諸師の最高なるものなり、

七ユ教徒は信ず　諸宗教は皆優劣の差あるべきも、其本源同一にして、其目的も實際同一なるを以て互に教友なり、

宗教　第壹號（明治廿四年十一月五日）

社説

天下の宗教は皆交友なり

クレイ、マッコーレー

ユニテリアン教徒の主義及び信仰の宣言に曰く天下の宗教は皆交友なり何となれば其優劣長短の度こそ異なれ其本源同一にして其目的も亦た實際上同一なればなりと今此雑誌は新に「宗教」なる濶大包容の名目を以て現はれ初めて讀者諸君に見へんとするに當り世界幾多の宗教其形狀各異なりと雖も皆交友なり普通の性質を有する者なりとの論文を草するは又た無益にあらざるべきなり余輩は上帝を以て宇宙の天父なりと信じ吾人の生命、感應、希望の惟一なる源泉なりと信ずるものなり余輩は人類を以て普通の性質を有し其個人たり國民たるを問はず其間に智惠の差ありと雖も文明の程度異なりと雖も之れが進歩の道路は惟一ありと信ずるものあり余輩は人類を以て一家に於ける兄弟なりと信じ世界に生れ來るものは其何人たるを問はず共に惟一の光明に導かれ保護せられ高尚なる未來の方向に進行しつゝあるものなりと信ずるものなり

陸の東西を論ぜず海の内外を問はず人を動かす所以のものは惟一の聖力にあらざるはなし余輩は日に月に人類の間に存せる信仰上の智識を得ざるなく之れが智識の進歩と共に世界の宗教は皆其根本に於て同一の基礎を有するものなるを證せざるはなし余輩は總ての宗教に於て其目的の同一なるを見る余輩は總ての宗教に於て其表號（シムボル）の相類似するを見る余輩は總ての宗教に於て其禮式の相一致するを見る余輩は總ての宗教に於て其熱心懇求的の精神には常に同一の滿足を與ふるを見る故に余輩は云はんとす世界の信仰其類、多しと雖、唯上帝の天父なる事人類の同胞なる事を承認する惟一の宗教あるのみ其外形腐敗したるものあらん其枝葉、荒唐虚誕なるものあらん、徳によりて高尚なるものあらん、惡によりて卑汚なるものあらん然れども尚ほ唯一

る所のものを取り彼等の居頭に上りたる聖詩、祈禱文若しくは金言を集めて之を一大成するの時なからざらんや此れ豈人類の偉大なる聖經にあらずや

眼光を放ちて廣く世界の宗教を見よ余輩は其形狀千態萬狀なりと雖其中に一個の眞味あるを認む見よ其教ふる所は天下の大道にあらずや(善惡の別こそあれ)其宗教組織は同じく道士、傳教師、祭司及び巡禮より成り立つにあらずや其禮典は禱求、公禱、犧牲、訓言、聖詩より成りたつにあらずや其機具は香料、蠟燭、聖水、聖骨(舍利)匾額より成りたつにあらずや如何なる宗教にも聖人、天使、義死者あらざるなく如何なる宗教にも其形こそ異なれ表號あらざるはなく(十字形、球形、三角形、龍、暈、見ざる所なき眼等の表號)如何なる宗教にも特種の山川土地に靈氣を附せざるはなく如何なる宗教にも預言、奇跡あり以て死者の復活を説き以て惡魔の退去を論ぜざるはなく如何なる宗教にも祭日、節宴あらざるはなし古代基督教會に於て畫きたるエバンチェリスト教徒の像を見よ彼等は頭に鳥獸の冠なる宗教の變形たるに過ぎざるなり

今若し異種の國民、異類の大陽に照らさるゝと云はゞ人必ず之を笑はん然れども是れ異種の國民、異類の神を奉ずと云ふと何んぞ異らん人若し地上に與ふる光明温煖は唯一の源泉なる大陽なりと曉らば世界に現はるゝ諸宗諸派の源泉は唯一の上帝なりと觀ずるも亦た難からざるべし諸國民が其呼びて以て大陽となす所の名目は異るべし然れども其大陽たる所以の者は一なり諸國民が其名けて以て上帝となす所の稱號は異なるべし爲れども其上帝たる所以のものは一なり此理之を萬國に照して其虛ならざるを見る故に余輩は將に謂はんとす耶蘇經典は聖經なり然れども世界幾種の國民中に存する敬虔の書も亦た聖經なりと韋陀、サガスも聖經なるべくプレトー、ゾロアスターの語、孔子、釋迦、マホメットの辭も聖經なるべく、帝マーカス、アントニナス、奴エピクテタスの言も聖經なるべく學識深きアレサンドリア人、文盲無學あるチグロ人の精神も聖經なるべし然らば則ち他日其宗教上の生活に於て相符合す

を戴き予輩をして轉だ埃土墳墓の中に存ずるものを想起せしむ何ぞ獨り之のみならん凡て歴史的の宗教は其門流門派の分るゝ所、皆一徹に歸し一宗の中には必ず迷信派あり合理派あり必ず拘禮派あり博愛派あり必ず隱士派あり貪樂派あり此の如き流派の發生は恰も草苔の自然に地上に發育する如く土地の頁否善惡を擇むものにあらざるなり

萬國の宗教一徹に皈する此の如し余輩は一歩を進めて神人降生の説に遷らん此點に於ても天下の宗教一途に出で殆んど之を稱して相互の反影なりと云ふも可なるが如し未だ如何なる國民も其口碑に於て救世主を有せざるなきなり而して其出づるや預言者ありて之を確認し賢人ありて之を歡迎し童女之を生み奇跡之に從ひ死せずして天に登るを常とす、口碑によればゾロアスターも孔子も人父なかりきオシリス(埃及の神人)は上帝の子にして生命及び光明の表彰と稱せられ初めに選擇の人民に敎へ次に弟子と共に異敎國に往きて之を討平し惡魔によりて殺され死して地獄に下り再び出でゝ人類最後の裁判を監す故に曰く彼の名を唱ふるものは救はるべしと佛陀の履歴も亦た之に類す彼は童女の生む所なり彼の名は英明を意味し又た救世主と稱せらる彼は小兒の時其理解力と答辨とに因りて諸師を困迷せしめ長して平野に試みられ世界を救はんが爲めに弟子と共に其途に登り階級制を廢し暴虐を制し堪忍を敎へ卑賤の者をも納れて弟子となせり彼れ常に曰く余の道は萬物に慈仁なるにありと

以上述ぶる所は宗教的口碑の一般に承認する所にして其假裝する美服は既に一個人に屬するにあらずして種族全躰に屬せり人を尊みて神となす是れ大に人類の尊大なる威嚴を損ずるものなりプレトー派の哲學者ポリフ井リー嘗て耶蘇を論じて曰く基督は天に上りて大に誤謬を生ずるの機會を與へたりと夫れ人性天賦の不同なるは今日未だ明解を得ざるの問題なり然れども人吾人に優りたり迚、否萬人に卓越したり迚豈之を人類以外のものとなすの理あらんや汝の意志に從ひて新に人類を構造せよ必ず智力に於ても德義に於ても之れが頂

點に立つ所のものあるべきなり余輩はセークスピヤを讀みて其無限の趣味あるを以て彼を稱して神となすべきか余輩は文學界を横行して幾多の文學者に厭き幾多の國語を學び幾多の哲學系統を研究し再び復りてセークスピヤを讀み、讀みて其趣味愈々深きを以て彼を人類以外の天上物となすべきかセークスピヤを疑ひて人にあらずとなさば余の智力は痿痺せん耶蘇を疑ひて人にあらずとなさば余の精神又た痿痺せん

然らば則ち宗教は總て自然なり總て默示なり人若し斯の如きの感情を以て世界の各宗教を觀察せば人類中に如何なる新信仰生ずべき！上帝に對して如何なる新信任生ずべき！天下の種族は皆世界の造物者たる支配者たる唯一の上帝あるを確認するにあらずや熱心なる信者は皆彼を以て天父となすにあらずや天下の種族は皆死後に生命あるを信じ其宗教上の教に於て人類の同胞たるとを確認するにあらずや印度の階級制度は韋陀經の教に叛きて起り今日此制度を廢せんとするものも亦た韋陀經によるにあらずやヴ井スヌ、サルマンのヒトパテサ經に階級制度を禁じ中に云へるあり曰く人或は云はん彼は我同族の一人なる？將た他族の人なる？と　然れ共是れ針小大の眼孔を有する小人の言のみ高尙深慮の人は必ず云はん地球は唯、一箇の家族なりと　バーグハギータ曰く如何なる人も余の愛人なりされば人類、彼を恐れざるべく彼も亦た人類を恐れざるべしと　ヴ井スヌ、プラナ曰く神ケサヴアは善を他人に行ふものを喜び常に生物の繁榮を願ふと　口碑によれば韃靼の佛者は常に人を祝するに人類は凡て同胞なり宜しく相扶助すべしと云へり弟子嘗て仁を孔子に問ふ子曰く衆を愛するにありと子貢問て曰く一言にして以て終身之を行ふべきものある乎子曰其恕乎、己の欲せる所は之を人に施す勿れと孔子又た曰く我が道は簡にして曉り易しと其高弟之に附加して曰く仁者は心を正しくし人を視る己れの如くなるべしと　ヂユウスのタルマド經に曰く他人の己れに加ふるを欲せざる者は己も亦た之を他人に加ふる勿れ是れ人則の要概なりと　希臘哲學の

祖先テールス嘗て人生の大法を問はる彼れ答へて曰汝ぢが他人に向つて非難する所のものは汝ぢ自ら之をなす勿れと　ヘブリユウ書利未の巻に曰く汝の隣人を愛すると汝自身を愛するが如くなるべしと　回々敎の經典コーランに曰く人若し自己の愛する所のものを以て之を其兄弟に及ぼすにあらざれば未だ眞の信者にあらざるなりと　ピタゴラス曰く人は總てに向て總ての愛を與ふべしと　ゼノ曰く人類一般を見ると同國人、同市人を見るが如くなるべしと　希臘の淨瑠理家メナンダー曰く生活とは獨り一身の爲めに生活するの云ひにあらざるなりと　羅馬の淨瑠理家テレンス嘗てメナンダに倣ひ余は一箇の人類なり余は如何なる人類をも異人なりと思はずと云ひて大に聽衆の喝采を博せりと　ク井ン、ティリアン曰く四海兄弟の名によりて異人に食物を與へよ蓋し人類は天父の下に同胞たればなりと　ラテンの滑稽家ヂユヴエナル曰く人の苦難を見て自ら以て知らずとなす者は如何なる善人なる？と　詩人ルーカン曰く軍器は之を拋棄し天下の人互に相ひ愛すべしと　シセロ曰く自然は人を愛する偏の性あり此れ萬法の基礎なりと．マーカス、アントニナス曰く人類を愛せよとエピクテタスは愛情の境界を廣く地球の外に運び云へるあり曰く宇宙は唯一箇の大都にして其中には神人羣居し各相親愛すべき天性を賦與せらると斯の如き宗敎的同情は尤も高尙なる德義に於ても亦た其同一なるを見る何れの宗敎が害惡を忍べと說かざらん何れの宗敎か敵の愛すべきと、善、以て惡に報ゆべきとを言はざらん　印度のラム、モーン、ロイ曰く慈悲は德義の根本なりとは韋陀經及び法典の說く所なりと　佛陀曰く若し余に惡行をなすの痴漢あらば余は悅んで彼に慈悲を與ふべく彼れがなす所の害惡愈多くして彼れが我より受ける所の慈悲愈多かるべしと　佛者ダムマパダ曰く恨惡は恨惡によりて制すべきにあらず慈悲を以て制すべきなりと　回々敎の倫理敎科書に曰く善を以て惡に克つは善、惡によりて惡に抗するは惡と　サディのガリスタン曰く罪人を見

て汝の面を背にする勿れ憐憫の心を以て彼を見よと　ヘブリユー人の諺に曰く汝の敵に饑ゆるものあらば彼に食を與へよ汝の敵に渇するものあらば彼に水を與へよと　プレトー曰く不正を行ふの人は不正を受くるものよりも其心賤しむべきなり又た曰く惡を以て惡に報ゆるは決して正道にあらずと　アリストートル曰く不正を忍ばんよりは寧ろ不正を行へと云ふものなかるべしと　クレオブラス曰く敵に善を行ひ以て我が良友となすべしと　七賢人の一なるピッタカス曰く朋友に惡を話す勿れ敵に惡を語る勿れと　ヴアレリアス、マキシマス曰く慈愛の力を以て惡を制するは執拗なる恨惡を以て之れに抗するよりも大に稱すべき美德なりと　マキシマス、タイリアス曰く害惡を行ふを以て惡德なりとなさば害惡に報ゐるに害惡を以てするも亦た惡德なりと　プルタークは其「如何に敵によりて利する？」の論文に於て云へるあり吾人をして敵の苦難には同情を表し其欲乏には之を助けしめよと　エピクテタス曰く哲學者たるものは萬民の父なるが如く兄弟なるが如く己れを打つ所の人をも之を愛すべしと　或人曰く德を以て怨に報ゐる如何んと孔子答へて曰く何を以て德に報ゐん直を以て怨に報ゐ德を以て德に報ゆべきなりと　マーカス、アントニナス曰く惡を行ふの人をも愛するは人類の特色なり人たるものは須らく日に自ら省みて幾多の惡人に友情を表せしかを思ふべしと彼れ又た曰く賢にして人情あるものは清泉の如く害を與ふる所の人をも惠むものなり、されば東洋の諺に白檀は度量高大にして自己を伐り倒す所の斧にも其香氣を與ふと

宗教上の歴史に於て尤も酸鼻に堪へざるものは諸種族諸國民の中に勃興したる拒絶的固執的の精神にして數々宗教たるの性質を撲滅し同胞相鬪ひ兄弟相殺し屍は積みて山をなし血は流れて河をなすの慘狀是なり然れども又宗教上の歴史に於て尤も歡喜に堪へざる事實は遠くは古代より近くは今世に至る迄、吾人が前文に說明したるの思想を有せし賢人君子少なからず從つて上

帝は一國一民に私するものにあらず民人の救世主は必ず諸國に出でたりとの理を曉り人類は共通の義務と運命とに依りて天父の下に結合せらるゝものなりとの義を明にせし是れなりヒッキンソン氏は一層此理を明瞭ならしめんがために其の論文に於て古代の記者より幾多の文言を拔萃せり余輩左に之を記せん

高名なる基督の門弟保羅はクレアンセスの高尙なる讃美歌によりて希臘人に明證すらく彼等も亦た上帝の天父なることを確認せりと蓋し初世の基督教信者は古代の諸宗教と面貌相接し決して拒絕的の要求をなさゞりしなり　ターチユリアン曰く精靈は預言より一層舊古の教權を有し其の聲は上帝の賜なりと　ヂアスチン、マーティル曰く道理的に生活する者は人或は呼びて無神論者と云ふべし然れども是れ基督教信者なり……希臘に於て此の如きはソクラティス、ヘラクリタス及び其他なりき道理を以て生活の法となすものは基督教信者なり恐怖せざるの人なりと　クレメント曰く余輩に舊新兩約全書を與へたる上帝は又希臘人に希臘哲學を與へ此によりて其德、大に明光を放てりと　ラクタンシアス曰く古代哲學者は全く宗教の眞理と不可思議とを了解せりと　ミニユシアス、フェリックス曰く人或は云はん哲學者は耶蘇教信者なり然らざれば耶蘇教信者は哲學者なりと　オウガスティン曰く今日稱して基督教となす所のものは既に古人の中に成立し基督以前に既に存在せり彼の降生は唯此の眞宗教に基督教の名目を與へしのみと　ヂエロミー曰く上帝の宇宙に存ずる理は自然によりて萬物の中に顯はれ上帝なくして生れたるの人なく人にして德義の種子を有せざるものなしと

歷史上より之を觀察せば此の論文を草する所の吾人及び此雜誌を支持する所の贊成者は基督教信者なり而して余輩は信ずらく純正基督教は世界の宗教發達に於て人類宗教的智覺の最も高尙なるものなりと然れども余輩の意決して道理と科學とに照らして眞理なりと認むる能ざはるの信仰を取りて之を尊奉するの云にあらざ

るなり若しくは又た基督教の一派を取りて他派を拒絶するの言にあらざるなり余輩は時と場所とを問はず新に眞理の光り出で來るあらば之を以て吾人の教導となすに躊躇せざるなり余輩は信ず當時に於て諸種の宗教は漸次に其迷信と虚誕とを脱却し相互の間に本質的の關係あるを承認しつゝあるを蓋し天下の宗教其數多しと雖も皆是れ唯一の理想的宗教を多少不完全に表彰したるに過ぎざるなり然らば則ち余輩は悦んで上帝を尊奉する唯一の教會及び人類を同胞とする唯一の信仰、其勝利を制するの時機を待つべきなり而して余輩竊に思へらく此の計畫は人類の精神勝服に於て尤も高大なる事業なりと帝國の士にして有爲の志を懷き活潑の精神を有するもの何ぞ起て贊成の意を表せざる何ぞ來りて我徒を助けざる

附言此問題に就きて亞米利加の自由宗教家チー、タブルユー、ヒッギンソン氏の小著書あり其説く所大に余輩の意を得たるを以て轉載せし所少なからず讀者之を諒せよ

論林

自由神學及自由思想

ウイリアム、アイ、ローレンス

余は「ゆにてりあん」第二十號に於て將來の宗教は其性質如何なるべき？の問題に答へ永久存在すべき宗教は諸の人性に適合し其要求を滿足せしめ得るものならざる可からざるを辨せり夫れ吾人の智力的生命は思想、感情、意志の三者より成立するものなれば宗教にして此三種の人性に適合するものは時世に伴ひ永存するを得るや必せり換言せは將來の宗教は人の思想を明確にし人の感情を鼓舞し人の意志を活動せしむべきものたらざる可からざるなり

今本紙に於ては上に述へたる三者の第一なる思想を論じ彼の自由神學なるものは人の心性を滿足せしむるに足る？の疑問を決せんとす抑も人は理性を具ふるものにして眞理を探窮し思想を明確にし自由討究をなさん

と欲するの熱望は蓋し人類遺傳の稟性と云ふも可なり夫れ十九世紀に於て最も著しきは眞理發見の一事にして星學者も物理學者も哲學者も將た又た神學者も等しく時々の問題に關し事物の性質を研究し之れに一層精細明了なる解釋を與へんとを勉めり斯の如き眞理探究の精神は世の俗眼者流をして其視て以て貴重なりとなす所のものを破毀撲滅するにあらざる?との恐怖を起さしめたり然れども是れ一時の恐慌にして寧ろ人心の成熟しつゝある證據とも云ふべきなり之を例するに兒童は小説を嗜み大人は眞話を好むか如く人類の進歩に從ひ眞理に對するの熱望は愈增進するものあり若し夫れ科學、哲學、若くは宗教の組織にして智識の光に照さるゝを恐れ自由の討究を禁じ斬新の發見を捨てゝ一に口碑を尊崇する如きあらば將た又た專ら舊説に固着して眞理に忠實ならざる如きあらば何を以て思想家の尊信を厚くするを得ん、夫れ宗教哲學に於ても比較宗教に於ても經典註釋に於ても將た又た神學の各科に於ても其研究の法著しく進歩したるは明白なる事實あり之を以て之を推せば神學上全躰に一大變動の來るは蓋し免る可からざる自然の勢なり第十九世紀に於ける信仰は正しく第十七世紀と異りたる如く第二十一世紀の信仰も亦十九世紀の信仰と同一なる能はざるべし夫れ今日の社會は常に前方に向つて進行せり然らば則ち天下の教會は皆此進歩的運動と歩調を保ち得べきものなる? 曰く或る教會は共に進みて以て將來の宗教となるを得べきも他の教會は然る能はずして後に殘さる可し實に自由派教會の自由探究に熱心なる、一眞理を發見すれは直に之を應用するを以て世人往々批難するもの少なからず然れども具眼の士は却つて之を以て最上の榮譽となすべきなり夫れ人は思想的の天性を有し自ら眞理を愛するの動物なりとなさば保守派の取る所と自由派の取る所と孰れか人性に適合すべき? 見よ保守派に於て一新主義を發明すれは直に之を舊來の憑據に照らして其是非を論するも自由派は然らず專ら事實を基礎として其完全なるや否やを定め之れが善惡を決するにあらずや抑も眞理なるものは一意專任純白の心を以

て之れを探究するにあらざれは發見する能はざるなり其れ然り眞理を愛するの徒は必す智識の根源を探究し其結果を應用せんとするの敎會に向つて同意を表し之を尊敬すべきや疑ひなし夫れ自由派敎會に於ては各人眞理討究の自由を得其結果は直に之を應用するを得べく若し又其見解を異にするあるも彼は決して朋友の嫌厭する所とならざるなり惡評を受くるの恐れあらざるなり貲財を失ふの憂あらざるなり社會榮進の途を失ふの恐あらざるなり自由派敎會は斯る探究を奬勵するを以て益眞理を發見するを得へし故に眞理を愛する者は愈此敎會を尊崇するの念慮を厚ふし自由派敎會をして益將來に希望を有せしむ是れ他なし外に拘泥する所なく自由討究を主とし眞理發見に熱望し人類心意上の諸性質を滿足せしめ得るを以てなり

之に加ふるに自由敎會は眞理を發見し得べき一理由あり抑も自由神學は之を他の神學に比して發見の餘地一層廣大なるのみならす根本的に智識を探求するものなり夫れ上帝は永遠無窮にして其道は廣大無邊なりされば有限的の人類にして盡く眞理を解する能はざるや明けし今吾人の存在する周圍に於て明光ある一小圈あり之を越ゆれは微光薄明の外圈あり此外圈以外は暗黑深淵にして人智の得て測知すへき所に非らす凡そ神學なるものは先を爭ふて此微光薄明の部分に入り深く之れが研究を遂けんとするものなり然らは則ち誰か最も能く先進するものぞ？誰か最も能く上帝の意志及妙工を解得するものぞ？神學上推理の方法も亦他の推理法と同しく既知的より不可知的に向ひて歩を進めざる可からす之を以て明光ある圈内に其憑據目的を定めて漸次暗黑なる深淵に向ひ直前進行すべきなり上帝に關する智識も亦た然り其認識し得る所のものを知了し其他は推理の方法を用ゐて之を曉るへし是れ即ち保羅の取りし方則にして（羅馬章第一章二十節）又近世科學的研究の方法なりとす、さて今日吾人が上帝に關して知り得る所如何なる？此重要なる問題を起し來らば人或は云はん經典は吾人の指南車なり之れに文字的註釋を下さば可なりと若くは又敎會を指して曰く此れ吾人の信

據すべき敎師なりと然れども自由派は曰く上帝は宇宙萬物を創造し又之を保育するものなり故に萬物は悉く上帝存在の形跡にして上帝意志の默示なりと、されば自由基督敎徒は宇宙に充滿せる財料によりて上帝の存在を知るものなり此豊富なる源泉により批評的方法を用ゐて上帝を確任するものなり

夫れ經典は識者の盡く許容するが如く上帝に關する智織の一源因なり其著作者たる古人は宗敎に對する特種の才能を顯はし吾人の心を感動せしむるの言辭を吐けり此の人々は上帝に近似するの生活をなし心中其聲を聽き上帝の言辭を吾人に復讀せんが爲に書綴りたるものにして自由派は固より此說を承認するに躊躇せざるなり然れども之を研究するに當り熱心に批評的主義を取る所以のものは經典を以て神聖の者なりと信じ精細に神意の在る所を闡明して其眞僞を判別せんとするにあるなり原書によりて經典を攻究せば眞正の言意を發見するに稗益を與ふると少なからざるべく此に因りて精密に調査を遂け以て小說と歷史とを區別し宇宙一般の信仰と一國の迷信とを判明し地質學に於ける往昔の臆測と自然の事實とを分ち偉人の言行及び彼等の高尙なる理想と不完全なる口碑とを別つべし人多くは其信仰の憑據として「ヱホバなる神は斯く云へり」と云ふを好む是れ最も價値ある感動なり然れども今ま吾人をして眞正なる上帝の言辭と凡俗の記事とを明了に判別せしめば此れが感動一層深かるべきなり其れ然り經典の批評は世に稱せらるゝ如く破壞的のものに非ざるなり之を破壞的と假想するは恰も眞理は有害にして過失は善良なりアブラハム、モーゼス保羅及び基督は吾人が其性質を研究するに從ひ其價値を失ふものなり上帝より感應せられたる言語は精密なる研究を要せずと假想すると一般天下豈に斯の如き道理あらんや見よ多數の人民は經典の批評的研究を喜び一層愛讀の念を增し一層偉大の補益を得しを夫れ經典に聖言俗語の混交せるは實に明白にして特更に之を論議するの要なし今吾人自由基督敎徒は之を精査し上帝の眞言と人類の意見とを區別せんとの希望を有するものあり是れ豈眞正の

上帝を知得するの便路ならずや是れ經典の價値を增大するものにあらずや

夫れ自然界も亦上帝の默示なることは判然爭ふべからざるの事實なり（設令ひ經典の如く深遠なる精神的のものにあらざるも）此自然界に於て上帝の言語を讀まは吾人は其確實なるに感動すると愈深かゝるべく上帝と神學者との間に毫も人意の介するなく岩石にも叢雲にも猶ほ上帝の手書を見るを得べし故に經典に於て最も優美なる字句も多くは外界の美麗と勢力とによりて之を說けり約百記、詩篇、預言者の卷及耶蘇の譬喩等は其尤もなるものなり實に經典の大勢力は古人の深く信せし「地とそれに充るものはヱホバのものなり」と云にありヱマルソン氏も又曰く「世界は神を以て充滿せり」と然らは則ち自然界に表彰せられたる上帝の言語は無窮の眞理を說くものなり自然界が吾人に與ふる勢力は皆吾人を上帝に近接せしむる力なりと信するも豈不可ならんや

猶ほ上帝の默示せる他の源因は吾人內部の良心なり古人は多く其言語を發するに恰も聖靈の感化によりたるが如く假令ひ自然を解釋するも猶ほ眼目の視る所を以て之を說かんよりは寧ろ心中の感動を以て之を明にせり、然り今日尙ほ余輩は靜穩ある小聲、人の內心に耳語するを聽く苟も吾人にして上帝の存在せさる所なきを信ぜば嘗て上帝の「かくわが口よりいづる言もむなしくは我にかへらず、わが喜ぶところをなしわが命じ遣りし事をはたさん」と宣ひし詞をも之を聽くを得べし今も昔も純潔の心を有するものは其男子たり女子たるを問はず滿腔の精神を喚起して上帝を稱讚すべきなり耶蘇舊敎徒の今日尙ほ上帝は人民と共に存在するを說くは實に正しと雖ども上帝の一敎會にのみ私しすると云ふが如き聖靈は紫衣の高僧にのみ發言すると云ふが如き將た又上帝は僧侶の學問所詩家の書院にのみ存在すと云ふか如き人と場所とを限るは實に誤謬の甚しきものにして苟も宗敎心あるものは何人か上帝を感ぜざらん何の場所にか上帝在さゞらん

斯の如く經典と自然と人の良心とによりて說明を與へ

しと雖ども之れよて上帝默示の方法盡きたるに非らず唯上帝を發見する平野の豐富なる一般を證せるのみ吾人にして此住居せる世界は上帝の世界にして上帝は吾人を去ると遠からざるの觀念を起さば上帝に對する崇敬如何に廣大なるべき！是れ自由派の取る所の主義にして其說く所は眞理即默示にして至る處に之を發見するを得べしと云ふにあり夫れ然り自由派は廣く事實を整備し之に因りて上帝を知覺し新に萬物に聖氣あるを發見すべし故に余は斷して云はんとす自由派は固執迷信の徒より遙かに深く崇敬の意を表せるものなりと難者あり曰く經典を以て上帝を知覺するの惟一の源泉となさゝるは不安全なり敎會の說敎を以て上帝默示の惟一の源泉とせさるは不安固なりと斯る批難は余輩の屢耳にする所なり然れども此れ豈奇ならずや彼等は道理力を以て信ずるに足らずとなしながら自ら此道理力を以て經典の誤謬なきを證し敎會の敎權を主張するの基礎となすにあらずや彼等は知らざるべし信仰の破壞は道理力を信せさると全く正比例をなすものなるを夫れ道理力は何處に於ても吾人を指導保護せざるなく科學に於ても技術に於ても政畧に於ても醫學に於ても盡く道理力の應用ならざるはなし然らば則ち何ぞ獨り宗敎に於てのみ然らざるの理あらんや

余輩は自由信仰の將來大に希望あるを信ずるものなり何となれば其眞理を探究するの方法實に純粹潔白にして不羈自由なればなり至る處に上帝の存在を認め至る處に眞理を發見すればなり人を以て果して眞理を愛するの動物なりとなさば此目的を以て成立せる敎會の繁榮すべきや必せりエマーソン氏曰く將來正に道義學を基礎としたる一新敎會起るべし而して此敎會は天地を以て棟梁桁桷となし科學を以て標章となし說明となし直に美術、音樂、圖畫、詩歌を其中に集むべきなりと

說敎と演說

金森通倫

余の曾て西京に寓せし時偶々東本願寺に詣り眞宗僧の說法を聽聞したる事ありしが其說く所悉く陳腐の方便的佛說にして一つも耳底に留むべき者なかりしなり然

れども彼れ僧侶が墨染の法衣を着し金光燦爛たる佛像の前に坐し所謂説法辨を振ひ涙と倶に其聽衆の感情に訴ふるに至りては如何に冷淡なる心と批評的の眼を以て是を聽き居りし余と雖殆んど老男老女の泣聲に連れて貰らひ泣きせんとするに至れり玆に於て余は實に眞宗僧が其説敎の術に工みなるに驚けり素より眞誠なる説敎學若くは雄辯法より論ずる時には彼れ僧侶の説敎には欠點と認むべきもの頗る多し然れども其聽衆の感情に訴へて頑固なる心をも鎔解せんとするの一點に於ては彼等實に其術を得たりと云ふべし扨て翻て我國基督敎社會の説敎を聽くに前者と全く反對に出て其の説く所は頗る高尙なる眞理なり其議論も亦た多少理屈なきにあらず然れども是れ一場の議論理屈を順序を追ふて併べたてたるまでにして云はゞ説敎にはあらず寧ろ一種の宗敎演説たるに過ぎざるなり(Religious lectures not sermons) 或はバイブルの意識を解釋する説明談に過ぎざるなり故に聽衆中にて説敎者の説敎を聽て大に感發し奮て基督敎に入んとするものは甚だ稀なり是れ或は日本の説敎者は年尙ほ若くして白髮の老成人に乏き故兎角血氣に早り理屈議論の一方にのみ走りたがるが爲めかは知らねども若し今の儘の説敎を以て基督敎説敎の眞面目なりとするときは余輩は日本の社會に於て其成功の甚だ尠からん事を恐るゝものなり抑我日本國に基督敎を擴張するとの事は唯我國人をして基督敎の敎義に服せしめ又上帝の存在及び其性質等を知覺せしむるの謂のみには非ざるべし良しや又是等の敎理を飽までも解得して智識上のクリスチャンたる事を得るに至るも唯其れのみにては我國民が基督敎の恩澤に預りたりとは云ふべからずされば傳道の要點は基督敎に現はれたる宗敎上の眞理を以て我國民の心術を感化するにあり又は其宗敎上の眞理なる者は決して冷々たる智識上の眞理に非ずして活氣ある血肉ある心靈の上の眞理たらざるべからず彼の智識上の眞理の如きは普通の演説即ち理屈を併べ立てる講釋によるも容易く是を傳ふる事を得只活氣ある心靈上の眞理に至ては同く活氣ある人間の心を通して現はるゝに非ざれば以て其感

化力を逞しくする事能はざる者なり故に最上の説教なる者は凡て宗教上の眞理が其説教者の心を通過し其人の血肉を着て聽衆に達する者なり然れどもかゝる説教は非凡なる宗教家にあらざるよりは容易に是を望むべからず彼のキリストの如き又釋迦の如き非凡の人物が其道を語るに於ては凡て說く所の宗教上の眞理は先つ其人の心を通過し其人の血肉を被りて聽衆に達するが故其人心を感化するの力は千万年を經ると雖ども更に減少する所なし然れども世の宗教家は悉くかゝる偉人のみにもあらず又かゝる偉人にあらざれば得て傳道の重任を托するに足らずと云ふが如きは是れ畢竟人事の實情を知らざる空論なりされば平凡たる説教家に向ひ爾の說く所の者は先づ汝の心を通過せしめ而して後に我等に說くべしと云ふは甚だ無理なる注文なりと云はざるべからず勿論及ぶ丈け自ら實驗したる宗教の眞理を以て人に語るは是れ説教家の責任なり自らキリストとなり釋迦となりて己れの宗教を傳ふるの説教家となりたきは誰れしも宗教家たる者の希望する所には相違なけれども世の中の事は吾人が希望する通りには成り行かず十を望んで僅かに五六に達せざる事甚だ多き習ひなれば己が及さる所を强ひて務めんとするも到底無用の骨折りたるに過ぎざるなり然らば如何にして可ならんか如何にせば基督教の説教をして人心の感化に力あらしむるを得るか是等は素より宗教界の實地問題にして之を解說すると頗る難し余輩と雖ども素より之に就て妙案あるにはあらず然れども若し强ひて此難問を解せんと欲せば聊か卑見なきにあらざるなり余輩の考案によれば說教に於ては務めて古今の偉大なる宗教家の心術と行爲とを引用し彼等が當時に於て宗教上の眞理を實行したるの事跡を今再び現聽衆の前に演じ出し彼等をして其眞理の活力を目擊するの感あらしむべし彼の俳優が古代の忠信孝子の事跡を演ずるに當り見客は更に其の演者に眼を止めず全心を擧げて其演ずる所の忠臣若しくは孝子の事をのみ感想し知らず識らざるの中に於て忠孝の眞理を其心に感得しつゝあるものなり余輩が今一般普通の説教家に望む所は畧此の如き事

に外ならず如何に高尙なる事を望みても到底行はれざる事ならば無益の空望たるに過ぎざるべし余輩は空望を好まざるなり寧ろ卑近なるも實地に行はれ易き事を以て是を一般の說敎家に望むべし故に余輩が今日本の基督敎說敎家に望む所は全く是までの演說躰裁を去り議論理屈の講釋を改めて物語りの新躰に遷らん事なり先づ第一は基督の生涯の物語り使徒等の事跡の物語り或は舊約に歸り預言者を始め其の他の人物の行爲に關する物語り下りては又基督敎會中にて聖人賢人と稱はれたる人々の行爲に就て其當時の狀況を見るが如く聞くが如くに演じ出すを得ば宗敎上の活眞理は知らず識らざるの中に於て聽衆の心に徹し務めずして彼等の心を感化する事を得べし又如此く說敎の十中七八までを面白ろき物語りの躰裁に變する時は聽衆も退屈の色なく樂んで其の說敎に耳を傾るに至るべし特に余輩が現今の說敎者に希望する所は今少しくキリストの人物を世に顯さん事なり當時或宗派の人々のなす如くキリストを以て一種の偶像と見做して徒らに之を崇拜するを止め務めて其行爲を表はし及ぶ丈け基督敎の眞理をキリストの身によりて顯はさん事是なり又如此くなるときは說敎の中より聽衆の理屈に訴ふるの分子は次第に減少し多くは皆感情に訴ふる者となるべし世に人の感情を動す程其人を動すに於て力あるものあらざるべし素より說敎の中には純然たる理屈も亦必要なれば其分子を悉く抜き去りて只感情のみよ訴ふべしと云ふにはあらず唯其の比例を轉倒して理屈三分に感情七分となさん事是れ余輩が希望して止まざる所なり然れども理屈の演說はなし易く學校以內の書生と雖ども容易く是を演ずべし然れども眞誠の說敎人の感情に訴ふるの說敎キリストの人物を能く表はし得るの說敎に至りては仲々容易の業にはあらざるべし說敎者たる者豈に務めずして可ならん

●道は一なり

神田佐一郞

賴山陽曰く、夫道一而巳、道之在天下也猶日月也、日月者天下之日月也、非一國所私有也、とされば大凡道

なるものは盡く唯一にして和漢古今の別なく寔とに天が下た擧つて共有する處のものにして一國或は一種族一人種の專有に非さるや明かなり、然るに人心の私に偏し情意の自負により儒家と云ひ道家と云ひ佛家神道者、耶蘇敎徒等各々天下の大道我れ獨り有せりと爲し往々唯我獨尊と自負する者世間は勿論往々出世間人の内にも少しとせざるなり、例之は佛家にして僅かに佛書の一端を見るや早巳に釋迦氏を氣取り又は之れに沈醉するの餘り道は獨り天竺人の專有の如く考へ敎法、哲學、論理學、天文學、數學等の諸學盡く天竺を宗となし天竺より出つるものは盡く佛敎なるが如くし、儒家は其本尊公が道の本源天に出づと敎ゆるにも關わらす道の本源、治國平天下の道は孔孟を措て他に道なきが如く偏へに支那流の英雄崇拜に倚き、耶蘇敎徒は新舊約全書の内一卷にても聞きかぢる時は忽ち豫言者を氣取り敎法師の眞似爲し近隣の交際より日本古來の風俗習慣をも盡く打ち忘れ道の本源は猶太人より出で耶蘇基督のみ衆に擢んでゝ此の天機を知りし者の如く考へ吾國在來の道は文學にあれ技術にあれ宗敎にあれ理非に論なく盡く幼稚なり卑屈なりとし之を愚弄するに至り知らす識らす親屬朋友の交際場裡より隱遁否な放逐せられて得意なる者も亦少からず故に佛家は彼等を見る事蛇蝎の如く邪敎の名は已に德川氏以來耶蘇敎の代名詞となり來り凡俗無識の僧侶輩は之に種々なる牽强附會の妄說を追加し善男善女愚夫愚婦の心膽を寒からしめ之に由て我が獨尊の敎法即ち佛道をば外道邪宗の攻擊より防禦したりとし恬として己れが不明を耻ぢざる者比々之あり、若し我國現在の宗敎界は余が言の如く斯く無明道人の寄り合ひなりとすれば志あるの士は實に我が國宗敎界の將來を杞憂せさる可らず否な此の現在を顧慮せさるべからさるなり、蓋し是等の迷信は今日如何に斯く掩ふ可らさる現象を發生せしやと問ふに即ち他ならず盡く彼の道の本源天に出て、天に二あらず公道は岐路ある者に非す又一國一人種の私する處の者ならさるを了解せさるの致す處なり、玆に於て余は更に進んで何故に道は無二にして唯一なる哉との問

題を解釋し以て本論の主意を明かにせん、偖て世間の事物即ち形而上の事物に就て考ふるに此の廣漠無邊なる宇宙間の物躰は實に森羅萬象、千差萬別ありと雖も是れ等しく一の物躰に外ならざるなり、太陽と云ひ地球と云ひ其他諸天躰諸星宿は實に廣大且つ無數なるものなれども此の「宇宙の唯一」と云ふ理想の上には則ち宇宙物躰の一分子のみ、而して四時の運行晝夜の運轉の如き盡く唯一なる天則の下に在て毫も亂るゝ事なきのみならず諸天躰諸星宿の井然として規律を變ぜず而して此の一少微分子に等しき地上に行わるゝ數理の法則或は引力の法則の如きは數億萬里外の天躰星宿の上に行わるゝ者と聊かの差異なきを見る玆を以て之を推究する時は今日我が國に於て行わるゝ處の數理、引力は支那、天竺に於て行われずと云ふを得んや然らば日本に於ける道理と印度、猶太の道理に於て豈夫れ差あらんや其他動植物の各々外貌形狀を異にせりと雖も其內面を穿て能く攻究する時は正しく符節を合するが如きを見る例之は動物の生活は第一食物を胃腑に取るや胃粘膜內部に散布せる數百の乳糜脈は胃中の營養品を毛細管引力の法則に由て吸收し漸次之れを靜脈血中に混入し次て肺臟に入り呼吸作用に由り大氣中の酸素の爲めに酸化せられ更らに血管系統の作用に由て四支五躰に輸送せられ以て身躰を營養し吾人をして相對坐し談笑せしむるも必らず此れ等靈妙の作用吾人の內にありてこそ出來得へきものならずや、併し植物の如きは動物の如く胃腑に食物を輸入する事なしと雖も亦其根を深く土中に埋め其根の末梢は恰かも動物の乳糜脈の胃粘膜面に散亂開口せし如く植物の種子を宿せし周圍の地中に散亂せしめ之に由て吸收せし處の養料を漸々幹枝葉莖に輸送す又植物の葉は動物の肺臟の如く晝夜間斷なく呼吸して始終根幹枝葉の繁茂を幇助するものなり、又動植物は相互の上に親密にして一髮も容れざる關係を有し空氣、日光、晴雨、寒温を始め大凡宇宙間の現象は盡く之に關係を有するものにして語を代へて言へば只獨り動植物のみ相互親密の關係を有するものに非ずして宇內の物質盡く相關係類似せるものにして

恰かも一片の布帛其の經緯相關係して離れざるが如し故に此の宇内の一現象を完全に研究し盡さんとするに當てや之れに關係せる處の事物を盡く研究せされは能はさるべし之れ布帛の經の一條を引く時は緯の全躰に關係を及ぼすと同一般なり、

此等僅々列擧する處の例證に由るも物質界の道唯一なる其間に一點の疑念を挾むの餘地あらさるなり、更らに進んで形而上の事物に就て考ふるも等しく同一樣にして近く之れを吾人の理想上に就て驗し性質の上に就て見るも道必らず一にして二ならざるべし、決して古代の聖人も今日文明界の賢人も善を惡んで惡を好みせし事あらず只だ一時の間違ひよりして聖賢も時として亦凡夫の如く劣等の善即ち不善を爲せし事もやあらん然れども是決して其不善即ち惡なりと知り好んで之れを爲せしに非らず見識の未だ完全ならざるが爲め誤て不善を爲し不幸にも後世の誹謗を招きし者なるべし、兎に角く吾人の最多數中の多數ハ盡く善を得んが爲めに勉むる者にして最少數の少數と雖も眞逆かに不善即ち惡を得んが爲めに孜々汲々たる者あらざるへし、見ずや彼の盜を行ふ者と雖も自ら其行爲の不善を知覺せし上は盜を爲しつゝも意中快々嫌からざるの驗めしあり、譬ひ其人强盜、人殺を爲したりとも決して彼れは慈善家の社會補益の事業を爲すが如く喜び樂んで爲せしに非ざるや萬々なり、世界は廣し、人種は多し、其容貌の各々異なるが如く其心思の趣く處も差異あるべし、雖然其四肢五躰より耳目鼻口を具ふるに至ては正しく同一樣なるが如く心思の耳目鼻口に至りては大凡生きとし活ける蒼人艸盡く同一轍に出る者にして決して天に二日あるも玆に二道あらざるへし、

然らば學術の上に於ても哲學の上に於ても亦教法の上に於ても道は必らず唯一にして決して一人一國の私有にあらず天下の大道、宇内の眞理ならずや、

故に我がゆにてりあん教徒は決して一宗派、一教門を建て是れこそ唯我獨學の教理即ち完全無欠なるものなりと理非を問はず他の教友を虐待する者に非ず、諸君見すや我が「宗教」表紙の裡面に記載せるゆにてりあん

教徒普通の信仰第七を、曰く、世界の各宗教は皆交友にして各々長短ありと雖も盡く同一の本源同一の目的を有するものなりと、之れを譬ふれば教法なるものは河流の如し、利根川は坂東太郎として關東の一大河たり其水源を武藏上野の間より發し南流して東海に潮す信濃川は北陸の大河なり其源を信濃に發し越後を貫通して北海に潮す其水源各々異なるが如しと雖も深く之を推究する時は甲乙何れも其水源は上野或は信濃に在らず返て雨露の澤に外ならず此の雨露は何れより來るか他なし太洋の水、日光の爲めに熱せられ蒸騰して雲霧となり終に山澗寒冷の地に雨露となりて降下し以て之れ等諸川の源を爲すものなり、又其注流する處は甲は東海に在り乙は北海に在りと雖も等しく是れ太洋系の一部に過ぎさるべし、されば世界各國の諸川各々異る水源を有し異なる海水に注入するが如しと雖も更らに其裡面を穿て之れを觀察する時は等しく同一の本源と同一の目的を有するに外ならざるべし、然らば佛教は水源を天竺に發し、耶蘇教は猶太に發し佛教は支那に發するも其裡面を能々穿ちて觀察する時は盡く人間の本心（或は天啓とも云ふ）より發するものなれば勿論同一の本源を有し等しく人間社界の安寧幸福を增進せんとするの目的に外ならざるべし、陸の南北洋の東西に由て外形に小異を呈し利根川となり信濃川となりて甲乙其趣きを異にするが如しと雖も等しく水壓の法則に由て流下するものなり、一言以て之れを蓋へば道は唯一にして日月の如く天下の共有にして一人種一國民の私有專有に非ざるとの意に外ならざるなり、

宗教とは何ぞや

丸山通一

文學なる語ほど漠然と人の口に唱へられたるは少かるべきが之に相伯仲して漠然と使用せらるゝは宗教なる文字なり其然かる所以は孰づれも外國の語を翻譯して其意義を盡さゞるに由るなり案ずるに初め宗教なる譯語を用ひたる人はReligionなる語の客觀的意義に重きを置き一定の教義（儀式及び制度）を指したるものなら

ん果して然からば宗旨若しくは宗門なる熟語を襲用するの勝れるにはあらざりしか今若しReligionなる語を信心と譯したりとするも僅に其一面を寫すに過ぎざるべし然れども宗教とは何ぞやてふ問題を起すに當りては先づ讀者をしてReligionなる原語は其意義の一部に於て信心なる意味を含むものなることを知らしむるは頗ぶる便益あることなり

英のReligion、曼のReligionなる語は均しくReligioなる羅甸語に出でたり而して此Religioなる文字自身はRelegĕreなる動詞より來りたるものにて原と深慮、熟察なる意義を有したるものなりとチチエロは云へり今羅甸の原語を分析して其意義を明にするときは凡そ次の如し

一　敬神
- 神を畏れ尊むの念
- 神を敬ふの所作
  - 禮拜
  - 儀式

二　神聖
- 崇敬すべきもの
  - 蕃神
  - 宮、神器等すべて偶像の臭味あるもの

三
- 敬神より起る心理上の結果
  - 疑懼、恐怖
  - 正心、誠意
- 宗教上の罪障

然るに古代の神學者ラクタンチウスはReligioなる語はReligareなる動詞より來りたるものにて神との契約なりと云へり師父の時代に於ては時に宗教なる意義を定むるの場合あるも斯くの如く字義の解釋を試むるに止れり尤も彼のラクタンチウスの字解の如きは偶ま契約なるユダヤ的觀念を傳承し得て妙は即ち妙なりと謂つべし畢竟是れより以降中古神秘派の起るに至るまでは偶々宗教は何ぞやと問ふことあるも宗教は基督教なり、基督教は敎會なり其敎義なり其義式なりと答ふるに過ぎざりき是れ近世の學者が客觀的宗教と名くる者なり後ち神秘派ありて專ら所謂る主觀的宗教即ち人心の宗教的生活に意を注ぎたりしも改革時代後の新敎は煩瑣學派の覆轍を踏んで宗教は"Ratio *Colendi* Deum"(神を敬するの法)なりと云ひ、一變して"Modus *Cognoscendi et* Colendi Deum"(神を窮め且つ敬するの法)

なりと唱へ、再變して"Dotrina Evangelii"(福音の敎義)なりと說けり此敎義主義に反對して起りたる祇虔主義は專ら宗敎的感情と苦行とに重きを置きて之を身に實踐することを勉めたり然れども理論を以て此宗敎的生活を解釋することを爲さゞりき茲に「宗敎」の讀者に取て興味あることはボーランドのユニテリヤンの如きは亦た當時頗る實際的の傾向を有したりしことなり爾來開智主義の徒は漸く客觀的、歷史的、積極的宗敎即ち所謂る默示宗敎を厭ふこと甚だしく已にレッシングの如きも宗敎を縮小して道德の範圍に編入せり此方向の終極と爲り兼て宗敎哲學の廻轉機たるものをカント其人となす近世宗敎哲學は敎義的超自然學派及び極端なる開智主義の自然論に反對して宗敎は人心の事實にして人類の禽獸に優れる性質より來るものなり又た敎義、儀式等は其の歷史的現象として理會すべきものなりとせり此の點に於ては諸大家概ね一致するもの丶如くなれども各々宗敎の一面に重きを置きて其旗色を異にせり意志を取るものにカントあり、虛構力を取るものにヤコービ(本心の信仰)及びフリース(美術的感應)あり、感情を取るものにシュライエルマッヘルあり、智力を取るものにヘーゲルありカントは宗敎と道德とは畢竟同一物の二面にして宗敎は道德を神の規律として遵奉するの謂ひに過ぎずとし、シュライエルマッヘルは宗敎の粹は智識にもあらず行爲にもあらず又二者の結合にもあらずして絕對的羈絆の感情に在り敎義の如きは直接に宗敎に屬するものにあらずして宗敎的感情を觀察思考して之を團躰に告ぐるの目的より生ずるものなり道德的動機も亦た宗敎的感情と併行するに止りて敢て共同の根底を有するものにあらずとし、ヘーゲルは宗敎は靈が自然的羈絆を脫して自己の粹即ち神に於ける自由に達するに在るが故に感情は實に其一歩たるのみ靈の漸く發達するに及んでは遂に哲理的の智識に至るなりとせりヘーゲル派左黨の首領はフォイエルバッハにして宗敎を目するに利己心が想像を以て案出せる蜃氣樓を以てし宗敎は人類が自己の理想を神の圓福の內に寫し之を渴仰するに過ぎざれば少

しも眞理、價値ありて存するにあらずとせりランゲの說に據れば人心の宗敎的作用は恰も美術的作用の如く其產出する所は主觀的の理想に過ぎずして客觀的の眞理なきものなれども人をして美術的、道德的の感應を起して凡俗に超越せしむるの功用あるものなり蓋し智情意の宗敎的感應は單に人心の妄想に過ぎざるや將た人心に影響を與ふる實躰ありて起るものなりや語を換へて云はゞ神人相互の關係より起るものなりやてふ問題は今尙ほ一刀兩斷の快解釋ありて學者の均しく首肯する所とならざるなり佛國の實驗學派(ポジチヰスムース)、魯國の唯物論(マテリアリスムス)派の如きは一般に宗敎の妄想的性質を認定すれども唯一神論派の哲學は或はシュライエルマッヘル派として或はヘーゲル派の右黨として形而上的神人關係の理を證明せんと勉めたり尤も最近の學者はカント以降の例に倣ひ人心の或る能力を宗敎の專働機關となすの不利なることを悟り世界に於ける人間の位置よりして宗敎を解釋せんことを勉めつゝあり或は神の方面より云ふて「絕對の壓迫」なりとするマックス、ミユルレルの如きもあり或は人の方面より云ふて自然の機關內に置かれたる人間の反働なりとするもありリッチュルの說に據れば宗敎は世界の抵抗を防がんとする人間の自衛心より出づるものにして其目的は世に勝ち己を立つるの幸福を得るにあり故に其中心は神と人間との關係と云はんよりは寧ろ人と世界との關係にして神の觀念は此目的に益ある補充の思想なり故に其存在の權利はその實用的の價値より來るものにして之が實在及び原因等を證明する能はざるなりリッピジウスの說に據れば宗敎は實際の自然的羈絆と理想の道德自由の矛盾を排除せんとする實際的の需要より起るものにして此需要は人間以上の力を假ることを强ゆるものなり神人の人心に於て共働するに至ては蓋し形而上の秘密なりとすビーデルマンの說に據れば宗敎は智、情、意三者の働にして人間の本我を自然的生活の羈絆より無量的に優れたる勢力に押上ぐる作用なり其目的は之より解脫を求むるにあるを以て絕對の靈なる神の存在と人間の本我に及ぼす之が關係あることを前提するは勿論なりとす

プライデレルの説に據れは宗教は天然に神より喚起せられたる覊絆の感情と自ら好んで神と一致し世界に對して之と同等の位置に達せんとする働に基く神人の關係なりシユワイチエル、バウル、ドルチルの如きは全くシユライエルマッヘルの立場に止れり

我國の基督教社會を顧みるに其神學説は佛魯人の齎らせし新舊教の煩瑣主義に據らざれば英米人の齎らせし新教の教義主義を執れり宗教とは何ぞや曰く基督教なり基督教とは何ぞや曰く教會なり其教義なり其儀式なり基督教の外に眞の宗教なし基督教の外に救なしと是れ彼等宣教師の傳ふる所なり其傳道の實際を觀察するに舊教の徒は只管ら聖式の機密を信じ之を領せしめんことを勉め新教の徒は專ら教義の玄妙を信じ之を是認せしめんことを勉む之を以て新教徒の前提する所を察するに宗教の本躰は彼等に取て魔力ある教理なること恰も舊教の魔力ある聖式即ち所謂る機密なるものに似たり語を換へて云へはイエスの救主なることを信ずれば——心を盡くし意を盡くして之を是認すれば實際果して救はるべきことを前提するなり斯くの如く彼等は其傳道の實際に於て宗教の本躰の魔力的教義に在ることを默許すと雖も試みに宗教とは何ぞやてふ問題を新設するときは其答案は千差萬別なるべし今暫く最近の紛錯せる調和説を度外視するときは中に就て宗教は聖書及び教義に於ける神の默示即ち眞理の啓示に在りと云ふもの最も多からん

余が私案に據れば宗教の本躰は智情意の共働を以て相對的生活の不自由より超脱せんとする人心天然の作用にして不幸、不快を排除するを目的とす此目的を達せんが爲めに人間以上の勢力を希望するなり此神の觀念は本心の必要より起りたる實際的の前提にして直接に之を感應するは人心の神秘的(ミスチッシユ)實驗に據るなり若し然からずして形而上學の理論より神人の關係を證明せんと欲せば只だ人心の宗教的傾向を以て神の永遠の默示即ち相對の靈に於ける絶對の現象なりと云ふを得るのみ自から惟ふに余が定義は下等及び高等の宗教を通じて適用することを得るが如し何となれば相對的生活の不

自由は人間發達の度に從て或は物質的に偏し或は精神的に偏すれども均しく不幸、不快の感を生ずればなり彼の宗教を目して人心の道德的解脫の憬仰となすは只だ高等の宗教に於て可なるのみ智情意の宗教的感應は或は言語文字となり或は動作行爲となりて發表せらる教義、儀式等は其の歷史的の威嚴を得たるものに外ならず

余は今茲に宗教の本躰に關する私案を說明し終はりたれば讀者は余が之を以て筆を擱くことを期せらるゝならん然れども余は尙ほ暫く讀者の眼睛を煩すことを敢てせざるを得ず蓋し余が宗教は何ぞやてふ問題を揭げたるは之に答案を下さんが爲めにあらずして寧ろ之を哲學、神學の一問題として讀者に紹介し讀者を促して學術上の偉名を成さしめんと欲せしのみ

今日の學術は歸納法に據りて得たる智識を演繹法に據りて統合せんことを勉むるなり語を換へて言へば實驗的の前提を基礎として推理的の補充を爲すに在り故に宗教哲學も亦た先づ開化歷史の千變萬化の間に於て宗教の存在することを確定し其異同を辨じ其心理學上、人類學上の研究を盡くさゞるべからず一言以て之を盡くせば宗教哲學は比較宗教學を基礎の上に立たざるべからず然かるに比較宗教學の範圍たる曠漠悠杳殆んど其際涯を知るべからず彼が幼稚なる豈に其研究の至れり盡くせることを望むべけんや茲を以て之を見れば宗教の意義本躰に關し今日已に一刀兩斷の定義を下さんとするは畢竟一大早計たるを免れざるべし然れども比較宗教學の老實なる研究は已に宗派の千狀萬態の間に於て同一なる宗教心の主觀的作用の一貫せることを注意せしめ哲學は之を心理上の事實、人類の精神的生活の不朽なる現象として解釋せんことを要求せり茲を以て最近の哲學者及び科學的神學者は此請求に適ふ宗教の意義を確定せんと勉めつゝあり碩學の偉功已に少からずと雖も中原の鹿未だ誰の手に落つるを知らず學者苟も宗教學の堂に入らんと欲するときは門外のスフヒンクスは即ち大喝して曰く宗教とは何ぞや

一大迷信、打破せさる可らず

平井貞太郎

維新以降、太平二十餘年、文化日に盛に治綱月に張る、是れ吾人の大に慶する所なり、然れとも只是れ表面物質的の進化に過きす、翻て眼光を社會の裏面に放ち、精神界に埋伏する所の者を觀察せば、宛然たる一幅百鬼夜行の好畫圖にして、道德の規矩亦之を當つるに所なきなり。

是に於て憂國愛民の士は歎して曰く、嗚呼今日は所謂末世墮落の世なる哉、正義は權謀に打勝たれ公道は譎詐に玩弄せられ、汚濁の行爲益々甚しくして、姦惡の動物愈々蠢起す、斯の如くにして推移せば、親子相殺し、兄弟相食み、醜然として顧さるの時至るも亦遠にあらさる可し、嗚呼今にして思へは、彼の人々淳朴敦厚にして、內信義を重じ外氣節を尊び、克く忠に克く孝に人倫の大綱秩然たりし古の世こそ戀しけれ、然れとも人は云ふ、古代は野蠻の時代にして今日は文明の世なりと、今日は果して文明の世なるか、古代は果して野蠻の世なる歟、若し今日を以て果して文明の世なりとせば、德義は野蠻の時代に厚ふして、文明の時代に薄き者なり、以是觀之ば文明は德義を衰亡せしむるの時にして、野蠻は德義を興隆せしむるの時代なり且夫れ德義なる者は其國の精神なり骨髓なり、今論者の言の如くすれは文明は其國の骨髓精神を衰亡せしむる者と謂はさる可らす、嗚呼實に此の理の如くならんか、若し此理にして正鵠を失はすとすれは、吾人は偏に太古の淳朴を慕ふて世の文明に進むを好まさるなりと。

抑も此論たる我國今日の志士而已ならす、東西古今苟も道德の觀念熾盛なる人々の多く唱導せし所なり、かの老子の太古無爲の化を說き、孔子の三代の德風を祖述したるか如き、希臘の古學者が希臘人を以て神人の子孫となし、太古を以て無上の道德界となしたるが如き、且希伯來人が其創世記にエデンの樂園を畫きたるが如き、悉く皆當時の敗德を痛歎するの餘眼を回して、太古の社會を觀察し、轉た之を愛慕せし者なり、而して此數多の論者中其議論尤も警抜、其論旨特に明晰な

る者は、佛のジヤシヤク、ルーソー氏なり、請ふ試に氏の非開化論を閲讀せよ、其椽大の筆を揮つて社會の弊風を論破するの狀、恰も百雷地に落ちて草木爲めに震蘯し、獅子一吼して百獸の腦爲めに破裂するが如く、吾人をして覺へす蹶起雙手を擧けて高く贊成を絕叫せしむるの氣あり。

然りと雖も其論旨の歸着する所を察し靜に之が論據を考究するに、到底一個の迷信に外ならさるなり、何となれは德義なる者と眞正の智識とは、因果相應の關係ある者にして、眞正なる智識發達せされは決して德義を生せざればなり、而して智識なる者は文明の時に厚ふして、野蠻の世に薄けれは、太古の時代決して眞正なる德義あるの理なければなり、殊に之を社會進化の理に照すに益々其理に似て非なることを知る、則ち今日の如き思想混亂道義腐敗の代は、眞正なる文明に進むの前に、必す遭際せさる可らざる者なれはなり、請ふ之を畧述せん。

凡そ物の進步するや、簡より繁に、單純より複雜に進み、而して復た簡に歸し單純に終る、これ自然なり天理なり、故に苟も物の名稱を付す可き者は、天上天下一として此の理法に從はさる者あらす、社會の文明亦然り、されば<u>エジプト</u>の地を出て丶<u>カナン</u>の樂土に至らんには、必す三級の順序を蹈さる可からす、曰く無爲的一致時代、曰く探究的分異時代、曰く悟了的一致時代、是なり、蓋し太古の民たる所謂井を鑿りて飮み、田を耕して食ふ帝德何ぞ我にあらん底の人民にして、經驗尤も微に行爲尤も單に、自然に從ふ事尤も多く自然を利用すること尤も寡く、其爲す所は獵耕等に止まり、其交はる所は一親族又は一部落に止まる、從つて交涉寡く刺激微に、所謂無爲にして化する者是なり、かの老子孔子の祖述せし所希臘古學者の景慕せし所の者は、實に這般の人民に外ならす、是れ余の所謂無爲的一致時代に屬する皆是なり、而して世の漸次に進み人々の智識日々に其步を進め、自然の探究益々精に其利用彌々多く、工藝あり學術あり政府あり法律あり、智識錯雜行爲頻繁到底無爲にして化する能はす、是に

於て各人說を吐き論を立て甲論乙駁丙是丁非、道德の標準倒れ倫理の規矩亡び、終に茫々乎として歸着する所を忘れ、社會を擧けて不倫不德の深淵に沈淪するに至る、是れ余の所謂探究的分異時代なり、然れとも一度悟了的一致時代に達するや、諸子百家の論は悉く或る一點に歸着し、道德の標準立ち倫理の規矩具はり、民人之に由つて行ひ之に從つて爲す、恰も陰雲風に散して月益々輝き、暴雨大に至りて地彌々堅きが如し、夫れ斯の如く一社會の野蠻よりして眞正の文明に達するには必すこの三楷級を經さる可らす、而して我日本社會の如きは、今や實にこの探究的分異時代の當初或は中央に位する者なり、宜なる哉、道德の標準倒れ倫理の規矩亡び、民人守る所を失して茫乎として爲す所を知らさる、然れとも今日に於ける我社會の紛亂は、絕望的の者に非らす有望的の者なり、漸次に墮落無底の深淵に沈むに非すして、或る一點に到るや漸く方向を轉して、悟了的一致時代に入る可き者なり、されば憂國愛民の士はこの分異の時代に處し、徒に太古を顧みず、常に眼を一致的時代に注き、益々民人を警戒鞭策して、この彼岸に達することを求めさる可らす、誰れか戀々として太古無爲の化を顧みる者ぞ。

以是觀之は、吾人實に進むに益あり退くに利なし、否進む可くして退く可らさるなり、かの太古を以て無上の道德界となし今日の社會をして之に效しめんとするが如きは、所謂大人をして小兒の衣服を裝はしむる底の迷信に外ならす、嗚呼この一大迷信、實に文運進步の大碍物なり、吾人滿腹の精神を發起して之を打破せざる可らす。

流俗宗教（其一）

（流俗宗教 ルビ：ポピラー、レリジヨン）

高田太郎

宗教は冥福を祈り、來世の安穩を希ふ所以なり、若し夫れ、瞋恚貪婪の炎、胸中に燃へ、殘毒强慾の念、唇端に溢るゝも、妙法の功力、彌陀の本願、よくこれを贖ふて、九品蓮臺の上に坐せしむ、こゝを以て、下愚俗陋の賤婦は、頻りに賽を投して、後生の寧樂を祈り、

頑惡無道の老爺は、合掌跪拜、漫りに珠數を爪繰りて、極樂往生を願はんとす。然れども、彼れ頑愚の徒、固より、罪惡の卑陋なるを知りて而して棄つるに非らず、罪惡の厭惡すべきを知りて而して廢するに非らず、唯、惴々焉として、呵責を恐れ、苦刑を怖る、所謂この恐怖の念、勃々として生ずるとき。微々たる良心の聲、大に振ひて、其の人を度するの引を爲す、偶々、彼等の慾望に合ふて、罪障消滅の祈願となり、隨喜の涙に流れ、殊勝なる歸依信心の徒弟とはなるなり、噫、この事實、今の天下に蔓り瀰るや、それ熾なり、宗教界の大勢、多くはこの事實の消長に伴ふて、定まらんとし、老若衆生の意向、亦これに隨ふて決せんとす、自眼冷腸の士が經世の策を講ぜんとするにあたり、漫然として宗教は國家の治具なり愚民濟度の要具なりと、放言するを見るも豈亦宜ならずとせんや、

然れども、余輩は自信ずらく、宗教の眞相本義は、已に既に此の如きものにあらず、尙且余輩の血眼熱腸、徒らに皮想の見に惑ふことを允さんや、宗教の本義をして果して此の如きものたらしめは、吾人は其の笑ふべく、憐むべきを知りて、未た其貴ぶべき所以を知らざるなり、

古今聖賢の世に出でゝ、宗教の定義を、定めたるもの實に尠しとせず、オットー、フライデレル（凡そ五十年前に生る）氏曰く宗教とは人の生治を宇宙の主宰者なる大權力即ち上帝のもとに運輸す其生活は神人合一の點に達する迄生長するを求むとチベルゲーン（凡そ五十年前に生る）氏は曰く宗教は生活上、人と上帝の間に立てられたる思想及感情の凡ての關係を云ふとクラウジー（千七十年に生る千八百三十一年に死す）氏は曰く人の完全なる業務は自己の生活に於ひて神人和合の地位に達するにあり眞智識、恩寵的感情、及神聖なる決行の三方法によりて自己の中に神の像を發達せしむるにありと、

余輩亦先哲の驥尾に就ひて宗教の定義を定めんと欲す曰く宗教とは眞智識、恩寵的感情、及神聖なる決行によりて上帝に事ふるをいふと、

この定義、正歟、非歟、素より余輩の淺學鄙見、大方

べきなり、其公事に於ては亞米利加人常に氏を稱揚して曰く氏は慧眼にして歷史に精に外情に通ぜりと、而して氏の信ずる所は民智を基礎とするの政府にありき、氏全權公使となりてスペイン及び英國に往き其文學上の智識と高麗なる品性とによりて大に兩國民の賞讚を得、亞米利加合衆國の名聲を高ふせり、ローウェル氏死せり！一大都人逝けり！一個人たる政治家去れり！何人か能く氏の如く正直、實義にして公衆の爲めに義務を盡すべき！氏の英國より生國に歸りて以來其名聲赫々として共に肩を比するものなく眞理と正義の擴張に於て米國恐らくは一層活潑の運動をなすの士なかるべし噫ローウェル氏逝けり！誰れに向て訴へん！

ローウェル氏は其生前に於て大に大英國と合衆國との交際を密にし兩國の間に未曾有の友情を生出せり、去れば氏の死去は兩國の人民をして他の大人を失ふよりも一層眞實忠誠の心を以て悲哀の情を表せしめたり」

ローウェル氏は其少年の時より不屈不撓の精神を以て政治の主義を實際に應用せんとの希望を有し合衆國民が常に呼ひて以て政治家とする所の卑汚の行爲を嫌惡せり氏は一千八百八十八年ニューヨークのレフォームクラブに於て「政治上に於ける獨立者の位置」なる問題を掲げて大に快辯を奮ひ其論證として高名なるエドマンド、バークを引けり而して氏が眞正なる政治家の本領として與へたる定義は實に能く氏の行爲に合するを以て余輩は氏を稱して第二のバークと云ふを得べし今氏が與へたる定義を左に掲げん、

政治家たるものは須らく原因を觀察し之れが特種の結果を生ずる所以を研究し依りて以て通則を製し判斷の教導となし運動の指南となすべし、眞正の政治家は詭計を運らして虛勢を張るものにあらず眞正の働きによりて實力を求るものなり、眞正の政治家は人の情慾、偏見を利用して一時の利益を博するものにあらず誠心を以て共和政府に害惡を與ふる者を除去せん事を計るものなり、眞正の政治家は害惡の進路を視察し活動世界に起るべき徵候を精神世界に求め事物と之れが相互の關係とを誠實に知得すべし果して斯の如くならば我が眼光を遮ぎる所の浮雲なく我が判斷力を妨ぐる所の情實なく過激浮華の虛説去りて眞正誠實の高論出て來るべきなりと、

又た右演説の結論に於て氏が國民に告げたる諫言は其愛國の至誠を表するに足らん

土地廣大なりと雖國家必しも盛大なるにあらざるなり職工多しと雖輸出物大なりと雖米穀の產出巨額なりと雖國家必ずしも盛大なるにあらざるなり、國家は獨り人躰の榮養人躰の衣服のみを以て之れが强大を期すべからず、我有爲活潑の諸君！國家の隆盛は其大半物質にありと雖其大半は精神にあるを忘るゝ勿れ、國家は決して天地を震動せしむる喇叭のみを以て隆興するものにあらず、國民たるものは須らく形體よりも一層高尙にして一層永續すべき光明を心中に發輝し吾人が原上一片の露と消失し去りたる時吾人の子孫に一層高尙なる志想を遺傳し彼等をして大に國家に盡す所あらしむべきなり、

ローウエル氏は又た文學の批評家として大に智力社會に尊崇せらる彼の名聲は赫々として十九世紀の文豪セインテ、ビユーヴ、マシユウ、アーノルド及びヂヨン、モーレイ等と英を競ひ當世紀大批評家の一に算せらる、

余輩は氏が詩人として其所屬の宗敎中に斬然頭角を顯はせしを記すべし氏の父レヴエレンシアル、ドクトル、チヤーレス、ローウエル氏はユニテリアン敎徒なりし而して氏は半ば此名目を脫せしも其思想に於ては明かにユ敎徒たりしなり余輩は氏の詩篇を搜索し其迷信敎徒にあらざりしや否やを探求するの必要なかるべし然れども宗敎上に於けるユニテリアン敎徒、運動の精神と傾向とを當世紀の詩歌中に求めんと欲するの人あらば氏の詩篇は尤も明瞭なる說明なるべし其詩ビブリオレートレスは上帝の啞にあらず預言者の種族、殘滅すべきものにあらざるを明にせり今其詩の大要を解譯せん、

上帝は語る能わざる啞子にあらざるなり故に經典は次第々々に重なりて一代々々其句を增し失望、希望の詩喜悅悲哀の歌頻りに其數を殖す而已、海は波だつべく霧は山を覆ふべく雷電は雲間に閃轡すべし然れども國民は靜かに預言者の足下に坐する者なり、

「人性の品位」なる句は多く人の妄用する所なり然れどもローウエル氏は大に高尙なる明解を與へたり氏は迷信敎徒にあらざりしも感應的人物にして信神敎徒なりき而して氏の高尙なる信仰は實に深思高慮の結果にして能く基督敎の本領を了知したるものと云ふべし氏は敎會的人物ならざりしも祭日には必ず饗宴を開きて聖者の記念となし基督を敬愛するの情一層深きを加へり氏の祖先は世々强剛正直、眞實の特性を備へ氏も亦た大に此性を繼げり氏又た永遠の正直、宇宙に存ずる

ものなるを知覺し嘗て云へるあり人生は脆弱にして蕩搖定まりなく夢幻の中に經過し去ると雖心に無窮の權力を知覺し之れが救助を願ふの念慮我を支配せば吾人の品位愈高く吾人の名譽益々揚るべしと是れ實に氏が其詩ジー、カセドラルに於ての結論にして科學も批評も其眞理に喙を容るゝ能わざるべし

ローウエル氏詩家たるの名、晩年に至りて益々高く其詩中に當時の大疑問を記述して少しも躊躇する所なかりき然のみならず氏がジー、カセドラルの詩は實に眞正なる宗教々師として爲すべき大事業なりしなり蓋し氏は其性、保守的なるも自信に於ては根本的にして當時の神學より一躍して靜肅謹嚴なる信仰に入りしは驚くべきなり余輩は左に數行を譯解して氏の高尚なる信仰の一般を示さん、

木根は地下に宿るも之れが枝葉との關係甚だ密に日光を喜び空氣を樂しむものなり上帝は光明の中に隱るゝも人との關係甚だ密に遙か上天にあるが如きも近く我が躰内に存ずるものなり人或は上帝を證せんが爲めに第三の證人を求むべし然れども我等は疑の爲めに累はされず心の中に曉るべし上帝は何れの處にも在さゞるはなし、されば我等は彼れが靜かに花園の中に逍遥し人と密接するの間だに之を消失し彼れが不可思議の妙光を發するも夢裏の間だに經過せんとを恐るゝなり

亞米利加の宗教諸新聞は其何れの派たるを問はず氏を賞讃せざるはなし余輩左にジー、コングリゲーショナリスト新聞の記する所を摘譯せん

ローウエル氏の死は米國并びに英國人民一般の悲哀を來せり是れ氏の生活、眞實、正直、高貴なりしが爲なり實に氏が後世に稱揚せらるゝ所以のものは其德に於て大に得る所ありしによるなり其國人になしたる事業の善良なりしによるなり氏は散文詩歌によりて高妙なる眞理及び高尚なる德性を明にし之に次ぐに實行を以てせり故に氏の生活は優美なる詩歌の如く正實なる論文の如くなりし氏晩年に至り病の苦むる所となり英氣大に衰ふ然れども嘗て自ら任ずる所を抛棄せず曾て小怒、愁嘆の痴態を學びしとなし故に世或は氏を稱して「人類の模範」と云へり然り氏を稱して世界眞人の完全なる例證と云ふも豈不可ならんや

祝詞

高田早苗

均しく東京に行かんとす。彼は中山道よりするが故に邪道を行くものなりと云ひ。我は東海道よりするが故に正道を行くものなりと云はんか。誰か其偏見に驚かざるものあらん。然りと雖も世間の事往々にして之に類するものあり。殊に宗教家に於て其甚しきを見る。

人心の同しからさるは其面の如し。偏癖の免かるへからさるは自然の數なり。强て之を束縛箝制し畫一の道路を進行せしめんとするは固より非なり。然りと雖も固執頑迷の極自己と説を同くせざるものは悉く異端邪説なりとなすに至ては。其流弊の及ぶ所頗る大なり。殊に宗教に於て其甚しきを見る。

宗教家は其性質既に偏癖を免れ難きものなり。而して其軋轢競爭より生する害毒は深くして且大なり。人類の歴史中最も悲慘を極めたるものの多くは宗教の爭に關係したると。亦故なきにあらざるべし。

夫れ然り。假令天下の人心をして同一の方角に向はしめ。同一の道路を進行せしむるを得ざるまでも。世界の宗教をして漸次一途に歸着せしむるの傾向を有せしむると。蓋し識者の一考を要すへき問題なりとす。

思ふに世界の各宗教は其体制の同しからざる千種萬樣なりと雖も。悉く同一の本原と同一の目的を有するものなり。只其歴史沿革の同しからざると。人智の程度習慣の差違に應して。一見水火相容れさるか如き外形を有するに至りたるのみ。果して然らは人智の進歩と世態の變遷に連れて。漸次歸一の傾向に近くは亦爭ふ可からさるの事實なり。

宗教歸一の必要既に斯の如く。自然の傾向亦既に斯の如し。然りと雖一躍してこの目的に達せしめんとするは弊あつて利なし。「潔くなれと曰ひければ癩病直に潔まれり」と云ふが如きとを盲信するものに向て惟一神の存在を問ふも。到底眞正の解釋を與ふるの道理なく。不動尊の御守札を以て黄金を産むの鵞鳥と同一視するものに向て涅槃妙心を發得せしめんと欲するも亦何の効かあらん。同一の宗教の下にあるものにして同一の信仰を有せしめんとするとすら既に難し。况んや數百年に渉る沿革を有し。各特殊の事情によつて特殊の發達を爲したるものを人爲の手段を以て一團となさんと

するか如きは。最も困難にして而かも最も不利なり。要するに宗教の歸一は如何に自然の傾向にして如何に必要なるとなりとするも。到底急激の手段を以て之を助成し得へきものにあらず。能く其自然の傾向を察して之を利導せんとを勉めざるべからす。

然らは如何にして其自然の傾向を利導すべきか。曰く各宗教をして學問と宗教と調和すへき所以を實地に試驗せしむるにあり。是れ即ち各宗をして歴史的の恩仇を忘れしむるの方法なり。各派をして同一の本源と同一の目的を有する所以を覺らしむるの方法なり。斯して各宗各派の間に交友の情を生し漸次反目疾視の風を消滅するに至らは。結局長所を交換して短所を棄て。宗教歸一の目的を達するに至るべきなり。

今日の所謂自由派の神學者は。蓋しとの傾向を利導せんと勉むるもの丶如し。余は此等の人士に向て望を屬するや深し。諸氏にして幸に能く社會の大勢を觀破し。徒らに急激輕進に陥らすまた頑固誇揚に失せずんは。庶幾くは人類相提携して神聖なる地位に登るとを得せしむへきか。

雜誌『宗教』の發兌を祝するに當り。聊か自由派の神學者に望む所を述ぶると斯の如し。

叢談

余輩は何故に一神信者なる？　世に多神信者あり然れども其の何故なるを知らざるもの半に居る世に無神論者あり然れども其何故なるを知らざるもの亦た多し今余輩は何故に一神信者なるやを説明せんとす余輩は決して祖先の遺傳なるが爲めに之を信ずるにあらざるなりバイブルあるを以て之を信ずるにあらざるなり習慣あるを以て之を信ずるにあらざるなり余輩の信ずる所以は之を信ぜざるべからざる唯一の道理あるを以てなり何をか唯一の道理と云ふ曰く見よ金銀寶玉は其形躰異なりと雖ども均しく是れ物質にして唯其結合に異狀あるに過ぎざるは理學之を明にし禽獸魚鳥は其狀形變ずと雖ども同じく是れ原始の一生物より進化したるものなるはダーウヰンの理論之を證す否一歩を進めて之を論ぜば有機物も無機物も共に一大勢力の表彰たるに過ぎざるは理學の證明する所なり此勢力之を名けて上帝と云ふ故に或意味に於て人類は上帝一部の表彰なり樹木も然り禽獸も然り然れども茲に余輩の注意を要す

べきは凡神敎(俗に稱する凡神論)との區別是なり彼等は曰く宇宙は神なり家屋も神なり樹木も神なり人類も神なりと余輩は曰く宇宙は神にあらざるなり上帝一部の表彰なり家屋は神にあらざるなり上帝一部の表彰なり樹木も然り人類も然り余輩は全躰と一部とを混同すべからず造物者と受造物とを混同すべからず上帝其自身と上帝の表彰とを混同すべからず譬を以て之を例せんに書籍は人類の著作する所なり故に之を以て人類一部の表彰となすも可なり然れども未だ以て書籍即人類なりと云ふを得ざるが如し獨逸の哲學者韓圖氏云へるあり曰く蒼天窮まりなく無數の諸星、碁布するも其間に不變の規律破るべからざるものありて存ず社會の人事錯綜するも善を善とし惡を惡とするの良心は萬人變ぜず其間に嚴然犯すべからざる道德の法則ありて存ず此二者は以て宇宙に唯一の理法大勢力あるを證するに足るべきなりと故にユニテリアン普通信仰の第三に曰く上帝は……物質界精神界の源泉指導及び整理者なりと

ユニテリアン敎　宗敎は基督敎會によりて初まりたるにあらざるなり敎會組織のありし前に既に宗敎ありしなりされば余輩ユニテリアン敎徒は謂はんとす如何なる敎會と雖ども世の至眞を包容するものにあらざるなりと抑も基督敎は歷史に於て其の源をアブラハム及び其の他の家長に大關係ある唯一の上帝てふ高尙なる思想に起しモーゼス及び其他の制法者によりて發達し以賽亞及び其他の豫言者によりて一層無形的の解釋を得東洋の智惠と希臘羅馬との學問とによりて豐富となり耶蘇及び其弟子によりて廣大となり敎會も之を容るゝ能はず國民も之を包む能はず遂に世界的の大宗敎をなすに至れり然れども耶蘇紀元第一世紀以來諸宗諸派大に其見解を異にし拒絕的の信條を固守し世界的たる性質を隱蔽せんとせり然れども上帝の天父たることと及び人類の同胞たることとの二主義は常に如何なる敎會に於ても成立せざるなかりき而して今や此主義は世界の光明となり人類の希望となり活潑々地の運動をなさんとするの時期に達せり余輩ユニテリアン敎徒は此世界的福音を傳ふるの義務を有する者なり彼の口に內訌を事とし蝸牛角上の爭をなすものは何人ぞ蓋し幾多の敎會が獨り自ら上帝の賜を專受せんと欲して殘忍愚痴の行爲をなすは其眼光の小なるによるなり噫亞弗利加の內地亞細亞の大國何ぞ此廣大なる福音を布くの餘地なからざらんや往きて早く上帝の天父なることを敎へよ人類

の同胞なるを教へよ噫ユニテリアン教徒の事業亦た大なる哉

余輩は何故に耶蘇經典を研究すべき？　余輩は何故に耶蘇經典を研究せざるべからざる？曰く(一)耶蘇經典は英文學として其美云ふべからざるものあるを以てなり蓋し英の文學其數多しと雖ども名家輩出せりと雖ども其首位にあるものはセークスピヤにあらざればバイブルにして余輩は未だバイブルを以て第三位以下に置くものあるを聞かざるなり夫れ英のアングロ、サクソン語一たびノルマン語の侵す所となりてより英國の言語混亂を極め漸次變改して底止する所なからんとす此時に當り此れが隄防を造り言語の潰亂を防ぎしは實に耶蘇經典の英譯せられて漸次其の勢力を得しによるなり(他に源因あるべきも)然らば則ち經典は近世英語の祖先否模範と稱するも可なり英文隆盛の日に當り此の貴重なる文學を研究せずして可ならんや(二)基督教、初めて羅馬大帝國の人心を支配してより俗界の變遷驚くべく羅甸人種勢力を失ひ日耳曼人種之に代り羅馬亡びて暗黑時代となり次ぎて今日の歐米各國となりしも基督教は依然として千歳變はらずこれが道德を維持しこれが秩序を保てりされば耶蘇經典の基督教國に於ける潜勢力は實に吾人の想像し能はざる所にして宗教書としても道德書としても無上(恐らくは)の良書なるが如し是豈研究せずして可ならんや(三)迷信基督教徒は常に最後の判斷を經典に置き曰く世界は六日に創造せられたり何となれば創世記之を記する詳なればなりと約拿は大魚に飮まれ再び地上に吐き出されニチベに往けり何となれば約拿記詳に之を記すればなりと其他萬事の最終裁決を經典に仰がざるはなし余輩先づ之を熟讀し其然るや否を研究せずんば恐らくは彼等の欺むく所とならん(四)約翰默示錄第二十二章に「十八我この書の豫言の言を聞者に證をなす若この書の豫言の言に加る者あれば神この書に錄す所の災を以て之に加へん　十九若この書の豫言の言を削る者あれば神之をして此書に錄す所の生命の樹の果と聖城とに與ることを莫らしむ」とあり、ある迷信論者は之を以て新舊兩約全書全躰に關する者となし經典の文字は一字一句も添削する能はずとなせり然れども經典なるものは一卷の書籍なる？數卷の書籍なる？一人の書きたるものなる？數人の書きたる者なる？此等の疑問決せずんば余輩は十八節十九節の文意を解する能はざるべし經典を一卷と見ると數卷と見るとによりて「この書」なる三字大に其意義を異にせざ

るを得ず然らば則ち余輩先づ經典全部を了解し之れが順序年月を正さずんば恐らくは非常の誤解を來さん是等は余輩の經典を研究すべき理由の重なるものなり

玄妙

知られざる者是を玄といひ、測られざる者是を妙といふ、玄の又玄衆妙之門、我得て是を測り知る能はざる歟、玄といひ妙といふ、何物か玄ならざらん、何物か妙ならざらん、人類は何が故に生存せる、天地は何が故に存在せる、忽焉として歡笑和樂忽焉として悲哀悽愴、忽焉として絶叫大哭忽焉として深沈靜默、倐焉として花紅柳綠、倐焉として疾風怒號、倐焉として雷電掣擊倐焉として青松白沙、端なくして生じ端なくして死す、人類は果して何が故に天地に生存せる、天地は果して何が故に存在せる、之を天地に問ふ天地其誰の爲めなるかを知らず、之を人類に問ふ、人類其誰の爲めなるかを知らず」「若し知られざる者を玄といひ測られざる者を妙といはゞ、是れぞ玄の又玄、衆妙之極所なる。

玄妙！是を究め是を探、實に宗教の本分なり、哲理科學の壇上に本陣を確立し、左に自然の戈を携へ、右に眞理の劍を提げ、威風凜々純正着實の運動を爲す眞善美宗教の本分なり。

嗚呼、眞美善宗教の運動！觀じ來れば汝の運動も亦玄妙なるかな。

有神論の價値　無神論者は未來を信ぜずして現在を語り精神を外にして形骸を談じ天國なしの世界を觀じ上帝なしの宇宙を念ふ宜なり失望一たび來れば手を拱してなす所を知らず暗談たる悲境に沈み物欲の奴隷となるや　迷信神學者は世界を一瞥し形骸は精神の爲めに荒され(アダム、イーブ惡を行ひし爲め)現在は未來(地獄)の爲めに覆され天國の寵子は上にありて其足下(天國は地獄の頭上にありと信ぜらる)に沈吟する不幸の徒を悦べるを思ふ宜なり失望一たび來れば心に殘忍、刻薄、不正の上帝を感じ消然として樂しむ所を知らざるや　純粹の有神論者は然らず世界を見て其中に超絶無限の上帝を認め彼れが何處にも完全なる源因として表はれ何處にも完全なる攝理として彰はるゝを知り彼れか完全なる權力、智惠、正義、神聖及び慈愛は善く萬衆に圓滿なる繁榮と幸福とを與ふるものなるを曉る宜なり幾百萬の俗碍我を遮ぎるあるも我心靜然として怖るゝ所なきや(セオドル、パーカー氏の言)

固執信者は目を洗ふて復讀せよ　今を去る遠からず亞

米利加に慈善會ありき會せし者は羅馬加特力教徒を初めとし新教徒ヂユウス教徒及び合理教徒にして宗教上の爭論なく和氣洋々たり時に一僧立ちて咳一咳演說すらく

嘗てアラビア、土耳古、希臘及び波斯の四國より來りし四人の旅客、偶然、都門に會し共に風景を談じ奇遇を喜び共に金若干を出して食物を購はんとす然れども其欲する所各異なりアラビア人曰アガブは食物の尤も甘美なるものなり請ふ之を求めん波斯人曰否アングハーにあらざれば不可なりと土耳古人傍らより曰アズムは我の尤も嗜む所なり請ふ之を購はん希臘人曰汝等の謂ふ所皆非なり凡そ人類食物の最美なるものはシユフアリオンに若くものなかるべしと各其欲する所を爭ひ止まる所を知らず時に一園丁の葡萄を驢馬に負はしめて通過するものありけり四人之を見て共に手を出して波曰見よ是れアガブなり其美思ふべし亞曰否是アングハーなり土曰是アズムにあらずして何ぞ希曰此れ我が所謂のシユフアリオンなりと是に於て爭論全く止み共に葡萄を購ひ團坐之を喫せりと

噫我同胞の諸君！我宗教社會之れに類似するの事なきか一人呼びて以て赤となす所のものを他人は呼びて以て黑となし一人呼びて以て可となす所のものを他人は呼びて以て不可となす然れ共何んぞ知らん是れ同一のものに名くるに異名を以てするに外ならざるを余輩は共に交友となりて共に宗教の甘美なる葡萄を食せんとを欲するものなり

「宗教」を餞す　「宗教」出づ矣何の爲めに出でし乎日本國の時勢實に止を得されはなり。

蓋し我日本國は維新以來社會の躰面を一新すると共に亦宗教界の面目を一變し各種の宗教學說漸次に輸入せられ今や一として存在せざる者なく宛然宗教上の一大試驗室となれり則ち佛教の如き神道の如き儒教の如き耶蘇教の如き其他蓮門御嶽を始め各種の教說に至るまで千紫萬紅其芳を戰はし其艶を競ひ各々其教勢を擴張せんことを勉めんとせり嗚呼是等各種の宗教中何れが果して最高尙なる者ぞ何れか果して日本國を感化する力ある者ぞ未だ容易に判知す可らず而して「宗教」は實に合理的の規矩を執て此等宗教學說を審判し其眞を採り其僞を捨て圓滿無漏なる合理的教說を發揮することを目的とす

且夫れ顧みて日本道德の現狀を観察するに妖雲黯憺と

して天日爲めに光なく瘴霧茫漠として民人守る所を失し語つて曰く仁義何ぞ公道何ぞ吾人の目的とする所目利の一ある而已と相率ひて邪道迷路に彷徨し自から天眞を得たりとなし敗德非行醜として羞ざるの徒日に與る矣而して「宗敎」は實に眞正なる道德を以て此等不德の徒を敎化せんと欲す、

要之に「宗敎」は各種の敎説を溶解して粗野純正の敎理を判別する所の大火爐なり純正なる宗敎道德の適否を試驗するの試金石なり其任務や遠且大なりと云はさる可らず勉めよや「宗敎」剛勇なれ大膽なれ汝は實に日本國否實に大世界に於ける合理的宗敎の運命を卜するの責任ある者なり汝果してこの遠大の任務を遂行するの勇あるや吾人は實に汝と目的を同ふす今や汝の發程に臨んで聊か汝の長途を餞す、

推薦

○自由基督敎と眞理

余輩亦「自由基督敎」の顰に傚ひて讀者に推薦せんと欲するものあり、即ち自由基督敎と眞理なり、共に雄健の筆、正大の論、自由的神學の説と純正なる宗敎の眞意を探らんが爲めには、坐右に欠く可からざるものなりと信ず、

○自由神學

は獨乙國ベルリン大學の敎授博士プライデレル氏の原著に本づき金森通倫氏が抄譯せらるゝ一書なり、余輩は未た其稿の脱したるや否やを知らず、又其稿を見るの榮を得ざれども卓上に大冊二卷の獨乙書、儼めしく横はり原稿紙墨痕累々として未だ乾かざりしを見たると數回なり、同氏の勤勉なる必らず、吾人をして滿足せしむるの良譯書を出し、今や大旱の雲霓も啻ならずといふ程にまで待ち焦がれたる自由神學書の必要を充たさるゝ事ならん、發行の期は十二月一日なりと聞く委曲は一讀の後に於て妄評を試みん先つは豫めこれを推薦して購讀せられんことを勸誘するものなり、

○奇蹟詳論

自由派獨乙神學の驍將にシュミーデル氏といふがありぬ、二三年前この土に來り、スピンナル氏とともに專ばら、基督敎傳播の事に力を盡さる、碩學高論を以て夙に士人の間に用ひられ又仰望するもの頗ふる多し、この書は同氏の近著にして普及福音敎會の牧師三並良氏の譯に係れり、其論ずる所吾人の意を得て殆んど餘蘊なし、奇蹟に關しては、昨年來大家の間に、屢議論の有

りたる處なり、今や本書を評して蛇足を添ふるは林任にあらず、合理的神學説の研究に從事するもの、奇蹟の詳論を得んと欲せば須らく一冊を購ふて讀むに若かず。

雜録

冷々語叢

小天子

○冷々語叢序

靈眼一閃大千世界を觀了し、靈手一揮無數扮態を描到す、筆鋒の毒を含む蝮の如く、眼光の暗を照す梟の如し、之を讀む一過二過三四五六七八讀、悚々焉、慄々焉、俶々然、凜々然、而して其潔淸や雪、其娟麗や花、精切之を讀む多情纏綿、刻心之を讀む解脱無方、嗚呼靈眼乎、靈手乎、小天子が滿肚裏の眼涙一時に分湧して此の一塊語叢となる、語に曰く

淸風興て群陰伏し、日月出て爝火息む

讀者若し語叢の眞意を知らんと欲せば請ふ之を最靈々人物に問へ、敢て劈頭に絶叫大喝す

明治辛卯十月　不動劔禪

○吐一吐

自から冷と稱す已に冷に非らず、自から熱と稱す又已に熱に非らず、冷は是熱、熱は是冷、混然又融然、冷中に熱あり、熱中に冷あり、今我この語錄を題して、冷々語叢と云ふ、言果して冷乎、熱乎、曰く冷なり、冷ならざれば、曷ぞ冷々語叢と名けん、然ども自から冷と稱す、是れ果して眞の冷と云ふ可き歟、我知らず、人知らず、玄の又玄、唯々古歌一首を記して、我多情なる讀者に寄す、

君ならで誰にか見せん梅の花
色をも香をも知る人ぞ知る

劔禪評曰科頭箕踞長松下、白眼看他世上人。是れ冷極の語ならず、正に是れ熱極の語、眞に知言也。

○無情か可憐か

巨眼烱々、千里の遠を洞見する者は、智者、睡眼朦朧、咫尺を辨せざる者は愚夫、正々の論、堂々の說、正道を蹈んで進む者は、勇士、夢想の說、臆測の論、私情に從つて行ふ者は怯人、然れども朦朧の睡眼を持して、千里の遠を洞見すると稱し、臆測夢想の論據を以て、正々堂々の說を衒ふ者に至りては、愚中の大愚、怯中の大怯、我之を蛇蝎視す、…………借問す八百萬日本

の守護神よ、神達の領内果して這般の大愚大怯なき歟、我れ我靈智を驅りて、之を觀す、吁々……咄々！行く者、來る者、走る者、止る者、言ふ者、論する者、悉皆如是愚物！……唯芙蓉の峯舊に由りて、無垢の雪を戴き、琵琶の湖長に、眞如の月を浮ふる而已、……嗚呼無情？……可憐？

劍禪評曰、愚中眞愚あり、怯中眞怯あり、眞愚尙敎ふべし、眞怯尙鼓す可し、如是大々愚物、吾人は鈍刀を揮て、萬々年月間に、寸々裂するも尙飽かざる也、

○木鐸＝曉鐘

形は枯木に似て心死灰の如し、深山幽谷の裡、獨坐靜思、八面玲瓏の境に遊ふは世既に其人あり、紅塵萬丈の中、朝に古今の書を讀み、夕に聖賢の語を誦し、眼光銳利能く是非黑白を看破し、心識高尙能く卓說を懷抱する者、世上既に其人あらん、然れども活眼活識、疾風迅雷、眞個愛民の熱淚を迸して侃々諤々、社會の曉鐘、國家の木鐸を以て、自から任する者は世上眞に絕無！、是れ世事の日に非なる所以ならん、嗚呼、曉鐘か、木鐸か、何の日にか響き、何の日にか之を聞くを得ん、喝。

劍禪評曰、寰宇一切一無字、我無、彼亦無、何怪其絕無乎、此篇亦是一絕無文字、

○汝の爲し得る所果して何事ぞ

行路難を歌へ、世事如夢を說け、行路の難を歌へは汝の熱心加はり、世事如夢を說けば、汝の迷執去る、熱心は是れ成功の初步、捨迷は是れ悟道の楷梯、既に初步楷梯を得、其の極所堂奧に達する、順風の舟而已、斜路の車而已、我は實に這般多情眞面目の人を愛す、咄々！彼れ無頓着家、冷淡家、ゴマカシ屋、ヤキツギ屋、汝果して何者ぞ、馬？鹿？バチルレン？バクテリヤ？汝の爲し得る所叉何事ぞ、我兩耳をエグツテ之を聞かん。

劍禪評曰、幾千萬行の熱淚、冷罵語中に洄瀾す、此れ冷乎、熱乎、冷中の熱乎、熱中の冷乎、

○顏淵の怒……美人の笑

如何にして自から守り、如何にして家族に接し、如何にして國家を愛す可き、此を思ひ、彼を思へば、茫々又漠々、忽ち白頭童顏の老翁あり、莞爾として朗吟す

顏淵怒如楊柳糸、
美人一笑破石門、

劍禪評曰、是此の極秘、吾人塵埃には得て窺ふべか

らず、

〇宗教

死して彌陀の淨土に入るを願ふ、これ宗教歟、眠つて天神の膝下に至るを望む、これ宗教歟、然りこれ宗教の方便なり、彩色なり、一乘俗諦なり、牽强附會なり、宗教の本色に非らず、眞諦に非らず、實相に非らず、夫れ宗教は汝の肉軀を健全ならしむる者、汝の精神を安慰ならしむる者、將た汝をして滿目美麗、全眸完備なる宇宙の大原力、即ち神に近邇せしむる者、これ吾人の宗教なり、來れ四千萬の同胞、吾人は公等と共に、眞宗教を奉ぜん、吾人は公等と共に、樂天主義を貫徹せん。

劒禪評曰眞人物出て天下歸を同ふし眞宗教起て天下一に歸す、感謝す、圓滿完了なる天、高遠幽秘なる天、劒禪は汝を樂むと共に茲に眞宗教の天下に瀰蔓せんとを切に願ふ。

〇四可の教

非禮勿視、非禮勿聽、非禮勿言、非禮勿動、とは是れ古人が四勿の教と稱して、日夜に服膺せし所の者なり、實に千古不易の確言と云ふべし、我亦古人に傚はんとす、傍に人あり曰く、咄、汝曷んぞ迂なる、世は已に昔の世に非ず、人亦昔の人にあらず、世異なれば其風を異にし、人異なれば其言を異にす、古の言を以て之を今に用ひんとす、今の風を追ふの明なるに如かず、故に予は汝に四可の教を授けん、曰く、非禮可視、非禮可聽、非禮可言、非禮可動、と我得て其是非を知らず、敢て問はん〳〵。

劒禪評曰是れ此の渾沌世界、劒禪は筆硯を肩にし、北海道の山奥無人の鄕に我が天眞を養はん。

〇眞想と誤認

天下辛酸多しと雖も、其眞相を誤認せらるゝより、辛且酸なるはなし、孔子は陳蔡の間に死せられ、菅公は筑紫に左遷せらる、惡なきの惡に流離の苦を嘗め、罪なきの罪に邊境の月を見る、慧眼一人、盲目萬人、我は目くら千人目あき千人の俗諺の眞ならさるを怨む、盲目の人盲目の人を導ひて、蹉跌の難を免れんとす、我其の可なるを知らす、然れとも盲目の人、其臆測推想する所に由りて、大々の巨象を評するに至りては、我實に其の可なるを見ず、滔々たる今天下、悉く是れ盲目にして巨象を評する者……可惡？可憐？可笑？我之を知らす、喝、世の盲目者流よ、馬を見て馬とな

し、鹿を見て鹿となせ、其頭を撫し、其手を握り、其足を捕へ、其尾を持し、是れ大々の巨象なりと云ふことなかれ、汝か誤認は實に幾多の志士仁人をして、不幸なる終焉を爲さしめたり。

亞米利加監督敎會の雜誌に左の如く記せり、
日本人は宗敎に於て(政治に於ても)信仰の基礎に入り此れが原理を攻究するを好み外形的口碑的の裝飾を嫌ふの良性あり故に外國の宣敎師にして福音を此土に傳ふるものは多く口碑的地方的のものを除去し道理的宙宇的のものゝみを採用せざるべからざるに至れり此れ實に驚くべき人民にして他日宇宙的合理的の基督敎を發達せしめ純正なる國民的日本敎會を生長せしむべき徵候を示すものなり、

○年報　英國及外國ユニテリアン協會第六十六年報は其卷首に記して曰く文明世界の宗敎的觀念は實に驚くべき變化を生ぜり我等敎會徒が永年の間だ熱心に主張したる上帝、基督、バイブル、人性、贖罪、未來等の觀念は世界の共有となり深思高慮の人は皆之を信ぜざるものなきに至れりと、

○佛敎徒の奮發　佛敎徒は印度佛蹟興復會なる者を興せり而して其目的は主として印度佛陀伽耶の舊跡を佛敎徒の手にて保管するにありと云ふ元來佛陀伽耶の地は當時英國政府の所有にして古物保存の爲め十有餘萬の大金を擲ち大に修繕を加へ稍古形に復し婆羅門敎法王之を保管すると云ふ曩に日本の留學僧釋興然ダンマバラ氏と共に此佛陀伽耶の古蹟に詣し其現狀を見、無數の感慨を惹起し遂に佛敎徒にて之を保管せんとの願望を起し萬國佛敎徒へ其賛成を促し既に暹羅緬甸楞伽等の諸國に於て賛成者少なからずと云ふ此佛陀伽耶の地は釋迦正覺の地にして憤墓の地に非ずとなり　佛敎徒諸氏！諸氏の奮發大に好し余輩は大に諸氏が遠大の企圖を賛成するものなり然れども內訌已まず私德大に亂れ自己の一寺をさへ維持する能はざる狀況は如何にして治療の策を施すべき余輩は諸氏が外に向つて奮發すると同時に內部に於て大に改良の實を擧げん事を希望するものなり、

○佛敎徒への訓令　品川內務大臣は去る九月三日を以て佛道各宗派管長へ左の訓令を發せられたり、

內務省訓令第二十二號　　佛道各宗派管長

佛道各宗は慈悲忍辱を旨とし衆生濟度を目的となし宗祖先德の芳躅を追蹤し其本分を確守し布敎傳道に從事

すべきは現に其宗制に掲げ本大臣に於て認可せし處なり然るに近來各宗の內往々黨を樹て社を結び互に名利を爭ひ健訟の風を釀生する弊之あり僧侶にして有間敷所業に付各管長に於て自ら率先し德義の上進を冀圖し風紀の頹廢を匡正し殊に宗務所の如きは管長の指示を受け宗內諸般の事務を掌理する塲所なるに依り公平無私にして宗內德望ある者を登庸する等總て宗規の戒飾方に一層注意すべし是れ特に管長の注意を要するのみならず宗內各自の戒飾玆に出ずして仍ほ其弊を矯正すること能はざるときは本大臣監督上臨機の處分を爲すは格別とし其一宗の自ら衰亡に歸するは必然に可有之假令其宗名を存するも既に其實を失ひ宗祖先德に對し實に面目なき次第に立至るべし就ては自今猛省警悟して一宗の安寧を保持すべし

明治廿四年九月三日　內務大臣子爵品川彌二郎

佛敎徒諸氏！諸氏は俗界の敎導者を以て自ら任ずる者なり然るに斯の如きの訓令を受くるは何事ぞ余輩は諸氏を以ての交友となす者あり然るに今日の不体裁あるは豈諸氏のみの耻辱ならんや抑も亦た余輩の耻辱なり木は先づ朽ちて而して後蟲之に生ず諸子少しく猛省する所あれ

○宗敎上に關する紀事　朝鮮は朝野一般に儒敎熱強く少しく見識及相當の位置を存する人即ち言を換て之を云へば中以上の人々總て事の吉と凶とを問はず凡そ儒敎の律法に從て式を爲さゞるはなし彼の韓地に於て越大の冠を戴き衣裝は麻製の長衣を被き掩面を携て路中を徘徊するものは是れ則ち父母の喪に三年との律法を守るものにして實際三年間は此風裝を脫する能はず儒敎の熱以て知るべし、

○佛敎の寺院　佛敎も勢力頗るなしとは確言すべからず隨分內地に漫遊するときは壯觀にして規摸高廓の寺院を見るべし今其實例を云はんとするに當り先づ日本人の重もに記臆を存するものは彼の咸鏡道安邊府下の釋王寺の如き一見稍々驚くべく剃髮の者常に六十七人もあり其他凡之れに類するもの內地に散在せり。國中僧もあり又尼もあり。只玆に一大驚を喫すべきとは此僧尼共に併て何の勢力をも維持する能はず多くは農業に從事して轉た奴隷然たる觀なき能はず若し然らざる者に至ては常に國中各地を彷徨し食を俗人に乞ふものあり予は此風を聞く毎に此風を見る毎に交々驚歎の念起らざるはなし。何とか矯風の策を講ずる道あらんと思はる、

○在韓の基督教　天主教は余程以前より佛國宣教師內地に潜伏して傳道の業を盡し其結果として兎に角信者と云へば天主教に多し該宣教の勞實に思ふべきものあり基督教の宣教師現今各派の師來て夫々布教上の附屬事業に盡力せり予は將來の好結果を熱望するの一人なれども目下韓廷止を得ざるによりてか默許の有樣なり

○韓民が基督教に於ける一斑の感念　予は之を記せんとするに當て先づ腦中に惹起す感情あり之れ他なし韓民目今の該教に關する思想を知ると同時に日本の近狀を追懷せざるを得ず、

予一日予の語學教師黃鉉圭氏と共に或る一種の韓人衆會の席に臨み談遇ま基督教のとに及ぶ予は只心ありて彼等の云ふ所を聞き一般の感想如何を知りたり

今彼等の云へる所を筆記したれば不取敢其儘を記載せん、

基督教の感情に付て彼等語を作て曰

不知其味者曰非矣。深知其味者曰是矣。語其或非或是。則是者。千有一。非者實不知其數也。然此非誹謗耶蘇教也。不知其好不好是不是之故也。譬如愚盲人。古有大舜之孝。後有夏桀之虐。是何故也。以大舜教夏桀則夏桀亦孝也。以耶蘇教東國之人。則東國亦耶蘇之學也。以五倫三綱教西國人。則西國人亦爲孔夫子之學也。西何爲先東何爲後。東西辨異先後倒着是何故也。此亦莫非天運則何假言哉

又一人の老學者予に語て曰耶蘇の教其意を深く味ふ時は孔夫子の教より高し而て吾人は孔夫子の教さへ辿り至ふする力なし何ぞ此高きものを要せん先悅て孔夫子を學て可なりと(以上四項國民新聞朝鮮通信による)

○電氣杖　佛國のエムトローブなる人電氣杖を發明せり杖の頭部に小電氣燈を附し杖の中に細き蓄電氣を仕込たるものにして其光り新聞紙書籍等を見るを得べく夜行の滊車等に携帶して至極妙なりと

○倫理學試驗問題　頃日文部省に於て外山正一、井上哲次郎諸博士試驗委員として施行せられたる教員試驗の倫理學問題は左の如し

第一回筆記　(三時間)

一倫理學の定義如何、二直覺、功利、利己、利他說の大要如何　三何をか良心と云ふ良心は發達するものなる否や　四道德上の善惡は何によりてこれを定るを得るや　五道德に關係なき行爲ありや否や其理由を說明せよ　六必然說と自由意志論との差別如何　七道德は變遷するものなるや否や其理由如何　八德行

は敎ふべきものなるや否や　九德性を涵養するの方法を說明せよ　十孟荀楊の性質如何

第二回筆答　（三時間）

一尋常中學校等に於て敎ふる所の倫理科は實踐的なるべきか將た探究的なるべきや其理由幷に其授業の方法如何を詳細に說明せよ　二古人の言行を引證して倫理科を敎授するに當り往々陷り易き弊害ありや否や、如何なる注意を要するや、的例を擧げて之を證明せよ　三楠正成を引證して一時間に於て忠君の主義を生徒に敎ふる順序方法等實際の摸樣を詳記せよ

○是れは佛敎の幽靈なるか　松尾なる人あり岡山日報に左の廣告を爲す、

有所感自今無妻主義を執る
併て迎妻の爲めに周旋せらるゝ諸彦に謝す
久米北條郡　松　尾　綸　叟

○大木伯の敬神　大木文部大臣は元來敬神の志厚くして是迄國祭日抔には病を除くの外は參朝拜賀の勤務を欽かれたる事なしと云ふ、

○說敎及日曜學校　每日曜日午前十時ゟ京橋區加賀町八番地日本第一ゆにてりあん協會に於て說敎あり敎師は高田太郎氏にして非常の熱心を以て唯一の理を說かるゝ由　日曜學校は同じく每日曜十一時ゟ同協會に於て之を聞きクレイ、マッコーレー氏之を掌らるゝ由氏が平易の英語は能く聽者の感動を引き不知不識の間だに道德、宗敎の趣味を解得せしむると云ふ、

○東京自由神學校　東京々橋區加賀町八番地惟一館に於て今度新に設立せられたる東京自由神學校は去月十五日開校の式を擧げられたり同校生徒は殆ど滿員にて職員はクレイ、マッコーレー氏ウ井リアム、アイ、ロ、ーレンス氏ダブルユー、エス、リスコム氏ガレット、ドロッパース氏及びチエー、エッチ、ウ井グモア氏にして開校日尙ほ淺しと雖ども着々歩を進め萬事大に整備せりと云ふ今同校規則の概要を得たれば左に之を示さん、

第一名目　東京自由神學校

第二目的　神學及び宗敎を哲學的科學的に硏究し之れを實際に應用するを以て目的とす

第三學生　品行方正にして本校の目的を贊成し高等中學卒業以上の學力を有する者は學生となるを得

第四　硏究の要項（一）宗敎の基礎を哲學的歷史的に硏究す（二）諸宗敎を比較的に硏究す（三）耶蘇經典の批評及び說明（耶蘇敎義の說明をも含む）（四）基督敎史一般（五）哲理的倫理（六）社會的倫理（七）其他

第五年限　三年を以て卒業年限とす
第六選科生　品行方正にして相當の學力を有するものは一科目若しくは數科目を選修するを得

○透谷上人　今は昔去る所に矮軀の先生といへば誰知らぬものなき有名の男ありけり下賤の家に生れ貧窶の中に人と爲りたれども天稟の才子にて弱冠の頃には有爲の奇材、後世恐るべきの少年、などさま〴〵の世贊を受けたりこの男何時の頃よりか佛道に志ざし人知れず天竺に渡りしが彼の土にて沙門の道を學びたるにや歸朝の後はみづから透谷上人と名乘りを改め日常の言語に梵語を用ひ夜の寢衣にも金襴の袈裟を放さず家居食膳皆悉く天竺の風に摸擬し偏に國風を賤みけりさるからに世の人は忍辱慈悲の善德と仰ぎ智識圓滿の高僧と思ひしに凡夫に劣りし怯懦の擧動數多く腹黑き佞奸阿諛の行爲漸次に見はれ三年を待たで世に捨てられ名利の奴、害毒の議者、卑劣の小人とあらふる汚名を受けて罵られ終りぬ愚夫愚婦を巧に泣かしめ金錢を喜捨せしむる自家獨法の妙技も無知蒙昧の老爺を感嘆せしむる奇態の能辯も終に用ふる處なし古人の所謂驢もし味を失なはゞ何の益あらんやとはこゝのとなり後の世の人この種の僧を見る毎に透谷上人の名を呼びあへりとぞ噫　今の世褐葉の雲霄に聳へ鐘聲の響水に流るゝ鐘樓堂の邊この上人の再生は在さずやとの投書あり記者は解せず

○基督敎新聞、福音新報と自由基督敎

基督敎新聞眠りたる乎一閱の勞を惜みし乎將又自由基督敎を侮蔑して顧みざりし乎オルンドックスの人士をして一たびは寒心せしめし基督敎徒の忠實てふ一文がジャパンメールの紙上に轉載せられてより急遽周章これに一擊を試みたるを基督敎新聞となす辨疎の文案誰の手に成りしにや眞率着實稍賀ふに足る、これに亞ぎて木間隱れより狙ひ擊を試みたるを福音新報となすさらぬだに新報の近況は一戰の敵手を得んとて我自由派に戰を挑むの色あり今回の一文彼れに取りては屈强の得物なり言辭を極めて罵らざらんや、餓へたるものあり、食を急ぐ飽く事を忘れてこれを貪らんとす籾穀と鱗屑とて問ふにいかで暇のあるべきや遂に胃腐を破りて其健康を害せずんば滿ちず新報がみづから莊重を忘れ端嚴を害なひ口汚なく罵る處食傷の病者と何ぞ擇ばんや縱し二三の人士が野狐の愚を學びたるにもせよ、これを罵りて得々然たるものゝ是亦野狐の類ならざらんや、

固より自由基督敎が十分八七六の數字を明記したるは稍潜越を免れずといふべし敎潮誤認の誹謗こゝに根ざして起り意味なきの嘲罵を以て我等を中傷せられんと

す君子は危きに近よらざるを可とせり余輩徒に聲の喧しきを願わず着々として我使命を全ふしこの同胞四千萬を導かんとするに當り僅々三萬の數我れに於て何かあらん且夫れ其會員の多數は實に自由派の所說を受納するの色あるにあらずや暫時を經ば事實を擧げて論ずるの日や來るべし吾人は徐に待つに如かず。

○佛敎の分派　我が國の佛敎は現時十二宗に分れ居る事なれども更に之を細別すれば都合三十八種に分派せるを見るべく現に臨濟宗眞宗の如きは各々十派の多きに及び、日蓮宗は六派に、天台淨土兩宗は三派叉は二派に分れ居るものにて曹洞宗、日蓮宗（一致派）などは宗内の軋轢甚しく塲合に依りては或は兩派に分立するやも測り難き程の有樣なれば今後十數年をも經たらんには其分派の數も如何に多くなるべきやと噂し合へる僧侶も少からざるよし今現時の宗派幷に管長を列記すれば左の如くなりと云ふ

宗派	管長
華嚴宗	菅沼英樹
法相宗	千早定朝
天台宗山門派	三浦實源
同　寺門派	山科祐玉
同　眞成派	率渓孝恭
眞言宗	原心猛
淨土宗	日野靈瑞
同　西山派	太田廓空
臨濟宗天龍寺派	由利滴水
同　建仁寺派	荻野獨園
同　相國寺派	齋藤龍閑
同　南禪寺派	松山舜應
同　妙心寺派	蘆匡道
同　建長寺派	霄貫道
黄檗宗	多々良觀輪
眞宗本願寺派	大谷光尊
同　大谷派	大谷光瑩
同　高田派	常盤井堯熙
同　木部派	木邊淳慈
同　興正寺派	華園澤稱
同　佛光寺派	澁谷微妙定院
同　出雲路派	藤善聽
同　山元派	藤原善住
同　誠照寺派	二條秀源
同　三門徒派	（不詳）
日蓮宗一致派	（缺員）
同　妙滿寺派	錦織日航
同　八品派	中田日修
同　東福寺派	濟門敬冲
同　大德寺派	河野伽山
同　圓覺寺派	今北洪川
同　永源寺派	澤村禪機
曹洞宗	畔上梅仙
同　本清寺派	清本日教
同　不受不施派	釋日正
同　不受不施講門派	（缺員）
時宗	河野覺圓
融通念佛宗	秦教忍

（時事新報ニヨル）

○非人　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　織腕史

昔は、毛髮蓬に亂れ面色垢に染り臭氣紛々たる汚穢の寡婦を見てすら、非人と呼びて斥けたり、破れ衣に肌膚を藏し、襤褸の中に辛ふじて、嚴寒を凌くものをも、非人と呼びて斥けたり、薄命不遇、氣骨萎靡とせる男女は、槪ね、非人に近きものとして賤しみけり、今は然らず、所謂非人といふもの一人もあることなし、彼の人血を絞り、婦德を掠めて、營業とせる醜廓の樓主も、無邪氣可憐の處女を拐して、無操の里に棄てんとする、無情漢も、叉、唯己の飢渴を防がんが爲めに、最愛の子女を、淵に沈めて、靦然たる破倫の頑爺も、貪利の慾に眼くらみて、人道の恒を忘れし美婦人品評會の會主も、敗德のものを煽てゝ、フロックコートを、着せんとする議員も、今の世の有難さに、租稅をさへ收めなば、公民とやらに呼ばれて、非人の稱は免かるゝといふ、嗚呼昔を忍びて、今の世の亂れたるを慨くものもやありときく、理はりぞかし。

ほの〳〵と明石の浦の朝霧に
島かくれゆく舟をしと思ふ

宗教　第貳號（明治廿四年十二月五日）

論　林

天下の宗教は皆普通の性質を有するものあるを論じ併せて基督教特種の美質に及ぶ

フレデリック、エッチ、ヘッヂ

基督教徒が眞理は獨り自己の宗教にのみ存じ他の宗教は皆虛誕なり詐僞なりと傍若無人の語を放ちし時代は過去の夢となりオルソドックス基督教派が眞正の宗教は自己專有の特權なりと誇稱し他を嘲弄罵詈せし時代は經過し去れり近時の比較的宗教學者は報じて曰く世界の宗教は其形狀幾何なるを知らず然れども是れ決して其根底に差違あるにあらず唯其外形異なるのみ凡ての宗教に一貫の眞理ありて存じ凡ての宗教に神聖的基礎ありて存ずと」顧みて古來基督教宣教師諸氏が布教の情態を察するに彼等は己れあるを知りて他あるを知らず基督教あるを知りて異教あるを知らず基督教信者にあらざるものは總て奈落の地獄に沈淪すと假定し之を救ふを以て高尙なる企圖となし己れが教理を布かんとする土地の人情を察せず宗教を知らず漫然として曰く改宗せざるものは地獄に陷ゐり洗禮するものは天國に往くと何ぞ其擧動の無謀にして言辭の大膽なるや人或は云はん此の如きの熱心を有するにあらざれば宣教師たるの職を全す能はずと然れども余は云はんとす其熱心は則ち善し獨り其智見なきを何如んせん眞誠なきを何如んせん獨斷なるを如何んせん此の如きの改宗者は慈愛、希望の正面を知らずして獨り恐怖の裏面に入り頻りに儀式的の懺悔を試むるのみ何ぞ其人物の智慧あるを期せん何ぞ其性質の高尙なるを期せん」讀者聞かずや在昔一人の北夷將（ノースマン）に洗禮せんとす僧之を扶け傍にあり曰く改宗せざるものは皆無窮の天罰を受け永久地獄に沈淪すべしと北夷問ふて曰く余の祖先は福音を聽かずして死せり彼等は皆地獄に陷ゐるべき？僧曰く然りと是に於て北夷急に足を水中より引き、辭して曰

我れ一人天國に往くも將た何をか益せん寧ろ祖先と共に永く天罰を受けんのみと噫此宣教師にして少しく思ふ所あらしめば彼が金科玉條となす所の凡ての信仰ヶ條に於てよりも將た又彼が聖瞻神視する所の凡ての禮式に於てよりも北夷數言の中に基督教の眞理溢れ救世の教訓充實するを知るを得ん

勿論宣教師たるものは自宗の優等なるを信ぜざるべからず此信任なかりせば宣教師たるの資格なく若しくは又之を弘布するの計畫をなす能はざるべし然ども此確認は未だ必ずしも悉く他宗を排撃せよ其中には一も取るべきの眞理なし彼等は全く虛誕なり僞惡なり悉く拋棄すべしとの云にあらざるなり眞正善良の宣教師たるものは純粹の目的と熱心とを有し併せて土地の情況を察し其人民の心性は何如？彼等が考察の方法は何如？彼等が思想は何如？信仰は如何？と一々之れが解答を得之に依りて新に福音說明の法を學び之に因りて教理弘布の方針を定むべきなり此の如きの宣教師は機に應じ時に觸れて異教國の信仰と思想とを基督教國に傳播し基督教國は之を得て布教の方法を講じ其益する所鮮少ならざるなり」ドクトル、レッゲ氏は二十一年の實驗談として云へらく支那に福音を傳へんと欲する者は須らく先づ支那の諸經を講究し之れが道德、社會、政治の勢力となる所以を了得し而して後徐に布教の途に上るべしと

宣教師たるの資格豈獨り之れのみならん彼等は宜しく布教地人民の信仰を尊敬し其中に價値あるものあらば眞正なるものあらば直に之を承認するに躊躇せざるべしマックス、ミュルレル氏云く尤も不完全にして尤も卑汚なる宗教と雖ども必ず神聖となすべきものありて存ず、必ず上帝を敬慕するの痕跡ありて存ず、吾人にしてパピュア人が偶像の前に沈默躊躇するを見るも將た又ファーヅシー人が高く「噫余の神！全世界の高さも深さも其中眞。汝にあり余は汝の何如なるものなるかを知らず然れども汝は汝にあらざれば能はざる所のものなり」と呼ぶを聽くも余輩の心中自ら神聖の靈氣を感ずべしと噫宣教師たるもの安んぞ妄に譏謗罵詈の言

をのみ放つを得んや

凡ての宗教は皆神聖の性質を有するものなり設令ひ其材料となり、教理、禮式となる所のものは憫れむべき浮俗、不精神、怪物的なるありと雖ども熱情の發する處は其本根、上天にあらざるはなし、机前に供する所のものは迷信なり、猛惡苦痛なり、自傷入牲なり、然れども如何なる神机も天上の火花、無窮なる上帝の光線其上に降るにあらざれば決して燃燒するものにあらず、其使用或は虚僞なるあらん或は嫌忌すべきあらん然ども其企圖は眞實なり其目的は神聖なり見よ天下幾多の宗教其名目は異なるべく其用ゐる所の法方も亦た異なるべく其表はす所の形躰も亦た異なるべし然れども其企圖と目的とを問はば何れの宗教か崇拜を表せざらん潔身を企てざらん贖罪を目的とせざらん

各宗教を通して普通なるものは上帝の信仰にあり而して此基本的信仰を表はす所の信條は千態萬狀、此信仰を形成し之れによりて成立する所の組織も亦た千變萬化、一族は曰く一神、他族は曰く多神、一教會は曰く三位一躰、他教會は曰く唯一と其言ふ所各異なり然れども其中心となり核實となる所のものは同一にして皆是れ超人類、絕對權力の信仰にあらざるはなきなり

外形上此宇宙的性質の取り除けとなるべき一宗教あり其信者は現今、地球上に於て最大の人數を有し此れが各宗各派を總括して四億以上となるべし此を何とかなす佛教是なり然れども其取り除けも亦た一部に止まり實際は神の屬性による者多しとす夫れ佛教は宇宙の造物者、支配者てふ意味に於て將た叉原始の權力、世界以上の勢力てふ意味に於て上帝を有せざるなり佛徒は曰く宇宙は其自身に權力なり其自身に自立無窮の者なりと此れ其理論なり然れども其信者は實際、此教の開山にして然も王子の尊位を捨て身を貧苦に委ね信心と堪忍とによりて塵界を脫し神聖の地位に達したる猊曇其人を崇拜し彼を以て神となし彼を以て理想的人類となし無限の高大と價値とを彼に與ふるの權力崇拜者に外ならざるなり

此形に於て若しくは彼の形に於て此名に於て若しくは

彼の名に於て此變態に於て若しくは彼の變態に於て各種の宗教皆上帝の基本的思想を有し信仰すべき束縛すべき景慕すべき崇拜すべき超人的、神聖的のものを備へざるはなし假令ひ其備ふる所のものは形躰なき木片なりと雖此木片能く超人的、神聖的性質を表し蠻人をして祈禱の中に身を屈め禮拜に餘念なからしむ而して此初歩の思想に於ては天下の宗教皆然らざるはなきなり

凡ての宗教に普通にして凡ての宗教の基本たるものは義務の觀念道德の感情是なり野蠻の宗教も開化の宗教も、他事は之を教へしも教へざりしも、宗教たるものは必ず其信者に向つて「汝ち斯くなすべし」「汝ち斯くなすべからず」と之を命じ之を禁ぜざるはなし、其命ずる所其禁ずる所、總て同一なるにあらず否、彼等は無窮の變狀を呈し善惡の區別より道德法の適用に至る迄各宗教大に其趣を異にせり然れども律法てふ思想に至りては善惡てふ感情に至りては要求と禁制とに至りては天下の宗教皆同一ならざるはなきなり夫れ義務の感情は人性自然のものにして身自ら善とは如何なるものなるかを知らざるに既に上天より命令を獲取し其意味を感得し律法的義務は上天の獨裁的命令によりて來るものなるを承認せり換言せば人は善以上に權力を置き此權力を以て善の源泉となし尺度となし「善は善なり命令なるが故に」との思想を懷き「此律法は命ぜられたり善なるが故に」との論理を用ひざるなり此れ宗教の道德教育者たる所以にして其確實なる教示と外界の勢力(神の力)とを理解せざるの前に於て道德の感情を訓練し人類をして律法を承認し此れが道理を了得し自己の合點によりて善を選み惡を避けしむるに至れり宗教の道德に於ける功德亦た大なる哉

此他尙ほ天下の各宗教を一貫する處のもの一あり之を何とかなす未來の約束なり贖罪の希望なり俗界の困難と試驗と厭ふべき競爭との脫出なり浮生の苦痛と不滿足との救助なり換言せば天國是なり各宗教の畵きて以て天國となす所のものは信者の習慣と學問とによりて各異なるべし然れども皆之を以て苦痛なき休息の有様

となさゞるはなし余は玆に天國なる語を用ゐて生命不朽なる言を用ゐざりしは蓋し生命不朽は後世に發達したる性理的（メタフヰジカル）抽象の結果にして普及的希望の本元素にあらざればなり而して余輩の既に參照したる佛教に於ては西人の意味する如き生命不朽、否、生命なる語は之を適用するを得ざるべし佛教は他の宗教と異に永久の休息を以て知覺あり思想あり意志ありとなすものにあらず其所謂の天國は働作なき目的なき意志なきの休息にして所謂涅槃なり此に付きては批評家大に心膽を練り之を以て全く成存の形となすべきか將た之を以て個人的生命の休止となすべきか未だ決せざる所なり然れども佛教家をして其信ずる所に從ひ成存は成存として悪むべきものなり涅槃は願望の目的なり懇請の標的なり最上の希望なりと信ぜしめよ此意味に於て佛教も亦た他の宗教の如く其信條に於て天國を有するものなり

上帝、義務、天國、崇拜、從順、希望、此等は各宗教を組織する所の成分にして各宗教共に此最要點に於て符合せざるはなし而して其、斯の如きは以て總ての種族、總ての國民、其才量若しくは文化の程度を異にするも皆普通の心性を有するものなりとの嚴然たる證跡にして余が凡ての宗教に必ず救助的神聖的のものありと云ふ所以のものも亦た是にあるなり

以上余輩は世界各宗教の普通的性質を論ぜり今や一歩を進めて基督教は此等の基本的性質に加ふるに如何なる特性と如何なる容貌とを以てし之をして他の宗教と區別し他の宗教の上に位せしむるかを論ぜんとす

基督教辯護者は曰く基督教の他の宗教に優る所以は其道德の法、井然たるにあり基督教の善良なる所以は其實際上の生活にありと然れども余は大に之を疑ふ者なり若し此説を確立せんとならば天下の各宗教を精査し其德教を取りて之を基督の德教に比し後者の大に前者に優る所以を説明せざるべからず否一歩を進めて基督教信者は比較的に品行方正なり道德善良なりとの確證を擧げざるべからず何となれば設令ひ基督をして孔子よりも瞿曇よりも若しくは又ゾロアスターよりも道德の標準、高尚なりとなすも基督教會にして其人民を敎

化し比較的に善良の人民を生出する能はずんば決して益する所なければなり思ふに標準を此の如きに取りて以て基督教の優等なる所以を説明せんとする蓋し能はざるべし何となれば基督教國民の大に他國民に優る所のものは重に競爭と氣候との結果たる智力上の進歩にして宗教の生產たる道德に至りては未だ必しも世界の最上層に居る能はざればなり

余が基督教を他の宗教と區別し他の宗教の上に居く所以のものは其倫理にあらずして其教義にあるなり其遠大合一の意見にあるなり其高濶なる人類的範圍と企圖とにあるなり

基督教の特性は其創立者との有機的關係にあり而して其親密なる關係は基督教なる名に徵して之を知るを得べし他の歷史的宗教を見るに外人は之に付する創立者の名を以てすと雖とも自己の領分に於ては皆別名を有せり獨り基督教に至りては外人もシカ云ひ弟子もシカ稱せり此れ基督教國人一般に創立者と宗教とを親密に結び付け教師と眞理とを一躰となし基督は彼れ自身に其教へたる宗教なりとの知覺を有するによるなり此主義や基督教會に植へ付けられ此權力や基督教に宿り以て基督教會の生命を組織せり故に如何なる化學的分解を用ゐるも之を殺すにあらざれば決して二者を分離せしむるを得ざるなり今假りに基督の人品（パーソナリティ）を除去しピタゴラス若しくはプレトーの如き賢者の名によりて其教訓を垂れ之を保持し之を實行せんが爲め新に弟子を組織すると假定せよ是れ其教義に於ては基督教なり然ども人品なきの基督教なり之を呼びて眞誠の基督教と云を得べき？豈夫れ然らん此れ名目の基督教のみ是れ精神なきの木偶人のみ眞正の基督教なるものは基督の教理に加ふるに基督の人品を以てせしものなり而して此人品こそは人間社會を奬導する所の神力にして今日に至る迄世界に存じ世界を動かす所の勢力なり然れども余は決して基督一人のみ人品ありと云にあらず世界の大人君子皆人品あらざるはなし唯余が基督を他の聖賢と區別し教師、預言者、新教創立者と辨別する所以の者は彼が神子的の人品にあるなり噫神子的の人品！此性

質は基督の專有する所にして彼れが世界宗敎者の頂點に立つ所以なり

耶蘇は神子の代表者なり余が特に代表者と云所以のものは基督のみ神子なるにあらずして幾多の賢人君子も亦た神子たるを得べく之を基督にのみ限り之を基督によりて盡せりとの意にあらざるを表せんが爲めなり保羅云はずや「凡そ神の靈に導かゝるものは是すなはち神の子なり」と彼得も亦た云く「此は爾曹をして此約束に由て世にある所の慾の敗壞を脱れ神の性質を有しめん爲なり」と實に眞正の人類的性質を備ふる者は上帝の子なり此れ耶蘇が代表せし眞理にして彼れが最高の行爲を以て表示せし所のものなり余豈基督のみ生れながらに血統によりて神子たるの資格を得、之を專有するものなりと云はんや

然らば則ち余輩は茲に基督敎に特別なる容貌あるを發見せり何ぞや基督敎は神子的の性質を表白し從つて上帝の天父たるとを認識するものなると是なり

福音書に稱する所の「上帝の天父」てふ觀念は他宗敎になき所にして基督敎に特別なるものなり他の宗敎にも上帝を稱して天父と云はこれあらん然れとも余の解する所によれば彼等は唯天父的の注意と配慮とを意味するものにして精髓的の同一を表するものにあらず上帝は人類と密接の親和あるを顯はすものにあらず基督謂はずや「我と父とは一なり」約翰も亦た曰「此はみな一にならん爲なり父よ爾われに在われ亦なんぢに在かくの如く彼等も我儕にをりて一にならん」と以て基督敎の天父は他敎の天父と大に異なる所あるを知るべし若し基督敎の經文にして獨り此親和を共信者にのみ制限する如き形跡ありとなさば是れ唯知覺的の制限にして內心的のものなり自然的のものにあらざるなり基督敎は上帝と人類との親和を確認するものなり眞正の合一を承諾するものにして人中に神性あり神中に人性ありとなすものなり是れ他宗敎になき所の神聖的人類にして一方に於ては一神信者なるヂュウス敎マホメット敎と區別し他方に於ては希臘風の多神敎と辨別する所のものなり」ヂュウス敎の上帝は嚴然として高く上天に

住し全く人類と隔離したる個獨（インディヴヰデュアル）なり彼が人類との交通は天使の主宰によるにあらざれば預言者によりて長老に談話するの二途あるのみ、之に反して希臘伊太利亞の神學（印度、埃及も亦同じ）は自然を神とし人類を神とし無數の獨個的神類を生出し、中眞消失して統一する所なく加ふるに謂ふべからざるの不道德ありて上帝の神聖を汚せり此兩間に立ちて之を和合せしめ之を修正する處のものを基督教となす故に基督教は一方に於てはセミチック一神教の精一を取り其嚴格と孤立とを廢し他方に於ては人類的多神教の高潤、包容を保守し其溶化腐敗を防禦せり基督教の上帝は一なり然れども獨個なるにあらざるなり分隔したるにあらざるなり制限せられたるにあらざるなり基督教の上帝は全一（ユニティ）なり然れども一ケの一（ワン）にあらざるなり、ヘブリュウの神エホバの如く退隱、孤居するものにあらざるなり然れども空間の各處に存ずるものなり、基督教の上帝は私欲的孤立のものにもあらず、又無差別の一元にもあらず基督教の上帝は凡神教に謂ふ所の人品なき勢力的本質的上帝にもあらず又固着、保守的のものにもあらず我基督教の上帝は混々として流出する所の人品的上帝なりとす

茲に余輩は又た基督教に他の容貌あるを發見せり此流出する處の人品は即ち聖靈にして此信仰は基督教國固有のものなり然れども余は決して基督教國外に聖靈信仰の形跡なしと云ふにあらず又た余は決してセチカ氏が「吾人の內心に聖靈ありて其善惡、正邪を觀察し吾人が聖靈に對する如く聖靈は吾人を遇するの監察者なり」と云ひしを忘れたるにあらず然れどもセチカ氏の聖靈は個人的聖靈にして天賦の良才たるに過ぎず實に上帝てふ觀念を造るの必要なる元素として神學の基本的ヶ條として聖靈を說きしは基督教特種の性質なり他の宗教に見る能はざる空前絕後の妙教なり、活潑、精强の眞理なり、新約全書の記者は之に付するに定義を以てせず又之を說くに獨斷を以てせず單に之を以て神の顯はれ（アラ）及び神の形（カタチ）の一となし改宗者をして之を信じ以て洗禮を受けしめたり然るに哀ゐ哉後世の神學者妄り

に之を論じ之を争ひ聖靈をして殆んど教會を去り其徳と權力とをして全く一個の形式中に消失せしめり余輩は中古神學者の顰に倣ひ聖靈は單に天父より來るか將た天父と神子とより來るか等を論ずるを要せず唯聖靈の無窮に流出する所以を知らば則ち足れり聖靈に就きて考慮せよ聖靈の中に住居せよ深く聖靈の意義を熟思せよ聖靈は現躰(エンチチー)にあらざるなり固定の分量にあらざるなり然り聖靈は一の進行なり常住新鮮なる進行なり流出する所の人品なり前方に運動する所の上帝なり噫何の宗教か能く此の如く深く探究し此の如く遠く到達し此の如く全般を包括するを得る人一たび聖靈を分取し聖靈に感得せられ聖靈に所有せられ聖靈に新鮮にせらるゝあれば彼は上帝と合一なり天父の神子なり噫聖靈なる哉基督教の聖靈亦偉なる哉

天父！神子！聖靈！余輩は將に絶叫して云はんとす此三者は基督教の特性なり基督教の生命なりと然れども人或は云はん此れ「ユニテリアン」教の廢棄する所にあらずや「ユニテリアン」教の異教者として拒絶せらるゝ所以は是に存ずるにあらずや汝にして天父、神子、聖靈を信ぜば何ぞ速に三位一躰説に歸りて「ユニテリアン」教の誤謬を正さゞると然れども余大に説あり余は今、基督教の特性を論じつゝあるなり而して三位一躰の説は印度婆羅門教の造物者、保持者、破壞者なる三躰説に類し大に誤謬に陷ゐり易し此れ余が此語を用ゐざる所以なり然のみならず此語は神學に數字の元素を輸入し上帝を論ずるに性理を用ゐずして數字を用ゐるものなり而して其結果たる如何に之を辯護するも三神論に陷ゐらざるを得ず余輩は新約全書中に三位一躰の語あるを見ず余輩は紀元一百年に至る迄の基督教記者に此語を用ゐしものあるを聞かず此語あるは實に第二世紀の終りに於てターチュリアンがブラキシアスと論じ大に窮迫せしの時にあり此れよりして爭論、教會に起り神學者は心を傷め神を苦しめ延ゐて今日に至れり余が天父、神子、聖靈を信ずるにも關はらず三位一躰説に同する能はざる所以のもの豈他あらんや三位一躰の説は基督教の本義に背き本性を脱するのみ

ならず又た不適當の論なり何となれば三位を以て宇宙の本質否上帝の人品を記述し盡せりと云ふと雖ども上帝の總現を表彰する自然界は抑も之を何の地に置かんとする？獨り上帝、神子、聖靈の三者をのみ論じて自然界を説かざるは是れ自然界を抛棄して無神となすにあらざれば獨立の上帝となすに外ならざるなり反對論者少しく省慮する所あれ

「ユニテリアン」改革は三位一躰の神學、混亂錯雜して多神敎に傾くの趣きあるを以て之を防衛せんが爲めの必要なる運動なり然ども若し「ユニテリアン」敎にして天父、神子、聖靈の敎理を棄却し不用のものとして顧みざる如きあらば余は直に「ユニテリアン」の名目を脱し「ユニテリアン」との連絡を絶ち「ユニテリアン」敎會の名簿より脱籍すべし何となれば基督敎の精髓は此三者にあればなり否、苟も神てふ眞正、有價の觀念を得んには天父なくして能はざるなり神子なくして能はざるなり聖靈なくして能はざるなり是れ豈解し難きの思辯ならんや抑も亦た基督敎實驗の活元素なり

福音書の敎訓中、基督敎に特有なるもの少なからず特に保羅の恩寵の敎理の如きは其著しき者なりと雖未だ前段に説明したる三者の如く明晰にして他の宗敎と區畫し易き者あらざるなり我基督敎の最上特性なる天父！神子！聖靈！此三者の信仰に於ては基督敎の二大別なる東西の敎會共に同意を表する所なりプロテスタント諸敎會の一致する所なり然るに彼三位一躰説は何者ぞ妄りに來りて我普通的宇宙的特種的の敎理を攪亂、分離せしむる、余輩が心膽を盡して改革を企つる豈徒然ならんや

以上述べたる如く世界の各宗敎は皆普通の性質を有するものなり而して基督敎は此普及的性質に加ふるに上帝、神子、聖靈の敎理を以てしたるものなり此敎理や福音書と他宗敎との間に畫然たる區別を施す所のものなりと雖決して制限的の者にあらざるなり唯、各宗敎の普及的基礎を廣大にせしのみ宗敎思想の範圍を擴張せしのみ自由宗敎の精髓を表せしのみ何となれば自由宗敎とは決して敎會的の無關係を云にもあらず若くは又

混合錯雜したる異類の信條をして協同せしむるの云にもあらず若くは又大胆無謀に他を拒絶するの云にもあらずして唯意見の境界を遠大にするに過ぎざればなり」

全躰より之を評せば基督教信者にして他教信者より一層善良なるものもあるべく然らざるものもあるべし然とも正しく福音書の範圍と目的とを理會するの人は必ず其高さに於ても深さに於ても廣さに於ても遙かに他の宗教に卓絶する所あるを發見すべし彼得曰「我まことに神は偏らざる者にして何の國民にても神を敬ひ義を行ふ者は其聖旨に適ふと云ことを悟る」と余輩之れに加へて云はんとす恩寵と眞理とは耶蘇基督によりて來れりと

宗教の新革命

ヒーバー、ニユウトン

博士ニユウトン氏は亞米利加監督教會の僧にして深く心を當今の進歩的思想に傾け遠く古代に出でたる教會の信文をして近世の科學的眞理に符合せしめんとを勉めり余輩は今茲に氏の筆に成れる論文を譯載し氏が意見の要概を知らしめんとす而して氏の進歩的書籍は該教會の保守論者に嫌忌せらるゝ少なからずと雖とも又た以て宗教思想の漸次自由の方針に進歩しつゝある一般を徵證するに足らん

余輩は新改革とは如何ん？舊宗教の破壞なる？曰く否、新宗教の生出なる？曰く否、是れ唯舊神學の改造せられて新神學の再建せらるゝに過ぎざるなり換言せば第十六世紀に於ける宗教改革の再演なり夫れ十六世紀の變改は怯懦なる敵者も熱心なる朋友も見て以て歷史的耶蘇教と全く兩立し能はざるものとなせしに其成果は一時溶解したる信仰の舊元素を再び結晶せしめ一層高貴清明のものとなすに至れり

今日の變革は十六世紀の改革よりも一層偉大なり、然れとも此れ決して舊宗教を撲滅して新宗教を生出する

にあらず其期する所の成果は唯舊時のものをして一層純清潔白ならしめ一層合理的道德的の者たらしむるに過ぎざるべし

從來余輩の神學は科學と其説を異にし余輩の科學は神學と其論を別にし互に相疾視せしも今や余輩は科學的神學と宗敎的科學とをして互に相和合せしむるの時期に達せんとす見るべし舊新學は漸次其皮膚を脫し自然的神學となりて生長しつゝあるを古來余輩は經典を以て精密なる科學となし不可知的權力的最終的の神學となせしも今は然らず其科學は不精密にして人智の不完全より生じたるものなるを知り上帝の觀念に關する思想にも幾多の誤謬あり制限あるを發見せり是れ實に神學其自身の得たる自由なりとす

余輩は今、上天の人を導く所以を論ぜん然れども此點に於て各人の取る所其説同じからず二個の思想は大路となりて敎會の門前に横はり吾人をして其一を選ましめ二種の神學は吾人を迎へ其の一を擇みて信仰を形成せしむ

一種の神學者は曰く世界は六千年前僅に六日＝然も一日は二十四時間なり＝の小日子を以て創造せられたりと

他の神學者は曰く創造の問題は經文の關する所にあらず科學は宗敎の門外にあるものなりと學理に從ひ進化論を採り世界も人類も其の源泉遠く數億萬の古代にあるを信じ世界及び種族の進化論を以て毫も上帝と人類の聖靈的本質との信仰上に妨害を與ふるものとなさゞるは尙ほ古代の神學者が個人は皆動物の小微分子と殆んど辨別し難き萌芽より發達すと聞きしも嘗て之を意とせざりしが如し

一種の神學者は曰く吾人の祖先はエデンの花園に於て罪惡を犯せりされば人は性來罪惡深きものなりと

他の神學者は曰く性來の罪惡とは遺傳の法則にして原人時代の野獸的食慾及び色慾の今人に傳來せしものなりと

一種の神學者は曰く未來に二個の世界あり一は完全無垢の世界にして一は望みなく恐るべき苦難の世界あり

而して人たるもの一たび死せば必ず其一に永住せざるべからずと

他の神學者は曰く未來は現世の翌日なりされば地上の生活に幾多の異狀あるが如く來世にも亦た之れより結果する幾多の異狀なかるべからず上帝の慈悲は永遠なり上帝の愛は無窮なり豈現世と來世に特種の區別あるを許さんや

一種の神學者は上帝の選擇を信じ因りて以て上帝の眞性を損じ人の論理を完ふせんとす

他の神學者は攝理的淘汰の法則を敎ゆらく設令ひ小數の人選出せられて衆多の爲めに上天の委托を受くるも是れ決して天廷に特種の寵遇を受くるの愛子なるにあらず唯、上天之に命して現世の慈子の爲めに救濟の職分を盡さしむるのみと

一種の神學者は犧牲の信條を主張し耶蘇基督は上帝の怒を慰めんが爲め自ら進んで其身を犧牲に供せり彼の死は全く神エホバに請ふて人類の罪を贖はんが爲めなりしと

他の神學者は曰く犧牲は自然の法則にして萬物皆然らざるはなく實に上帝の眞心を表明するものなり此犧牲あるが爲めに個人も階級も種族も漸次に神聖なる生活をなすに至れり見よ愛の爲めに金錢、時、生命を犧牲に供するの人を而して耶蘇基督は唯此愛の完全なる表明に過ぎざるなりと

一種の神學者は曰く上帝は宇宙の外にありて六千年前に宇宙の機械を製し今尙ほ時に來りて之に關涉し時に其法則を廢し彼れの使者が其使命を完ふせしや否を驗すと

他の神學者は曰く上帝は即ち聖靈にして宇宙の內部に住し宇宙に勢力を與へ宇宙に法則を與へ其形躰は不充分ながら自然の中に表彰せられ其本質は人類之れが影像となり所謂「天にまします我々の父」なる語句の虛妄ならざるを證せりと

一種の神學は基督を以て上帝の表現となし歷史のある時限に、ある空間より降生して人類の形躰を裝ひ人をして彼は神なり人なり否、彼は眞神にもあらず又た眞

人にもあらずと論ぜしめたりと

他の神學は教會の古代哲學に還り聖靈は宇宙の中に住し自然の中に形躰を顯はし精神となりて人の躰内に宿るものなるを說き基督は人類より生れたるものなるも唯彼が他と異なる所以のものは彼の中に聖靈の充滿するによる實に彼は宇宙眞躰の聖表なり人之によりて身を脩めは以て上帝の子となり聖靈の一部を分受するを得べきなりと

一種の神學は三位一躰の教を主張し此れが歷史の本源を忘れ此れが哲學の意味を失ひ智者には望みなき困迷を與へ信仰には恐るべき威迫を與へ信者の十中八九をして三位說は即ち三神說の假裝せしものなりと思はしむるに至れり

他の神學は三位一躰の說、其本、異教にあるを說き其哲理は之を耶蘇教によりて明にすらく古代に於ては人常に不可思議の眼光を以て總ての上に、總てを通して、總て人類の中に存ずる上帝の實躰を三重に視察するの習慣ありき而して三位一躰の說は實に之に出でたりと實に上帝は超絕不可知的にして實躰の泉源なり上帝は萬物創造の無窮なる道理なり上帝は良心によりて表現せられたる道德力にして人の教育を進捗せしむる所のものなりと

以上論ずる如く神學の說漸次に其改新を完ふし中等以上の智力を有する基督教信者をして自然神教より信神教に移らしめたらんには新革命玆に勝利を得今日世上に實驗する懷疑の念をして理學と信仰との結合より生じたる道理的尊崇的宗教の中に消失せしむるを得べし然れども此れ决して新宗教にあらざるなり舊來の耶蘇教を進步せしめたる一箇の新耶蘇教に過ぎざるなり余輩は斯の如く論じ此の如く新改革に勢力を與へたり余輩の子孫は應に悦んで此道理的爽快的事業を繼ぎ功成りて平和の生活を取るなるべきなり

日本に於ける宗教家の用心

文學士　澤柳政太郎

時の古今に論なく何れの時代にも宗教あらさるなく、洋の東西に關せす往く處として宗教あらさるはなし、

宗教の行はるゝは普遍なり、唯其宗とする所、教ゆる所に於て各異なるものあるのみ、されは宗教は人間固有の性に由るものなりと云ふも敢て不可なるなきか如し、然りと雖も一盛一衰は事物の免れさる所、宗教も亦時に盛衰なき能はず、國民により其情に深淺なき能はず、特に我國民の如きは宗教の心に淡泊なりとの世評を受けり、これ啻に二三論者の私見のみにあらす、事實に於て然るか如し、蓋し我國民の性として宗教の情に淺きにあらす、宗教に代はるものありて存せしに依るならんか、要するに少しく學問あり稍〻事理を解するものにして宗教に熱心なりしものは甚はた多しとせず、近來に至り宗教の事、漸く士君子の注意する所となり、或は基督教を信仰するものあり、或は佛教に歸依するものあり、又世の青年も頻りに宗教の講究をなし大に面目を新にせるか如し、然りと雖も公平に觀察を下せば、我中等社會の大半は尙ほ頗る宗教の心に淡泊なりと云はさるべからず、近來の勢に依り之を推究するに人は依る所なかるへからすとの感想は我中等社會大部の情態なるも、何れの教、何れの派に歸依せんかと迷惑彷徨して決着せさるの有樣なるが如し、然れとも未た之を以て宗教の情、深きものと云ふべからざるなり、信仰既に堅固なりと云ふへからさるなり、

我國の現狀果して此の如しとなさば宗教家の此時に處するの方法如何、自ら眞正の宗教なりと信し之を將て萬衆を化せんと欲するものゝ用心如何、思ふに歐米諸邦に於ける布教の方法と大に其趣を異にせざるを得ざるは理の明なるものなり、國民皆何れかの宗教を信し、甲の教に從はされば乙の教を守るものならしめんか、此時に當り甲の教を信するものを化して乙の教を信せしめんと欲せは、必すや先づ甲教の信するに足らざるを明にせざるへからす、是れ布教の順序に於て自ら然らさるを得さるものとす、例へは佛教徒にして歐米に至り基督教信者を化して佛教信者たらしめんとせは、先づ基督教の信するに足らさるを證し其邪を破せさるへからず、若し事此に出てす、徒に佛教の眞正なるを說き、その高尙なるを辯することあらんか、毫も布教

の目的を達する能はさるのみならす、人の注意すら喚起すること能はさるべし、宗教の情に淡泊なる國民に向て一の宗教を宣布せんとするものは、其既に旺盛なる國に於けると同様の方法を以てすへからす、然らは我國に布教せんとするものは先つ其教の信すへきを說くべし、其眞正なることを明にすべし、例へは今一の宗教を輸入せんとせは人には必す宗教なかるべからざる所以を說くべし、其宗教の信仰すへきを教ゆべし、若し徒らに在來の佛教を攻撃し其妄誕を擧くるか如きは、策の得たるものにあらさるのみならず、會ま以て宗教の心を冷淡にするに足るのみ、實に我國民中に於て中等社會の大部は未た宗教の人生に必要なるを知らさるものなり、之をして宗教に歸依せしめんとせは、先つ如何なる宗教を論せず宗教の人生に欠くへからさるを知らしむべし、然るに從來基督教宣布の方法を見るに、專ら佛教を攻撃し以て得たりとなすもの丶如し、又佛教徒も基督教を駁難して布教の善巧方便なりと考ふるが如し、共に策の誤れるものと云ざるを得す、如何となれば此の如きは人をして却て宗教の情に薄からしむるのみなれはなり、故に余は日本に於ける各宗教家に告げて、互に駁撃非難することをなさず、日本人をして宗教の極めて緊要なるを知らしむるを以て其共同の事業となすべし、己れの宗教の義理を說くは可なり、他教の宗旨を攻撃すべからず、是れ布教の方を得たるものなり、是れ又各自所奉の宗教に忠なるものなり、と云はんとす、余は自ら信す、此言の各宗教家に取りて甚だ親切なることを、殊に「ユニテリアン」の新に旗幟を樹て我が同民を感化せんとするに當り此の用心あらんことを切望するものなり

左の一篇は去る十月三十一日普及福音教會第四年祭に於てクレイ、マッコーレー氏が祝文として朗讀せられたる英文の和譯なり

今日は此普及福音教會組織第四年目の祭日なりとて御招待を辱ふし誠に欣喜に存じます私しは遠く大平洋の

彼岸に其本根を有する一敎會より參りたる客人にして其名目も全く此敎會とは違ひます併し其土地は數千里隔たるも名目は異なるも此れ外部の事にして決して眞正に余輩と諸君とを隔離せしむる所のものではありませぬ私は諸君を以て同一の信仰を有するの兄弟なりと喜びます共に同一の高尙なる目的に向つて働く所の同胞なりと祝します

偖特に私と諸君とを結合せしむる者は何でありませう？是は外でもない上帝は唯一にして吾人の天父なりとの信仰であります此信仰より生ずる所の高遠、正義、慈愛の生活を吾人に獲得せんとの希望であります否進んで此等の主義を日本國土に擴張せんとの願望でありますす私共は諸君と共にナザレスの基督が其説敎に於て若しくは又た其行爲に於て吾人に授けたる如く上帝の天父なるとを信ずるものであります人類の同胞なるとを信ずるものであります此等の高尙なる結合は吾人を此盛會に於て一堂に集めたる所以であります

私共の高尙なる結合は此の如く甚だ單純であります然ども此單純なる結合を以て世界を見られ！世界其者に無限の意味を發生します！吾人に無量の重荷を負はせます！吾人に無限の感應、希望を與へます！

諸君よ上に述べたる信仰一たび生ぜば永く人類の宗敎的知覺を困倒せしめたる迷信、恐怖、疑惑、失望の浮雲を除去し人生に燦爛たる光輝を與へます、此信仰一たび生ぜば人は永遠の生命より出でたるものにして生命は其自身に甚だ好みすべく決して嫌惡すべきものにあらざるの確信を與へます、此信仰一たび生ぜば各人の希望と目的とは漸次高尙神聖なる生活を得るにありて決してある敎派に於て説くが如く涅槃的の不知覺に陷ゐり生存の外に消滅するを敎ゆるものとは全く異なるとが解ります、此信仰一たび生ぜば人類の正道は其源泉と權力とを遠く上帝に有するものにして決して二三の賢人哲學者が慧眼を以て道德の權力を唯社會の平和と秩序とに歸するものと全く其趣きを異にするとが解ります、此信仰一たび生ぜば人をして自ら無窮の知覺的精靈なるを知らしめ併せて上帝の創造的及敎導的

意志によりて自己の喜悦も智識も無窮に生長すべき特權を有するものなるヿが解ります

果して斯の如くならば此單純なる信仰は吾人に義務の如何なる重荷を與へるでありませう？ 此れ吾人をして上帝の愛子たるべき生活をなさしむるものであります吾人をして熱心に天父の意志を知らんヿを勉めしむるものであります而して上帝の意志は何の處に於ても之を發見するヿが出來ます彼の自然界及び其法則は上帝の默示であります吾人の良心に無限の快樂を與ふる預言者の言語は上帝の使者であります、手近く申さば吾人も亦た世界に於ける上帝の使者であります、されば私共は世界の文明を上進せしむべき義務があります人民を無學より救助する責任があります又彼等を罪惡より難澁より救ひ出すの重任があります耶蘇嘗て云へり「我父は今に至る迄働き給ふ我も亦た働くなり」と私共も亦た之に倣ひ畢生の力を盡さずば叶はぬ事です噫基督の信仰は幾何の感應と希望との源泉を與へる！

今日の世界を見られよ從來互に牆壁を築きて相防ぎ干戈を以て敵視する幾多の種族と國民とは智識の生長するに從ひ理學の進むに從ひ自然の勢力を利用し漸次に平和の交際をなし結合するの運に向へるを然れども是れ決して異しむべきにあらず唯上帝の權力其形を變じて表彰せられつゝあるに過ぎざるなり、されば保羅が嘗て「此の如きに至りてはギリシヤ人とユダヤ人あるひは割禮ある者と割禮なき者あるひは夷狄あるひはスクテヤ人あるひは奴隷あるひは自主の別なし夫れキリストは萬物の上に在りまた萬物の中にあり」と云ひたる言の虛ならずして世界の人民皆互に其同胞たるを知るに至るも遠き事ではありますまい私共は此キリストを摸範とし益々此主義の擴張を計らねばならぬ事です若し此信仰一たび世界を支配するの大權力となりたらば此世界の幸福如何計りでありませう世に恐るべき猜忌、嫌惡、戰爭、貧困、罪惡、無情等は凡て過去の夢と去り彼の愛すべき慈愛、平和、善意及び喜悦は靜穩なる月光となりて世界を照すに相違ありませぬ

私は今日諸君と一躰となり結合しております私は望み

ます上帝、諸君の熱心を助け諸君をして唯一なる信仰を實有し併せて此信仰の智識と權力とを日本國民中に傳播するの好機を得せしめられんことを從來此信仰は比較的に微弱でありますが併し小事の日必らずしも賤しむべきにあらず余輩にして忠直着實ならしめば基督の信仰、天下を支配するの時來るに違ひありませぬ人類をして上帝の子たる事を確認せしめ共に神家の兄弟たることを了知せしむるの時期到來するに相違ありませぬ

橫井君の「我信仰の表白」を讀む

三並　良

神學海に波瀾卷き信仰の舟動搖し眠れるが如き主を無情と嘆ち急き醒して救を求めんと冀ふも舟の動搖强激にして足を運はすべからず既にして波濤漸く靜定せしが如くにして尙ほ未た全く靜止せさるものは我基督敎社會の有樣と見ゆ此の時に當り吾人か常に知らんことを希望するものは役者中の先輩諸先生が執らるゝの說にあり然るに希望彌切にして其の持說を吐露せらるゝ益少なきを覺ゆ

此の隱蔽主義の多く行はれ偶其の說の一端を聞き得るも果して其の吐露せらるゝ所は其の持說なりや否やを疑はしむる小乘大乘的論客あるの世の中に潔く自己の信仰を表白し此れを世に公にせられしは橫井君なり吾人は實に君の潔白と其の世上に對する好意とを敬愛せさるべからず而して君の如きは我基督敎社會に於ける元勳にして其の功績今日に於て固より既に大なり且つ從來の信仰の基く所を聞くに曰く基督なる人物を愛するにありと誰れか之を聞て服せさるものあらんや君が基督を愛するの人物は復た社會に對する君の有力なる說敎と云ふべし君曰く「基督敎の信仰はキリストを天與の救世主神の代表者なりとして信じキリストに身を献げて天國擴張の爲めに勞しキリストを親愛して終に其聖貌に同化するに在り」曰く「余をして終に雲霧を排いて靑天を仰き見せしめし者は我主イエス、キリストにてありき我性素と卑弱殆んと事に任し險を冐すの勇氣あるなし然りと雖とも敢て微弱の身を顧みずして日本

傳道の任に當らんとするの意氣を起さしめしもの偏に我主イエス、キリストの恩寵に因れり況してや余をして人生の罪惡と悲哀とを觀て厭世せしめず自己の汚穢と荏弱とを思ふても失望せしめず常に精神の爽快と樂天的の希望とを有せしむるものは唯だ是れ我がキリストを信するが故に由るなり嗚呼キリストの愛より我を絶らせん者は誰ぞや患難なるか或は困苦か迫害か飢餓か裸躰か危險か刀劍なるか我れは天地の間何者も我を主イエス、キリストにある神の愛より絶つと能はさるを信するなり」と誰れか之れに敬服せさるものあらんや謂つ可し君は實に保羅に恥ずと

余焉ぞ君の信仰を是非せんと欲する者ならんや君の信仰は余の景慕する所なり而して君其の信仰の表白の後半に自家の神學説を出せり蓋し自家の神學説は直接に信仰にあらす其の信仰を自ら觀察して之れを客觀的になしたるものなり故に客觀的の眞理をヨヽに探り得べきなり而して余は此の處に於て少しく疑なき能はす君旣に客觀的の眞理を論せんとす余亦た此の處に嘴を容るゝあるも君の信仰に對して不敬を爲すにあらされは敢て不可なかるべし

横井君か神學に關する論を通讀するに余が同意を表し得るもの亦た多し然れども君の主義のある所は甚だ議論上の不可識論即ち懷疑論に偏し又た實際を主重するに偏して寧ろ物質主義或はポヂチウズムとなるやの疑なき能はず而して殊に余が注意を促せしものは其の中の「基督の性」にあり故に余は此の事に就き聊か一言を述べんと欲す

余此節を讀み下すに全躰の意味甚だ曖昧なるものあり横井君は冐頭先づ基督の性は人なりし乎神なりし乎の疑問を出せり然るに余は之れを一讀するも再三讀するも君の答の明白なるを發見する能はず君曰く「余はナザレの耶蘇は罪なき純潔なる大智大能の人なりと信ずるなりと君は果して耶蘇を以て完全の人と信せらるゝ者乎然れども其の大智大能なる語は餘り曖昧にはあらざるか然るに更に一句を出して曰く「余は耶蘇の意識の中には神の子たるの純一なる意識ありしと信ず」と

君此句中に「神の子」なる熟語を出す而してその何の意味あるやを云はず思ふに「神の子」なる語は幾樣にも解せらるゝを得るの語にして「神の子」なる意義は或は形而上的に或は宗教的に解せらるゝを得るものなり然れども推察するに横井君は「余は此の人間たるは特別の人間」と論せらるゝを見且つ神は解すべからさるものなりと云はるゝを見れば君は耶蘇を人となし之れに特別なる性質を與へたるが如し

其れ然り横井君が此の章に於て殊に云はんとを欲せられしものは先づ「耶蘇は神に立てられ世の救主となり人間より信仰と崇拜を受くべきものなり」の數言にあらん而してその理由如何となれば「凡そ神に關するとは知るべからず又た人類の心は神の至愛全智に對して感激親愛の情を發起すると甚だ難きを以てなり」と云ふにあるか如し然れども神は全く知るべからざるものなるや否やは一大疑問なり設令一歩を讓りて知るを得ざるものと横井君に同意するも既に「耶蘇は神に立てられたるものと云はゞ神に付て此の事を知りしにはあらざるか 然らば 横井君は 自家 撞着するものにあらずや

且つ横井君は耶蘇は信仰と崇拜を受くべきものなりと論ず而して其の耶蘇を目して何と云はるゝかを見れば曰く耶蘇は「特別の人間なり」と思ふに此の語たる亦た曖昧を免る能はずと雖も耶蘇は人間の特別なる者なりとの意ならん而して何をか特別と云ふやと云へば耶蘇は「罪なき純潔なる(大智大能)の人」「宇宙萬有なるものは神の發現なるか如くイエス、キリストの心は即ち神の心なりと云ふにあらん然り而して横井君が宇宙萬有は神の發現なり天然世界の美妙は即ち神の形貌(神の形貌とは甚だ解し難きものにして寧ろ歌想に屬するものにもせよ)なりと云へる句と耶蘇基督の心は即ち神の心なりと云ふを對せしむる所より考ふれば耶蘇基督の心は神の心の發現にして則ち神の心が耶蘇基督に發現せしは人なる耶蘇を人の中にて特別ならしめし所以なりと主張せらるゝにあらん然るに更らに他の方邊より觀察するに横井君は耶蘇基督の立てられて信仰崇拜

の目的となりたるは神の深意にありとなす更らに云へば耶蘇は人類の爲め神の深意により信仰崇拜の目的とせられしなり而して爰に尙ほ他の一疑問起らさるを得ず即ち耶蘇自身は何等の價値あるが故に神の深意により立てられて信仰崇拜の目的となり得たるか是れなり而して横井君を以てせば耶蘇に此の價値ありしものは耶蘇の心は即ち神の心、換言せば耶蘇は特別の人間なりしを以てなり然るに尙一の考ふべきとあり即ち他の人間は何故に特別なるを得ざるか思ふに一般人類は罪惡の心を有するを以て其心は神の心たる能はさるものにはあらさるか而して罪惡の心あるものは理想的人間にはあらず人間の理想は罪なき純潔なる人間たるにあり故に若し我理想の如き天性を全ふするの人間あれば是れぞ横井君の所謂特別の人間たるなり思之推之横井君の主義は畢竟天性を全ふしたる純潔の人間は人類の信仰と崇拜との目的となり得るものとするにあり横井君は果して人類崇拜論を主張せらるゝや否や若し否と答へらるゝにせよ君の論の極點は之れに趣かさるを得さるなり

横井君旣に人類崇拜論を主張す君焉ぞ人を神となすに遠きものならんや其の論極は遂に亦た爰に至らん而してこれ余の僻言にあらず君實に此の結論を爲せし者なり君曰く「我常に曰ふイエス、キリストは即ち我神なりと」君何が故に耶蘇基督は「我が神なり」と曰ひ得るやと云ふに即ち耶蘇基督は罪なき純潔なる特別の人間なるが故なり然るに旣に論せしが如く人間の天性を全ふするに於ては人類悉く罪なき純潔なる特別の人間たるべきものにして天性を全ふする純潔の人間は横井君の所論「我が神」なるものなり横井君は神に關しては不可知論即ち懷疑論を執り而して人類崇拜以人爲神論を說く余實に其論旨の怪異なるに驚かざるを得ず驚きの餘り聊か記して君に質す

ユニテリアン教は果してキリスト教なるや

神田佐一郎

舊惟一社發行の「ゆにてりあん」又は弘道會發行の雜誌「宗敎」の內に往々「ユニテリアン敎は歷史上キリスト敎なり」或は「ユニテリアン敎はキリスト敎の進步的發達にして」云々の文字あるを散見す、且つユニテリアン敎徒普通の信仰其二に在てはユニテリアン敎とはキリスト敎根本の主義と異名同體の如く又其五に於て經典とあるは正しくキリスト敎徒の新舊兩約書の如く其の六に至ては判然耶蘇基督を以て其宗家とせるを見る、

抑て「ユニテリアン敎は歷史上キリスト敎なり」とは只た歷史上キリスト敎に起源せしものにして實際キリスト敎に非すとの意味なりや將た歷史上キリスト敎の一派なるか故實際にも敎理にも亦キリスト敎なりとの意味なるや吾人は甚た其解釋に苦むものなり如何となれは若し歷史上のみに於てキリスト敎なりとせは即ち實際上、敎理上キリスト敎に非すして只だユニテリアンと稱する敎法のみ否らされは即ちキリスト敎界の一派一門たるを免かれさるなり、蓋し世間ユニテリアン敎のみを以て天下獨一のキリスト敎なりと許さず又ユニテリアン敎徒も斯く妄信せざるなるべし、然らはユニテリアン敎は歷史上キリスト敎にして其敎理上、實際上に於ても亦キリスト敎なりや、玆に於てユニテリアン敎徒の平常口にする「吾人は一宗一派を起こさんとするに非らす」又は「ユニテリアン敎はキリスト敎界の宗派（セクト）に非す」との言と相齟齬するを如何せん、

ユニテリアン敎は歷史上キリスト敎國に發生せしが故にキリスト敎なりと云ふを得は佛敎は歷史上バラモン敎國に發生せしが故バラモン敎なりキリスト敎は歷史上猶太敎國に發生せしが故猶太敎なりと云ふを得べし然るに今日誰れか佛敎を許してバラモン敎としキリスト敎を目して猶太敎とするものあらん譬とひ何國何宗內に起源するも已に一定の主義を立て敎理を宣言し其主義其敎理は先進の宗敎と相容れざる限りは之れを以て其先進宗敎と異名同躰と云ふを得んや、

翻て今普通キリスト敎とユニテリアン敎と比較するに敎義上實に氷炭相容れさるの點少しとせす甲は三位一

躰說を奉じ乙は純全たる唯一說を主とす甲は耶穌を以て天帝の降臨なりとし乙は尋常一樣の人間とし敢て人間以外に耶穌を放逐せさるなり甲は新舊約全書を以て純正なる神勅なりと崇敬し乙は普通一般の文學と同視す其他敎理上の差異枚擧するに遑あらず然らは歷史上キリスト敎國に發生するも決してキリスト敎たる事能はさるや明かなり故に普通キリスト敎徒はユニテリアン敎徒と共に齒するを好まさるのみならす之れを邪宗外道の門徒として現に十八世紀の季年迄では公然會堂を設け宗敎的團躰を組織する事すら許されす之れか爲めユニテリアン敎徒の先輩は忠死を猛火の中に遂けたるの事跡了々として歐洲の史上に明らかなり然るに今日何の必要ありてユニテリアン敎はキリスト敎なりとし或は歷史上キリスト敎なりと曖昧模糊の裡に說き去るか必らす他に原因の在て然るか、論者或は云はんユニテリアン敎は純粹なるキリスト敎々義に原き敎を立つるものなればキリスト敎たるは勿論なり、と然らは彼の宗派に非すとの一言を如何せん又歷史上基督敎徒(クリスチヤン)の名は如何なる敎徒の上に名けしや是れ亦た一問題なり、キリスト敎初代の頃此の名目は彼の舊敎徒の祖先に名つけたるものにして正統なる基督敎徒(オーソドツクスクリスチヤン)とは舊敎徒に外ならさるなり故に舊敎徒は新敎徒を目して現に反對敎徒(プロテスタント)なりとて正統敎徒たるを許さゞるなり普通耶蘇新敎にして然り況んやユニテリアン敎おや、然れとも當時歐州に在て舊敎の勢ひ强大なりしかば耶蘇敎とは眞正なる宗敎なりと迷信せしか故他の名義を以て敎を立つる事は望むべからざるものにして新敎徒即ち反對敎徒(プロテスタント)も猶ほ耶蘇敎徒なりとの要求をなせし者の如し、勿論舊新兩敎は其敎會組織の上に於て相反する事あるも其緊要なる三位一躰の敎理、耶蘇の神性說に至ては相伯仲するものにして正統耶蘇敎たる事能はさるも猶ほ耶蘇敎の一派として見るも亦可ならんか、

ユニテリアン敎の如きは全く前者と異にして彼の所謂正統敎理に反對するのみならす耶蘇の敎ゆる所を盡く信ぜざるも亦其信徒たるを得、或は耶蘇の未だ嘗て夢にだも見さりし所の近世の科學哲學の眞理を以て敎法

を解釋し彼の人界墮落說に反して進化說を主張するを見れは實際に於てキリスト敎と云ふ可からさるや明瞭なり、然りと雖も歐米各國のユニテリアン敎徒は猶ほ歷史上の形容詞を以てキリスト敎なりと公言せり、恐くは彼れ等も猶ほ歐米諸州に於ける普通迷信の風潮に壓せられ知らす識らすの內に歷史上キリスト敎なりとの假面を蒙むるに至りたるならんか

好し歐米にて如此依心傳心の方便もあらんされとも飜て今日、日本に於けるユニテリアン敎は猶ほ如此方便を用ゆるの必要ありや、余は斷じて之れ無きを知る、歐米にてはキリスト敎假面のユニテリアン敎は人心の傾向に適せりとするも日本に在てキリスト敎の社會一般に及ほせし所の勢力彼れか如くならさるのみならす今日の日本に在ては反て其不利なるを見る、且つユニテリアン敎は余輩の管見を以て觀察する時はキリスト敎の一小派流に非す、三千大千世界を一貫する所の大道にして而かも諸宗諸敎を總括するに足るの普及宗敎なり何ぞ一宗一派の閒に跼蹐するものならんや、ユニテリアン敎即ち唯一の原理は特り敎法のみの眞理にあらず科學の眞理なり、哲學の眞理なり、然らはユニテリアン敎は從來歐米諸國に在て腐敗せしキリスト敎の妖雲に掩われたりし大圓の眞理にして將來我日本に於て晴天白日に會ひ其眞面目を顯わすの時來らん、余は常にユニテリアン敎は果してキリスト敎なりや否やを疑ふ事久し今其持論を吐露し以て大方諸賢の叱正を仰ぐ、

レッシングが聖書に對するの位置

赤司繁太郎

レッシングが生を禀けて始めて世に出でしはこの時に際す、恰も歐州暗黑の時代漸やく退き、今や文華時代に移らんとせり、學問愈々復興し、人智益々開發し、人は擧つて基督敎正統派の生命乏しき信仰箇條に滿足することを能はず、斬新なる生命活潑の信仰を求むるに汲々たり、或は極端に走せて無神論を稱ふるものあり、或は自然宗敎に走するものあり、或は失望して懷疑に

陷るものあり、これ等の諸派を稱して文華派、自然神學派等となす、その他亦ライブニッツの如きあり、ラオルフの如きあり、ウォルテアーの如きあり、ルーソーの如きありて各皆智識の宗教と一致せざる可からざるを稱道せり、然れども他の一方には又嚴正なる正統派論者の無きにあらず、これ等の徒、頑々として動かす、力めて迷信を維持せり、その狀恰も日本現今の宗教界に髣髴たり、斯る紛擾亂雜の時代に當りて獨り超然として偏せず、黨せず、嚴正緻密なる批評を下して、中庸の途にその形勢を導かんとせしは、レッシングその人なりき、恰も今日高等批評的自由神學が、紛々擾々亂麻の如き、日本の宗教界を正當の途に導かんとするが如し、實に彼が立脚の地は、困難なり、他一方には破壞的なる合理論者と戰ひて、正統派論者の如くに見做され他一方には固執的迷信者と戰ひて、合理論者の如くに、誤解さる、彼が主張する所を以て今日の批評的自由神學に比する時は、固より幾分か過激に失するの嫌なき能はずといへどもその大體に於て大差を見ずといはゞ蓋し大過に非らざるべし、ハンブルグ大學教授ヘルマン、サムエル、ライマルスは極端なる論者なり、聖書のインスピレーション無誤謬說を、否定するに止まらずして、一般の信用をも辭み、一の宗教も聖書中に發見せらる可からずとせり、レッシングは、この遺稿を纂めて、世に公にせり、然れども、氏は思へらく此の書を讀みて或は基督教に對するの信仰を失なひ、懷疑に陷るものもやあらんと、これを慮りて、若し「ライマールス氏の說全く眞理なりと、假定するも、基督教は危險ならざるなり」との意にて序文を掲げたり、彼は又默示と、默示を含有する書に、明了なる區別をなし、歷史的の眞理は、必ずしも、道理的の必要なる、眞理ならずとの主義を主張せり、又或る時牧師ゴエッエーと議論せし中に、聖書のことあり、彼は簡單なる表を作りて、ゴエッエーを駁擊せり、

(一)聖書は宗教に屬することのみにあらずして宗教外の物をも含有すると明白なり、

(二)聖書中にある外物も宗教と共に誤謬なしとする

は一の假定に過ぎざるなり、

(三)文字は靈に非ず聖書は宗教に非ざるなり、

(四)故に聖書及び文字に反駁を試むるは必ずしも宗教及靈に反駁を試むるに非ざるなり、

(五)加之宗教は聖書の存在せし以前より存在せるなり、

(六)基督教は福音記者及び使徒等が書きたりし以前に存在せり實に基督教の存在より聖書の最初に書かれたる文字或は聖書の全躰が書き記されて一のカノンとなりたる迄の間に幾干の年數を經過せしと著し、

(七)基督教の眞理の幾分はその文字上に書せられたりとするも基督教全躰の眞理がその上に書き表されたりとするは到底なし能はさることなり。

(八)今日紙上に印せられて吾人の眼に觸るべき書物の一片だもあらざりし以前基督教は廣く處々に擴張せられ夥多き人民の精神を支配せし時ありとせばたとへ彼の福音書及その他の書簡の如きは紛失して皆無となるも猶ほ基督教はその存在を繋續し得へきなり、

(九)基督教は福音記者及ひ使徒に依りて敎へられたるか故に眞理なるに非ず眞理なるが故に彼等は敎へたるなり、

(十)書き表されたる古碑はその中に含有する眞理によりて判斷さる可きなり然れとも若しその中に眞理を含むことなくんは古碑の數如何に多くとも幵は價値をなさゞるなり、

斯の如く基督教と聖書とを區別して論ずると雖とも聖書の價値を見止めざるに非ず彼が「人類の教育」なる書中にその價値を論ぜる所あり

歷史上の經驗によれば新約全書は人類に甚た肝要なる書籍なりしなり此の書は千七百年の間多くの書に超絕して人間の理解心を救けたり云々

その他の所に書して曰く

予は明かに聖書の硏究が總て他の智識及ひ學問を補佐したりしと多きを信ずるなり云々

と以上の言を以て、レッシングが懷抱せる意見の一斑を伺ふに足れり、若し夫れ氏が聖書及び基督教に對する意見の全豹を知らんと欲せば、請ふ、予が近刊の「烈眞具」を讀め

傳記

二大說敎家ドクトルベルロース氏及ロバート、コリヤー氏特性の要概

亞米利加自由敎會に於て嘗て上記二人の如き大說敎者を得たるとなかるべし二人共に巨數の人民に驚くきべ勢力を有せり然ども其特質各異なりベルロース氏は通俗勸誘的說敎に妙を得コリヤー氏は沈着巧みに人心を奪ふの說敎に妙を得、此二十五年以來亞米利加全敎會を探索するも恐らくは二氏に敵するものなかるべし（ヘンリー、ワード、ビーチヤー氏は之を外にして）此の如き大說敎者の自由敎會に出でたりしは甚だ喜ぶべし余輩左に此二大能辯家特性の概要を記せん

ドクトル、ベルロース氏　氏の精髓となり卓絕したる容貌となる者は氏が口辯に於ける特種の才能なり氏の口頭は動き易く、容貌撓かに、音聲、鐘の如く動作、誠實なり、氏は其性對談を好み、會話に於ては快活に、社交に於ては魔力を有し、侶伴となりて人を愉快にし、滑稽滿ち、答辨速かに、珍談、說明、隱語、時に應じて出づ、氏は饗宴に於て朋友の會合に於て倶樂部に於て常に主人公として敬愛せられ常に衆人の圍繞する所となれり氏は初年より講壇を有し常に能く說敎者たるの義務を盡せしと雖ども然も氏は僧侶的の人物と云はんより寧ろ社會的の人物と稱すべきなり故に氏の尤も得意とする所は半僧、半俗の說敎にして人民に直接の利害を與ふるの問題にあり高尚なる感情を以て倫理的其他の說話をなすにあり氏は一科の專門學者にあらず深沈、堪忍、高遠なる哲學者にもあらず將た又ある一派の學者にもあらず然ども氏は流行文學者なり新聞、雜誌、傳記の讀者なり智力世界の表面に現出したる思想を能辯に再演するの人なり氏の腦髓は非常に活潑にして四方前後に廣がり氏の筆は句調能く、理解し易く、快活なる文章、凡て氏の汗孔より發出するが如し氏は

神學者にあらざるなり哲學者にあらざるなり計畫者にあらざるなり然ども其諄々、人を説得するの妙に至りては天下恐らくは氏に勝るものなかるべし氏が説く所の範圍頗る廣濶にして其内容、無窮なり宜なり聽衆の上に無限の勢力を有するや宜なり天下の事物を一身に集めんとの希望を起せしや

氏は最も愛すべく最も親しむべく最も實直なるの人なり困難の時に危急の時に依頼すべきの人なり高尚、勇猛、大膽以て不時の攻撃に備ふるの人なり、愉快に失心の人を導き直前進行するの人なり自ら感激して人を勵まし從士に活氣を與ふるの人なり、氏は從士に對する正實、健直にして毫も不遜、高慢の形迹なく常に中正の心を以て之に接し深く其欵心を得たり、氏は自ら難事に當り從士をして閑を得せしむ、人若し氏に害を與ふるあるも氏は一心、友愛を以て之に接し嘗て意とせざるもの丶如し氏常に曰く自由と進歩とは相併行するものなり、一人の私情安んぞ能く實際上の進歩に妨害を與ふるを得んやと

氏か特性の根底は不意の感激にあり、氏は火の如き熱心と德性上の情火と高大なる熱中とを有せり、故に精神上の激動一たび天上より來りて氏を刺激するあれば氏は直に激發する所となり事立どころに決す、氏が此感激的性質は其剛勇なる特性を有する所以と大氣にして克己の性に富む所以とを説明するに足らん蓋し氏別に自らなさんと欲するの事あるも心中に大義正道の感情一たび浮べば直に己れを忘れて一身を犠牲に供すればなり

ロバート、コリヤー氏　氏は其形容に於て大にヘンリー、ワード、ビーチャー氏に類せり其丈勢と云ひ骨格と云ひ胸膈の開きたる處躰勢の直立する處頸邊の强剛なる處甚だ相似たり顏面、額頭も亦た然り、然ともコリヤー氏の顏面は之をビーチャー氏に比して稍清光あり其眼睛も亦た一層光澤を呈せり氏は强剛恐るべきの容色なく、純清、靜穩、掬すべきの風骨を備へ嘗て情欲、我慾の形跡を存ずるなし故に年老ひたりと雖とも自ら少年の美あり氏の笑ふや滿面、温容を呈し曾て少許の苦色、不信を裏面に藏するなく快活なる其顏貌は嘗て他人に見る能はざる所のものなり

氏は説敎の際、文章を讀むを常とす而して氏が文章及び讀法は擬似的にあらずして悉く原造的なり其筆を取るや文章自在、心を用ゐずして言語豐富、時に粲爛たる光彩となり時に高尚なる句調となり時に愛嬌快哉の

文章となり時に私語的の調子となる而して氏が特に聽衆の感動を引く所のものは歌に綴りたる能辯の文章にあり實に氏が說教は愉快と希望と勇氣とを與ふるものなり

コリヤー氏は講壇上の詩人なり氏は聽衆を驅るの人にあらずして聽衆の心を服するの人なり氏は力を以て押付けるの人にあらず道理を以て勸誘するの人なり氏が無類の魔力は能く衆人を其勢下に引き亞米利加基督教の前途に希望と信仰とを與へたり

叢談

○宗教は何處に存ずる

宗教の元素は外界より之を注入し便利によりて之を構成し人力を以て之を製作せるものにあらず生來深く人性に宿り強く人心を感動せしむる所のものにして天下幾億の人類此元素を有せざるはなく又た其原始に於て同一ならざるはなし崇拜は何處より來る祈禱は何處より發する賞讃の詩歌は何處より出る是皆人心の最深底より發出する所のものなり」世界の歷史を見よ宗教は哲學の父なり技術の母なり軍事の慰諭者なり今日何の國か宗教の膝下にあらざらん何の國か之によりて情慾を制せざらん何の國か之によりて其德を喚起せざらん其權力は法家の制典よりも強く其溫德は以て悲哀を慰するに足る、宗教！汝の光線は吾人の希望を輝かし未來の簾内を照らすものなり　（セオドル、パーカー）

上帝は愛なり　（ジョン）

世界に於いて最大なるの人は義務に尤も信實なるの人なり　（チヤンニング）

人皆內心に教導者を有せざるはなし靜に心を傾けば正言を聽くを得べし　（エマソー）

○宗教は力の源泉なり

麗顏なる少童及少娘！汝の頰も額も未だ一點の汚穢なし、汝は斯の如く一生を送り嘗て勞苦なしと思ふ？、試驗汝の上に來り、汝をして苦悶せしめ、汝をして血汗を流さしむるの時期來るべし、宜しく初めに於て宗教の力に依賴すべし、宗教は苦難に堪ゆるの權力なり、大事をなすの威勢なり、汝何如に勉むるも過失なしと思ふ勿れ、罪惡なしと思ふ勿れ、余も年少の時にはしか考へしなり、長じて大人となり、觀察と實驗とにより其然らざるを知れり、罪惡は實驗の失敗したるなり、

直行の躓きたるなり、思想の誤謬も良心の誤謬も愛情の誤謬も精神の誤謬も亦た斯の如きのみ、何如なる松樹か其枝葉を損ぜざらん、何如なる數學者か其數字を誤らざらん、何如なる詩人か其字句を修正せざらん、ミルトン且つ不齊の調子を歌ひ、ホーマー且つ頭を低るゝにあらずや、ラファエル、アンゲロに缺點なき?、モザルトに誤まりなき?、人生は一大工なり、彼が內部の諸勢力は外部の諸事情と錯雜混交し加ふるに之が教導者たる世界は不完全なり、されば時に道路を誤まり手足疲れ心身勞するの時なからざらんや、自ら誇り自ら悔ひ自ら耻ぢ懸顏、悲哀に沈むの時なからざらんや、田野一たび苦悶の耕す所となれば又た收獲の期なかるべし、上帝を信任せよ一は以て誤謬を防ぐの楯となり、一は以て失望を妨くるの力とならん、不幸に陷ゐるも汝をして失望の奴隷たらしめず、一難に遇ふて一力を增さしむるものは上帝の信仰なり、汝は年少の心情に勢力を要し生命の流水をして永續せしめんと欲する?、上帝を信任せよ、新鮮、活潑の生命、汝の上に來るべし夫れ宗教は曠野に於て岩石を打つのモーゼスなり

有鬚の男子!婦人!汝は實驗によりて心情を砥礪せり汝も亦た艱難に堪ゆるの力を要し事業をなすの勢を求むるものなり請ふ宗教は生命の力たる所以を熟考せよ恐らくは萬事之によりてなすを得ん此信仰一たび生ぜは俗界の演劇終りを告けて死するに至るも恐怖の念なく凱旋の喜び我前方を照すべし

（セオドル、パーカー）

人の尤も勉むべきは自己に誠實に併せて他人に誠實なるにあり

（チヤドウイツク）

○自然宗教

宗教の人に自然なるは猶ほ目の自然に視るが如く耳の自然に聽くが如く將た又た美の感情の如く善惡の知覺の如し

野蠻人の宗教と開明人の宗教と大に異なる所あらん然れども同じく尊宗、高尙、信任の觀念より起り同じく道德法の認識より出でたるものにして決して其根底に差違あるにあらざるなり唯發達の程度異なるのみ是れ保羅の示せし處にして各自の宗教心に於けるも亦た免れざる所なり

ある神學者は曰く宗教は自然の實驗より來るものにあらず全く超自然、不可思議のものなりと余輩竊かに思

へらく基督教の汚點と曲處は實に此處に存ずと彼等曰く人一たび洗禮を受け基督敎信者となるや新に精神上の能力を享受し一箇の新生物となると此言たる理學に反し人類學に反するのみならず又た神學に反するものにして單純なる福音を破壞せし根底なり夫れ蝶は其因りて開發したりし螟蛉と比して新生物ならん蟇は其依りて生長したる蝌斗と比して新生物ならん鳥は其依りて出でたる卵と比して新生物ならん樹木は其因りて發生したる種子と比して新生物ならん然り人の精神的生活は其因りて生長したる動物的生活と比して新生物ならん然れども其遷轉、變移は全く自然の法則に支配せらるゝものにして忽然として現はれ忽然として滅するものにあらざるなり然るに俗論者或は自然なる語を以て獨り物界にのみ適用すべく精神界に適用すべからずと云ふが如きは不條理の尤も甚だしきものなり

此は自然宗教なりと彼は超自然宗教なりと分別を付するの不條理なるは之を他に參照して甚だ明なり余輩は倫理に自然倫理と超自然倫理とあるを知らず余輩は智力に自然智力と超自然智力とあるを知らず余輩は美に自然の美と超自然の美とあるを知らず余輩は愛情に自然の愛情と超自然の愛情とあるを知らざるなり余輩安んぞ宗教に於てのみ此の如き不合理の區別をなすを得ん夫れ宗教的感情は人性の自然的生長なり宇宙を眺望する精神の窓戶なり心より心に呼び上帝の知覺を人類の精神に換起する處のものなり夫れ然り宗教は基督教たり猶太教たり佛教たり婆羅門教たるを問はず均しく自然に發生したるものなり不自然の宗教とは人性に反するの宗教なり否人性の高尙なる元素を拋棄し野鄙なる部分を基礎としたるの宗教なり基督教は耶蘇の自ら之を表白せし如く單純にして自然なり人嘗て耶蘇に問ふに無窮の生命を受くるの法を以てす彼答へて曰く上帝を愛し人類を愛せよと其言辭何ぞ簡單にして自然なる。然るに後世妄りに基督教を性理的爭論的の壇場に上せ心情的のものを變じて智力的のものとなし妄りに文字的不自然的の區別をなし舊來の宗教を一變して混雜的製作的のものとなせり人若し基督教の不自然なる所以を知らんと欲せば請ふ彼等の信仰ヶ條に付きて之を見よ

宗教は其何たるを問はず之れが神聖なる教權を有するや否を知らんと欲せば口碑を棄て須らく之を尤も發達したる人類に徵し其果して人類の本性に適するや否を驗すべし是れ猛惡、不慈悲、不正、不合理の宗教は野

蠻人に自然なるべきも最も發達したる今日の文明人に不自然なればなり

基督敎は何故に不自然に陷りし？是れ其一部は人類が上帝を知覺し能はざりしによると雖ども又た其一部は彼等が其同胞たる人類を理解し能はざりしによるなり然らば則ち基督敎をして純淸潔白のものとなさんには最も高尙なる精神と合理的倫理的要求とに應じ之をして自然宗敎たらしむるにあるのみ

○英國宣敎師秀華陽支那にありて誘導引階なるものを著はし基督敎の要領を說く其文漢文なるを以て譯して左に載す

問曰　世人は必竟、誰の生ずる所なる？

答曰　詩に云く天、蒸民を生ずと又曰祿を天に受くと是に因りて之を見れば人は天に由りて生じ天に由りて養はるゝや明なり

問曰　天とは何ぞ？

答曰　天とは即ち儒書に稱する所の上帝なり天と云ひて上帝を指すは猶ほ朝廷と云ひて君王を指すが如し蓋し之を尊むの意なり召誥に謂ふ所の皇天上帝是れなり

問曰　上帝は何に緣りて人を生ずる？

答曰　天は生を好むの德あり易に天地の大德を生と云へり此れ天の人を生ずる所以なり

問曰　既に生を好むを以て德となす然らば則ち天は唯之を生ずるのみなる？

答曰　天の人を生ずる素より養ありて敎へなき能はず故に書に曰く之れが君となし之れが師となす維れ玆に上帝を助けよと孟子曰く天の斯民を生ずる先知をして後知を覺さしめ先覺をして後覺を覺さしむ上智と下愚とを論ぜず願はくは生民共に其天眞に復せんと是に因りて之を觀れば上帝、人をして帝旨を成し帝德を顯彰せしめ人をして帝恩を蒙むり帝福を受けしめんと欲するものなり

問曰　世人如何にせば以て天恩を得、福を受くる？

答曰　人若し上帝の命に遵ひ上帝の律を守らば即ち恩を蒙むり福を受くべし

問曰　世人何に由りて上帝の律法あるを知る？

答曰　世の父母、家法ありて子に敎へざるはなく各國の君王、國法ありて民を化せざるはなし况んや上帝、萬國萬民を總理す豈律法の以て世人を約束せざるの理あらんや

問曰　上帝、治世の律法ありとなすは果して憑據とする所ある？

答曰　有り、世人賢愚齊しからざるも良知良能ありて以て善惡を分別し善者は之を褒め惡者は之を貶し天下皆善惡に應報あるを知る上帝既に善惡の理を以て深く人心に刻み而して更に其間を主宰し善に餘慶あり惡に餘殃あらしむ此れ豈上帝、治世の法律、顯然たる者にあらずや

問曰　上帝人を生じ人を養ひ人を治むるは人の恒心を以て善をなさんと欲するの故にあらずや然るに世人善く行ふ者恒に寡く惡く行ふ者恒に多きは如何ん？

答曰　人の生命は全く上帝の保養に賴る否らざれば則ち生存し難し世人善をなすの力も亦た是の如き耳若し上帝の賜たる爲善の力を失せば恐らくは恒久、善をなし難からん

問曰　世人何を以て善をなすの力を得ざる？

答曰　世人多く上帝と隔絶す是れ善をなすの力を得ざる所以なり

問曰　天言はず世人何によりて克く上帝と感通する？

答曰　世の父母、子と相親愛せざるはなし相親愛すれば則ち相往還す故に家庭常に言語を以て相教ふ況んや人は上帝の生ずる所たり豈相感通せざるあらんや

問曰　上帝、人と通ずると云ふも必竟如何にして感通する？古人曰く天言はざるかと

答曰　誠なる哉是言や天言はずと雖も彼れ人に良心を與へ加ふるに行と事とを以て之を示すにあらずや爾ぢ天人感通の理に明かならざるは是れ未だ儒書の訓を稽へざるなり書に曰く皇天に格ると詩に曰く下に臨みて赫々たるありと孔子曰く我を知る者は天なりと又曰く天德に達する者と其他天監玆に在り天維れ命を顯にすと儻し天人相感通せずんば是れ古人我を欺くなり蓋し命を知らば以て天に達すべく惟德能く以て天を動すべし細かに諸書を究めば天人の感通、顯然として徵すべきなり

問曰　天何の爲めに言はざる？

答曰　天、人に良心を賜ひ邪正を明にし善惡を別ち亮として明鏡の如し既に良心あり即ち吾が心の是非毫釐も爽はず是れ天言はずと雖も每に歷代の聖人を藉りて以て其言を發せり且つ天、常道あり善を作せば祥を降し不善をなせば殃を降す其人に於けるや之を敎へ之を戒め其惡を懲らし其善を善とし四時行はれて而して百物生ず其狀實に人と對言するのみならず

何ぞ必ずしも諄々然として之を命ずるの要あらんや

問曰　天の以て通ずべきは則ち吾れ之を聞くを得たり然らば則ち何の法ありて而して天人相通ずる？

答曰　人と天と相通ずるの法は即ち德を砥き行を勵み默して天恩を念ひ虔誠を以て感謝し誠心を以て祈禱するにあり人果して恒に此の如くならば則ち天人合して一となるべし　上帝は人に爲善の力を扶助するのみならず並に能く人の惡を絕つものなり

問曰　普世の人皆是の如きの感通ある？

答曰　父母の人子に於けるを觀るに皆往還あり況んや上帝は生人の主たり豈其れ所生の人と永く隔絕するを欲せんや人情を以て之を論ぜば父子相離るゝも彼此相安からず天人相離るゝ豈能く安からんや

問曰　果して是言の如くならば則ち人皆意に任じて上帝に親近すべく其何たるを論ぜず求むれば必ず應ずる？

答曰　未だ必ずしも然らざるなり天下の人業に經に罪を上帝に得必ず須らく心を誠にして痛悔し、志を立てゝ過を改め、方に上帝に歸向し先づ恩を開きて前愆を寬恕せんとを求め復た日用、需むる所を求むべし若し上帝の意旨に合はずんば恐くは又た應允を蒙むり難からん

問曰　何を以て人皆罪を上帝に得るが故に必ず悔改すべしと云ふ？

答曰　人既に上帝の爲めに生養せられ深恩、極まりなし理、應に日に感謝し時に敬畏を存じ恒心、善に向ふべし冀は上帝の悅納を蒙むらん世人皆當に是の如くなるべし然るに指を羣倫に屈するに果して克く是の如き者幾人かある

問曰　吾儕既に顯に上帝、生養の恩に背く而して多く首を回すを欲せざる者則ち將に何の法を以て之を處せんとする？

答曰　人若し自ら己の非を知らば速に過を改め夢の初めて覺むるが如く已往の愆を悔ひ將來の望を勵まし虔誠、過を認め上帝に我心を化し我志を堅ふし我力を加へんとを祈求せよ我儕をして終に惡を改め善に遷らしめば則ち得たるなり

問曰　此法、曾て人の用ゐるありや否や效驗ありや證據ありや否や

答曰　此法を用ゐる者固より悉く數へ難し昔し有り今有り各處も亦た有り凡そ虔誠、恒心なる者は願の如く償はれざるはなし諺に曰く人、善願あれば天必ず

之に從ふと即ち此の謂なり憑據。效驗に至りては人心、自ら之を悟るに在る耳、人果して細かに聖經を考へ虔誠祈禱し息々上帝と相通せば內心自ら確據ありて而して實效を收めん

問曰　此法甚だ善し然ども何を以て其求むるあれば必ず應ずるを確知する？

答曰　人、自ら省みるにあらざれば己の罪を知り難し果して能く躬を撫し心を捫せば則ち必ず爽然として失し恍然として悟り方に罪の關する甚だ重きを知らん、もし非を知る日に新なるも尙ほ前咎の挽くなきを恐れ內心安かり難かれ償し罪を免し福を得るの眞法あらば艱險を歷ると雖ども亦た其苦を甘んじ惟心の安きを求めて而して後に已めよ常に虔誠を具へ祈禱せば上帝其前日の愆を赦し其過を改むるの力を助け、求むるあらば自ら必ず應ずるあらん然らずんば則ち恐くは未だ必せざるなり

問曰　虔禱必ず應ずとは必竟何の據ところありて知るべき？

答曰　確據二あり其一は古より今に及ぶ代々多人ありて式の如く祈求し皆願の如く相償を得たり其二は此れ乃ち當然の理なり上帝既に人に命じて善をなさしむ自ら必ず意に人を助けて善をなすを樂まん既に人の善をなすを樂む亦た自ら必ず人の祈求を准し人の善念を助け以て其意旨を成さん

問曰　既に此の如し何を以て眞實、妄なきを知るを得る？

答曰　深く之を思ひ試に之を行ひ各虔誠を具へて而して恒心あり人道を修し兼て天道を得、心中暢然として之れが旨趣を了し覺へず之を心に得て口に宣ぶるあれば罷めんと欲して能はざるものあり順逆、遇に隨つて而して安すく之を前に較すれば直に兩人の如し其眞實奚ぞ言を待たんや

〇婆羅門敎

婆羅門敎は韋陀敎の進化したるものにして佛敎の由りて來る所のものなり今其要を記せん

（一）婆羅門敎一たび出でゝ從來の多神敎、古傳記等皆其吸收する所となれり婆羅門敎徒の唱ふる所によれば曰く宇宙に絕對、不知覺、不偏の合一(ユニティ)あり之をブラマと云ふ萬物は皆之に出で復た之に還るものなり草木の發生するや禽獸の生育するや皆ブラマに出でざるはなし其枯廢死朽するや皆ブラマに還へらざるはなし實に宇宙の成立は唯ブラマより流出しブラマに

還元する無窮の進行たるに過ぎざるなり

（二）婆羅門教徒の唱ふる所によれば宗教の大目的は個人的生存を消失せしめ之をブラマに吸收せしむるにあり故に婆羅門教は浮界より人生を分離せしめんとを勉め信者をして斷食し信者をして自ら苦痛を與へ信者をして凡ての思想と願望とを消滅し不知覺のブラマに合一せしめんとを務めり

（三）婆羅門教に於ては古代の精神教（スピリチズム）（精神は個別に人體に存じ又別に其世界を有するとの原人時代の教）其形を變じて靈魂移轉の說となれり人若しブラマの吸收する所となる能はずんば天國、地上、若しくは地獄に於て新々、生出し其終極なかるべし生命は惡魔なり之を滅絕せんには克己によりてブラマに吸收せらるゝの外なし然らずんば此變化極まりなき、悲哀謂に忍びざる成存を脫するの終期なかるべし

〇中古の支那に於ける天帝の觀念

昔時唐土に神の位を得たる白龍あり、化身變躰の通力を得て、巧に水火の中を横行し、天地の間を翺翔せしが一日、戯れに化して魚と成り、池に游べり、然るに豫苴といへる漁夫、このあたりに住居して夜〳〵この池に網を投し、この夜、圖らずも、白龍の魚を獲たれば、家人と倶にこれを服せり、白龍豫苴に服されて、大に怒り、直に天帝のもとに行きてこれを訴ふ、天帝は判官宰主なり、即ち裁して曰く、汝白龍の形を具して密網にかゝらば、これ豫苴が過なり、然れども、汝形を變へて魚と化す、すでに神にあらず、これ汝が過なりと、白龍倉皇辭して去る　（古　瘦　生）

〇神道弘通と佛道弘通

田口鼎軒君の三日巡禮記に本地垂跡のことを載せられたり余輩も亦兼ねてより最澄の膽量に驚きしが後世この轍を履みて宗門を弘めんとなしたるもの無きにあらず今世の佛者が佛法は厭世主義のみにあらずといへる論文を艸するを見て何んぞ驚くとあらんや、正に佛道弘通の一法と見ば、大過なからん、この頃或る物の本の中に神道弘通のことを見出したれは聊か稜きて覽に供す、

始め文明年中に卜部兼倶といふ人御座候少しく才覺あるを以て度々大内に召されて書を講し又公卿の家にも詣りて是を講し申候然れとも佛法の先入中々に變し難きにより新に佛神不二の法を編み立て表をば佛道めかしく飾り裏には神道を取り込み世を誘ひ申候昔時最澄空海等神道を借りて佛道を弘通し今は兼

倶佛道に付きて神道を興さんとす盛なるものによらざれば其道行はれ難きによりて如斯に御座候其後愈家風を弘めんと妖術を學ひ延德元年三月廿五日夜に兼ねて搆へ置きし所の神樂岡の齋場の上に黒雲八流靡き降れる形狀を爲し諸人を恐怖せしめ候其中に光氣ありて誠に奇妙の事に御座候夫より禁中鎭守の八神殿黒雲に乘して神樂岡に飛ひ來り給ふ由いひふらし八神殿を建立仕候云々

○我國中古の儒學者流が定めたる神の定義

神は朝廷に於ひて祭るへきものなり、もし朝廷の允して祭らしめさるものは神にあらず、彼の政事と祭事と共に和訓に於ひてマツリゴトといふはこれ祭事の朝廷より出でざるべからざるの證なり、而して神に三種あり、一を明神といふ(又名神に作る)こは公事の神にして朝廷の命じて致せるものなり、一を靈神といふ、これを二つに小別す。甲は國家に對せる功績によりて神と爲りたるもの、乙は怨靈の祟りを沈めんが爲めに勸請せるものなり、他の一を邪神といふ、こは大蛇又は鼠などを勸請せるものなり、邪神といへども朝廷の允されたるものは正に神なり、もしこの他に神といふものありといへども、幷は淫祠にして宣敷燒き攘ふべきものなりと、

（古　瘦　生）

雜　錄

猶驚く可き創世記
一名　無究創造談

ヘンリー、エム、シモンス

第一章　古代創世談

古代以降悠久なる歳月の間、創世記第一章はイスラエルの賢者モセスが、聖靈の默示に由りて記述せし、天啓の聖書創世の實錄として、尊重愛讀せられたりき、人々の智物換はり星移つり百事其體を變すると共に、宗教々說の如きも亦口碑的の妄信排議其面目を改め、事實的の確理愈々尊重せらるゝに至れり、斥せられて從つて人々の創世記に對する思想の如きも、大なる變化を來せり、啻に變化を來せし而已ならす、甚しきに至りては此書に加ふるに、滑稽詼諧の批評を以てする者あるに至れり、然れとも如斯批評を此書に加ふるは、到底賛す可きの事に非らす、蓋し此書たる太古人民の推想せし所の創世談にして、其中固より幾多の誤謬を

含む可しと雖も、猶其記事たる實に、美麗に且自然なればなり、

請ふ試に創世記を採りて反覆熟讀せよ、其文字簡にして潔、單にして淸、自から一種の風韻を具へ、之を讀む者をして、枯木の下に長嘯して秋月を望むの想あらしむ、而して猶心を潜め意を注ひて上帝の形容動作を記述する所を讀むに、其文體高雅にして優美、嚴肅にして莊重、自から一種の威嚴を存し、讀む者をして、恰も大王の座前に立つか如きの感あらしむ、且其形容する所の造物主も亦世人の想像せるか如く、機械師的に其手腕を動かして萬物を造作せしか如き、可見微力の者に非らす、寧ろ精妙靈活其命令を以て、隱密不可見の裡能く渾沌の大空を鼓盪し、其創世の大功を完成したる所の精氣則ち神靈なり、されば神光あれと命して光生し、地諸物を産せよと命して、草蔬、樹木、禽獸其類に從つて發生し、水諸物を出せよと命して、河海各々其産物を出せり、由之觀之はこの古代の記者も亦近世詩人の如く、神は只理法々則に由りて動作する者なることを知覺せしか如し、これ豈に美の美、麗の麗なる者に非らすして何ぞや。

啻に美麗なる而已ならす、潜心之を讀めはこの古代創世談は又實に自然に準據せることを發見す可し。

何故に七日に區分せられしや、

吾人の見る所を以てすれは、神は六日間に創世の工を終はり第七日に休息せりとの一事は、荒誕無稽取るに足らさる者なりと雖も、古昔東方に居住せし人民は、實に之を以て萬古不易の確理と思想せしが如し、請ふ其理由を一言せん。

蓋しこの創世談の記述せらるゝ前少しく彼等の間に神聖視せられし者ありき、則ち週間の制是なり、この週間の制は彼等が萬古不易なる時間の區分として保持したる者にして、實に其崇奉せし宗教より由來せし者なり、即ち是等の人民が崇奉せし原始の宗教は大部分星宿禮拜にして、日月等七個可見の天躰を禮拜して神となし、或は日を定めて順次に之を祭つり、或は日を追ふて日々之を祭つり、犧牲供物を供し崇敬の意を致せり、是れ實に七日を一週となし、七個可見の天躰を以て之に配せし制度の由て起りし濫觴なり、この古代制度の遺跡は今猶吾人の一週制度中日曜月曜の名稱を存するに由つて見る事を得可し、然れとも次に位せる四日の名稱は、後年之に相當せるチユトン人の諸神より得られたるを以て古代の名稱を存せす、只佛語に於て今猶

各日に賦與するに諸星の名稱を以てせるを見る而已、即ち佛語のマーデーハマースの日を意味し、マークリデーはマーキュリーの日、ヂユデーはヂユピターの日、ヴェンヅリーデーはヴェナスの日を意味せる者なり、而して一週の終日即ち第七日は之に配するに尤も遼遠なる一星を以てし、吾人尙之を呼んでサタデー即ちサターンの日と云ふ、此の第七日に配せられたる運行遲緩なる行星即ち星神に關する思想は、甚だ曚朧なるを以て、初代のバビロン人は唐突に之を以て休息の日となし、後代のアッシリヤ人亦其意を追ふて、之を稱して安息日となせり。

而してイスラエル人はアッシリヤ人よりこの安息日を傳承し、終に之を以て其宗敎儀式の重要なる者となすに至れり、而して彼等イスラエル人は、この安息日を神聖視するの餘、如何にもして之に神聖なる原因起元を附せんことを勉めり、是に於て安息日なる一事は、漸次彼等が創世說の考案中に侵入し來り、由て以て其創世談を構成するに至れり、蓋しイスラエル人はこの安息日を以て所謂塵俗の事務を擲つて、淸淨無垢敬神修德の事を勉む可き者と思想せしか故に、この休息日を神聖にするか爲め六日間を以て、其俗事を成就するの必要起れり、其必要積んで習慣を成し、其習慣亦積んで終に性を成すに至れり、されはイスラエル人が其創世談を構成するに於て、神も亦六日間に其創造の工を終り、第七日に休息せし者なる可しと推測せる亦理なきに非らす、以之觀之は創世記の六日なる者は實に安息日を神聖視するより由來せし自然の結果なり、誰かこの創世談を以て自然に非らすと云ふ。

何故にこの順序を採りしや、

啻に六日間の創造而已ならす、其創造の順序を考究するも尙大に自然に準據せしを見る、固より創造の順序に於てかの樹木草蔬併に晝夜等を以て、太陽創造の以前に製作せられたる者とするか如き、一見奇異の感なきに非らすと雖も、能く事の實際を考察し來れは普通尋常決して異むに足らす、何となれは太陽なる者は吾人に於けるか如く此等樹木草蔬の光明及生命の唯一原因に非らさる而已ならす、只

世界の天幕

內に供へられたるランプに過ぎざれはなり、かの古代東方に居住せし詩想ある天幕居住者は、實にこの世界を想像して一座大々の天幕となせり、彼等思らくこの坦々たる大地は天幕の基礎にして、かの蒼々たる球形

の大空は其天井なり、而してかの赫々たり輝々たる日月及諸星の如きは、この大々の天幕中に懸けられたる動ける燭火に過きす、然れとも此の蒼々たる大空の天井外別に所謂諸の天あり、この天は雨を以て地を養ひ萬物を育せしむる所の諸水を蓄ふる所にして、又實に諸神の生活優遊する所なりと、

この自然の想像は啻に東方の諸國民中に屬々發見する而已ならす、往々聖書中に散見す、即ち詩篇の記者は（百〇四篇二節）造化主を形容して、汝光を衣の如くまとひ天を幕の如くに張り云々と云ひ、イザヤは（三十四章四節）天の萬象は消へ失せ、諸の天は書卷の如く卷かれん、その萬象の落つるは葡萄の葉の如く、又無花樹の果の如くならんと云へり、又時としてはこの大空の天井は、固形躰として形容せられし事あり、即ちヨブは（三十七章十八節）汝彼と共にかの堅くして鑄たる鏡の如くなる蒼穹を張ることを能せんやと云へり、而して如斯形容せられたる蒼穹の上又別に萬物を養ふ所の諸の水及詩篇の所謂（百四篇三節）、水の中に其宮殿の棟梁を置く所の神の住所あるを以て、全能の神は大空の窓を開きて、かの洪水の時マナの時の如く雨を降らし恩惠を下し玉ひたりき、

以上引照せし所の者は必すや幾分詩歌の躰を取りし者なる可しと雖も、亦屢々實際の事實として承認せられたり、是れ啻に古代に於て而已ならす、近年に於ても亦然り、即ちかのコスモス氏は其著書「クリスチヤン、トポグラフエー、オブ、ジー、ユニバース」に於て、この世界はヒブリユー人のタバナークル即ち天幕の構造に從つて構成せられたる者なることを説明せり、

かの創世記も亦實に斯の如き思想に由りて記述せられたる者なり、即ち創世記の順序に由れは、神は先づ神靈の住所即ち諸の天を造くり、次に水の如く定形なき地を作り、天幕の基を置きし後、以下列記の順序に由りて六日間の創造事業を終りたる者なり、

一　先づ工事の準備として光及晝を造りし事、

二　世界の天幕を擴げし事、即ち上方の諸水及諸の天と地とを區分する所の大空即ち蒼穹を帷帳の如く張りし事、

三　下界の渾沌たる流動躰は乾燥し、水流一所に集合して乾燥せし天幕の床一面草を以て覆はれ、且諸の植物を以て充滿せられし事、

四　この成功せし天幕の內部を照し且晝夜年月を區分す可き運動ある日月及諸星を懸けし事、

五次に如斯齊備照燭せられたる天幕中、大海大空の不必要部分より起り漸次魚鳥を以て蓄積せられし事

六終に其重なる部室、即ち陸地に野獸家畜を蓄積し、且人なる賢良の支配者即ち住人を造りて、この天幕中に置きし事

七造物主其工を終りて休息せし事

以上列擧する如く、この創世談は自然に準據して搆成せられたる者にして、秩序整然、一點の錯亂なしと雖も最早

眞理として受納す可からざるなり、

今日の學者中猶創世記の記者を以てモセスとなす者無きに非さる可しと雖も、其數寥々として晨星と一般なり、吾人の考ふる所に依れは、この創世談の大部分はイスラエル人が東方人民より傳承し來り、後其の教説として採用したる者なるか如し、然れとも彼等イスラエル人は何所より之を傳承せしかの一疑問は、如何なる解釋を下すも、到底一個の臆説に止まり、決して不易の確説となす可らす、然れとも吾人々類を誘導したる經驗學問は審に此創世談の誤謬を指摘し大に之を矯正したりき、即ち地質學は吾人に示すに、此地球の創造は六日に非らすして幾千百年なる事を以てし、且其の所謂六日は六個の時代世紀を意味するに非すして、純粹に一日二十四時の六日を意味する事を以てせり、蓋しこの書の記者は徹頭徹尾其事實と思想する所を自然的に書き綴れる者にして、其の夕と朝とを反覆記述せし如きは、實に其二十四時一日を意味することを證明すれはなり、加ふるに地質學併に植物學は共に諸種の草木は決して太陽創造の以前に存在す可らさるを證明し、天文上の眞理は吾人に敎ふるに太陽の存在前に晝夜の別ある可らさるを以てし、且太陽の創造は地球創造の前幾百萬年ならさる可らさるを以てせり、以是觀之はこの古代創世記談は實に自然的詩歌的の好文字なりと雖も、倘誤謬たるを免れさるなり、

然れとも吾人は猶一層驚く可き創世記を見る事を得可し、

假令この古代創世談は學術上の眞理に矛盾するを以て、誤謬なる事を證明せられたりと雖も、所謂神工の妙創造の奇は之か爲に消失減少せす、反つて大に增加せしを見る、何となれはこの非眞理の裏面別に自然界に書き綴られたる最大記述を發見す可けれはなり、蓋しこの記述たる其古き所より之を見れは、古代創世談よ

りも古く、其新なる所より之を見れは、日刊の新紙よりも新なり、これ所謂無究創造の說是なり、この無究創造說に於ては微々たる事實大々となる而已ならす、かの數日の創造亦無限恒久となり、從つてかの古代創世談の眞事實の如きも、啻に其當時に於て人目を驚かせし而已にて雲烟過眼に付し去り得さる而已ならす、幾多創造的の新動作を附加し、永遠恒久に吾人の眼睛に映して盡滅の期なかる可し、而して學術なる者は、觀察の及ぶ所考慮の達する所、全世界に書き綴られたるこの一層驚く可き且神聖なる創造即ち產出の奇工を發見する事を勉むる者なり、

然り而して以下當に考究す可き各項目の目的は、實にこの大々の創造を考究するにあり、即ち眞正の事實の顯はす所はかの古代記者の想像より驚異す可き事幾何なるや、かの驚く可き一週間の工事は今日の各週間に再演せられつゝあるや、即ち所謂六日間の創造は如何なる形狀に由りて今日に再演せらるゝやを究明し、終にかの學術をして高大無限なる宗教的の贊美を歌ふて造化の工を賛せしむるにあり、(未完)

〇將來は如何

短檠明滅、四隣寂漠たるの時、瞑目沈思、靜に現今の世態を考察せよ、蠢々たる人類、議員、學者、僧侶、商人、或は叫び、或は笑ひ、西に走り、東に馳せ、營々蠅の如く、擾々蚊の如し、而して其爲す所何事ぞ、曰く權謀、曰く術數、曰く詐欺、曰く賄賂、臣は君を欺むき、子は親を詐むき、朋友互に陷穽を設け、兄弟各々牆壁を築く、仁なく、義なく、忠なく、信なし、蝸角の名を釣り、蠅頭の利を求め、以爲らく、人の人たる所以これに外ならすと、嗚呼、高山に登らされば、天の高を知らず、深溪に臨まされは地の厚を知らす、彼等自利の動物未だ宗教の眞旨を識らず、何ぞ仁義の高大を知らんや、宜なり人情の如斯浮薄なるや、現今の情態已に斯の如し、其將來果して如何、其將來果して如何、曰く昨日は雨、今日は晴、前月は小、今月は大、其將來推して知る可き而已、吁、

〇生命(ライフ)あれ、

淡々たる一朶の梅、蒼々たる一枝の松、冉々たる水邊の螢、翩々たる園裡の蝶、其之をして然らしむる者果して何ぞ、曰く生命なり、月に嘯くの猿、友を呼ぶの鹿、粮を運ぶの牛、夜を守るの犬、其之をして然らしむる者果して何ぞ、曰く生命なり、齊々たる大宇宙、森々たる全萬物、悉く生命あり、生命は宇宙の本躰、

萬物の實質、生命ありて草木繁茂し、生命ありて禽獸生育し、生命ありて萬物燦として其處を得、全宇宙已に然り、其一部分たる人類豈に生命なからんや、人固より生命あり、能く動き、能く歩し、能く語り、能く怒り、能く笑ふ、然れとも電眼一閃人類靈魂の內部を洞觀せよ、仁愛の念稀に、私利の情盛んに、靈氣なく、生命なし、此風滔々として、全社會を覆ひ、醉生夢死の父兄、膏梁紈袴の子弟、蠢々又芸々、狗馬玩好に日を送り、漁色耽酒に精を耗し、四千有餘萬、一英靈の人物なし、請ふ試に社會の木鐸たる宗教家、學者、矯風家を見よ、彼等の事業果して英靈の生命あるか活潑の氣象あるか曰く否彼等の論する所、說く所、爲す所悉く是れ死物、昔は瓠巴瑟を鼓して流魚出聽し、伯牙琴を鼓して六馬仰秣し、蒼頡字を制して鬼夜哭せり、吁誰れか這般大英靈の手腕を以て、此等醉生夢死の動物を鼓盪して活潑英靈の人物たらしむる者ぞ、

○信仰の表白とは何ぞ

古書に曰く武術に奧祕と稱す可き者なしかの奧山と稱する者を見よ重疊なる山又山、其奧は鬼神怪物の住む所、人の通ふ可らさる所なるか如し、されど、この山又山を越へ、谷又谷を渡り、白雲深き所を過ぎ、深綠露滴る所を經進んて止されば、復村落平野に出づ、武藝實に然りされば武藝に奧秘なく妙訣なしと、是れ豈に武術のみならん宗教の事亦實に然り、宗教は人類自然の產出直截明快の眞理、宗教に秘訣なし、奧妙なし、其秘訣と見へ其奧妙と稱する者亦實に尋常明白の事、若し强ひて宗教に奧妙秘訣ありと云はゝ、其宗教は實に僞教なり眞理に非らす、故に宗教家の世に立つ、其居る所の教會、其立つ所の講壇により、人皆其持說を推知す、何となれは宗教家は公明正大の人、其說く所は直截明白の眞理なれはなり、豈に所謂特に信仰の表白なる者を要せんや、是を以て信仰の表白を爲さゞる可らさるの人は、公明正大を欠くの人、直截明白を欠くの人、所謂眞宗教家の性質を失せる所の者、人横井氏の信仰の表白を評して曰く、是れ曖昧不熟の文字なりと、恐くは然らん、然れとも我は其文字の曖昧不熟なるを怪ます、所謂信仰の表白を爲すの必要あるを訝る、

○猶恐る可き大地震を如何にせん

東海の地大に震ふ、山嶽崩れ地盤裂け、家倒れ人死す、加ふるに祝融の災害至りて宗祖傳來の資產一朝烏有に歸し、米穀の供給洽からすして人民死地を出て丶又死

地に入る、死傷累々、風物凄々、鬼哭し人泣き、悲哀の聲反響して大八洲の山河を震盪す、電報一發災報四境に達す同情を存する者憐心を有する者豈に坐視傍觀することを得ん、仁人義士到る所に起り救恤の必要を說き、慈善會となり演藝會となり義捐金の募集なり、一圓百圓十錢千圓新紙の一面救恤金を以て充塞し終に政府をして百二十五萬の臨時支出なさしむ嗚呼憐心の動く所同情の發する所其勢偉大なる哉、然れとも東海の震災は是れ數縣下の慘狀に止まる、若し夫れ我所謂猶恐る可き地震に至りては、八道の山河到る所爆發崩裂又如何ともす可からさる者、此地震や富士を中心とするに非らす、淺間を中心とするに非らす、岐阜に發するに非らす、熊本に起るにあらす、其中心實に人心の奥區にあり、今や此地震は上金殿玉樓の主人を動かし下橋下浮浪の乞食を震はし發して道德の大崩裂をなさんとせり、岌々乎として危ひ哉、誰れかこの大震災に向ふて熱涙を潛ひて救恤の方策を講する者ぞ、志士仁人よ起て、今や猶恐る可き大震災は我の社會に爆發せんとす、

〇虛文――實行

ソクラテスの言、メリチユースの徒或は之を唱ふることを得可し、孔子の說盜跖の輩或は之を稱することを得可し、基督の敎、パリサイの人或は之を說くを得可し、古往今來、東西南北、金玉の言を吐き珠璣の語を陳ふる者多々益多し、然れとも言は易く行は難し、現今の社會瑣子孔丘耶蘇の言を爲す者濱の眞砂の數よりも盡きす、然れとも其實行ある者果して幾人かある、王陽明諄々說き起して曰く、天下之大亂由虛文勝而實行衰也。

〇張謂の詩

朝に合し、夕に散し、昨は兄弟の如く、今は路人の如し、張謂慨然長安主人の壁に題して曰く

世人結交須黃金　黃金不多交不深
縱令然諾暫相伴　終是悠々行路心

と自から稱して主義の爲めに離合すると云ふ人千萬省す可し、

〇虎――鼠……毅然として起て

大膽なれ剛勇なれ、自重せよ自尊せよ、汝の學なきを憂ふるなかれ、汝の智なきを哀むなかれ、毅然として起ち斷乎として決し、侃々として言へ、古言に曰く用ひされは則ち虎も鼠となり、用ゆれは則ち鼠も虎となると、汝の精神豈に虎となるの素なからんや。

○廢娼論

講壇より同胞兄弟説の教を説きながら、奴隷禁止を拒みたるが如きはアメリカの基督教徒に例あり、然れども、幷は今の時と事異はれり、倫理の道稍明かに人權平等の論、漸やく將に行はれんとする今の日に於て、廢娼論を拒否するもの眞逆にありとは思はれず、獨り竊かに、廢娼の早成を期せしに、何ぞ圖らん、この世は薰蕕相混じ玉石相滑るゝが習なりとは、或は乾燥無味の經濟談に籠り、或は黄白に心を奪はれて、漫然存娼の議を試むるものあるやに聞く、高尙なる宗教道德の判斷を待たずとも、娼が破倫の大罪たるは、五常の教訓に照らして既に已に明なり、然るを何の所見ありてか、强ひの存娼の要を尋ぬるものぞ、嗚呼、無情なる哉、鬼歟、蛇歟、

廢娼の方法と、善後の策とにつひては、固より幾多の異説もあるべし、然れども、まづ見よ、とは社會改良の一事業なり、少なくも、社會改良の先驅前軍なり、この事業の成る成らざるとは、大に我國將來の元氣消長に關す、こゝを以て、愛國經世の士は、夙にこの業に贊すべきなり、余輩が、廢娼に贊同するの所以は、主にこゝに發す、世上の仁人正義の士、亦、起きて可なり。

○篤信と政界

政界は篤實堅固の信仰を養ふの魔所なる乎、將又薄信の瘦影を掩ふの隱家なる乎、今や第二の議會開けて、政界に雲動き、漸く將に多事ならんとす、牧師爲めに愁眉を鎖ざし、會計大に首を惱ますといふ、噫、これ何等の現象ぞや、自から信仰を告白して是なりと爲したるもの、安息日を犯して、得々たるは何故ぞ、祈禱を爲さゞるは何故ぞ、美姬に戯るゝは何故ぞ、詐譎を語ふは何故ぞ、隱險謀策却つて誇るは何故ぞ、政機一瞬を重んずるときは、斯の如くならざるべからざる乎、政界交友の緊きを貴ばんには、遂に這般の擧に陷らざるべからざる乎、古の雄將は、坐ながら天下を覆へせり、今の政界にある二三の雄將は、篤信を棄て、節操を破り、轉々奔飛、猶且能はず、噫、少く警醒せよ、

○合理的宗教‖偏理的宗教

物其中庸を得るは難し、故に東西古今の學者悉く皆な中庸の必要を説く、特に宗教は偏せす黨せす中庸を得さる可らす、人曰くユニテリアンは口碑的の妄信を排けて、道理的の確信を求むる者、情感上の僞信を斥けて、智力上の眞信を探る者、形式上の虛信を避けて、精

神上の實信に立つ者、故に彼等は情感形式を顧みす、專ら智力道理に訴へて其信仰を決する者なり、と是れ果して合理的宗教なる歟、合理的宗教を以て自から任する所のユニテリアンの眞相乎、曰く是れ偏理的宗教なり、合理的宗教に非らす、合理的宗教とは何ぞ、曰く合理的宗教は智力を基礎として立つ者過盛なる情感の妄信を排斥する者なり、然れとも智力の基礎に由り迸出せし正當の情感、正當の情感を精神とせし自然の形式はユニテリアンの喜んで採る所なり、換言すればユニテリアンは人心の三現象に從ひ偏せす黨せす、其中庸を得て社會人民の生命たらんことを希望する者なり、世人幸ひに偏理的宗教及合理的宗教を混同することなかれ。

○吾人は何如にしてこの活劇に處す可きか

萬緣梢を謝して秋氣高く、一燈影冷かにして寒裘を戀ふ、年光匆々復帝國議會の開期に遇ふ、日比谷原頭風冷かなる所、臺閣雲深きの邊、是より益々多事なる可し、曰く信任投票、曰く解散、其結果未だ知る可らす、思ふに壯士跳り鐵拳飛ひ、車馳せ馬走り、紛々擾々一大奇觀を現し、醜事出て汚行顯はれ、吾人をして長歎大息せしむる者、多々益々盛んなる可し、此際に當り吾人宗教家たる者は如何の覺悟を有す可きか、吾人は此に對して爲す可きの事なきか、是れ實に吾人の考察せざる可らざる所なり、吁々吾人は如何にしてこの活劇に處す可きか。

○匱を買て珠を返す、

寶物の價は珠にありて匱に非らす、錦繡を飾り、金玉を鏤むるも匱は匱なり、一見瓦石の如く三文の價値なきか如きも珠は珠なり、眞人物は珠の貴を知りて、匱の貴きを知らす、匱の返す可きを知りて、珠の返す可きを知らす、然れとも世往々匱を買つて珠を返すの愚なきに非らす、かの章句の間に局促たるの學者、歐米の法律を移植せし政治家、悉く是れ斯流の人、吾人は實にこの愚物を笑ふ、借問す、我宗教界裡果して這般匱を買つて珠を返すの愚物なきか、吁々我同胞よ、珠を買つて匱を返すも、匱を買つて珠を返すの愚にならふことなかれ。

○一片の丹心

博士あり、學士あり、政治家あり、經世家あり、富國の說を吐き、利民の策を講し、是れ日も足らす、然れとも其心底を解剖し來れは、概ね皆な私利、私益、放漫、名譽、敢て一片の丹心ある者なし、……獨坐三更天地

静、一輪明月照丹心……吁這般の感懷ある者、世上果して幾人ぞ、

○九州日々新聞をして斯く報ずるに到らしむ、汝等これを見て赧然たるなき乎、余輩は其無からんを望む、其無からんを信ぜんとす、

●日本に於ける宣教師　此程より我國に渡來して各地を漫遊せる某外人日本紳士と會食しける時談偶々宗敎の事に及ひたるに某外人日本に於ける基督敎を評して曰く某が本國に在る時日本の宣敎師より送れる報告書其他に就て日本の人民は東洋中最も基督敎を信ずるの人民にして開國以來未だ多く年所を經ざるに斯くも信者の多數なるは實に驚くべきことなりと思ひ居りしに實際日本に來りて親しく實地の狀態を視察すれば何ぞ圖らん本國に在りて想像せし所とは雲泥の相違にして基督敎の勢力は案外に微弱なり蓋し其の次第を察するに第一日本に於ける宣敎師は日本の上流社會に布敎することをなさず專ら鰥寡孤獨の貧民のみを相手とし救恤的の手段を以て布敎の最良手段となすが故に所謂る信者なるものは貧民の女子のみにして日本の社交上並に政治上に出入する人々の間には絕へて布敎の行屆ける摸樣なし是れ本國に在りて唯だ信者の多きを見て其勢力を大なりと信じたるの誤れる所ろにして第二は歐米諸國に在りては宗敎社會布敎上の競爭日々夜々に盛んにして學識才幹幷ひ高きものに非るよりは容易に多額の給料を得る能はず又た宣敎師仲間に信用を得る能はざれども日本に來る宣敎師は妻あれば妻に對する生計費を本國の敎會より貰ひ子を生めば又子に對する養育費を貰ひ受くるの定めなるが故に生計上に於て何の心配もなく晏居逸樂して日を送ることを得るの便利あり隨て布敎の競爭のため腦髓を惱ますの心配もなきにより自然に日新文明の風潮に從ふて其の布敎の方法を改良するの手段をも講ぜず二十年前の日本に對する布敎の法も二十年後の今日に於ける布敎の法もツマリ愚夫愚婦を相手として徒らに信者の頭數の增加するをのみ誇るの風あり是れ日本に於る宣敎師の弊習の最も甚だしきものなりとす第三には日本に來れる宣敎師にして愚夫愚婦を相手にせず稍々高尙なる處に目をつくる者なきに非ずと雖も是等の宣敎師等が折角勉强して引立てたる信者若くは日本人の宣敎師等は或る程度までは其の引立てに感じて純然たる信者となり居れども或る程度まで基督敎の學問

をなす以上は歐米諸國日新の新宗教に關する諸說を咀嚼し自ら獨立して所謂る嚴正なる基督教徒の範圍を脫し到底外國宣教師の云ふ所に從はざるに至る金森通倫と云へる人の如きは即ち其の一例にして氏は同志社に於て教育せられ嚴正なる基督教信者の一人なりしに近來は全然豹變して殆んどユニテリアン派と同一色の人物となれり畢竟日本人は其の腦髓淸白なるが爲めクド／＼しき三位一躰說の如きを以て感化すべからざるものあるに依るこそならん右の如き次第なれば折角日本人中に教育ある良信者を得んとして非常に勉強するも途中にして獨立の人間となるは殆んど今日普通の有樣なるが故にツマリ差引殘る所ろは愚夫愚婦のみとなり日本の社交上には少しも其勢力を伸ばす能はざるならん若し今日に於て布教の方法を改めざるに於ては假令ひ幾年間日本に在りて傳道に力を盡すも中等以上の社會に基督教の勢力を伸ぶること思ひも寄らで余は本國に歸る以上は此事を以て普ねく宗教社會の注意を喚起せんと欲す云々宗教社會の事固より俗人の知り得べき所ならねど外人にして此等の點に着眼したるは機敏の觀察として不可なかるべき歟

○大御心……仰ぎ奉る兩陛下の御仁心

今上陛下御製

冬ふかきねやのふすまをかさねても
おもふは賤か夜さむなりけり

皇后陛下御製

あやにしきとりかさねてもおもふかな
寒さおほはむ袖もなき身を

○普通教育に關する文部大臣の意見中修身道德につひての片言拔萃

前畧

小學校に於ては德性を涵養し人道を實踐せしむるを以て第一の主眼とし殊に尊王愛國の志氣を發揚し兒童をして實業を勵み素行を修め忠良の民たらしめんことを務むべし云々

又曰

小學校の修身は教育に關する勅語の旨趣を奉體し本邦固有の道を基礎として萬國普通の事理を酌量し躬行實踐を務め常に社會全般の德義に背くことなきを期すべし云々

○震災救助義捐金全國諸新聞の募集額（十一月廿六日の調査）

但し表中に地方新聞の漏れたる向あり

新聞名	金額
時事新報	金二萬四千六百九圓
朝野新聞	金一萬二千七十四圓
讀賣新聞	金五千五百四十五圓
都新聞	金五千百七十一圓
日々新聞	金四千百三十四圓
改進新聞	金二千百七十五圓
每日新聞	金千六百九十六圓
國會朝日	金二千六百八十圓
東京新報	金九百十四圓
國民新聞	金七百二十四圓
經世新報	計不明
やまと新聞	仝
橫濱貿易	金五千五百九十三圓
大坂朝日	金一萬八千七百八十八圓
大坂每日	金五千圓餘
大坂日々	金四百二十九圓
神戸又新	金三千百〇七圓
伊勢新聞	金二千百八十六圓
三重新聞	金千六百六十一圓
新愛知	金八百三十六圓
金城新報	金千百二十圓
甲府新聞	金八十九圓
山梨日々	金四十五圓
靜岡大務・靜岡民有・靜岡日報	金千三百九十三圓
東海日報	計不明
近江新報	金千九百六十七圓
岐阜日々	金千七百六十六圓
信濃每日	金五百九十六圓
上毛新聞	計不明
下野新聞	計不明

新聞名	金額
茨城日報	金三百卅五圓
福島新聞	金一千圓
巖手公報	金五百八十七圓
高田新聞	計不明
奥羽日々	計不明
秋田日々	金百三十四圓
莊內新報	金七百十六圓
新潟新聞	金千百一圓
東北日報	計不明
山形日報	金九十二圓
山形自由	金百六十圓
越佐新聞	金二百十四圓
北陸自由	計不明
若越自由	仝
北陸新報	金千二十圓
北海道每日	金五百四十四圓
函館新聞	金四百七十八圓
北海	金千六百十六圓
和歌山日々	計不明
藝備日々	金七百五圓
防長新聞	金千六百五十六圓
馬關新報	金五百十七圓
高知日報	金百五十六圓
土陽新聞	金三百八十四圓
九州自由	金百八十九圓
肥筑日報	計不明
長崎新聞	計不明
鎭西日報	計不明
宮崎新報	金百七十六圓
豐州新報	金百二圓
熊本新聞	金百十七圓

◎合計金拾壹萬五千五百〇三圓

○新潟感化院の設立計畫

竹內僕鄉氏は向きに新潟感化院設立計畫を起し過般來上京して頻りに北越出身の人々を訪問して賛成を求めたるに一昨日迄同意を表したる人々は前島密、石黒忠悳、三間正弘、銀林綱男、大倉喜八郎、梅浦精一、高田愼藏等の諸氏にて尙ほ楠本正隆、永山盛輝、篠崎五郎の諸氏にも大に此擧を替成し一臂の力を添ふべしと約せし由

○鳴動の原因

此一篇は非職理科大學敎授理學博士關谷清景氏より官報へ揭載の目的を以て帝國大學總長へ宛て差出したるものなり

此度大地震ありし美濃尾張地方にては小震猶ほ止まざる上に種々なる鳴動を發し時々遠雷の如き響ありて殊に其原因の明かならざるより或は何々山の鳴動ならんなどゝ臆測を下し擅に流言する輩あるが爲めに該地方の人々は一層氣味惡く思ひて恐れを抱く者尠なからざれば予は學理上鳴動の理由を平易に說明し右鳴動は必しも大地震の前兆にあらず又山の鳴動にもあらざる所以を一言せんとす

抑も鳴動は小地震の時及其前後には往々あるものにして殊に其前に發するものは最も人々の注意戒心するところなり又大地震ありし後は鳴動斷へずあるものにして彼の安政の大地震後鳴動の續きしことは古老の傳ふる所によりて明かなり又先年熊本大地震の際にも予は同地に出張して親しく之を實驗したり是れ獨り我國のみならず歐米各國に於ても其例證は枚擧に遑あらざる

なり
此の鳴動の原因には種々ありて地水が地熱の爲めに蒸氣に變じ再び凝結する時には烈しき地響を發することあり然れども是等は主として火山又は温泉ある地方にあるものなるに今回の地震は火山及温泉に關係なきに似たれば此種の原因にあらざるべきを以て今玆に述べず
左れば今回鳴動の重なる原因を考ふるに第一地震の時には地盤は勿論地上の家屋草木より其他の萬物に至るまで悉く振蕩せらるゝを以て其響き總合して一大鳴動となることと是れ一の原因なるべく又地震の時地中にて岩石の破壞せんとし相摩擦するより爲めに響を發することあり是亦一の原因なるべし
又鳴動の重なる原因として近來學者の唱ふる所は地震の時殊に其前に當りて發する地盤の微動が音響に變じ空中に傳わりて吾人の耳に達するものなりと云ふにあり尤も總て微小なる震動は其回數多く從て其音響を發することも却て震動の大なるものより著しきものなれば此細微なる震動こそ鳴動の重なる原因なるべしとは殆んど確定せられたるものゝ如し次に地震の前に何故に鳴動するかの理由を述べんに抑々地震の波動は其傳播することの迅速なることは人の能く知る所なり然るに吾人が感ぜざる程の細微なる震動(即ち最多く鳴動を發するもの)は吾人に感ずべき大なる震動よりも傳播速度の早きものなり今假りに一地方に地震ありとせんに吾人に先づ達するは細微なる震動なるが故に始めには鳴動を聞き次に震動を感するなり又大地震の際其震源に近き地方ほど鳴動の頻繁なるものにして此處にては地盤は多く上下に動くものとす而して此上下動は微にして急なれば音響を發するに却て有力なりとの説あり昨今濃尾地方に於ては一旦破壞せし地層の舊位に復し又其地位を整頓せん爲め彼地此地に地下の動搖あるが故に小地震を生じ以て前述の鳴動原因となることなるべし
鳴動のみありて地震せざることあり又地震のみありて鳴動を聞かざることもあり之れには各其理由の存するものなれども繁雜を厭ひ玆に述べす
前述の次第なれば目下の鳴動は必ずしも大地震の前兆にあらず又山の鳴動にもあらざることを知るべし玆に注意すべきは大地震の後人々何れも怖氣のある際なれば所謂風聲鶴唳の譬の如く風の音物の響きにも地鳴なりと思ひ頻りに恐怖するは免れざる所にして先年磐梯山破裂の時又熊本大地震の際にも此事ありしは予の親しく知る所なるを以て此際人々の注意を望む所なり
今般の地震に係り本學に於て記錄編纂を要し候理由問目左の通有之候條甚御手數の至りに候へ共公益の爲め可成廣く報告書送附相成候樣御配慮御取扱被下度此段及御依賴候也

明治廿四年十一月

帝國大學總長文學博士　加藤弘之

日本ゆにてりあん弘道會御中

追て本文報告書は理科大學宛送附候樣御取計相成度候也

帝國大學に於ては今回濃尾越地方の地震に就き成る可き丈け充分なる記録を蒐集編纂せんと欲す其理由左の如し

（一）地震中起る所の種々の現象を知るときは大に地震の性質を明かにして學術上の碑益少なからす而も將來之を豫知するの方法を講するの助ともなるべし

（二）其家屋、橋梁、道路、鐵道、堤防等に及ほしたる影響は大に建築法に關係あり之を一躰に纏め一覽に便ならしむるは工學者は勿論一般公衆の爲め大なる便利となるべく又將來地震の害を免かるへき建築法考案の參考とも成るべきなり

依りて左に此等に關する諸問目を列記し廣く答案を求め以て右記録編纂の材料に供せんと欲す答案は震災甚しき地方は勿論他の地方の如き震動の有無多少等も亦參考と成るものなり故に左記の問目は成る可く充分なる答案を希望すと雖とも若し然ること能はざる向は僅々二三點にても亦之を報せられ度且是等の問目中に記せざることにても總て異狀と認めたる事項は大小を論せす報告あり度又は更に此等の問目に係はらず見聞の記を送附あらんことを希望す

（一）觀測の場所及答案者の住所姓名

（二）震動の時刻　若し震動數回なれば各回の時刻

（三）震動の時間

（四）震動の方向

（五）地上に波浪狀の震動ありしや若し有りたれば震動の高低、長短及方向

（六）家屋其他石燈籠、石塔等動搖及轉倒の方向

（七）若し抛出されたる物品あらば幾何の高さ幾何の距離に抛けられしや

（八）湖、池或は井の水に波動ありしや若し有りたれば其波動の高さ長さ方向及其湖池等の形狀、方向、周圍

（九）若し石碑の臺石等移動せしものあれば左圖の如く原位置（イロハニ）を黒線にて　震動後の位置を點線にて示されんことを要す

（イロ）　或は

（ロハ）の方角

（十）　最激震の前に微動又は鳴動ありしや鳴動は如何なる響にて何れの方角より來りしと考へられしや

（十一）　街路に家屋の倒れしものあれば其街路の方向及顚覆の方向

（十二）　市街又は村落の地形、地質乃ち平地、山地、粘土、岩石等

（十三）　近傍の河流又は溪谷位置の畧圖

（十四）　土地の隆起、陷沒及斷裂を記せし畧圖

（十五）　地面斷裂の長さ、幅、深さ及方向

（十六）　築堤の崩壞せしもの有りや

（十七）　井水に異變ありしや水或は泥砂等噴出せしや又水質或は水量に變動を生せしや

（十八）　泉水に異變ありしや又は新に湧出せしものありや

（十八）　河流の水量變せしや

（二十）　斷裂より水、泥、砂、蒸氣等其他何物をか噴出せしことありや

（廿一）　牛、馬、犬、猫、家禽等の樣子感覺

（廿二）　海岸にて激浪起りしや又船舶に損害有りしや

（廿三）　航海中の船に異狀ありしや

（廿四）　震動の前兆とすべきもの有りしや

右の件々成るべく圖面を以て說明せられんことを希望す、

帝　國　大　學

彙　報

○宇宙神敎々會

●麴町區飯田町四丁目五番地の宇宙神敎中央會堂に於ては每日曜日午前八時半より日曜學校を開き同時に青年者の爲めにも聖書を講義し十時より定例の說敎あり又午後七時よりも簡單の演說ありとい云ふ其他每月第二及第四の木曜日には午後七時より通俗的談話祈禱會を催す由に付有志者は每會出席せらるべし、

●同敎會のドクトル、ペリン及吉村秀藏の兩氏は去月十九日仙臺へ出張し三日間說敎を爲せしが聽衆尠からず且つ散會後も續々質問に來る者夥しく皆頗る自由派の基督敎に贊成の意を表したりと云ふ將來頗る望を屬すべき者あり遠からず同敎會の支部を設くる由、

●同敎會は今春以來靜岡市に一支會を設け相良氏之に在勤し熱心布敎に從事せり、

●宇宙神敎々會の保護に依りて發兌する自由基督敎は既に第四號に達し來年よりは一層紙面を改良する由なほ其中に每週新聞と爲すの計畫あり同敎會の神學校には當時七八名の生徒あれども冬期には尙ほ增員すべし會員の數は當時中央會堂に二十餘人靜岡に十五六人仙台に二八ありと云ふ、

○普及福音教會

●本郷區壹岐殿坂の壹岐坂會堂にては十月卅一日午後一時より四年紀念祭を催されたり來客滿堂殆んど椅子一脚も餘さずシュミーデル氏ムンチンゲル氏三並良氏丸山通一氏及クレー、マッコレー氏(當時の演説は本號に載せてあり)等演説さる實に近來の盛會なり又當教會は專らムンチンゲル氏説教を負擔せられ毎日曜日午前十時及午後六時に説教あり水曜日には午後三時よりムンチンゲル氏の自宅にて講義等ありといふ

●丸山通一氏は震災救助の爲めに大に計畫する處ありて先き頃衣服金圓の募集に力を盡し居られしが去月廿日金圓衣服を提へて震地に赴かれたり凡そ二週間をも經は歸京さるゝといふ(氏の炯々たる眼光が災餘の瘦影に觸るゝの日は或は美擧の出づるの時？)

○ゆにてりあん協會

●京橋區加賀町八番地惟一舘に於て今月中旬より連夜の説教演説會を開かるゝといふ嚴冬肅々獨り松柏の凋むに後るゝの時特にこの時を撰んで活潑の運動を始めんと計畫さるゝ由

●神田錦町二丁目六番地に新設せられたる講義所は未た數十日を經ずして狹隘を告ぐるに到れりウヰリヤム、アイ、ローレンス氏の盡力麻生繁雄氏の補助に由りてこの所に運動さる去月廿六日には「アメリカに於けるユニテリアン教」の題にて三好太郎氏の演説あり又今月三日には「基督教とは何ぞや」の題にて三並良氏の演説ありたり共に聽衆滿場にて盛會といふべし又來る十日には午後七時より當所に於ひて「ジョン、スチュアートミルの傳を讀みて感あり」といへる題にて慶應義塾大學教授ドロッパー氏の演説あり

●其他クレー、マッコレー氏自宅に於ひて毎日曜日午前九時より集會あり又同日午後三時より麴町區上六番町廿番地講義所にて高田太郎氏の説教あり、

○本郷會堂學術講談會

この會の目的は學問上有益なる智識を普及するにありと其會場は本郷區東竹町卅五番地本郷會堂の由會主は横井時雄氏なり其人名と會日は左の如し

會日	演題	講師
十二月五日午後六時半	演題未定	文學博士 元良勇次郎君
	生物界	理學博士 箕作佳吉君
十二月十二日午後六時半	先哲スピノザの性行	文學士 大西祝君
	王陽明の學を論ず	文學博士 井上哲次郎君
一月十六日午後六時半	道德と法律との關係	法律學士 寺尾亨君
	演題未定	德富猪一郎君
一月廿三日午後六時半	佛教の二大眼目	村上專精君
	現今倫理上の問題	植村正久君
一月三十日午後六時半	歷史談	田口卯吉君
	演題未定	法學博士 和田垣謙三君

○大日本進德會　東京芝區新堀町三十一番地に進德會假事務所あり

この會の目的は左の十二德を修めん事を期し天は自ら助くるものを助くの旨を實行するにありと

克己、愼言、順序、確志、節儉、勤勞、誠實、公義、溫和、淸潔、謙遜、仁愛、

社説

ユニテリアン教は如何なる意味に於て基督教なりや

クレイ、マコッテレー

宗教の讀者は知るなるべしユニテリアン教は亞米利加ユ教徒の派出したる代表者によりて日本國人に捧げられたるものなるを又此代表者は自ら基督教信者と稱しユニテリアン教を以て基督教の一形狀(フォーム)なりと爲すものなるを然れども余輩は又た同時に宣言して云へり余輩の目的は日本人民をして合理的宗教を發達せしむるにあり宗教の敎權として採用すべきは獨り合理科學の眞理にありと是に於てか頗に疑を挾み質問を試むるものあり曰く若しユニテリアン教を以て基督教の一形狀なりと爲さば何ぞ合理科學の眞理にのみ教導せられ其思想全く自由なりと云を得ん曰く若し之に反しユニテリアン教を以て單に合理科學の眞理のみによりて教導せらるゝとなさば余輩何ぞ之を基督教の一形狀なりと云を得んと余輩斯の如き疑問の起るを悦ぶものなり何となれば是れ宗教の一大運動たるユニテリアン教に就きて余輩の常に懷抱する所の意見を吐露するの機會を與ればなり余輩は亞米利加ユニテリアン教の代表者なり余輩は自己の意見を吐露し日本人民をして誤解の不幸に陷らざらしめんことを希望するものなり余の悦んで茲に答辯を試むる豈に他あらんや、

歷史上より之を論ぜばユニテリアン教は基督教内に成立し基督教信者中に起りたる自由思想の運動にして其初世に於ては唯自己の意見によりて新舊約書を研究するを以て無上の自由となし如何なる自由思想も之に勝る能はずと思へり換言すれは初世のユニテリアン教徒は單に羅馬加特力の教權を脫し若くは新教徒の信條を離れんが爲めに起りしものにして實に今を去る二百年以前にありしなり彼等の事業は今日より之を見れは寔に容易なるが如しと雖とも當時の時勢を追懷せば我等

祖先の勇氣と豪膽とを想像するに足らん實にユニテリアン教徒の數千人は新舊約書を解するの思想自由なりとて羅馬加特力教會及び新教會の爲に入牢せられ若しくは殺害せられたり是れ新教改革の初まりしより一百年間の出來事にしてユニテリアン教徒が三位一躰説は眞理にあらずナザレスのヂーザスは人類なりと歐洲に於て放言するを得るに至りしは今世紀の賜なり然り基督教國の政府がユニテリアン教を承認して一箇獨立の宗教團躰と爲すに至りしは今世紀にありしなり

ユニテリアン教のアメリカに於て別箇の團躰を爲せしは八十年以前にして其實際はルーテル及びカルヴ井ンの舊改革に逆つて新改革を組織せしなり彼等は尚ほ舊新約書に特種の權力特種の感應あるを信じ之を他書の上に置きしも信條を造りて彼我同胞の思想及良心を束縛するを欲せざりき是れチャンニングが牛耳を取りし時代なり、彼等は西洋紀元一千八百二十五年亞米利加ユニテリアン協會を組織し自由の思想を束縛する勿らんを欲し其目的を宣言して單に「純正基督教の智識を擴張するにあり」と云へり蓋し其意充分に思想の自由を許し基督教の定義は各人の自ら正當なりと信ずる所に從ひ之を爲すに任ぜしなり余輩今日より之を回想すれば當時に於て彼等の取りし位置は最も完全なるものなりと信ず

初世のユニテリアン教は斯の如く新舊約書を以て其教導と爲し若くは爲んとせしも其實彼等は聖書に依頼せしよりも寧ろ人道に依頼せしものなるは歷史上甚だ明瞭なりユニテリアン教は其主義を明言せざるも冥々の中に左の基本主義あり、（一）道理の優秀にして能力あること、（二）人性其自身の尊信すべきこと、（三）互に他説を寛容すること、是なり其主義とする所既に斯の如し宜なり漸次に成長發達するや既に成長發達す宜なり其一たび尊信せし所のものも時勢に後るゝものは多く背後に殘さるゝに至りしや

此成長は層一層を加へ五十年前に至りユニテリアン教徒は舊新約書を批評し自然の道理に合し自然の權利に一致せざるものを取りて不可思議の天啓となし特種の

教權を有するものとなすの不可なるを主張せりラルフワルダー、エマソン及びセオドル、パーカーは其先導者なり漸次に凡てのユニテリアン教徒は此説を採用し其宗教信仰に於て文明の道理に依頼するを以て新基礎となし信條を用ひず之を以て事業の神髓となすに同意せり其然り今日余輩は左の如く斷言するを得るなり曰くユニテリアン教徒は宗教に於て自由思想に信據するものなり、ユニテリアン教徒は其思想至る所に自由にして恐るゝ所のものは唯奴隷的精神を造るにあるなり

ユニテリアン教の歴史に於て最も愉快なるものは米國ユニテリアン大會決議の規則によりて精神上の進歩を觀察するにあり初世のアメリカ、ユニテリアン協會は「純正基督教」の智識を擴張するの目的に向て讓與されたる大金を保管せんが爲めに結合したる團躰なり故に此團躰の條項を變換せんと欲せば基本金の幾分を失はざるべからず然れどもユニテリアン教徒の眼光より之を見ば「純正基督教」なる句は漸次に變遷し今日に於ては耶蘇基督を以て上帝の天父たると及び人類の同胞たるとを教ふるものと普通的に尊信するものなり而して此二者は普及倫理及び普及宗教と異名同義を爲し信實に上帝を尊崇し人類を愛するものは皆其中に包括せらるゝを得るものなりユニテリアン教徒の主張する所斯の如く濶大なり然れども前に論ぜし如く彼等は「純正基督教」なる句に定義を與ふるを欲せず正實にユニテリアン教を擴張せんとする者をして各自其欲する所に從ひ定義を付せしなり然れどもアメリカ國民大會の規則を一見せば以て漸次に思想發達の要を知るを得ん請ふ余輩をして其有益なる教訓を聽かしめよ

今を距る二十六年前に國民大會を組織し代表者の過半數は其規則として左の如く決議せり

緒言此時に當り基督教の勞力を要し基督教の修稜を求むるの機會と請求とは漸次其數を增し主エスキリストの諸弟子たる余輩をして其責任益々重きを感ぜしむ余輩は克己により生命を上帝に奉歸し以て神子の王國を建設せん

然るに教會員の少數者は以爲らく是れ人の精神自由を

妨害し實際上信條を作爲しつゝあるなりと故に爭議の後他項を加へて緒言に述べたる神學的性質を消磨し基督教の從者に充分の自由思想を承認せり其文に曰く

第九條　余輩は再び耶蘇基督の福音に忠實なるを確言し精神上の最大合一と實際上の最廣共働とを圖らんが爲め茲に其誰たるを問わず苟も基督の從者たらんとを希望するの諸子は皆之を敎友(フェローース)に誘ふものなり、

其說く所斯の如く自由なり然れども尙ほ未だ自由を愛するの敎會に應せず何となれば是れ明に基督信仰者のみに敎友を制限しユニテリアン敎運動の精神に反對すればなり是に於てかユニテリアン敎の試驗石として信條らしきものを全く除去し其陰影をも殘さゞらしめんが爲め數年前の大會は左の條を追加せり

第十條　ユニテリアン規則の緒言及び諸條項は素より敎會過半數の說を表明するものなるも余輩は尙ほ明に宣言せんとす曰く此等の規則は決してユニテリアン敎の敎權的試驗石にあらず其企圖と實行的主眼との大躰に於て同情を表する者は其信仰異なりと雖とも之を敎友外に除去するの云にあらざるなり。

斯くしてユニテリアン敎敎友は其國民集會に於て全く自由となれり勿論ユニテリアン敎は常に宗敎思想の發達に伴ふて進步したりしも第十條は之れを世界唯一の眞正なる自由宗敎團躰と爲せり故にユニテリアン敎の「基督敎」たる所以は唯基督敎を以て宗敎中の最高者なりと認定するユニテリアン敎徒の自ら之を解釋するにあるのみ、ユニテリアン敎は他の宗敎を以て其自身の眞價なりとなすものなり去れば佛者たり儒者たり火敎徒たり回々敎徒たり猶太敎徒たるを問はず宗敎的の眞誠と生活とを求めんと欲するものは喜んで之を欵待するものなり否苟も至眞と正義とを愛する者は皆來りて我敎友たるを得るものなり。

以上論する所未だ以て我意を盡すに足らず、余輩は左の如く明言するを得べし

「宗敎を分ちて彼と云ひ此と云ふも之を宗敎其自身と比較せば何かあらん至眞を愛する者は其何人たるを問わず、至善に生活するものは其何人たるを問は

ず皆廣濶の意味に於て余輩宗教者の仲間なり余輩に優りて人を愛し余輩に勝りて他人を生活せしむるものあらば此皆我が師なり何ぞ教會の何如を問はん時代の何如を問はん余輩の教會豈廣濶ならずや余輩の教師豈許多ならずや余輩の聖書豈偉大ならずや」

余輩は之に附加して云はんとす余輩の人民は自ら「自由基督教徒」或は「基督教徒」或は「有神論者」と稱せり而して此等の名目は總て余輩に取りて甲乙なく同一の價値を有する者なり若し其一をして悉く他を排除するあらば否濶大包容の名目「宗教」を除去するあらば其自身も亦た自ら云ふに足らざる者とならん然れども余輩は大に基督教なる大名詞を愛し之を用ゐざらんと欲するも能はざるなり何となれば此名詞は余輩に多くの希望を與へ余輩の考慮中に存する最深最廣の宗教思想なればなり余輩は羅馬加特力教若しくは正統新教徒をして基督教なる名目を用ひ單に之を法王の宣告若くは新舊約書の教權に制限せしむる如きは之を許容せざるものなり余輩は自ら信ず基督教信者なり然れども余輩は至眞を取るに場所を擇ばざるなり名目を選ばざるなり余輩は信ずナザレスの耶蘇にして今生存せば余輩と同一の位置に立つものなるを彼れ謂はずや凡ての法則も凡ての預言者も皆上帝を愛し人類を愛するの中に包含せらるべしと此の如きの人は其精神に於て今日ユニテリアン教徒と異なるなきなり

尙ほ一歩を進めて之を論ぜんにユニテリアン教は一層其事業を進め哲學科學の有益なる至眞を採用し之を宗教上の目的に應用しつゝあるは凡ての證明する所なり其れ然りユニテリアン教は急速の進歩を以て近世科學時代の宗教となりつゝあるなり科學的倫理、科學的歷史、科學的哲學、科學的神學、此等は皆ユニテリアン教眞理の愛に同情を表するものなりユニテリアン教の先導者エヴエレット　マルチノー　ヘール　サヴエーヂ　バチエロー　ガンチット及びチッファニー等は宗教を世界的、科學的、哲學的に解明したるものゝ最も著しき例證なり

ユニテリアン教徒の主義斯の如しされば新に日本に來

りたりとて其目的決して既に成立する所の宗教の信仰を破壞し日本人民に向つて或教會若くは或書籍を以て教權となすの思想を取りて之を嵌入するにあらざるなり余輩は日本國民の道理的生活を愛重し日本國土の尤も熱心なるものと共に眞を得、眞の外何者をも得ざらんとを希ひ正義の最も高尚なる法則を確定せんとを願ふものなり

勿論余輩は我説の悉く日本國民に容れらるゝを望むものにあらず然れども余輩は日本人民と共に明白なる眞實と純清なる正義とに向て共働せんとを希望するものなり余輩は既に述べたる如く亞米利加ユニテリアン協會を代表し余輩の意味する基督教に於て尤も滿足なる信仰を見出すものなり余輩は信ず日本人民にして正當に基督教なる意味を理解せば彼等の宗教上の要求に最も高尚なる滿足を與ふべきを然とも余輩は我共働者に向て必ず基督教信者と稱せざるべからずと云ふにあらざるなり日本人民は必らず儒教徒若くは佛教徒と稱する自個の宗教的口碑を有すべし此等の信仰に於て信實のものあらば之を保存し一層之を純清にし一層之を尊重すべし然り妄信は不可なり凡ての信仰は之を道理と科學との試驗石に照らし其試驗により正當滿足のものあらば之を取りて未來の宗教生活の基礎と爲すべし

以上論ずるが如しと雖どもユニテリアン使節は其方針決して從前と異なるなきなり、換言せばユニテリアン教は基督教の(上に述べたる濶大の意味に於て)一運動なり然れども世界進步的科學哲學の眞理にして之に關係するものあらば皆之を吸收して殘さゞるなり是れ余輩が一方に於て基督教を唱へ他方に於ては道理を云ふも決して矛盾せざる所以なり是れ余輩が一方に於ては信仰を持し他方に於ては自由を呼ふも決して衝突せざる所以なり

ドクトル、チヤンニング曰く「精神は眞の源泉なり余は如何なる書籍も上帝の意志を表明せるものなるを信ず、余は一層固く合理的本性は上帝より來るものなるを信ず汝の合理的本性を害ふなかれ何人たるを問はず道理に矛盾する所の教理を許容する者は既に眞と虛と

の境界を破り其心をして容易に夢想の奴隷たらしむるものなり

ハーヴァード神學校の奉獻式に於てドクトル、チャンニング云へらく余輩は自由討究に向て此等の諸壁を獻するものなり願くは茲に天空の自由の氣をして流通せしめよ願くは茲に天空の淸明の光をして輝かしめよ願くは此校より出づるものをして前方に進ましめよ信條をして汝の微弱なる精神を束縛せしむる勿れ汝の豪膽なる聲調を以て自由討究の結果たる眞と自認とを明言し上帝の至眞を世界に表白せよ

我がユニテリアン教の基督教にして合理なる所以は實に此精神なり此二者の相背反せざるは倘ほ太陽と日光との相離るべからざるが如し夫れ余輩を保持する所の者は精神なり文字にあらざるなり余輩は世界の人類悉く基督教の名目を持せざるも此精神を保有するの日來らん事を熱望するものなり否余輩は日本の美土に於て佛教徒も孔子教徒も基督教徒も共に天父なる宇宙の上帝を愛し同胞なる凡ての人類を愛し凡て其道理心と感情とによりて完全なる眞實と正義とを確認し共に與に一大結合する時の一日も早からん事を希望するものなり。

論林

自由神學は人の感情と意思とに如何なる關係を有する歟

ウヰリアム、アイ、ローレンス

余輩は前號に於て永久に存在すべき宗教は人の感情思想及意志を滿足せしめざる可らざるを說き自由神學と自由思想との關係を詳論したり今若し自由神學にして諸人の感情を刺激し意志を奮起せしむるものなりとせば他の宗教は時勢に後れ退歩するの時に當り自由神學を應用するの宗教のみ嶄然頭角を露し思想厚く感情深く意志剛き諸人の宗教として永存するや明なり

今自由神學の感情及び意志に關係する所以を詳論せんとするに當り兩者を同時に併論すると最便利なるが如

し何んとなれば之を實驗に徵するに兩者の關係最も密着にして分離し難きものあればなり吾人の動作は思想より生ずるか感情より發するか余輩竊に以爲らく最も直接の關係あるものは後者なり假令ひ思想の論結如何に善美なるも能く之を活動せしむるものは獨り感情の發動あるのみ

然らば自由神學は果して如何なる關係を感情、及び意志に有するか之に答ふるに當り吾人の感情及動作を分ちて三類となし別々に之を論究すべし即ち自己に關するもの他人に關するもの及び上帝に關するもの是れなり。

〔第一〕自由神學と感情及動作との關係は余輩自身に如何なる關係あるかを論ぜん、夫れ人は自己に對して如何に感じ如何に働くものなるか之に答ふるに甲乙二樣の極端論あり、甲論者は自己を以て感情及動作の中心點となし自己の利益にのみ過重を置くものあり、乙論者は之に反して自身一箇の感情及要求を輕んじ之に頓着せざるものなり然れども此二者豈其當を得たるものならんや余輩は自己の身體を保養し健康を失ふなからんを要す、余輩は自己の思想に注意し常に之を發達せしむるを要す余輩は自己の精神上德義上の品性を養成し一層善良幸福ならん事を要す因是觀之ば自由基督教の教義は一方に於て利己主義の過重を矯正し他方に於て意己（セルフチグレクト）主義の極端に走るを避けしめ健全なる自利を進捗せしむるものなるや明なり

自由神學を應用するの基督教と他の基督教とは其教義の異なる所少々に非ず然ども其最も異にして最も隔離したるの説は人性の教理にあるなり余輩の意見に依れば基督教は人類を以て創造の最も高尙なる働きとなすものなり人を以て神の肖像となし神子と爲すものなり人を以て古代の純淸を失ひしものと爲さず漸次高尙に進歩しつゝありと爲すものなり今日の人を以て古人よりも一層善良に一層智慧に一層純粹なりと爲すものなり人を以て古代より今日に至る迄決して慈愛なる上帝の不快を買ひしことありと爲さざるものなり人を以て不完全のものと爲すなり然れども彼の不完全を以て墮

落に歸せず後日に完全すべき中途にありと爲すものなり人類には獸性と神性と相混し最下のものと最高のものと相交れりとなすものなり上帝は無上なるが故に神性勝利を占め人類は遂に高貴の性質を得るとなすものなり凡ての宗教に獸性と神性との抗論あらざるはなし

人類は時に獸欲に利せられ遂に罪過の途に迷ふ事あり然れども何人も決して其途に拋棄せらるゝものにあらず上帝の愛は彼を監督し内心の神性は彼をして全く罪過の中に埋沒せしめざるなり否此の如きあらば上帝は其計畫に於て失敗したるなり換言せば上帝は大自在力なきなり然れども設令ひ全く罪過に陷らずとなすも多くの精神は迷の中にあるものにして罪過は實に生命の悲哀なり然り而して一たび惡路に迷ひし者は再び舊路を追跡して正路に復する者なり是れ自由神學を以て救助の道途を容易にするものと誤解せるの人に向つて最も重要なりとす余輩の意見に於て爲惡は人性に害を與へ之を敗壞するものなり毎日惡事に時を送るは即ち每日道德力を消耗するなり此等の道德力は之を再得せざるべからず悲哀に於て苦痛に於て屈伏に於て如何なる迷ひの精神も皆其本を追跡せざるはなし何となれば罪過は後悔なればなり每日消耗せし道德力は苦痛の中に之を集むるものなればなり此れ自由基督敎徒の人類に關する持說なり此說は吾人をして如何に感し何如に働かしむるの傾向を有する？

此の如きの敎訓は利己主義の過重を制し怠己主義の極端を治し遺憾なからしむ余輩にして能く罪過に抗するあらば此れ自己に非常の價値を與ふるものなり自由神學の罪過を恐るゝ他の基督敎の比にあらず此れ神聖なるべき靈の所爲なればなり神子たるべき者の所爲なればなり神純なるべき者汚穢に陷ればなり罪過は恐るべし何となれば後悔來ればなり余輩は未だ罪過の人直に純淸となるの法あるを聞かず其爲せしは急遽の間にありしなるべし然れ共其品性は漸次に消耗せり故に又漸次に復せざるべからず何人か能く爲す可らざるの事を爲さゞりしか何人か能く充分に義務を盡せりと思ふを得る？人恐らくは罪過の半を忘失し現在の不完全は眞

心を刺激せざるなるべし然ども余輩は信ず人は一日神聖に達すべきの時あり然らば則ち何如なる罪過も之に抵抗して後悔の實を表し如何なる不完全も之を修正して回復の誠を現さゞるべからず此の如きの説を有するもの豈感情に不滿を與ふるの空地あらんや動作に不足を生ずるの缺乏あらんや然ども是れ利己の極端を制せしのみ其意己失望の過度を抑ゆるに至りては人は罪過ありと雖ども上帝の子なり彼の「罪は緋のごとくなるも雪の如く白くなり紅の如く赤くも羊の毛の如く」なるべし何ぞ失望するを要せん彼の內心に死すべからざるの原子あり彼の上には勝つべからざるの愛ありて存す

人曰く六ケ敷とはなかるべし然れども出來ざるを如何んせんと自由基督敎徒は曰く常に先進の希望を有する者には出來ざる事なし最下等の人類も純潔となるを得べく最も頑固なる悪德も勝服せらるゝを得べし靈に對する上帝の言は今日も未だ嘗て以賽亞に來りしと異なるなし彼云はずや「おそるゝなかれ我爾と共にあり驚くなかれ我爾の神なり我れ爾を強くせん誠に爾を助けん誠にわが直しき右手は爾を支へん。

斯の如く吾人に健全合理の利益を與へ安固と働力とを結合せしむるものは自由神學以外何れの處にか之を發見するを得る人に活力を與ふるの條件を備ふるもの自由基督敎以外何れの處にか之を見出すを得る自由神學は斯の如く感情と意志とに特種の援助を與ふるものなり他の敎訓にして猶強大なる情緒を喚起するものあるべし然れども余輩は茲に情緒の强大を以て誇るものにあらず吾人に關して健全なる感情と行爲とを以て最良と爲すものなり。

［第二］他人に對する感情及び意志に於ても亦た上に述べたる者を適用するを得べし人を以て生(ウマレ)ながら上帝の子と爲すの敎は特に人類尊敬の念を起し人類の爲めに勞し人類の爲めに働くの心を發せしむ人をして唯獸類ならしめば人をして墮落のものたらしめ人をして上帝の怒りの下にあらしめば人類は恐るべきものなり卑しむべきものなり何ぞ彼の爲めに勞するの志を起さん余

輩の他人に誘引せらるゝ所以は恭敬と憐憫との二働力あればなり人は上帝の子なるを教へよ是れ彼を尊貴にするなり人の誰たるを問はず設令ひ其智力劣り徳性下ると爲も此教によりて恭敬の價値彼の上に來るや明なり彼は不朽の靈なり彼は無窮の上帝の愛子なり彼は高尚に進むべき運命を有せりされば獸欲に陷りたる靈も純潔となり賞讃の位置を得べきなり自由基督教の説く所に依れば各人の靈斯の如く純潔にして最後の勝利となるべき希望斯の如く大なり是れ豈人の喜悅を喚起し高遠の志を覺さしむる者にあらずや然り人は上帝の子なり光榮の相續者なり然とも人は亦罪惡の奴隷なり之に達する豈容易ならんや人にして唯一個の動物ならしめば彼の罪惡は異とするに足らず然ども人をして高尚の者なりとせば其罪過は如何計り彼の本性に影響を與ふべき? 余輩は人靈の高尚あるを信ず故に之に向て恭敬を表するものなり余輩は此高尚なる人靈の惡路に陷りしを知る故に之に向て憐憫の意を表するものなりされば自由神學の位置は特に恭敬の心、憐憫の心を起さしめ他人の爲に働かしむるものなり他の教にして他の感情を勵ます一層強大なるものあるべし然れども茲に述べたる感情は最も有益にして他人を助くるに最も活潑なるものなり自由宗教徒の常に道德の改良を計り慈惠の事業に於て教導者なりしは豈偶然ならんや然るに世人或は自由宗教徒の所爲此の如きを見彼等が大に道德及び哲學の進捗に力を致を見、之に向て批評を試み現世の事業にのみ注意し他人をのみ助くるとなせり然とも此の批難は決して恥辱とするに足らざるなり彼等の常に教導者たりしは世上に信用あるの證跡なり余輩が茲に表出せし所のものは唯此思想を實際的に説明せしのみにして自由神學は他人を助くるに最も健全なる感情を興起し教育、哲學、其他の道德的改良を奬勵するに最も適切なる働作を呼び出すものなる事を明にせしに過ぎざるなり。

〔第三〕余輩は今一歩を進めて自由神學は正情を發し上帝に對して禮拜を勵ますものなるを明にせん然とも紙數限りあり之を詳論するは甚だ難し請ふ之を二項に分

ちて說かん曰く自由神學は上帝の思想に於て敬畏の感覺を與ふるものなり余輩は宇宙を以て上帝の一部の表顯と爲すものなりされば廣漠たる空間と諸星天の高大なる軌道とを思ひ其威權と勢力とを考へば敬畏せざらんと欲するも豈に得べけんや凡百の科學上の結果を網羅するも是れ上帝を知るの一便宜たるに過ぎざるなり從來の神學は既に充分に上帝を知り彼れと人との關係をも曉り盡せりとなし高言以て其神學に汚點を付せり余輩が上帝に關するの記述甚だ簡單にして他の宗敎家の如く緻密ならず獨斷ならざるは無窮のものを取りて之を筆頭に顯はす能はざればなり余輩は曰く上帝は大なる「我有」なり彼の現在彼の高大、彼の無窮彼の不測なる目的は吾人之を知覺す然とも之を定說する能はざるなり余輩若し或神學家に傚ひ彼に定義を與へば唯に彼の性を收縮するに過ぎざるなり此れ自由神學の一面にして吾人の上帝に向て畏敬を表する所以なり其二に曰く自由神學の尤も確固なりとして主張する所のものは上帝の天父なる事是なり余輩は彼の目的を解する能はざるも其目的の慈愛なるべきは之を確認せり上帝は愛なり經典之を示し宇宙の狀景も亦た其然るを明にし余輩自己も亦其然るを認むればなり上帝は愛なり單一の天父なり此れ自由神學の中眞なりとす。

上に述たる二者は自由神學の取る所にして其の一は敬畏の心を生じ其二は上帝の天父なるとを主張し此れが感情と意志とに結果する所以を明にせり勿論人には恐怖危惧等の如き他の感情ありと雖とも畏敬の感情の如く援助的健康的のものあらざるべし余輩は他の信仰を卑しめざるべし然とも余輩は信ず畏敬の感情は特に自由神學にありて喚起せらるゝものなるを此れ敎會讃美歌の多くは自由信仰の男子及婦人の手に成りし所以なり彼等の神學は彼等の感情と信心とを喚起し彼等をして活潑なる崇拜を爲さしむるに至れり。

斯の如く自由神學は人類の三大力たる智情意の三者に依賴するものなり自由神學は道理力を以て神與の權力となし宗敎及び科學の眞に達する唯一の敎導と爲すものなり自由神學は眞を以て上帝唯一の言となし人をし

て眞を信じ眞の存ずる所に正實にして結果の如何を問はざらしむ自由神學は罪過の恐るべきを認め神與の靈は優勝の權力なるを解し上帝を敬愛し上帝に役事せしむ否自由神學は人をして罪過の恐るべきを知らしめ又人をして罪過を脱するの能力あるを確認せしめ從て各人の意志を刺激し自己の生長と他人の使役に力を致さしむ。

宗教家の不德義

神田佐一郎

宗教家の不德義なる題號を掲けて聊か管見を吐露するは近頃余の深く玆に感する處ありて然るものにして敢て文言の妙を弄するの覺悟に非れは幸に字句の穩當ならさるを以て微意のある處を害する事勿れ、

余をして今日此の問題に就て本紙上に論說せしめたるは他ならす方今の宗教家は强ち理論或は策略に偏し反て德義に劣る事少なからさるの觀あれはなり否な獨り方今の宗教家のみ然るに非す古來宗教家として余の所謂德義を欠きたるもの實に多く歐米各國の宗教歷史或は我か國に在て中古以來の歷史上屢々此の德義の宗教界に欠乏せし事實あるを認むる事を得べし、

夫れ宗教は其性質の如何なるを論せず等しく道德に密着の關係を有するものにして社會に眞の勢力となり其價値を保つ以所のものは實際道德の實行之れに隨從するに在て然るものにして若し宗教とは單に沈思的(スペキユレチーブリー)理論(ゼヲリー)に止まるものとすれは吾人をして其社會に對する效用果して何れの邊に存するかを知らしめさるものなり、去り乍ら宗教は道德の基礎根元となり直接に社會を補益するものにして宗教は道德か將た道德は宗教かと人をして思はしむるに至り始めて宗教の眞價を顯はすものなるべし故に道德家とて必すしも宗教家たるを要せすと雖も宗教家とあれは必らず道德家の異名たらさるべからさるは論を俟たさるなり、

何れの形態を有する宗教と雖も其經典或は信仰の箇條に於て必らす神勅として道德の標準を定め敎訓するものなり固より立國の狀態如何に由り人智發達の度に應

し其標準とする處小差なきに非すと雖も要するに宗教とは敬神と道徳とを合祀するものとするも亦過信に非さるべし、（因に曰ふ神とは闊大普及なる神の意にして一國又は一宗派專有神の意に非ず假りに今神の尊號を附するに過きされは讀者幸に誤解する勿れ）

玆を以て之れを見れは此の宗教を奉する者、就中此の宗教を傳ふる者に在ては必らすしも其身德高ふして富嶽の如く巍々として九霄に聳へ人をして一見其高德に伏せしむへきものなるに繇て古今の宗教家を見渡すに斯の如き人物果して幾人かある實に僅々屈指するに足らさるの小數にして志あるの士は之れを見て「僧は俗より出てゝ俗よりも俗なり」と罵るに非すや、世上宗教界に身を委ね或は委ねんとするの人少なからさるべし此の冷評を聞て一茶話に附し去らんか或は他人を評するものとて馬耳東風に附し終らんか或は之れを聞て深く己れに顧みる處あらさるか、余輩は未だ德卑ふして猶ほ池中のものたるを免かれすと雖も此の冷評を聞くや深く自ら耻ぢて止まさるのみならす或は宗教界一般の爲に耻つる處なしとせさるなり、

然るに世界各國の宗教歷史を播きて之れを讀むに一見して宗教家の此の德義を欠き自家の癖說に執着心醉し甲乙丙丁と其黨を異にし言論に著述に飽くまで其反對者を罵詈し攻擊し其極終に兵力に訴へて雌雄を决せしか如きの例少しとせす是れ他なし甲宗教家は乙宗教家と其議論を異にし丙教會と丁教會と其信仰を異にせしに外ならさるなり、如此古來宗教家たる者は自家の議論を主張するか爲め往々教權を濫用し己れと道を異にするものを異端外道と賤しみ甚敷に至ては兵馬の裡に甲乙相見るか如き事實あるは宗教家として適當なる手段或は至當なる方便なるや、無論世人は異口同音に然らすと應ふべし、然らは强て兵力を用ひすとするも之れを敵視する如何、是れ亦其當を得さるものたるや明かなり、

近來我か國に海外より耶蘇教を布教するに當てや佛教家は百方盡力して之れを卻けんと企て往々卑劣の手段を用ひ或は邪宗門の名を以て之れを呼ひ教敵の意を以

て之れに接す維新以來佛敎家の之れか爲めに消費せし金錢は實に少々にあらさるべし或は之れか爲めに僧侶の周章狼狽せし事等他より之れを見れは笑止千萬なり或は各宗内に在て宗制の解釋を異にし權利義務を法廷に爭ひ、管長の撰擧より議員資格有無の議論等一にして足らさるなり、其他耶蘇敎に在ては博愛の主義を以て世に立つものに在り乍ら甲乙其議論を異にし丙丁其信仰を異にするの故を以て或は正統派(オーソドックス)基督敎と云ひ或は自由派(リベラル)基督敎と云ひ兄弟籬に鬩き相互に其短所を摘發し之れを以て其外に對する傳道の手段とし得意なるもの少しとせず、余輩は其傳道手段の拙劣にして反て侮りを外に需むるものなりと信ずれば將來佛敎内に在ても亦耶蘇敎内に在ても禪、天台、眞言、眞宗と云ひ或は正統派、自由派などゝ稱する處の形容詞を附し各信徒をして不安心ならしむるを冀はさる者なり、今又一歩を進め得べくんば佛敎とか耶蘇敎とかの狹少なる根生を切り去て人類なる濶大包容の内に質樸なる宗敎的實行を奬勵せん事こそ望ましけれ、余輩は信ず孔丘、釋迦、ソクラテス、耶蘇其他の諸賢は決して吾人をして彼れ等の名目の下に戰を起す事を許さゝるべし、彼れ等は決して斯の如き不德の境遇に吾人を蹐れ以て快となす者に非るべし、彼等は共に天父に孝順なりし人類の鑑として吾人に敬愛せらるへきものなり、彼れ等は必らず吾人をして我黨を募らしめ以て爭鬪の媒介者たるを願はさりしや照々として暗夜に火を見るよりも明かなり、

如何に末法とは云へ今日の如く宗敎家の人々相互に他の説を容るゝ能はさるは必竟宗敎家たる者は盡く其度量狹隘にし他を容るゝの餘地なきものなるか否らされは下賤なる勞働者の如く所謂職饉きの根生を有するものなるか見よや他の動物學者にあれ數學者にあれ地質學者にあれ甲乙其學説の異るか爲め徒黨を作り一揆を起し其反對黨の主領を火刑にして十字架上に掛けし例證ありしや譬ひ之れありとするも彼れ等は強ち吾人の宗敎家の如く道德と密着の關係を有する者に非さるなり、吾人宗敎家は苟も道德の實行を自任するものにし

在り乍ら反て此の不德の所業あり世の宗教家以て如何となす、

上帝

神學士　サミユエル、アール、カルスロプ

上帝は萬物を以て萬物に滿しむる者の滿る所なり

上の經文は高大にして宇宙を包括するの觀念なり夫れ上帝は自己を以て萬物を滿たし他物を容るゝの餘地なからしむ上帝は萬物を以て萬物に滿しむる者なり上帝には凡ての分子凡の世界凡の現體の生活し運動するものなり上帝には空間、權力、美麗、智慧、正義、思考、慈愛及び生命の永遠に成立するものなり上帝には人類の生活する所なり上帝の空間と勢力とは人類の形躰を圍み深く之れが中心に入り又之を包括するものなり上帝の思考と智慧とは人類の心を照らし上帝の正義は人類の良心に法則を與へ上帝の愛は人類の心を喜ばしめ上帝の生活は人類の生活を圍み之れが中心に入り又之を包括するものなり余が今考察熟慮せんとする所のものは此超絶なる問題なりとす

問題の高大なる斯の如し余輩之を論ずるに當り之を碎切して其詳細を述ぶるを以て適當と信ず故に余は箇別に上帝の屬性を取り一時に唯其一邊のみを論ぜんとす蓋し斯の如くせばモセズの如く巖の影と手の陰とによりて一時の間だ赫々たる上帝の光榮を離るゝを得るを以てなり

余輩は言んとす上帝は萬物を以て萬物に滿たすものにして無窮なり故に上帝の屬性（アットリビュート）も亦た其數無窮なりと夫れ箇別の屬性と雖とも決して孤立するものにあらず必ず他の屬性と共立するものなり故に空間の存ずる所には必ず權力、思考、智慧、美麗、眞誠、正義、慈愛も亦た存す何となれば此等は皆上帝の屬性にして上帝現躰の形容（モード）なればなり。

「第一」上帝の空間は無窮にして他屬性と共立するものなり

シユライエルマッヘルは喜で近世科學哲學の祖先スピノザを許して「狂上帝人」と云へりスピノザは凡ての物

は上帝に存すと爲せり此れ人類は上帝の中に生活し上帝は萬物を以て萬物に滿す者なればなり然ども世人或は以爲らくスピノザの上帝は唯外延と思想との二屬性を有するのみと是れスピノザを知らざる者なり彼の言に曰く上帝は無窮なり故に其生活にも亦無窮の形容あり外延と思想とは其二者なりとされば スピノザは無窮の形容中より人の生存、實驗及思想に密着の關係ある二者を拔萃し來り之を基礎として宇宙を說明せしに過ぎざるなり。

心は其性、可見宇宙(外界)の本源を探り宇宙の由りて起る所の者を搜索するの僻あり而して此本源は其自身自生にして他より出ざるものなるを要す何となれば思想は本源より本源に遡り轉々底止する所を知らざるべければなり故に思想の系統を爲さんと欲する者は必ず二個の確認あるを要す(第一)自生にして他より出でざる本躰　(第二)自生にして他より出でざる空間是なり此二者を基礎とし初めて全宇宙を搆造するを得べし然れども今スピノザに從ひ空間を以て本質に缺くべからざる屬性となさば余輩は此二者を要せず「唯自生にして他より出でざる無限の本躰」さへ確認せば足れり此大本一たび決せば可見宇宙の本源は其細論に過ぎざるなり。

然り「余輩は自生にして他より出でざる無窮の本躰」を確信せり換言せば余輩は上帝を確信せり此一大確認一たび決せば萬物も諸現躰も諸世界も皆上帝の靈の運動なるとを知るを得ん物質界宇宙は運命的同形的の運動にして精神界の宇宙は自由的獨立的の運動なり獨り上帝に於て萬物皆眞正の本質を發見するを得べきなり。

余輩は何故に上帝の屬性を分解するに當りスピノザに從ひ空間を第一に置きしか是れ大に理あり抑も空間は少年の因りて初めて上帝を知覺する所の屬性なり實に空間は人類のみならず他の動物も多少之を覺知するものゝ如し是れ普通の心性を有するものは皆遺傳に依りて幾何か空間の觀念ある所以なり其れ然り實驗の始まる所に上帝の屬性を探知するは蓋し至當ならん。

然とも探求の門前に橫はる所の困難少からず余輩之を

脱するにあらざれば恐らくは其道路遮斷せられん一に曰く空間は他の現躰に關係なく獨立自成せり、されば上帝空間の外延するを見、取りて之を用ゐ以て搆造の目的に供せり故に上帝と空間とは二個の獨立的成存なり空間親切の心を以て上帝の計畫を助け之に搆造の空地を與へしなり否彼等は同等の契約を結び一は搆造し一は搆造に向て空地を供せりと是れ普通人民の口にする所なり然れども斯の如きは唯論理的に之を口述せば以て其不理を證するに足らん。

其二は思想家の口より出で一考すべき價値あるものなり假令ば伶悧の人深く空間に付きて熟考するあらば彼は自ら性理學者の思を爲すべし特に「空間は思想の一形式(フォーム)なり」抔の理解し難き公式を記臆するに於て尤も然りとす偖て思想とは何ぞ運動の形状(モード)に外ならず人類の思想は人腦の運動にして人類精神の運動に一致し之に伴ふものなり然れども運動は物躰にあらず譬へば雪片の運動は雪片にあらずして雪片の有樣なる如し故に「空間は思想の一形式なり」と云は猶ほ空間は人腦の一形式なりと云が如し人若し之によりて空間は唯數時の空間なる人腦の一形式なりと考へば是れ單に不條理なるのみならず又一箇の狂人たるを免れざるなり、然とも「空間は思想の形式なり」と云ひ形式を以て思想の嵌入せらるべき摸型なりと解せば大なる眞理を顯せるものにして最早性理的のものにあらざるなり。

若し又「空間は上帝に就きての思想の一形式」なりと云はゞ此れ最早不條理なるにあらずして唯上帝の無限屬性たる外延と思想とを混同しつゝあるなり(譯者註何となれば空間は外延なるに思想の一形式と云を以てなり)以上述べたる如く二種の困難あるも二者共に漸次に減却するの傾向あり通常の心性は教育によりて空間の高大なるを知り思想家は惡定義の下には一歩も進む能ざるを發見し大に厭倦の情を釀せるものゝ如し。

論じて茲に至り書籍屋來りて面會を求む余は金銀の彼に與ふるものなきを以て望遠鏡を取りて太陽の斑點を示せり彼大に感ずる所あり呼で曰く余を驚愕せしむる者は空間の無窮なり余は之を窮むる能わずと此の言は

余をして論鋒を進めしむるの合圖となれり空間は萬物の基礎なり萬物の因りて立つ所の必要なる實躰（サブストラタム）なり凡ての運動は必ず時間に起る如く凡ての成立は必空間に起らざるはなし。

玆に余輩は思想家が其初空間を考へるに當り想起する所の數千の妄想を掃蕩し去る事尤も必要なり彼等は曰く「思想は空間を要せず」感情には空間の關係なし」「思想若くは情緒の働は單に精神的なり＝精神的とは全く空間の關係なき者」と此の如きの議論は余輩の數々耳にする所なり然とも余は云はんとす空間の關係なくば如何なる實躰（エンチチー）も成立する能わず現躰（ビーイング）の各部は何れの時何れの場所を問ず空間に關係を有するものなり請ふ之を論ぜん。

人躰中の思想は波動なり而して波動とは有るものにして無ものにあらずされば腦髓たると神經たると若くは又た微細のあるものたるとに關せず天使又は人類の思想に對するものは時を問はず場所を撰ばず全く空間の關係中に沒入せられたる現躰の特状に外ならざるなり。

基督教は常に物躰的精神を信せり換言せば自然的及び智力的空間の關係は死後の生命に於ても尚ほ連續すべきを信ぜり然れども一歩を讓りて物躰なき純粹精微の精神出來得べしと爲も此精神は岩石の如く植物の如く人類の如く全く空間に沈入するものなるべく宇宙全躰若くは他の有限物と空間の關係を有するは尚ほ他の物躰と何ぞ異ならん余は妄想の一例として近世思想家より抜萃せん其の言に曰く余輩は若し純粹の精神を指して此處若くは彼處にありと云を得ば又之れに與ふるに赤、白、青等の名を付するを得べし」と此れ唯心論に狂したるものゝ説なり此の如く既に科學のみを先天となすの人に向つて科學的性理を説くは頗る困難の業たるを免れざるべし。

故に余輩は云んとす空間は物質界、精神界及び其表彰たる萬般を包括する所の總躰なり否空間は萬物の基礎たる實物にして此なければ萬物認識せらるゝ能はざるべし。

最も發達したる人類より之を見は空間は上帝の現れなり萬物に滿しむる者の滿る所にして凡ての權力凡ての美麗凡ての才智凡ての眞理凡ての慈愛は皆此滿る所に充滿するものなり此れ豈廣大なる思想にあらずや有限の人類にして曉り能ふ最大のものにあらずや此思想ありて初めて空間は決して空虚にあらざるを知るを得ん此思想ありて初めて宇宙解釋の程途に上るを得べし。

人幼にして地球の厚さ八千哩なるを聞き長ずるに從ひ漸次に此觀念を厚くし遂に地球の每时皆權力、驚愕、美麗にあらざるはなきを知るに至る地上に於て彼の眼光に觸るゝものは何者ぞ大洋、大陸、山岳、溪谷、にあらずや曖帶の壯麗、極地の冰水、異木奇草の森林、千紫萬紅の花にあらすや人類の群集する市場、都府、家內、大海を翺翔する滊船、大陸を飛行する滊車にあらずや其他地上見る所驚くべきもの枚擧に暇あらず然れども此唯地球の表面のみ深く其思想を地下に運び山岳の根底を探り人目の見る能わざる烈火の深淵に達せよ地球の美麗、權力、皆言語に盡す能わざるを知るを得ん。

人の幼にして空間の無窮を知るも亦然り彼は其思想を四方八面に送り決して窮まる所を知らず物の中眞常に已れにあるを發見せり其長ずるや唯少時に畫きたる外郭の內部を充滿せしむるに過きざるなり萬界も此中に來り萬有も此內に來り光明と生命の宿れる幾多の天河も此中に來り幾億萬の行星も亦此中に來り權力、正義、智慧、眞誠、慈愛は何處にも何れの時にも存し凡てを徹し凡ての上に凡ての周圍に凡てのものに於て唯一無窮の光明、生命及光榮、赫々として輝き萬物此中に存し萬物此によりて成立するを觀るに至るものなり。（未完）

教育家—宗教—道德

洪　榮　三

智育德育躰育之を三育と云ふ此三者の偏重す可らざるは輿論の許す所敎育家の主張する處故に我が小中學校皆此主義によりて方針を定め學校には必ず修身倫理の

科を設け躰操の科を設け地理歴史動植物理の科を設け以て其平均を保ち以て完全の人物を養成せんとを勉めり然るに其結果として世上に現はるゝ者を見るに往々衡平を失ひ智育偏重の憂なき能はず見よ山間の童子漸く高等小學を終り僅に理科を學び英語を解すれば直に草木金石を取て之を父老に示し高慢に之が解釋を試み冷眼に彼等の無智を笑ひ彼等の解せざる英語を取りて彼等を嘲り得々として快色ある者天下比々として然らざるはなし是れ喜ぶ可きの顯象なる？顧みて彼等の德性を察するに父母に事ふるの孝順、兄長に事ふるの悌友、祖先を祭るの敬虔未だ必ずしも他に勝るあらざるなり否之を酷論せば却て一丁字を解せざる正直の徒が順弟孝友なるに如かざるなり眞心以て神に奉ずるに如かざるなり是れ何故なる？敎育家は常に三育の偏重すべからざるを主張し身自ら此弊に陥ゐる所以のものは如何ん？余窃かに以爲らく其原因一にして足らざるべし然ども其最も著しきものを以て敎育家諸氏が少年の思想より世界以外の大權力を除去し宗敎を以て無用の長物となし排擊して殘す所なきに歸せんとす彼の農夫の朝に出でゝ東天を望み手を打ちて一心祈願するを見よ彼の眞心鏡の如く淸浄の念謹敬の心自然に溢れ人をして其無我を想像せしむ又彼の老婆が木偶の机前に跪き頭を低れて默念するを見よ整肅の風は其内心を照し謹嚴の容は其誠心を寫し人をして其實直を慕はしむ噫農夫の祈願老婆の默念！此中無限の德敎なくんばあらず彼等が私を忘れ謹虔正實の誠を表するは是れ何物の命令なる？嚴師ありて之を敎訓せしにあらざるなり法律ありて之を束縛せしにあらざるなりよしや一歩を讓りて嚴師法律の之が制裁を下すありとなすも其人心に徹する斯の如きは其原因なかるべからず夫れ水之を温め熱して高度に達すれば變じて氣躰となるは水の性然らしむるなり地上に一粒の種子を落し時來りて綠草を生ずるは地球の性然らしむるなり然らば則ち木偶の前に敬虔を表し東天に頭を低るゝは人の內心斯の如きの特性を有する明證にあらずや此特性を何とかなす世界以外に大權力を確認するの力是なり雷雨卒然として來

り電光目を衝かば何人か驚愕せざらん何人か目を擧げて天上を望み再び目を覆ふて滿腔恐怖を生せざらん茲に於てか默念禮拜して之れが救助を請ふ是れ人の天性然らしむるなり數日連雨四境寂蕭たり此時に當り日輪瞳々として東天に朝するを見ば誰れか其壯觀と光明とに驚かざらん誰か其美麗と雄大とを畏敬せざらん茲に於てか心窃かに宇宙は偶然のものにあらず吾人の見聞し能はざる不可思議の權力之を主宰するを曉るに至るべしサー、ヂョン、ラボック記して曰くカッフ井ル蠻族は世界に上帝あるを曉る能はざるも尙ほ不可思議の力あるを確認する者の如し彼れ蠻族が「手を以て諸星に觸れたる者は何人なる?諸星は如何なる山岳に休息する?諸川の流れ混々として甞て止む時なく朝より夜に至り夜より朝に至る彼等は何處に休息する?彼等を流通せしむるものは何者なる?浮雲は去り浮雲は來り遂に水となりて地上に落つ是れ何處より來る?之を遣る者は何人なる?風は見る能はざるに尙ほ樹木に觸れて聲あり此何者なる?之を吹かしむるものは何者なる?昨日は余の畑に一葉をだに見ざりし今日は萬緑青然たり之を生出するの智恵と權力とは何人の與へしものなる?」と自ら問ひて不審に堪へず兩手を以て深く其面を覆へりと是れラッボク氏が宗敎心の尤も少なき例證として與へたるものなり此他如何なる蠻人にも世界以外の不可思議なる權力を確認するの形跡あらざるはなし故にプルタクー及シセローは曰く人類の存ずる所には上帝の信仰存ずと思ふに過言にあらざるなり

斯の如く叙し來らば人類は其性自ら世界以外に大權力あるを認むるものなり然るに當今の敎育家は曰く大陽を拜し偶像を拜する是れ迷信なり此の如きは務めて之を排斥せざるべからず墓前に跪くも是れ無心の標的なり之を拜するも何をか益せんと其云ふ所或は理なきに非ざるべし然れども余は將に問はんとす彼等は皇上に對し父母に對し長老に對し敬禮を敎ゆるものなり彼等は大陽偶像を拜するの迷信たるを敎ゆるものなるも決して長上に對する敬禮其自身を排斥するものにあらさるなり然に其形跡斯の如きは何如ん農夫老婆の大陽を

拜し木偶に跪くは大陽として之を拜するにあらざるなり木偶として之を禮するにあらざるなり彼等は大陽を以て世界以外の權力者として拜するものなり石碑を以て祖先の靈魂として尊崇するものなり大陽木像之を理學者哲學者の眼光に照さば恐らくは一ヶの無機物無生物たるに過ぎざるべし人類以下の者たるに過ぎざるべし然とも農夫老婆は之を以て不可思議不可測の權力となすものなり人類以上の魔力となすものなり換言せば物躰變じて聖靈となり俗質變じて不變の大權力となるものなり教育者は或は哲學者理學者の思想を以て大陽を分解し木偶を解析すべし然とも農夫老婆は之を見て大權力者に不敬を加へ聖靈に無禮を働くとなすものなり彼等は教育家の所爲を以て暴慢不遜となし教育家は彼等を以て愚夫迷信の徒となすものなり而して之が學校生徒に及す所の影響如何彼等は少しく英語を學びて父兄を愚弄するの徒なり安んぞ教師が自己の父兄を以て文盲となし迷信者となすを見て之に和せざるあらん彼等は以爲く天保の人物は尊むに足らず父兄は敬するに足らず南無妙法蓮華經は馬鹿者の寐言なりアーメンは愚者の專賣特許なりと口に任して之を誹謗するに至る是に於てか教師が千辛萬苦したる修身の談も倫理の話しも其効を奏せざるべし蓋し勢然らざるを得ざるなり何となれば彼等は一方に於て孝悌忠信を教ゆるも一方に於ては之が本根を破壞して實行の餘地を與へざればなり是に於てか生徒たるものは世界の大權力を卑しむるの心を轉じて其父兄に遷し其朋友に移し轉して鄕人に移し國人に移し三轉して其本に還り教師を卑しめ四轉して官吏を卑しめ最後には遂に天皇陛下の恩德をも之を忘却し天上天下唯我獨尊の高慢心を起すに至る噫宗教心を破壞するの結果斯の如きに至る？請ふ余が言の虛ならざるを知らんと欲せば佛國革命誌を繙きて一讀せよ思ひ半に過ぎん

余は大に教育社會に宗教心の重んずべきを論ぜり然ども余は決して舊來の迷信を保守せよと云にあらざるなり原人時代には原人時代の宗教あり五百年前には五百年前の宗教あり今日の科學的哲學的時代には又た之に

應ずるの宗教なかるべからず余は如何なる宗教にも眞理の存ぜざるなく如何なる宗教にも宇宙の大權力者を確認せざるなきを信ぜり然れども進化の理法をして誤りなからしめば宗教も亦た日に進化の方向を取るものなるや疑ふべきにあらざるなり余は故に宗教心の重んずべきを教育者に注告すると同時に彼等をして最も進化したる宗教を取り漸次に其子弟をして迷信を除去し眞正の合理的宗教に依賴するの道をなさしむべしとの注告を與ふるものなり然らずして五百年以前の宗教を其儘に寫し今日の人心に適用せんとせば小兒の衣服を取りて之を大人に被せしむると同一の笑を招くべければなり

以上余は宗教心の決して卑しむべきものにあらざる所以を明にし又其宗教は合理的のものならざるべからざるを說けり余は今より一歩を進めて宗教は道德に如何なる關係を有するかを說かんとす

倩道德は其實踐の點より之を云はゞ正當に生活し正當に働くの云に外ならざるべし而して正當の生活、正當の働作をなさんには義務責任の觀念なかるべからず良心の知覺なかるべからず此二者は人類道德の基本をなすものにして此なければ道德は決して成立するを得ざるなり人にして兄弟には友愛を盡すの責任あるを知らずんば道德何によりて出でん善を見て之を善とし惡を見て之を惡とするの良心の知覺なくんば道德何によりて生ぜん否人にして良心の知覺强からずんば彼れが道德固からざるなり義務責任の念盛んならずんば彼れが道德鞏固ならざるなり故に人にして德性を養成し品位を高めんと欲せば良心の知覺を榮養し義務責任の觀念を培養し茲に初て道德の美花を開き燦然たる光輝を放つを得べし之を譬ふるに堅牢美麗の家屋を造らんと欲する者は勞力を厭はず金錢を惜まず良材良瓦を購ひ之が基礎を鞏固にせんことを要す道德家も亦然り眞正の德性を養成し眞成の人類たらんことを欲せば須らく其原素たる良知良能を養成し義務責任を知んことを勉むべし余は良知良能の大に宗教心によりて發達せらるゝを明にせんが爲め請ふ之を二項に分ちて之を論ぜん　(未完)

亞米利加ユニテリアン大會

クレイ、マッコーレー

亞米利加ユニテリアン教徒は去年十一月を以て大會をニユーヨーク、サルトガに開けり會する者諸教會（ユニテリアン教に屬するもの）の代理人及び參列者を併せて其數殆んど二千人此集會の特色とも云ふべきは第一各自の信條異なりと雖も其精神强健にして共に他宗に同憐の情を表し共に濶大の意見を有せる事第二其信ずる所の條項異なりと雖も其信仰同一にして共に上帝を天父とし四海を同胞となす是なり世人數々ユニテリアン教徒を稱して同說者の集合にあらずして異說者の團躰なりと云へり蓋し儀式的の信條を守り標準を定め細密のヶ條を設くるにあらざれば眞正の宗教團躰にあらずと爲すものより之を見ば或は斯の如きの感想を起すべしと雖も是れユニテリアン教表面の觀察なり裏面より之を論せばユニテリアン教徒は其智識に於て眞實なるものあり其深遠神聖なる信仰に於て眞實なるものありされば單に名目と定義とを以て基礎とするの團躰と其趣を異にするは自然の數なり。

全會を擧げて之を概論するに信仰上に於て一も不合一なるなく上帝の善良なるに對して疑を懷くものなし人の本性に罵詈を試むるものなく人生の不朽を確認せざるものなし之を他の宗教團躰に求むるに然らざるものあり彼等の集會には時に上帝の信仰を缺き時に人類の信仰を缺ぐ時に眞理の信仰を缺ぐもの少からず迷信の會話は新天啓に逆つて駁擊を試み其議論決して調和するを得ざるなり思ふにユニテリアン集會にも種々の缺點ありしなるべし例せば實際上の處理及び便益上に關して其說明紛々たりしが如し然れどもユニテリアン信仰の最大基礎たる大眞理即ち上帝の天父たると及び人類の同胞たるとの二大主義に至りては數多の會員皆同一の感情を表せり是れ豈宗教上の最上結合力にあらずや蓋し世界を支持する所以のものは重力なるべきも決して重力の形式（フオーミユラ）にあらざるべし人類の精神を結合せしむるものは信仰其れ自身にして決して信仰の形式にあ

らざるべし其れ然り今日基督教國宗教上の諸團躰を捜索するも其信仰の同一なると及び目的の同一なるとに於て恐らくはユニテリアン教會の右に出づるものなかるべし。

余輩は此集會に於て論せられたる重要問題の大綱をだも與ふるの紙面なく又神學、論理學、社會學、實際哲學等の實行的處理に就て論ぜられたる大旨をだに記載するの餘地なきを惜む余輩は茲に唯此大會の日本國に關係ある部分を摘記せん。

開會の初めに當り評議會より左の著しき報告を爲せり

目を轉じて外國を見るに余輩に直接の利害を與ふる者を日本と爲す余輩は重なる日本人の請求に從ひ宣教師を送りしに日ならずして大に自由基督教徒の歓待する所となれり此時に當り日本には外國嫌惡の風大に興り諸教會爲めに大に不振の狀況に陷ありしも我が代理者は其初めより國民の感情を保育し我教會の支部を設くるの觀なきを期せしかば我教會に對する反動力は比較的に僅少なりき然れども基礎の何たるを問はず宗教的組合の組織大に困難を生じ其進歩從前の比にあらず唯我教會事業の直接なる結果は大に他の教會を刺擊し此れが變化を促し日本本土の基督教信者をして信仰信條を自己の手中に收め西洋の口碑的教權に固着せざらんとの願望を生ぜしむるに至れり此目的に於て余輩の代理者マッコーレー氏及びローレンス氏は普及福音教會及び宇宙神教會と相提携して其業に從事せり此三者は共に以爲らく日本に存在する基督教會其數少からず然るに又之に加ふるに三ヶの自由宗派を以てするも其益あるを見ず唯此三者を結合して一躰となし共に高大なる自由基督教の事業に從ふを以て得策となすべきなりと思に此の如く自由基督教の團躰結合して共同の事業に從ふに至らば國民的事業となる容易なり否日本人をして自ら其事業を取らしむるに至るも亦必ず近きにあるべきなり

以是觀之に亞米利加ユニテリアン教の役員等は日本に宣教師を送り日本國民をして新に高尚なる宗教上及び

道德上の信仰を建立せしめんが爲めに援助を與へしものなり彼等は決して該國民に特別の信仰を嵌入するものにあらず唯た彼等か自ら有益なりと信ずる所のものを以て日本國民に示すに過ぎざるなり。

上に述へたる報告終りユニテリアン使節として初めて日本國に渡來したるナップ氏は會衆に向て尤も熱心なる演說を爲せり余輩は悉く此感情的演說を與ふる能わざるなり然れども其二三を拔萃せば又た以て其全豹を窺ひ讀者諸君に滿足を與ふるを得べしナップ氏初めにユニテリアン使節の日本國に送られたる次第を述べ之を以て全く日本帝國二三の有力なる政治家及び愛國者よりの要求となし其歷史に遡りて曰く

諸君余をして諸君の知らざる尤も愉快なる歷史を簡單に述べしめよ余は日本に往きて諸名士に面會せり文部大臣子爵森有禮氏も亦た其一人なり氏の言に曰く日本は三十年以前初めて數百年の長眠を破り先覺者は之を以て世界進步の先陣に置んと欲し非常の大英斷を以て非常の大改革を行ひしに其影響獨り社會的及び工業的のみならず延て宗敎に及び舊時の忠孝說及び舊時の制裁は其權力を失ひ新說を以て之れに交換せざるべからざるに至れり故に歐米に委員を派遣し鐵道電信の制度、敎育法、立法、司法制を調査するに當り其宗敎をも之を觀察し日本帝國の新生命に活力を與ふるの價値あるや否を精査せしめしに其復命に曰く基督敎は理論の點より之を評せば迷信の敎義にして日本普通人民の信仰と殆んど優劣を判する能はず又た實行の點に於ては之を日本國に採用するの不利なるを發見せりと（歐羅巴亞米利加の主要なる都府に行わるゝものより之を判し）氏又た語を續きて曰く今日基督敎の日本國に其基底を据へたるは決して怪しむべききにあらざるなり却て日本の先覺者が西洋の思想と西洋の風習に摸し熱心に非常の大變化を行ひ人民の生活上及び思想上に一大改革を成就せしの時に際し獨り宗敎のみ彼等の胸算に入らざりしこそ實に不思議なりしなり思ふに基督敎にして他の西洋諸元素の如く合理的、人類的、實際的の形

躰に於て日本に來りしならば必ず喜んで勢力家權威家中に熱心なる欵待を受けしならん、

子爵又語を續きて曰く余ワシントン府にありしとき（子爵は嘗て亞米利加に公使たりし人なり）其敎會に於てユニテリアン敎を學びエドワード、エヴヘレッド、ヘール氏と相知り氏に語りし事あり曰く余輩は何故に斯の如く完全なる合理的、人類的、實行的の基督敎ありしを知らざりし？汝は何故に日本に向て早く使節を送らざりし？日本の思想家新時期の先覺者は悅んで之を歡迎し國民の思想及び生命中に確然たる基底を得しならんと。

此の如きの意見を有する者は獨り森氏のみにあらざるなり子爵に次きで華盛頓駐在の公使たりし子爵吉田清成氏も亦た大に同一の意見を有せり吉田子は常に牧師マッコーレー氏の敎會に參列し熱心にユニテリアン使節を日本に送るの必要を說き基督敎の眞正の說明は此敎會に存し能く日本人の思想に適合する所以を講述せり之に加ふるに現今日本貴族院書記官長にして先年特命を以て貴族院議員に列せられたる金子堅太郎氏も亦た大に吉田氏と同樣の意見を有せり金子氏は嘗てハーヴアード大學にありてケンブリッヂ及びボストンの卓越なるユニテリアン敎徒と親密の交際をなしユニテリアン敎徒の思想は日本人の要求に應ずべきを確認し熱心に我敎會の使節を日本に送るべきを勸誘せり。

此外日本帝國の生命に於て尤も重要なる元素の代表者矢野文雄氏歐米巡回の際ユニテリアン敎なるものを發見し之を日本に輸入せんとの大望を起し自ら主筆として從事する東京日刊の報知新聞に於て熱心に之を論じ國人をして一考を煩わさしめ切に其使節の日本に來らん事を希望せり斯の如くして帝國思想家の各元素より熱心に余輩を誘引せり一千八百八十六年ホーレース、デヴ井ス閣下日本を旅行し其人民と交際し其先覺者と談話しユニテリアン敎は必ず日本帝國に欵待せらるべきものなりとの報告を爲せり是に於て、愈宣敎の拋棄すべからざるを知るに至れり。

ナップ氏は進んで「舊時の忠義說及び舊時の制裁漸次其力を失ふの時」に當り日本帝國に合理的、科學的宗敎を建設するの尤も有益なるを論じて曰く

余輩は日本人に向つて社會、工業、及び政治上の進步に關する諸般の事業を與へたり余輩は今最高の宗敎的生活及び思想を保守して之を彼等に與へざらんと欲する？余輩は唯鐵道、電信、郵便及敎育の改良制度のみを與へて滿足せりと爲す？余輩は之れが物質的生活のみを扶け之れが富と繁榮とのみを進め之れが倫理及精神の本性をして正當の方向を取らしむるの援助は之を不問に措かんとする？宗敎に於ては彼等も余輩も認めて以て不充分と爲し不條理と爲す所の神學說を取りて彼等に與へ彼等をして之に甘ぜしめんとする？若しくは又道理と科學と普通の思想とに照らして最良最善なりと爲す所の信仰を取りて彼等に與ふるを以て余輩の義務余輩の快樂となすべき？

是れよりナップ氏は日本國未來の希望を論じユニテリアン代表者は日本國あらゆる自由宗敎の諸勢力を結合せしめんとの希望を有し確乎たる運動を爲しつゝあるを述べ百尺竿頭一步を進めて左の如く結論せり。

余は信ず日本國內に働きつゝある自由の諸元素結合して强大なる自由宗敎組織せらるゝの日遠きにあらざるべきを然れども其形躰は果して如何なるものなるか余輩は之を豫言する能わざるなり唯ユニテリアン敎の淸明なる思想と單純直接なる言辭と併せて日本個人的及び愛國的の精神に逆わざるとは以て將來此敎の日本國に爲すべき大勢力を卜するに足るべきなり思ふに新に日本國に起るべき敎會は決して外國の名目を用ゐざるべし然れども其結果として顯はるべきものはユニテリアン敎徒が大に贊成を表すべきものにして個人的に日本人民を結合せしめ日本德義の保存に向て働き日本人民の宗敎をして合理的、人類的、實行的のものたらしむるや疑ひなし是れ余輩が悅んで我が精神及び生命の兒孫なりと誇稱し余輩の敎友となすべきの敎會なり。

此の集會に於て余輩の注意を引くべきものはボストン

近傍のハーヴァート大學に在學する日本の一青年北島亘氏の演說なり余輩其要點を摘記せんに

諸君今朝の議論は大に余の心情を鼓舞せり余は絕叫して謂わんとす宗敎にして日本國に確乎たる基底を取るを得るものはユニテリアンの一敎あるのみ是れ何故なる？日本人は單簡を愛するの民なればなり日本國民は常に道理を取りて先導者と爲すの人なればなり合理の宗敎、簡單の宗敎、迷信なく腐敗なきの宗敎、是れ日本人民に要する所のものなればなり、日本國の基督敎は亞米利加の基督敎と全く異なり、日本國のオルソドクス敎徒は此國のオルソドクス敎徒と全く異なり、彼等は亞米利加國の保守者流より一躍して遙かに前方にあるものなり

余はプレスビテリアン敎徒の家族に生育せり余の父は僧侶なりしも母方には佛敎の殿堂を有し袈裟を纏ふの僧少からざりき余はウエンテ氏の親切によりて此亞米利加國に來りしとき余の境遇如何に變化せし！美以々々敎會の手足をすら自由にする能わざりし小屋よりユニテリアン敎會の宇宙を包括する大堂に入りしは其愉快如何なりしや！

宗敎上の感情は余に於て全く天性なり余は本國を離れてより常に日本宗敎上の利益を望み其進步を願へり然るに其形狀如何なりしか余は斷して言はんとす二十年以前日本に僧侶なる一大機關設立せられ凡ての宣敎師其車輪を取りて之を轉ぜんとせしも之れが前方の進行を許さゞりしかば十四五年の間其機關動かず屹然として日本國土に直立せり然るに機會如何なりしや五年以來宣敎師の扶助なく突如として運轉を始め今年に至りて一百五十頁の小册子一大動機となりて出現せり之を金森通倫氏の「日本現今の基督敎並に將來の基督敎」となす思ふに此れ日本宗敎史中最大著述、最大勢力なるべし此小册子は多くユニテリアンの思想を有し三ケ月を經ずして日本國內に流布せり其論ずる所如何ん其一章に於ては日本國基督敎の大勢を論し其二章に於てはばいぶるを論じ其三章に於ては基督の神性說に就きて批評を試み後の

三章には基督の宗教心と贖罪説とを批評し徹頭徹尾ユニテリアン教の主義に外ならざるなり。之に因りて之を見れば日本はユニテリアン教に傾向するや明なり然り日本國最後の基督教はユニテリアン教以外に出づるを得ざるべく地球上の最も純精潔白なる基督教なるや明瞭なり日本人は今日生命の麵麭を要せり此麵麭を何とかなす基督教是なり基督教一たび入らば日本國はユニテリアン教國となり人民皆國教として尊信するに至るべきなり余は諸君に告んとすユニテリアン教は日本國に輸入せらるべし日本國民必ずしも或人の唱ふる如く悉く神聖なるにあらざるなり悉く完全なるにあらざるなり日本人民は一層高等の道德を要し一層高等の宗教を要し一層高等の教會を要し諸君と共に他人の援助を要するものなり或る日本人は曰く余輩は宣教師を要せずと然り彼等は斯く云ふなるべし諸君にして日本國に往かば宜しく日本國の宗教たる孔子教佛教を研究すべし研究せざる間は之れに觸れる勿れ諸君は日本宗教に就きて如何なる思想を有するかを問はれなば決して或宣教師の轍に倣ひ余輩は日本の宗教を批評せんが爲め來りたるにあらず惟余の宗教を示さんが爲めに來りたりとの曖昧なる答を爲す勿れ。

此の外日本國に就きて論議少からずされど余輩は之れを記せざるべし、唯日本國に關して此の大會のなしたる決議を載するは又た愉快なるべきを信ず其の決議は左の如し

決議　此大會は新に日本に於ける自由基督教に贊成を表し神學士クレイ、マッコーレー及び神學士ダブルユー、アイ、ローレンス及び日本人にして此事業を助くるもの及び慶應義塾在勤のユニテリアン教授に向つて丁寧なる挨拶を送るべきなり余輩は彼等の事業を喜び彼等の困難に同情を表し彼等の精神と智慧とに信用を置くものなり、余輩は又た普及福音教會及び宇宙教會の事業家に向て謝辭を致し併せて此三者は共に一箇の日本自由基督教會として働き三箇の分離的宗派を爲さゞらんとの熱心なる希望を表する

ものなり

余輩は讀者諸君に向て此決議の終句に特別の注意を喚ぶものなり思ふに此一句は以てユニテリアン使節が熱心に日本國に向つて爲しつゝある目的を表するに足らん。

最後に此大會は左の重要なる決議を爲せり

コロンビヤ世界大博覽會補會は右大博覽會開會の間にチカゴに於て世界の宗教及教育諸團躰の代表者を招かんとの計畵あるを以て左の決議を爲す、

次回の亞米利加全國ユニテリアン大集會は一千八百九十三年大博覽會開會の間だにチカゴに開くべし但し日時は評議員補會の地方委員と打合せの上之を定むべし其時の集會は及ぶべき丈け内國ユニテリアン大會となし凡ての外國にあるユニテリアンの團躰も國内にあるものも眞實に之を招待すべし

余輩は日本の自由基督敎徒は此世界大會に於て其代表者を出さんことを希望するものなり。

英米に於けるユニテリアン敎

米國法律學士　三　好　太　郎

ユニテリアン敎の敎義に於て其觀念とする處のものは神は一なりこの神を信し以て愛を社會に及ほすを以て主眼となす亦この惟一の神は即ち宗敎上の神にして同しく道理上の神に外ならす今道理を以て推測し得る處の神は宗敎上に於て崇拜する處の神也故に此惟一の神は道理と宗敎と異なることあるなく吾人道理の動物にしてこの道理社會に生存す何を以てか道理以外に神を設けて拜信するの必要あらんや否な斯の如きは迷信の尤も甚しきものなり是を以てユニテリアン敎は天下の宗敎を以て皆其交友となせり再言せば吾人の主父として信するものは即ち惟一の神なれば吾人の生命感應皆其源流を一にし世の古今を問はす邦の東西を論せす其の願ふもの幸福希望其揆一ならざるはなく今世に行はるゝ處の宗敎千態にして說く所の主義萬狀なるにもかゝはらず主眼として信し極度として認め得るものは皆一個の最とも精潔なる最とも聖大なる眞神にあらざるは

なし故に其の奉信の組織に於ては或は何宗となり或は何派となるも其主眼の一徹に歸すると明々白々にして社會の宗敎なるものは悉く本同一躰同一の智識にして其精神亦一也其精神巳に一也誰れか能く之を分たんと欲して分つとを得んこれユニテリアンの主義として天下の宗敎を以て交友となす所以也

されば今他派の稱して以て尊大となし奉して以て神となす處の基督其人に付ての見解を聞くにユニテリアンの保持する處實に大に他派の見解と異なるとあり曰く基督は決して神にあらずして人也故に經典に曰く人類なる者は悉く神子也とこれ以て基督なるものは神にあらずして等く人間たるとを證するに足る然れども亦基督なる人は吾人の最も敬服して奉信する人ならざるを得ず何となれば彼の成業遺功を擧くるに至ては恐くは吾人人類の企及すべからざるとをなせり能く我慾罪障の覊絆を脱し神聖の性を以て萬世消滅すべからざる敎を吾人に遺したるものにして亦實に人間にして殆んど神に近き人と云ふべし然ども未だ彼を以て神となすを得す寧ろ人類中精の精なるものとして敬すべき也

ユニテリアン敎大躰の主義は此二點にあり克く之を探究せば其の餘は容易に之を推測するを得べく從つて其の宗敎として成立する大主眼に於て他派と霄壤の差あると知るべき也これを以てユニテリアン敎義にして天下に行はるゝに至らば實に基督敎の一新前代未聞の改革にして社會の信仰之が爲に一大變動を生出するの期と云ふべし故に他宗派の人はユニテリアン敎を目して宗敎にして宗敎にあらず社會の宗敎をして破壞せしむる一塊の邪說にして大に子女を迷路に導くものとなし之が撲滅に力を盡せり是れユニテリアン敎の未た廣く歐米社會に容られざる原由也

今や斯かゝる危激の說至る處に賞賛せらるゝ蓋し亦說なきにあらず試みに歐洲の歷史を繙て之を見は其跡歷々として明白なり一國起て一國斃れ人生の浮沈宗敎の以て其勢力を及ぼしたるの事跡現著なるを見る又何ぞ縷々するを用ひんユニテリアン敎危激的なりと云ひユニテリアン敎革命的なりと云ふ蓋し其起るや偶然にあ

らざる也今少しく進んでこれが起原を述べんに

ユニテリアン教の起原

ユ教の起原を說く其說種々あり或る者は遠く遡て第一世紀に於て已に此教義行はれたりと云ひ或るものは尚遠くモセス既に已に其教義を說て神の惟一なるとを教へたりと云ふものあり或は引證して曰く第二世紀に於てヂヤスチン、マータヒアーなるものあり曰く吾人の中には耶蘇を以て救世となすと雖とも彼は吾人々類の一人として信す可きものなりと又數年の後ターダリアンなるものあり耶蘇は神にあらすして人間なるとを說きユニテリアン教の主義起原は上古に發生したる證跡を擧げ奇說を說くものにあらざるを辯ぜりこれ或は然らん然れども之れ畢竟ユ教を說くものゝ一說にして裏面より歷史上之か探究を爲さば其尤も著しく社會に現出したるは凡そ十六世紀を以て始となすと云ふて可なり此時に當てや人心勃々或は起り或は斃れ歐洲の全土雲烟天を蓋ふて家に寧日なく男女口に道義の教を說くとを忘れ手足血に塗れて爭を干戈に訴へ斃るゝもの無宗の鬼となり起つものは尚信仰の楯となる社會の波亂其慘憺たる悲狀は實に後世史を讀むものをして骨山血地を紙上に想ひ起さしむ嗚呼宗教の人心を迷はす其力又大なる哉

史家此時代を呼んで宗教革命の時代と云ひ亦宗教分烈の時代と云ふ此時に於て自由信仰の基礎起り此時に於てユ教の起原亦隨伴して發生したるものゝ如し

ミッチエル、サーベタスなるものあり千八百九年アラゴンビユチエバーに於て生る法醫算數の術に通しカピトー、カルビンの輩と名を等ふす其他ワーリアス、フシナス、フテタス、フシナス等ありてこの說を主張す然れども多は邪說として時に容られず生ながら燒かるゝものあり或は身を終る迄獄中に呻吟したるものあり其熱心身を忘れて主義の爲めに斃るゝの狀大に後世の龜鑑となすに足る

ユニテリアン主義の始めて其頭角を現はすや歐洲を蹂躙して勢恰も決水の土壤を破ぶるか如く舊教の軍隊至る所に挫け猛火宵ならざる猖獗の進步は着々人心に銘

ず其の舉其の狀今之を英國に顧るに千六百十五年ジヨン、ビドルなるものあり始めて公にユニテリアンの敎を說く此以前既に其の敎義は既に人心に膾炙したりしと雖とも彼の三位一躰の說に反するものは悉く嚴刑に處せらるゝの故を以てジヨン、ビドルの後と雖とも尙凡百年間又た之を說くものなかりき然るに千七百三十年に至るに及んでラードナーなるもの起り次てブリストレー、クレットセーの輩出するありて新に一箇の寺院をロンドンに設けりこれをユニテリアン敎の小基礎とも稱すべきか其後千七百九十一年ユニテリアン敎の書籍發行所を設く斯の如く强敵四方に起り攻擊突差の間と雖とも其大勢の赴く處終に政府をしてユニテリアンの公會を許るさしむるに至れりこれ實に千八百十三年なり茲に於てか世間これを信ずるもの蟻の甘きに付くが如く日に月に舊敎を脫してユニテリアン敎を奉ずるの徒其數を加へ千八百二十五年に於てユニテリアン敎の大會を起すに至れり之を稱して「大英及び外國ユニテリアン敎會」と云ふ之れ英國に於ての概況なり而して其中最とも高名なる人物を舉ぐればヂユームス、マーテノーありゼー、テーロアありセヲドール、パーカーあり皆思想を極め力を盡して此敎義を說く以て其の名普く社會に芳し常時ロンドンに在てマンチエスター、ニウカレージありカーマンセン、カレージありユニテリアン敎會養才の處となす實に盛大なりと云ふべし。

其他歐洲各國ユニテリアン敎の傳播盛大にして人民の改宗するもの夥しく尙英國に於ける如し然れとも悉く之を述べんには無益に紙數を費すの恐れあり殊に新奇の事躰あるにあらず今飛んで之を米國に考ふるに千八百十九年前に在ては未た確定したるユ敎の基礎成立せす惟其聲を聞しのみ然れとも此以前既にユ敎の根底を培養したるものあり即ち英國より移住したる者は皆本國の舊敎の羈絆を離れて遙々渡來したるものなり其土着數年ならずして革命の大軍起り砲烟彈雨漸く鎭まればこれ全社會の一大變遷にして吾人人類の自由なるもの茲に始めて今日あるを致したるの時なりき此時に於

て宗敎も亦た一新し固老の迷信を溶解して高尙なる眞理を發現したる蓋し偶然にあらさる也

米國に於て初めてユ敎を說きしはドクトル、グレーなり是に次てドクトル、サミユル、ホプキンスありゼームスフリーマン等輩出せり

千八百〇一年ゼームス、ケンドルありドクトル、ヘンリー、ウエアーのハーバード大學神學校長に撰はるゝに當て大に世間の物議を起せり然るに千八百十五年の頃にバルシヤムなるものあり一書を著して大にユ敎の主義を說き以て愚夫愚婦の迷夢を破らんとす玆に於て議論百出三位說唯一說力を極めて論難し終に一方に於てドクトル、サミユル、ヴースターなる强將出で一方にはユ敎の泰斗として仰望するドクトル、チヤンニング出で兩虎智力を筆紙に戰はしむるに至れり

千八百十六年ユ敎神學校をカンブリッヂに起す玆に於てハーバード大學校殆んどユ敎の手裏に落つ然れども從來の議論激烈にして容易に決せす延ゐて千八百十五年より千八百二十五年の十年間に渡り此年漸くユ敎の勝利を制しハーバート大學は今日尙ユ敎の中心なり

千八百二十五年ボストンに於て米國ユニテリアン敎會を起すこれユ敎の本部にしてこれより布敎傳導の士を送り我日本に在るものも皆此敎會の送る處なり

千八百二十五年頃には寺院の數百二十二なりしも後二十年にして二百八十餘となり當時に在ては其數四百以上と云ふ

其の起原により其の歷史によりて之を考ふるにユニテリアン敎なるものは宗敎上一個の革新的運動にして亦歷史的基督敎の一派也と云ふを得べし其の信するものは永久無限の精氣にして亦混沌未た定まらざりし以前に於て既に已に之が配濟分合を試み今日あるを臻したる眞神也ユニテリアン敎の主義觀念斯の如し豈淫誣妖誕の奇說ならんや亦徒らに神を畏れ己れを私し心を淪惑するものならんや吾れは信ず後世學術須らく進み人文闡幽の域に達し能く禍福利害安危死生の變を說き冥々の欺くべからざる昭々の犯すべからざるを明かにするものは蓋し夫れこのユニテリアン敎にあらん乎と吾

輩淺識寡聞未た充分意を盡くす能はす敢て大方の教を乞ふ

傳記

ヂョン、ハッス及びヂエロミーの畧傳

ヂョン、ハッスは一千三百六十九年ボヘミヤ、フラニッツ河上の丘地なるハッシンチッツ村の人なり氏は農家に生れ勞力に慣れ艱難に堪ゆ村主なる封王之を視て大人の氣風あるを察し十六才の時之をプラグの大學に入學せしむ十一年を過ぎ二十七才の學者となり生活には汚點なく動作は温和に人の尊敬自ら彼の上に來れり茲に學士の稱號を得二年の後氏は大學講義を爲せり氏が熱心の情正義の念は言語に顯はれ容色に表われ蔽はんとして蔽ふ能はざるものなりき

ボヘミヤ王の女弟アンヌ英國の女王たり兩國の關係甚だ親密にボヘミヤ人にして英國を慕ふもの少からず時にボヘミヤ貴族の一青年プラグの大學を卒業し笈を負ふてオックス、フォールドに遊べり至れば則ちウヰックリッフの高名至る處に嘖々たり彼が經典を無學の人民に渡せしは如何に大胆なりし！彼が羅馬教統政治の暴慢を侮辱せしは如何に勇猛なりし！彼が法王僧侶の經典評議會に訴へしは如何に剛強なりし！彼が奮怒したるグレゴリー法王第九世の命令によりてラムベスの評議會場に召喚せられ法王質問の十九ヶ條を悉く辨明して餘蘊なく裁者をして其能力と勇氣とに舌を捲かしめ遂に彼をして安然舊地に復り舊會堂を有し當時の新神學を教へ平和に其身をラッテルウオースに終へしは如何に膽力ありし！貴族は之を聞き孜細に之を記し尚ほ且つウヰックリッフの著書を購ひ歸りて之を國人に語れり

一日之を携へてヂョンハッスを訪ふハッス之を得て戸を閉ぢ熟讀再三永く其書と生活して離るゝを欲せざりき然れども其一たび幽室を出でしの時は即ち彼が法王無誤謬の説を駁し其間の信仰を駁し智力も道德も全く腐敗したる僧侶の「常備軍」を駁して新に異說を唱へしの時なり

斯の如き眞實生命あるの人其伴侶を得、斯の如き活潑の勢力其傳播を速にするは自然の理なり是に於て同志の小群氏の周邊に集り賞讃同情の弟子氏を四周せり中に熱心なる驍勇の士あり學者中にはヒーエロニマス、

プラチエンシスとして知られ忠死者中にはプラグのヂエロミーとして英國教會に其名高し氏はヂョンハッスより少きと數歳然ども其智力と云ひ其普通の教育と云ひ其熱心の精神と云ひ悉くハッスの上に出でたり特にヂエロミーが流麗浩蕩なる能辯は其獨得の長所なり

若年なるヂエロミーは熱心にハッスの周邊に來り他の書生と共に其説を聽けり此二人は其本性に於て全く異なるも其自認と説と目的とを一にし運命も亦た同一なりき此二人結合して一箇の大權力をなし當時及び後世に非常の勢力を與へり人若し十五世紀宗教改革を談ぜんと欲せば勢ひハッスとヂエロミーとの二人を論ぜざるべからざるなり

一千四百一年にハッスはプラグのベスレヘム教會の説教者に指定せられ熱心果斷にローマ教會の妄惡を論じ大に人民の喝采を博し書生も都府人も貴族も朝廷も皆氏の説教に耳を傾け氏の名日耳曼國中に反響し朋友も敵も皆其眼目をボヘミアに注げり然れども世人或ひはハッスの抗諍を以て單に一時の感激となし之に向て反駁を加ふるものなかりしが漸次に供養科、過料金、喜捨金等の減却するを見僧侶は大に其感情を刺激せられ大怒暴言此等の熱心家を呼びて平安妨害者となし一揆の張本となし異教者となし毒夫と呼ぶに至れり。

ボヘミヤの大僧正もハッスと同じく大學の教授なり然れども大僧正は少數の書生を有しハッスの名聲赫々として旭日の東天に昇るが如く日耳曼の各部より其新神學を聽かんが爲に集る者一時四千の多きに上りしと云ふ此等の書生は大僧正を信ぜずA、B、C、博士と字せり大僧正民心の激するを見以爲らくハッスを撲滅するは此時なりとハッスを召喚し命ずるに法王の威重は之を汚瀆すべからずウヰックリッフの異教は之を信ずべからざるを以てせり然るにハッスは温容之に答て曰く余は唯基督の教理を教ゆるのみと大僧正半ば怒り半ば温和に彼を放免し一擊以て其根據を盡さんと欲し明日兵士をして己れの宮殿を護衛せしめウヰックリッフの書籍ハッス及びヂエロミーの著作其他ミリクツ、ヂヤノー等の古人の書其數凡そ二百卷之を積みて悉く之を燒燼せり是に於て民心大に激しボヘミヤ擧つて之を難じ輿論悉く大僧正を怒り僧侶も貴族も其暴行を咎め女王は泣き王は高聲に其非道を怒れり。

ヂョンハッスは火焰の爲めに默するの人にあらず次ぎの日曜には會堂の演臺に立ち反對者の所爲を駁し絶叫して曰く火焰は至眞を燒燼するものにあらず無生物若

へは無害の物品に向つて怒氣を發するは小人の常なり書籍は灰燼となりて全國民の損失となりしも眞理豈滅するものならんやと氏は新に其事業を初め被難の書籍は多く之をスラブ人種の語に飜譯し之と共に經典全部を譯して人民に分てり氏又たヂエロミーの助けを借り人民の爲めに讃美歌を造り其心淵に宿れる思想と感情とを謂へり是に於て大僧正大怒を發し氏のボヘミヤに於てベスレヘム會堂に於て說敎するを禁ぜり然れども氏は常に山の如き聽衆に向て敎を布けり氏は今プラグ大學の主宰たり氏は此高地より贖罪賣却の非を鳴し淨土に火を熱し死人に禮拜し偶像を崇拜する等羅馬舊敎の儀式を責め精を盡し力を極めて之を難せり。

ハッスの擧動其大膽なる此の如し是に於て羅馬法王ヂヨン二十三世大に怒りボログナの朝廷に氏を召喚せりハッス若し此召喚に應ぜば死罪の直に其頭上に來るべきは甚だ明なり故に氏應ぜずして曰く羅馬法王も僧なり余も亦た僧なり彼我甲乙あるなし彼安んぞ他の僧侶を召喚するの權利あらんや余はドクトル、ヴヰッツクリッフの信仰を繼ぐものなりと王も女王も大學も皆其間に立ちて法王との仲裁を試みしも其効なくハッスを以て異敎者となし嚴峻なる破門の宣告を布けり若しハッスにして尙ほ二十日の間だ法王の命に從はざるあらば凡ての敎會に於て鐘を鳴し燈明を消し破門追放の命を實行しハッスは之を捕へ死罪を宣告し焚殺の刑に處すべしハッスを宿せるものハッスと同道せるものは皆同罪を以て論じベスレヘムの會堂は其根底より之を破壞し異敎者をして其巢窟を失はしむべしとハッス此宣告を聞き呼んで曰く「余は羅馬の法廷より萬物の上に位する最正なる判官最高なる僧に告訴すべし」と。

羅馬法王一歩を讓らずハッス屈せずプラグの都府は恐るべき法王の禁制の下に在り僧侶は遁逃し會堂は閉門し死者は之を葬むる能はず商人は寂たる堤上に呟き旅主は空たる客室に歎じプラグ全市殆んど飢餓の域に逼らんとす一人曰く此不幸はハッスの爲せし所なり一人は曰く此れ熱情なるヂエロミーの爲せし所なり一人は幽鬱として曰く此れ皆宗敎分派の所以なりと全市騷然新敎徒と舊敎徒との爭鬪避くべからざるに至り兩黨各準備に汲々たり而して新敎徒の腕力的勢力及び道德的勢力決して舊敎徒に劣るにあらざるなり然れどもハッスは其性温和にして愛國心に富み流血を惡み內亂を恐れ武器の爭を止め早くプラグをして禁制の苦痛を脫せしめんが爲め高貴なる先人の所爲に倣ひ自ら追放

の途に上れり然れどもハッスはワルドブルヒに於けるルーテルの如く休息を好まずして勞働を勵みアンスチー城に往き高名なる「教會」を著せり氏は處を定めず轉住常なかりしも又數々忽然として原野に出で雲の如き聽衆に向て教を說けり氏の所以此如きも尙ほ其身躰安全なりしは又た奇と云ふべし勿論氏の朋友にして大に之を苦慮し百方保護に手を盡せしは氏の安全を致せる一原因なるべし然れども氏の敵は又之を以て氏の性質其自身に歸せり其記に曰くハッスの擧動は保守儼正にして其生活行狀は克己なり故に何人も此點に於て非難を加ふる能はず粗野なる其顏貌丈高くして瘦せたる其容姿卑賤の人民にも同情を表し憐憫を加ふる其性行、此等は皆氏の特性にして非常の誘引力を有し其勢力遙かに辯舌の上にあり愚痴の人民は彼を以て天使となし尊信疑わず」と

此時に當り危急の事件羣起し一隅に起りたるプロテスント教徒の運動をして歐洲全土を蹂躙し其權力に從ひ其勇士に屈服せしむるに至れり而して其尤も基督教國の人心に恥辱と迷とを與へしものは三法王の競爭にありイタリア人はバルサザイ、コッサを戴きて法王となしボルグナに王位を置きヂョン二十三世と稱しフランス人はアンゲロ、コラリオを戴きて法王となしリミニ主廳を置きグレゴリー十二世と稱しスペイン人はピーター、デ、ルナを戴きて法王となし主座をアラゴンに置きベネディクト十三世と稱せり此三人は皆無恥の惡人自ら誓つてセイント、ピーターの正統相續者と稱し歐洲全國殆んど內亂となり國庫缺乏するも尙ほ之を顧みず盛に贖罪賣却を行へり

時勢此の如し是に於てハッス大に怒り教會の權力を攻擊し其根底を打ち砕て恐るゝ所なし氏は又た一小著を出版し大に羅馬の六罪過を鳴せり

第一供養(マッス)に於て僧侶が造物主を造ると云ふと

第二絕對的に法王を信じて上帝の代表者と爲すと

第三僧侶自ら人の罪過を赦すと云ふと

第四教會の布告には絕對的に從はざるへからずと云と

第五無益の破門

第六僧職の賣買是なり

法王ジョン二十三世ボヘミヤ王をして己の名義を確認し法王國正統の繼嗣たるを承認せしむボヘミヤ王肯せず法王則ちボヘミヤ王を殺す者は天國に往くを許すとの不正なる勅令を發せりハッス及びヂェロミー此を聞きて大に奮怒し日々增々其豪氣を長ぜり。

事如何に落着すべき？斯の如く公然人を侮辱し公然精神上の權力を妄用し恬として恥づるを知らず是れ何等の顯象ぞや諸侯も人民も言はんと欲して言ふ能はず然ども大河の激する處如何なる堤防か破壞せざらん不平の心は變じて偶語となり偶語は變じて改革の大聲となれり此れ果して如何に結果すべき？高名なるコンスタンス評議會とハッス及びヂェロミーに關する處分とは之を次號に讓らん。

叢談

○宗教は目的なり

宗教は終極なるか否目的なり人類完全の目的なり故に宗教の第一義は德性の發達を助け之を純清強大にするにあり苟も宗教にして間接たると直接たるとを問はず眞心を奬勵し社會の結合を強硬にし美術を生育刺激し人德の上進を助くるあらば是皆人類有益の宗派なり然り宗教の善惡は大躰其德果によりて之を判するを得べし思ふに人類に於て宗教の如く根本的なるはなかるべく宗教の如く適順なるはなかるべく宗教の如く命令的なるはなかるべし宗教の歷史は人の上帝を捜索する記錄なり自然界に上帝の現存すると自然界其自身の神聖なるとは自然宗教によりて人心に種植せられたる眞にして精神の優勝を說くは天啓宗教の教なり

事業の外に教養なきも世界は凡ての人民に十分の餘地を與ふる能はず唯頗の大なる者には最大事業をなすべき塲所を與ふるものなり

（アノン）

○内心の園丁

熟練なる園丁を見よ梨樹の繁茂せるは良く之を整へ李木の叢葉は善く之を理し空氣を通じ日光を徹す春日來れば情花を養ひ柑樹に培ひ秋風吹けば花輪の霜に害せられ實子の風に妨けらるゝを禦ぐ薔薇の美なるは小枝を取りて之を接木し桃子の甘きは核實を集めて他園に藏す翌年には異花異木に發し爛熳光彩を生じ馥郁香氣を發す是園丁の賜なり」余輩は皆園丁にあらざる？余輩の生活をして青々たらしめ時來りて馨香ある美花を開き豐富なる實子を結ばしむるは余輩の任にあらざる？輝々たる清朝は種子を蒔くの好時機なり晃々たる快日は友を得るの時なり夫を得るの時なり妻を得るの時なり子を擧ぐるの時なり此清朝に際し此快日に當り汝の敬虔心を撫育せよ其花汝の幽欝を慰め暗澹たる冬日

滋潤を念ひ、日月の光輝を被むり、皇王の疆土を謝し、父母の養育に報ゐ、師長の教訓に報ゐ、親友の周ねく濟ふを懷ひ、其德を頌し、其功を歌ひ、心に銘して忘れず、是を夫の恩を蒙むりて報せず、反りて以て讐となす者に視ふるに、其相ひ去る固より啻に天壤のみならざるなり、豈知らんや、天地を創め、日月を懸け、疆土を開き、君親を立て、師長を立て、萬物を主宰する者は、固より全知、全能、盡美、盡善にして獨一無二の上帝なるを、上帝純全の德を以て、人の爲めに純全の教を垂れ、斯人純全の教を蒙むる、即ち宜しく純全の德を感ずべし、乃ち世俗不古にして、欲を養ひ求を給するは誰氏の賜たるを解せず、災を救ひ患を恤む何處の仁たるを知らず、其恩を受け其報を圖らず、固より已に恩の甚しきなり、間に忠厚の長者あり、力めて義に負くの非を鑒み、之が報德の擧をなす、而して報は報ずる所にあらず、或は香を焚き或は壇を設け、或は寺院を修し、或は佛祖を拜し、泥塑木雕は之を論せざるべきも禱祀終に靈なきに庶る、即靈あらしむるも、而も之に媚ぶる者は皆誤まりて偶像の力となす、之を受くる者豈敢て上天の功を冒すのみならん、縱ひ燒きて南山の竹を盡し、費は萬民の財を盡すも、徒に罪戾を取るのみ、何の益あらんや、時ありて自ら解說し、吾儕小人財物を借りて以て虔誠を表するに過ぎずと謂ふと雖ども、而も恩なき者反つて其報を得、恩あるもの轉して酬を蒙むらざるを思はず、是れ猶ほ我れ君あり而も以て君となさず、反つて他人を君と謂ふが如く、我れ父あり而も以て父となさず、反つて他人を父と謂ふが如し、更に大に謬まらずや、而して恩を酬ゐるに善き者は功名富貴皆帝賜に由るを知り、而して敢て妄に貪らず、貧賤憂戚悉く帝授に原くを知り、而して敢て倖避せず、庸々の福、或は上帝厚毒の罰を降すを知り、而して敢て驕肆せず、歷々の苦、實に上帝汝を玉にするの成たるを知り、而して敢て脫離せず、七日の虔誠を守り、十戒の律法に遵ひ、八福八禍の各刑賞あるを鑒み、實に夫の道は上帝より出づるを見る、甘は固より恩、苦も亦た恩なり、愛は固より恩、威も亦た恩なり、安樂固より恩、患難も亦た恩なり、道美にして而して備はらざるはなく、理愈求めて而して彌眞、亦た惟だ古聖先賢と共に上帝に照事し、上帝に照告し、同じく恭敬以て本に報ぜんのみ、而して恐る蓮花の座に拜謝し、楊柳の枝に仰答するは、窃かに其恩を賊ふの大なる者たるを、何ぞ敢て謬り以て酬となさんや。

●宜しく眞福を修すべし

洪範に五福の疇を衍し、雅詩に百福の欣を致す、世賢愚を論ぜず、未だ福を得るを思はざる者あらず、人老幼を論ぜず、未だ福を求むるを樂まざる者あらず、故に因果を談じて以て富貴の福を冀ひ、陰隲を講じて以て榮華の福を篤ふし、儉約を務めて以て祖宗の福を享け、田疇を治めて以て子孫の福を惜み、佛に拜して以て福を邀へ、香を拈て以て福を求め、僧に齋し道に施し、以て福を積み、橋を修し路を補し、以て福を冀ひ、種々の福緣枚擧すべからず、知らず是の如く修するも決して福を得る能はざるを、即福を得せしむるも、吾境遇豐亨にして而して不時に憂戚する者あり、身冠裳を榮にして而も黯然神傷む者あり、子女玉帛所在多くあるも而も仍ほ涙だ下り襟を沾ほす者あり、且つ多く藏する者は厚く亡し、位高き者は多く危く、膏粱醉飽は幾人の性靈を淹沒し、功名顯要は多士の元氣を消磨す、而して福を得るも適ま以て禍を招き、福を求むるも轉して而して殃に至る、乃ち歎ず、其修する所のものは乃ち身躰の福にして靈魂の福にあらざるなり、暫時の福にして永遠の福にあらざるなり、福ありと云と雖ども虛福に過ぎざるのみ、豈夫れ眞福ならんや、眞福は實に天によりて而して降るも己れよりして而して求めざるはなし、人靈魂あり、誰れか安然として而して自適するを欲せざらん、乃ち其安きを欲して而して急に修省をなし、其心を寡欲の地に存し、其性を復禮の天に養ふ、世俗震撼すと雖ども而も愧ぢず怍ぢず、此心終に和平に安んず、則ち其福固より身躰の虛福にあらず、安樂の境誰れか永享して而して替はるなきを思はざらん、乃ち其永きを思ふて而して早く修養し、善念融和千秋を越へて而して老ひず、道心堅固萬劫を歷て而して長生す、壽數は逃るゝなしと雖ども而も生安く歿順に、平康實に無窮に享す、則ち其福又た逈かに暫時の僞福に異なり、其道眞、其理眞、其福自眞、此れ特に聖潔者の道となすべく、終に天恩を識らざる者の言となし難し、彼れ眞を修するを事とせざる者、妄に天堂の福を說く、豈能く永遠の眞福を得んや。

●歿世の計を爲すべし

哲王の世を歿するや民忘るゝ能はず、君子の世を歿するや名稱せられざるを疾む、則ち知る吾人の生、當に早く世を歿するの預籌を爲すべきを、然ども哲王治むる所の者は民、君子重んずる所の者は名、其忘るゝと忘れざるとは、一己の靈魂に於て究に何の加損あらんや、

夫れ天地は吾人の逆旅、光陰は百代の過客にして、浮生は夢の如く、只一旦暮間のみ、身躰の苦は長からず、宜しく謀るべき者は靈魂の適なり、生前の榮は久からず、當に籌るべき者は歿世の安なり、只だ今世に拘して念來世に及ばず、暫時の樂を圖り、永遠の榮を忘れしめば、將に軀殼一たび脱し、必ず悔ゐるの及ぶなき者あらんとす、夫れ豈哲人達士の周計ならんや、或人曰く、人生は行樂のみ、死に至れば則ち之れを視るに形なく、之れを聽くに聲なく、氣冥々春風となりて散ず、何ぞ魂あらん、何ぞ靈魂あらん、又何ぞ靈魂の禍福あらんやと、而して秋霜春露に敬を致す者の靈願はく是れに憑れと曰ふを知らず、追遠薦亡の時に默祝者の魂靈來格せよと曰ふを思はず、則ち固より明々として不歿の靈魂あるなり、既に不歿の靈魂あり、即ち受くべきの刑賞あらん、其刑や冥府黯沈、父母得て而して護らず、兄弟得て而して代らず、師友親戚得て而してら籌ず、天の有罪を罰する、悉く生前自ら作せるの孽を照らし、以て其重輕を定め、並びに世上刑曹の干連情面の擧あるに同じからざるなり、其賞や明宮顯耀、强横も得て而して奪はず、賊盜も得て而して窃まず、災病患難も得て而して擾さず、福報照然、但に生平自修の德に準して而して毫髮を爽へず、更らに世俗安樂の朝に榮へ夕に萎するの慮あるに同じからず、此れ天道の公、歿世の義にして、幾を見る者の當に靈魂の爲めに早計すべき所のものなり、抑も或は曰く、余は歿世の爲めに已に之を計る熟せり、早く香楮を焚きて以て冥費の資となし、先づ佛祖に媚びて以て偏祖の護りを爲し、且つ經書に載する所に於て其儀文を守り、其規矩に遵はざるはなし、孰れか歿世の爲めに計るに非ざる乎と、嗚呼神やは聰明正直にして而して壹なるものなり、楮鏹の無用は之を論ぜす、即用あらしむるも彼れ陰司に權を掌る者は誰れぞ、而して貪贓枉法の神ありと云ふか、聖經賢傳に至りては、原と以て人の內心を治し、徒に人の外貌に拘して而して歿世の後を謂にあらざるなり、此の如くして以て規に循ひ矩を蹈む可しとなすは、我が上帝を欺くものなり、是の如くして計をなすは計らざるに如かず、誠に愚の甚しきものならずや、世の心ある人其れ急に永遠の禍福の爲めに趨避の計を作すべきなり。

●人を盡し天に合す

人上智と雖ども亦た人心なき能はず、世に下愚あるも亦た道心なき能はず、道心充滿すれば人情天道に非ざ

るはなく、人心淨盡すれば天道即ち是れ人情、此れ天人の合一する所以なり、慨して人斯世に生れしより、上帝美備の德を以て之を人に賦し、全にして而して之を授け全にして而して之を歸すを期す、乃ち人世多故、一に姿稟に囿せられ、復た物欲に蔽はれ、聲色得て而して之を誘ひ、貨利得て而して之を擾し、貧賤憂戚得て而して之を紛し、榮華靡麗得て而して之を陷ひる、更らに甚しき者あり、或は神虛無に馳せ、或は心寂滅に涉る、途に迷ふ者は返らず、道に背く者は遠く馳す、是れ天本と清潔、人汚穢なるに由りて而して合ひ難きなり、天本と聖善、人以て罪惡なるに由りて而して合ひ難なり、天本と公正、人竟に偏私なるに由りて而して合ひ難きなり、天本と光明、人又た幽暗なるに由りて而して合ひ難きなり、天本と仁慈人更に凶頑なるに由りて而して合ひ難きなり、人を離るゝ日に甚しくして天を去る愈々遠し、人未だ盡さゞるあれば即ち天終に未だ合はず、此れ理の必然なり、而して修省に善なる者は、風雨露雷皆上帝人を教うるの方なるを知り、日月星辰皆上帝人を訓ゆるの理なるを知り、川岳河海皆上帝人を養ふの德なるを知り、草木鳥獸皆上帝人を愛するの心なるを知る、仰ぎて觀、俯して察するに、旣に已に其恩を蒙むる、即ち當に其敎に服すべし、敢て天道と復合すと謂はずと雖とも、亦た心を盡し力を盡さば、冀はくは道を萬一に得、欲敢て縱せず、傲敢て長せず、罪敢て犯さず、恩敢て負かず、身躰の樂敢て貪らず、私心の好む所敢て蓄はへず、詎々焉、皇々焉、以て冀くは聖賢の域に底り、其本有の眞に復せん、意欲天に合す、敢て人を盡さずんばあらず、事已に人を盡す、自ら以て天に合するに足れり、誠に天人合一の妙蘊にあらずや、然るに非ざる者は、已に其惡を護りて而て自ら其罪を治せず、將に人心日に熾に、道心日に消し、人と天と敵たるを見んとす、吾れ恐る人自ら天に絕ちて而して天も亦た其人に絕たざるを得ざるを、人盍んぞ早く天道に本づき以て人を盡さゞるや。

（未完）

世界ノ大事ハ底止スル所ニアラズシテ進行スル所ノ方向ニアリ天國ノ眞港ニ達セント欲セバ順風ニ依ルモアルベク逆風ニ抗スルモアルベシ然モ常ニ帆ヲ上ゲヲ前方ニ向ヘ流サルヽ勿レ投錨スル勿レ

（ウエンデルホルムス）

僻說ニ固着スル勿レ眞說來リテ汝ノ心ヲ照ラサバ持說ヲ變ズルニ躊躇スル勿レ自己ノ斷定ヲ再考セザルモノハ其智力先人ニ優ルノ人ナリ然ザレバ膽力ナキノ人ナリ

（アンズウオース）

雜錄

○大道を濶歩せよ

曰く富士山曰く琵琶湖曰く國躰曰く日本人種唯賞讃するを知りて探求するを知らず是れ果して眞正の國粹保存なる歟曰く和語曰く高天原曰く神道曰く儒道曰く佛道唯其功あるを見て害あるを忘る是れ果して眞正の愛國者なる歟マホメット教を以て虚誕の説となしヅロアスターを以て詐欺の人物となし基督教を以て野蠻の宗教未開の道德となし獨り神儒佛を以て天下の大道となす是れ果して宇宙の眞法なる歟。汝の活眼を開き汝の頭腦を新にし汝の心思を爽快にし大千世界を一觀し來れ神道獨り何ぞ必ずしも國躰門ならん儒道獨り何ぞ必ずしも經世門ならん佛道獨り何ぞ必ずしも解脫門ならん汝が口角泡を出して西洋人を罵り小慧く小利口なりと云は未だ大乘の人にあらざればなり汝が天人士人の言を聞きて國躰を傷くると慣ふるは汝の腦漿痴鈍なればなり國粹は之を保存するを勉めよ然れども頑固の風を養成する勿れ愛國の説は之を主張せよ然ども妄に外人を嫌惡する勿れ自己の信ずる所は之を確立せよ然ども他を知らずして妄に之を排擊する勿れ大道を濶歩せよ偏道に倚居する勿れ

○基督教――日本國

煉瓦石造の輪煥たるも猿猴は之に住するを好まず河流の淸々たるも鳥雀は之に入るを欲せず其性に違へばなり牡丹餠旨しと雖ども上戶は之を好まず灘酒甘しと雖ども下戶は之を欲せず其嗜好異なればなり日本人種は愛國の民なり二千五百年の習慣風俗に陶冶せられ儒道佛道神道に敎育せられたるの人なり道德に篤く道理を重んずるの士なり其れ然り新に福音を傳へて此國民を敎化せんとするものは之れが國躰を知り之れが民情を察し之れが德性の缺點を明にし其性に從つて之を導かざるべからず然らずんば勞力の徒費のみ金錢の投棄のみ此の如くして基督教の行はれんとを望むは猶ほ黃河の淸むを待つが如し百年又た益なきなり基督教徒諸氏よ世界主義をして國民主義と衝突せしむる勿れ歐洲魂をして日本魂と爭鬪せしむる勿れ或る一派の迷信教を持ち來りて我國民の合理心を壓伏し金力を以て之を窒息せしむる勿れ日本國内の基督教たるを忘れて基督教内に日本國を置かんとするの非望を懷く勿れ日本の國

風に陶冶せられて内部の眞勢となり此眞勢によりて日本國を陶冶するの大勢力となれ疾風捲き來りて日本全社會を併呑せんとするは汝の成し得べき所に非ざるなり

○書籍——人物

書籍は人を造るの力あり又人を殺すの力ありフランクリンを讀め直にフランクリンを慕ふの念を起さんステフェンソンを讀め直にステフェンソンの力を得ん大閤記を讀むものは鬱勃として武勇の念に勵まされ鷄林八道を蹂躙せんとの大望を起し佐倉宗吾の傳を讀むものは民權自由の念に勵まされ人民を塗炭の中に救ひ抑壓を脱せしめんとの希望を起すものなり」梅暦を讀め汚陋の心生ぜん枕草子を讀め色欲の奴隷とならん爲永春水の作を讀め形而下の人類となり了せん」書籍には精神あり大人の書には大人宿り小人の書には小人宿る軍人たらんと欲せば英雄傑士の傳を讀め富豪たらんと欲せば有爲活潑の立身傳を讀め文人才子たらんと欲せば學者政治家の著書を讀め讀み來りて深く之を味はへ直にチルソンと對話するを得ん直に陶朱倚頓と會談するを得ん直にセークスピヤ、ホーマーと詩想を闘はすを得ん書籍は人なり書籍に交はる人に交はるが如くせよ

○こどものだゝ

「お父さん私しやお使ひに往くのはいやですよ最う小學校も卒業したものに下僕でばしある樣に」と子供がだゝを云ふのを聞きましたが日本と申す新聞に書きてありました左の一項はよく似てる樣ですね…………

●兵役免除の請願　僧侶被選擧權は一時社會の問題となりしか今度は各宗各派の管長數十名の連署を以て兵役免除を兩院に請願したり(東西本願寺は被選擧權を主張する方と見へ署名なし)又來年は改めて議員百餘名の賛成を以て建議をなすの都合なるよし其の免除を得べき者の資格を左の如く定めたりと

一　尋常中學校科同等以上の程度を有する各宗派の宗學校を卒業したる者

二　各宗派の宗制本法に依て修身僧侶の本分を盡す者なることを其宗派の管長證明したる者

○日本帝國亂區に入る

メリヂアンといふ人あり、不思議に未來の事を語るに事後之を驗すれは其言鑿々何時も肯綮に中らさるは無し、此頃其人或人に語りて云く變亂の生するは生するの時來りて生するものなり、其區域を指して亂區とい

ふ、目今世界中亂區に入るは支那と智利「及ひ日本の三國なりと、或人奇異の思に堪えす、支那と智利」の亂は目のあたり之を視れは疑ふ所もなけれとも、日本は即今内外共に昇平に屬せり、然るを何か故に亂區に在りといふやと問へは、メリヂアン地を畫して曰く、今ま亂源の伏するは支那に於ては北京及ひ南京にして、智利に於てはヴアルバライソーとなす、之を視よ、北京點より南京點に一線を畫き、更に此兩點より智利點まて各一線を延長しなは不等邊三角形の東亞と南米との中間に亘るを看ん、是れ則ち亂區なり、日本は正に此區域にかゝれり、亂れさらんとするも得可けんやと、或人益〻不思議の念に打たれ扨は日本の如きも到底免かるゝ能はさるやと叩きしに復ひ説明を與へて曰く、域内と亂源とは同しからす亂源の伏する所は一亂を經されは已ます、只た其域内は亂源の如何に由るものなり今ま此亂源三處の地に於て禍機伏在久しきに渉れは域内の日本の如きも免るゝを得す、去りなから亂源にして此機早く滅すれは同時に其畫線絶すへし、畫線絶すれは亂區移るなり、日本の變亂あると否さるとは一に亂源の如何に由るものなり、其間三ヶ月を出でざる可し云々と奇なる哉異なる哉　（日本）

◑壬辰未來記

其一に曰く上半凶にして例へば水多くして人渇するが如し東西四方其中心を知らず

其二に曰く下半吉にして地上物を生ずるに善し百性樂之、又歸する所あるが如し

彙報

○女子學院　麹町區上二番町女子學院に於ひて、去月十九日慈善會を催されたり、さしもに廣き舘内も、書畫、書籍、カード、刺繡、玩弄品等の陳列に、殆んど寸毫の餘地を存せず、入るもの出づるもの頻々、其雜踏の煩はしきを見て、豫しめ賣上高の多きを察すべし、殊に午後五時より講堂に於ひて、ラヽーの演舞、島田三郎夫人の琴曲松竹梅ありとの風聽に、一層の混雜を極めたり、ラヽーの舞は、其筋慈善同憐の少女が、多くの群童に秀ひでゝ、獨り貧家の少女を憐み、其歡互樂の幸を説ひて、これを他の童女に勸誘すといふに始まり、轉々遂に神の祝福を受け、天女に伴はれて清華

の處に遊び、光榮ある金冠を受くるに終る、無邪氣の少孃達が、純清無濁の清音に、ラ、ーと吟ずる處、神にせまりて床しかりし、苦心の極想ひ像られて、感したり、

○明治女學校　是亦麴町區下六番町にあり去月廿六日卒業式を執行さる、卒業生總べて十三名なり、教頭嚴本善治君校况を報告して曰く、其普通科卒業を以て、今の日本中等社會の良妻賢母たちに適する資格を與へ得ると信ず云々と、卒業生等交る〳〵英詩英文和文の朗讀を爲す、これを前年の卒業式に比ぶるに、其初陣の勇に若かざるを知る、終りに星野愼之助君、武道の敎授に就て辯して曰く、武を講するはこれ躰育の爲のみならず、却つて精神の修養、心膽の鍛錬を以て、主要とすと、其演武十八段、見るに足るもの少なからず、就中藤島ゆき子孃の氣合の敏活なりしは、殆んど滿場の來客をして、アット一聲叫ばしめたり、

○クリスマス禮拜式　去月廿四日午後七時より、麴町區飯田町四丁目五番地宇宙神敎中央會堂に於て、自由派基督敎徒の聯合クリスマス禮拜式を執行されたり、丸山通一君は神の子といへる題を以て、キリストは神の子なりといふに二義ありと辯せられ、金森通倫君は獨得の雄辯を以て、基督は人類の模範なり、精神界の大救主なり、吾人は恭しくこの主の降誕を祝すべしと辯せられ、高田太郎君は日本基督敎と自由基督敎といへる題を以て、現今基督敎界に嘖々たる問題は、日本的基督敎といへるを以て第一とす、然れども今や其狀殆んど、名稱濫用の弊に陷り、漫りに末葉に走せて、其本を失はんとす、日本キリスト敎は、竟に必らず自由基督敎の領する所ならずんばあらずと辯ず、聚まるもの、無慮二百名、十分の歡を盡して散會す、時に號鐘十時を報ず、

○宇宙神敎中央會堂にては更に翌廿五日を以て同敎會のクリスマスを執行さる

○普及福音敎會にては壹岐坂會堂にては廿五日巴町講義所にては廿四日を以てクリスマスを執行さる

○築地十九番館ウ井リヤム、アイ、ロ－レンス氏宅に

於ひては同廿五日午後三時より、自宅に於てクリスマスの祝會を開かる、和氣靄々彈琴洋々、歡聲窓外に溢るゝ計りなりし、

○ゆにてりあん第一協會　同協會に於ひては去月上旬臨時大會を開き、役員の改撰を行はれたり、さきに敎師として、幹事として、同會の爲に盡力されたる高田太郎氏は今回其職を辭し、專ぱら麹町講義所の爲に働かる、新役員は幹事西村謙三氏、會計神田佐一郎氏、書記八木信次郎氏なり、

○麹町上六番町講義所　同講義所に於ては今回更に組織を改め、大に事務を整理して活潑の運動を試みらるゝ由、高田太郎氏專ぱらこの處に盡力さる、

宗教 第四號 （明治廿五年二月五日）

社説

忠實維新論

クレイ、マッコーレー

日本人民が封建時代の舊慣を蟬脱して新文明の境界に突進するに當り舊時の良風美俗を破壊しつゝあるは明瞭にして掩ふべからざるの事實なり自由は美風なり然とも責任の觀念強く心に宿るにあらずんば恐るべき危害を生ぜん自由國は良邦なり然とも貴法の念堅からずんば非常の害悪を來さん自由人民は羨むべきなり然ども自御の心を以て嚴に行爲を制するにあらずんば恐らくは不幸の民とならん自由は自儘にあらず凡ての法則を脱却し不羈の行爲をなすを以て自由と誤り暴言放行以て自由の本色を得たりと謬るべからず夫れ自由の人は責任の民なり眞正の自由は國民若しくは一個人をして社會若しくは社會中の一個人に對し最も高尚なる繁榮と永續すべき平和幸福を與へんが爲めに一身を公役に供する好機會たるに過ぎざるなり故に余が玆に明言以て讀者の注意を引かんと欲する所のものは封建諸侯の使役を脱して立憲政躰の下に立ち、一身上の自由を得、社會的一個人となり、普通教育を受け、科學探求の自由を得、宗教信仰の自由を得たるの日本人民は其自由の點に於ては大に昔日と異なるあるも彼等が忠實に對するの觀念に至りては嘗て異なるなきを知らしめんとの微意に外ならざるなり彼等は政治に對して忠實ならざるべからず事業に對して忠實ならざるべからず雇主との契約に對して忠實ならざるべからず朋友に對して忠實ならざるべからず眞に對して忠實ならざるべからず彼等が理解し能ふ最も高尚なる道德及び宗教上の原理に對して忠實ならざるべからず日本人民は自由となれり然ども彼等は決して忠實以外の民たるべからざるなり

忠實の舊態は今まさに日本人民の中に消失しつゝあるも此德風を恢復し琢して精となし磨して純となし古代に於

けるものよりも一層高尚美麗のものとなし新に日本帝國を陶冶しつゝある勢力に應用すべきの大必要あるは又た多言を要せざるなり請ふ忠實なる言辭の起原を見よ元來此の語は法律に從順實義なるの云にして、正統の主宰者君王若しくは導者を以て法律の源泉保護者及ひ支配者となし之に向つて忠實の心と感情とを表するの意なり、偖て日本に於ては帝國の品位、國家の觀念、全く皇帝一身にあり今若し皇帝の觀念に就きて古人の有せし思想漸次に消失しつゝありとなすも今人は皇帝を以て萬民の如く一個の人類となすも然も帝國なる觀念は皇帝一身に包含せらるゝものなれば皇帝に對する忠實の義務は決して昔時と異なるなきを忘るべからず皇帝は日本國民なる合一的思想の降生なり然り合一的代表者たる皇帝は其身躰神聖にして犯すべからず名譽德望の基たるべきは嘗て昔日と異なるなきなり之を例するに合衆國の大統領は人類なり然ども大統領として公衆の面前に現ずるや萬人の頭顱悉く彼の爲めに前方に屈せり是れ大統領は亞米利加人民大合一の可見的形躰なればなり其然り日本の皇帝も亦政治上の品位及び名譽の可見的中心として常に尊敬せらるべきは理の當然なりとす豈歐風吹きたれば迚新開化入りたれば迚皇帝に對する尊重の念を輕ふするの理あらんや然ども是れ唯だ社會の一小圈たる政治上の事のみ余が論ぜんと欲する所のものは其思想廣く全躰に渉り生活の凡ての關係に及ぶものなり請ふ歩を進めて忠實維新ならずんば帝國の文明上進する能はざる所以を詳述せん

忠實とは如何ん人情の最も眞實純正なるものは此中に存し人類の關係に於て榮譽寛仁なるものは此中に含まれ愛によりて決意によりて宗教によりて生育せられたる孝順と歸心とは此中に藏せらる忠實とは正直にして有益なる生活の凡ての德性なり、大膽にして犧牲的精神ある凡ての高義なり、人類的關係を善良にする凡ての清淨なり、俗界の親族朋友に喜悦と愉快とを與ふる凡ての恩寵なり、忠實の關する所豈大ならずや忠實の意義豈高ならずや、

人に對するの忠實は何如ん人類相互の關係に於て否世

界的事業の最とも遠隔なる關係に於ても凡て忠實を行ふの地ならざるはなく何如なる人も相互の關係あるものは必ず眞正眞實なるべきなり假設ば商人と顧客との如き生産者と消費者との如き法律家と依賴者との如き本人と代理人との如き醫者と病人との如き皆互に忠實にして信任あるを要す假令ひ言語に忠實なるが爲め行爲に忠實なるが爲め事業に忠實なるが爲め自利を損じ目前の益を害するあるも誠心忠實を重んずる者は決して之を意とせざるなり勞に酬ゐるの益なきも功に報ずるの德なきも眞心忠實を貴む者は決して意に介せざるなり忠實の人は精神を以て事に當り如何なる困難も之を避けず如何なる苦行も之を脫せず正義の命ずる所は白刄も之を踏み道德の令する所は砲丸も之を犯すを辭せざるなり之に反して不忠實の人は怠慢を以て事を取り、人に接するや冷淡、事を處するや不實、利を見て義を見ず、目前を知りて結果を知らず、之を不忠實の特色と云ふ、忠實の人、事に當れば事業自ら品位を高め萬人之を仰望す、不忠實の人、事に當れば事業自ら卑汚、天下之を賤しむ

日本の國たる商業月に盛んに年に振ひ一孤島の小範圍を脫して天下の大商界に突入せり然り其範圍を脫するや善し大商界に突入するや善し然ども商人をして言語に忠實に一言一行其確實なる證文の如く國人並に外國人をして信任と尊敬の感情を懷かしむるにあらざれば其繁榮未だ期すべからざるなり

忠實の關する所豈獨り商人のみならん雇主と雇人との關係も亦此の如きのみ日本人民は各其欲する所に從ひ職業を選み應分の賃錢を得べきも忠實てふ高德は彼をして精を職に致し嘗て怠る勿らしむ昔時の士族は時と一身とを藩主に奉し忠實の念嘗て忘るゝことなかりき今日に至りては士族と藩主との關係なきも義務的の職分は決して變ずるものにあらざるなり人若し職業に對して賃錢若干を請求せば彼は賃錢に對して忠實の働きをなすべきなり否な彼若し怠慢的の人物なりせば雇主に對し教師に對し若しくは顧客に對して耻辱を感すべきは倘ほ昔時の卑怯未練なる士族が藩主に對して不面目

なりしが如くなるべし

豈獨り雇人と雇主との關係のみならんや朋友間の關係に於ても亦た然り朋友にして眞誠の交はりなくんば乾燥荒涼にして終らんのみ何人か正實なる二三の朋友あらざらん彼等の中には小兒の時より竹馬の友として生長し少年の時より同校の生徒として敎育せられ永年の經驗と舊時の記臆とによりて共に相信任するに至りしものあらん又た年壯にして同一の勞働に服し同一の危難に當り同一の試惑と悲哀に際會し同憐の情と共同の思想とによりて彼の心情と我の心情と相依り以て相信任するに至りしものあらん斯の如く朋友たるの原始に於ては種々異なるべきも一たび意氣の相投ずるものあらば彼を尊重して生命の最惠となし忠實の誠を表すべきなり否一たび朋友たらば互に相信任し之を尊重すると自己の生命の如くなれ彼に對して妄に疑惑を懷く勿れ疑惑の原因空際を生ずる勿れ往年を追懷して相互の連鎖となし力の之を助くべきは之を助け身の之に奉ずべきは之を奉ぜよ古來の史傳に於ても文學に於ても人をして尊長敬愛の心を生ぜしむる者は忠實の爲めに難を避けず苦を辭せざるの擧動なり斯の如き言行を目擊し斯の如き忠實を信じ以て行爲の指南となすものは宗敎の大目的たる深意を理會し同胞たる人類に對して愛と尊敬との實を表する難からざるなり

然ども社會の繁榮上最も重要なるものは家內に於けるの忠實なり親族間の忠實なり血族的關係を有するものゝ忠實なり思ふに家族間の關係に於て世界萬國恐らくは日本人民の如く忠實の念に深きものは鮮かるべく又た日本帝國の歷史に於て子の父母に對する熱情の如く美にして麗なるものは鮮かるべし孝行的忠實は日本國民の王冠なりき此王冠今安全なりとなす歟危機に際會せりとなす歟夫智識益々進み一代は一代より高く先代の智識は後代の笑となるの時に當り忠實の德は數々危害に會ふものなり今日の日本之なしと云ふべき歟日本社會の現狀を察するに少年にして世界の新智識に照され少しく自己の品位を知覺するものは經驗に於ても年齡に於ても長上たり優者たるの諸人を輕蔑し其間に忠

實の觀念あるなく義務の思想あるなし是れ余一人の私論にあらず日本思想家の公論なり輕薄子弟自崇の餘影未だ家内に進入せざるも然も之れが門戸を强迫しつゝあるは又た疑ふべきにあらず學校生徒の惡意を以て教師に對する如き小童の私意を以て大人を脅かすが如きは見易きの例にして今に於て早く之が所置をなさずんば延きて家内に及び親子の愛情を害するに至らん夫れ父母の願望と意志とにして道と正義とを害せざる限りは子たるものゝ之に從順なるべきは親子間當然の關係なりとす其他一家に於ては總て誠實を以て事に當り夫婦の間だ兄弟姉妹の間だ慈愛を根となし援助を基となし眞實を本とすべきなり家族にして相離れ相爭ひ冷淡と不實とを以て相接するに至らば社會は其根據に於て既に腐敗せり國家の滅亡期して俟つべきなり

忠實の必要なる斯の如く忠實の危難に遭遇する斯の如し然らば則ち今日の急務は忠實てふ思想に向つて高尙なる解釋を與ふるにあるのみ其法如何ん曰く道德法に忠實なるにあるのみ道德法は宇宙の精髓なり宗教（日本人の多く言ふことを欲せざる）に頼りて世界に顯はさるゝものなり世人多くは宗教なる語句を誤解し迷信郎宗教となすもの少からず然ども余輩の所謂る宗教なるものは之に異なり余輩は世界及び人心に存ぜる正義、道、純粹、及び愛は宇宙の最上法にして人類の行爲以上にある大權者なりと信じ因りて以て宗教を解釋するものなり、宇宙は其精、道德なり、社會的平和、社會的繁榮、家内的純粹、家内的幸福、個人的安全は凡て實義なるにあるなり大氣なるにあるなり誠實なるにあるなり謙遜なるにあるなり慈仁なるにあるなり博愛なるにあるなり此等は世界道德の別名にして余輩は之を稱して上帝の意志と云ふ平穩に將來の日本帝國に入り强健なる國民として永續せんには宜しく宗教的人民（少なくも上に述べたる意味の宗教的人民）となり古今の聖賢によりて明にせられ國民の歷史によりて證せられ人の良心によりて顯はされたる正義、道、及び愛の法則に忠實なるべきなり日本人民をして最上なる宇宙の道德法に忠實ならしめよ上帝の意志に忠實ならしめよ

此等の忠實ありて而して後ち國家の安康得らるべきなり社會の平和待つべきなり一家の幸福豫じめすべきなり一身の優秀期すべきなり夫れ道德法は自然の法則にして決して孔子ありて之を述べ釋迦ありて之を言ひ基督ありて之を敎へしが爲めに存ずるものにあらざるなり天下の人悉く此等諸賢者（天使とも稱ずべき）を信ぜざるに至るも道德法は依然として舊時と異なるなし此等の諸賢者は唯善く天意を知るの良知を有せしのみ諸國民の起りたるは何故ぞ無窮の正義を知りたるは其一因なり其倒れたるは何故ぞ永遠の道德を怠れるは其一因なり若し日本人民にして此永遠無窮の法則を忘れ之を怠る如きあらば決して嶄然世界に頭角を顯はす能はざるべし余輩にして勉めて止まずんば道德大主宰者の意志を知覺するに至る難からざるべし、余輩は過去の賢人が敎へたる總てに向つて奴隷的從順を助言するものにあらず余輩は古聖賢を慕ひ其境域に入らんとを勉むべし否一歩を進めて古聖賢以上に出でんとを勵むべし余輩の最も勉むべきは道德法の智識を得るにあるなり天意を知るにあるなり

日本の新時代に於て忠實維新の功を奏せしめよ人民をして法律に不實なるものは之を恐れ國家に不忠なるものは之を怖れ社會的關係に不信なるものは之を畏れ家内に不德なるものは之を懼れ一身上の正義を顧みざるものは之を愼るゝと倘ほ彼等が古昔に於て反逆を恐れ不忠を忌みしが如くならしめよ日本人民をして眞正の國民、偉大なる人民たらしむるものは、唯道德的、宗敎的權力をして旺盛ならしむるにあるのみ

論林

一千八百九十三年亞米利加コロムビヤ世界大博覽會に於ける宗敎家の會合

クレイ、マッコーレー

世界大博覽會事務官は亞米利加宗敎諸團躰の代表者よりなれる委員を選定し明年を以てチカゴに開く萬國宗敎大會の準備をなさしむ此委員は事務に鞅掌し着々歩

を進め左の告文を廣布せり余輩「宗教」記者は喜んで同情を表するものなり思ふに天下既に斯の如きの徵候あるは、宇宙的信仰、人類の確認する所となるの時機近きにあるを知るに足らん、天下の人類悉く唯一無窮なる天父の子なるを知り天下の國民皆平和繁榮なる一家族の兄弟なるを曉るに至るの日遠きにあらざるを知るに足らん其告文に曰く

世界大博覽會は世界文明の先進たり、されば創造、整頓の權力たる宗教は此會合に於て嶄然頭角を現はし人類發達の要素要力たるの實を表すべきなり而して委員會は此大會合に向つて責任を有するものなれば天下の各宗教代表者に其共働を求めざるべからざるなり夫れ萬國相互の間だ關係日に密に月に親しむの今日は新に宗教的同情を表し兄弟的友愛を發達せしむるの好時機なり人類は大洋ありて之を隔て國語異なりて之を離し宗教違ふて之を分つと雖も之を打ちて一丸となすは非常の急務にして（全く之を成功するの望みなしとなすも）歷史的になれる大宗教の文學及び結果は潔白なる精神を以て之を研究し恰も光明と愛とに對するが如くなるべし此會合は各宗教異なる所の要點を問はざるを以て目的となすものにあらず其旨とする所は、各宗の高德、信仰堅固にして眞誠を求むるに熱心に、近世の問題に宗教の加賛する光明を知らんと欲する者をして平和親密の會合をなさしむるにあるなり故に此補助會合を機會とし宗教上の利益を收めんと欲するもの丶爲めに諸教會の特別會合、諸名目の特別會合、宗教諸團躰の特別會合等を設けり然ども中央宗教大會合を以て最大なりとす余輩は此會合をして道德の大目的に向つて結合したる代表者の集會として其名の馨しからんとを希望するものなり

余輩は上帝の存在を信じ其證人あるを信ぜり余輩は又宗教の勢力は天下の繁榮を進め人民に社會的活力を與ふるものなるを信ぜり余輩は又上帝は人に偏するものならざるを信じ併せて上帝を畏れ正義の行をなす者は皆彼に助けらるべきを信ぜり夫然り余輩は

熱心と眞情とを以て各宗教の代表者を誘導し之れをして一千八百九十三年の大博覽會に出席せしめ世界をして人類の宗教的調和と結合とを知らしめ併せて道德及び精神上の勢力は人類進歩の根底なるを知らしむべし此會合は宗教的信仰の基礎を熟考し凡ての時代に於ける宗教の勝利を査閲し諸國民中に於ける宗教現時の狀況と此れが文學、技術、商賣、政府、及び家族的生活に及ぼせる勢力を明にし之れが節制と社會的純粹とに及ぼせる効用を示し之れが眞正の科學と矛盾せざる所以を示し之れが高等の學問に於ける位置を顯はし一週一日の休暇を宗教若しくは他の目的に利用せるを證し因りて以て上帝を尊崇し人類を合一せしむる所の諸勢力に援助を與ふべきなり願はくは世界各部の代表者をして世界改良に何事を報ずべき歟何物を呈すべき歟を一考し宗教は勞働問題に對して教育問題に對して現時紛亂の社會に對して何如なる說明を與ふべき歟を熟慮し一千八百九十三年に於ける他の大會合の面前に來る所の活問題に對して如何なる光輝を與ふべき歟を精考せしめよ余輩は此の如き若しくは類似問題の各地大思想家によりて論議せられんことを希望し併せて個人たると宗教團躰たるとを問はず特に此告文を送付せらるゝの諸氏は奮つて其意見を吐露し共働の實を表せられんことを希望するものなり

各地の重なる神學家、政治家、法律家、歷史家、科學家、著作家、及び學者等よりの返信によりて之を推考するに一千八百九十三年の大會合は人心の歷史に於ける一大要紀なるべきや明なり

余輩は日本の諸教徒が其基督教徒たると佛教徒たると孔子教徒たると神道教徒たるとを問はず各其主導者を送りて此大會合に參列せしめんことを冀望するものなり蓋し此の如きは宗教的に一箇の國民を分離せしむる所の境界を切破し精神の結合をして一層鞏固に一層明瞭ならしむるの時機なればなり

余輩は此世界大會合の招集に對し印度カルカッタのプロタプ、チヤンダー、モズーンダー氏（世界大會合の役

人となりし人）よりの返書を得たれば玆に之を譯載せん文中二三の箇所は「宗教」の讀者に興味を與ふる少からざるべしモズーンダー氏曰く

余は一千八百九十三年コロンビア大博覽會宗教大會合評議員たるべしとの榮譽なる推薦に與かりしを謝し喜んで之を承諾するものなり

四海萬國の人民皆兄弟なりとの思想は凡ての宗教の夢想にして余輩ブラモ、ソマヅ教信徒には重要なる信仰原理の一なりき此四海兄弟主義は獨り內國人に訴ふるのみならず世界各地の各人民に訴へんことを勉め余輩の事業家は世界の各所に其使節を運ぶに盡力せり然ども哀れ哉今輩印度人は今日繁盛の民たるを得ず從つて其事業も亦た効果を奏する能はざるなり然るに地球上最文明の名聲あり最進步の實力ある亞米利加國の卿等にして人類同胞の大旗を擧げ聖章を提げ余輩の祖國及ひ其數百萬人民の名に於て與に諸卿と共働せんことを求めらる余輩豈兩手を擧げて眞心賛成を表せざらんや而して余が特に滿悅する所のものは諸卿結合の素志、宗教同類者の爲めなるにあらずして、宗派的同情者の爲めなるにあらずして、放膽、豪勇の心を以て宗教の系統に於て正義となす所のものは其何たるを問はず之を誘導するにあるを以てなり

印度人にして諸卿の挨拶を讀まば皆其心情を鼓舞せらるべし我が故の大教導者ケシュブ、チャンダーセンは其高大なる新信仰を述ぶるに當り全く諸卿と同一の位置を取れり故に諸卿！余は今日諸卿の高職を受くるも實は我が教會の大主義に効果を與へつゝあるなり

諸卿は此宗教大會合をして効果を收めしめんが爲め丁寧に余の意見を問へり余は先づ該會運動の細密なる通告を待ち然る後ち徐ろに陳する所あるべければ此處には唯其一二を述ぶるに止まるべきなり余は印度の各宗教及び各國民よりおの〳〵代表者を出し聽衆をして各社會最近の進步と窮極の希望とを知らしむべし而して英語は極東極西の志想を結び付ける好

媒介たるべきなり余は又た云はんとす印度の地たる豐饒にして、小宗派、小敎團群起せるを以て代表者の選擇に於て非常の注意を要せざるべからず余は保守派代表者（設令ひ非常の高名有力の人なるにもせよ）のみの往くを欲せざるものなり此の如き場合に遭遇せば宜しく印度記錄の古代になれるものと近世になれるものとを飜譯編纂し大會合に於て之を朗讀するを以て最良なりと信ず此れ古代の精神と近世の精神とを硏究するに最便なるべければなり

今筆を擱せんとするに當り云ふべきものあり、余が今日迄會談せし諸人は皆諸卿の思想に同情を表せり余は諸人の說を叩き言ふべきものあらば彼等の援助を求むべきなり嗚呼諸卿！願はくは萬國の父なる上帝の靈、諸卿と余輩と諸卿の高業に贊成せる世界各部の諸人の上に圓滿なる恩寵を下し心情を調へ、世の空望爭闘を排除して眞正の兄弟を造り給はんとを此れ余の諸卿と共に希望する所なり信任する所なり上帝の天父たると及び人類の同胞たるとのめぐみある名に於て謹言す

明年の宗敎大會は日本帝國宗敎諸團躰の大に熟慮すべきものなり余輩はチカゴ大會出席員たるべき著名なる代議者の撰出を聞かんと欲するものなり

敎育家－宗敎－道德（前號の續き）

洪　榮三

第一　良心と宗敎との關係　宗敎は良心に輔助を與へ勇氣を付するものなり然ども決して良心を製造するものにあらず何となれば良心の存在は宗敎家たると否とに關するものにあらざればなり何人も孝悌忠信の心あらざるはなく仁義禮智の觀念あらざるはなし故に孟子云へるあり「今人乍見孺子將入於井皆有怵惕惻隱之心非所以內交於孺子之父母也非所以要譽於鄕黨朋友也非惡其聲而然也由是觀之無惻隱之心非人也無羞惡之心非人也無辭讓之心非人也無是非之心非人也惻隱之心仁之端也羞惡之心義之端也辭讓之心禮之端也是非之心智之端也人

之有₂是四端₁也猶₃其有₂四躰₁也苟能充ㇾ之足₃以保₂四海₁苟不ㇾ充ㇾ之不ㇾ足₃以事₂父母₁」と人に良知の存在するは又疑ふべきにあらず唯之を擴充するの難きあるのみ然れども人一たび宗敎の力によりて天外に權力あるを知覺し弱を助けよ善を行へと内心より命令する微々たる小聲は其本源天にあり決して孤立索居のものにあらざるを知らば我心に感得するの勢力如何なるべき歟蓋し孤城落日四面楚歌の聲を聽に當りて百萬の援兵を得たるの思あるべきなり近く之を西南の役に例するに熊本薩兵の圍む所となり粮將に盡き士卒將に飢んとす此時に當り城兵たるもの其心如何ん彼等の情慾は曰く城門を開きて降を乞ひ一身を全ふすべしと彼等の良心は曰く入たるものは義によりて死生を決すべしと此時に當り正義は天外の權力にして萬世一貫の公道なるを確認し情慾は個人の肉躰より來りて浮沈極まりなき俗界的のものなるを知り成敗利鈍を天に任じ死生を運に決せしにあらずんば彼等は安んぞ能く强頑なる薩兵を倒し今日の名聲を博するを得んや余輩は歴史を繙く毎に宗敎心の此世に大造あるを認めざるはなし見よ楠正成の金剛山に苦戰し湊川に命を棄つるが如き張巡顔眞卿の國家の爲めに身を殺すが如きヂョアン、ダークが一女子の身を國家に奉じて焚死を厭はざるが如き其他和氣の淸麿が帝室に身を奉じて詫宣を傳ふるが如き皆正義公道は天外の權力なるを確認し此權力の命ずる所は鼎鑊も甘きと飴の如しとの觀念を懷きしによらざるはなきなり換言せば是等の諸士は上帝てふ意味を知らざりしなるべきも皆正義を以て偶然的便利的のものにあらざるを確認し仁義は其源泉天にありて色欲食欲の如く俗界浮漂的のものにあらざるを認識せしによるなり宗敎なきの良心はあれどもなきが如く情慾の制する所となる又た言を待たざるなり宗敎心の良心を助くる豈少々ならんや

第二　宗敎は未來の希望を與へ道德の上進を助くる一大勢力なり。吾人に未來の希望を與へ大に道德の上進を助くるものは獨り上帝の信任あるのみ希望は勇氣を與へ勇氣は正義を實行して躊躇する勿らしむ勿論宗敎

以外に社會の制裁、法律の禁制、良心の議譽、朋友の褒貶、善惡の報酬等ありて吾人に希望を與へ正義實行の勇氣を與ふる少からざるなり然れども是れ惟微弱の制裁のみ社會の耳目を窃み法網を脫し朋友を僞はり良心を欺むき惡事を行ふ何かあらん子思曰く莫レ見ニ乎隱一莫レ顯ニ乎微一故君子愼ニ其獨一也と何故に隱より見はるゝなき歟無窮の上天我を觀察すればなり何故に微より顯なるはなき歟永遠の上帝見ざる所なければなり我にして無窮の上帝を確認するに非ずんば安んぞ能く其獨を愼むの君子たるを得ん夫れ眞正の思想を造り眞正の意志を訓諫し內心をして一點曇りなく利益之を誘ふも動せず情慾之を引くも動かず大難に遇ふて恐れす謂ふ所富貴不レ能レ淫貧賤不レ能レ移威武不レ能レ屈の大丈夫たるを得るものは獨り無窮の權力我を刺衝して新鮮の活氣を充すにあるなり此權力孟子は之を稱して浩然の氣と云ひ孔子は之を仁と云ひ老子は道と云へり、是等聖賢の說く所其廣狹に於て異なるありと雖ども必竟基督敎の上帝を一面より觀察したるに過ぎざるなり、仁の觀念我を刺擊し、浩然の氣我を奬勵し、道の思想我を鼓舞し、上帝の念息々我を打つにあらずんば、安んぞ能く强大の私慾に抗し誘引に逆ひ毅然として特立するを得ん、無窮の權力は吾人の須臾も離るゝ能はざる永遠の朋友にして吾人に無限の希望を與ふる源泉なり

人生より未來の希望を除去せよ明年の希望を除去せよ來月明日の希望を除去せよ除き去りて唯現時のみとなせ人性の狀態如何ん彼は何の勇氣ありて正道を行ひ德行を勵むべきか情慾我を誘ふあらば我れ何を以て之に抗せんとするか我に孟賁の勇あり彼に蒲柳の質あり、彼は麗裝美食、我は襤褸疎糲、何ぞ一擊彼を倒し取りて替るの行をなさゞる歟我は明日あるを知らず安んぞ來年あるを知らん我は今生あるを知らず安んぞ來世あるを知らん何者の愚人か肉欲の快樂を捨てゝ道德の頑愚を取る是に於てか弱肉强食政府は政治を行ふ能はず萬民は其業に安んずる能はず天下擾亂禽獸の世となるや日を睹るよりも明なり

人或は云はん人生に未來あらば我れ之れを信ぜん苟も道理的の人類にして思想を有する以上は何事も妄信する能はざるなり敢て未來生命の證跡を求むと余答へて曰く抑も生とは如何ん唯手足鼻口を備へて運動するの云にあらざるなり朝に食ひ夕に寢ねて日を送るの謂にあらざるなり此の如きは禽獸魚鳥の生命のみ僅に人生の一小部分たる肉躰上の事のみ肉躰は決して永遠に其形躰を保有するものにあらず其暫時なるは尙ほ水泡の如し然ども人の躰肉に宿れる精神に至りては萬世變ぜず毅然として動かざるものなり余輩はゾロアスターの形躰は死せしを知る然ども彼の精神は波斯人の腦裡に宿りゼンド、アヴェスターの經文に殘り其新鮮なる嘗て三千年以前と異なるなきを知る余輩はナザレスの耶蘇は其形躰を失ひしを知る然ども其精神は新約全書に宿り歐羅巴亞米利加を敎育し亞細亞亞弗利加を風靡し其生命の活潑なる一千八百年以前の比にあらざるを知る余輩は印度の瞿曇は其形躰を失ひしを知る然とも其精神は佛徒四億の頭腦に宿り伽籃殿堂に住し其生命の活動する決して三千年以前の佛陀にあらざるを知る孔子も然りソクラテスも然りプレトーも然りアリストーテルも然り彼等の形躰は原上一片の露となりて消失せり然ども彼等の精神は書籍に宿り人類に宿り其勢力の强大なる決して昔日の比にあらざるなり夫れ生あるものは必ず其働きなかるべからず譬ひ其形躰は呼吸を保するも日になす所なく己を利せず社會を益せずんば之を木偶に比して生命なしと云ふも何の不可か之れあらん余はアメリカ、インヂヤン、若しくはニグロ等を以て死に瀕せるものと云に躊躇せざるなり之に反して人工の木偶と雖ども社會を益し萬民を利し己れ坐するも能く人をして禮拜せしめ己れ言はざるも能く人をして命令に服從せしむるの働きを有するものは之を人類に比し生命ありと云ふも何の不可なるとか之あらん余は淺草觀音成田不動釋迦尊像等を以て生命ありと云ふに躊躇せざるなり夫れ然り人の生命にして形躰を失ふも其働き彼の如き所以のものは死せざる所以の證跡なり余故に曰く基督もゾロアスターもマホメットも釋迦も

孔子もソクラテスも今日猶此世に存し活潑の運動をなしつゝあるなり余輩何ぞ明日なきをを痛まん來年なきを疾まん死後の生命なきを憂へん余輩は未來を期して善に善報あり惡に惡報あるを信じ勉めて德行を勵み情慾を制す可きなり孔子云はずや君子は世を沒して而して名の稱ぜられざるを疾むと余輩は須らく一時の欲を廢てゝ永遠の利を計り今世の望みを棄てゝ來世の希望を求むべきなり余輩何ぞ今世の不幸を厭はん正義の爲めには肉躰上の生命何かあらん道義の爲めには今世の毀譽何かあらん四十七義士の魂は赫々として今日に存じ佐倉宗吾の靈は今日毅然として立てり誰れか未來を信ずるの理なしと云ふ

以上二項に分ちて宗敎の道德に關係する所以を明にせり然ども余は決して此外に宗敎道德の關係なしと云にあらざるなり特に宗敎の人の品位を高ふするの點に至りては其關係少からざるを以て余は他日を期して大に之を論究するの榮を得んとを望むものなり

宗敎の道德に關係する斯の如し、然るに世の敎育者は漫然として曰く宗敎は迷信なり愚夫愚婦のなす所なりと嗚呼是れ何等の妄言ぞや彼等は道德を敎ゆるも唯便利的に之を搆成するに過ぎざるなり道の本源天に出でゝ一定の規律の下に働くに非ずんば世界は偶然の世となり了せん廣く世界を觀察するに邦國多しと雖ども未だ不孝を許すの國あるを聞かざるなり不忠を許すの國あるを聞かざるなり主宰者なきの民あるを見ざるなり天下の廣き鎖國攘夷を主義とせしもの少なからず然るに萬國殆んど其德性を一にするは果して遍然と云ふべき歟天下至る處に宗敎を生じ道德の制裁を此大權力者に仰がざるはなし此れ果して偶然と稱すべき歟一定の規律確然として萬國に普通なるは其本源同一にして世界の敎導者及び整理者より出づるの證跡にあらざる歟天下道德家多しと雖も未だ世界の大權力者を戴かざるものあるを聞かず（スペンサー派の主義は之に反す然ども其論據に大誤謬あるは他日を期して之を論ぜん）世の幸福論者便利論者百方抗辯すと雖も彼等をして正當の幸福正當の便利と思はしめ同一の善良なる目的に

向つて働かしむるものは世界の大權力者にあらずして何ぞや然るに教育家或は宗教を排擊して得たりとなすは豈誤まらずや宗教とは何ぞ一方に於ては宇宙の大權力を頂き他方に於ては知覺的人類を生じ兩者の關係を造れる者是れなり

(完)

上帝（前號の續き）

神學士　サミユエル、アール、カルスロプ

「第二」上帝の權力は無窮にして空間及び上帝の他の屬性と共立するものなり

凡ての空間は權力ある空間にして決して無權力空虛なるものあるとなく空虛の空間とは空虛なる文字にして全宇宙を搜索するも一立方吋として此の如き空間あるとなきなり假令ば大陽とシリアス（恒星の名）との中間に於て一立方吋の空間を取り之を驗討せよシリアスの光と熱とは此空間を經過しつゝあるを知るべし又光線分析機を取りて此光線を分解し其何種の者なるかを探求し先づスペクトラム（光線の分析せられたるものを總括してスペクトラムと云ふ）の極赤端、見るべからざる最小光波より初めんに此光波の最長なるものは一吋の$\frac{1}{30,000}$にして一立方吋中に30,000の波數あるべきなり之に次ぎて半光波、四分一光波の諸群あれども今は之を署し、直に一立方吋中30,001の光波あり30,002の光波あるものに移らんに此立方吋中には前に述べたる光波の諸群も共に存じ相互に衝突するとなし余輩は進んで一立方吋中40,000の光波に達するときは見らるべき赤色の中にあり進んで40,000の光波40,001の光波を加へ一立方吋中50,000の光波に達するの時は既に見らるべきスペクトラムの中眞にあり漸次に進んで（黄色及び綠色の光波は全く赤色と無關係にして同時に存在するを記臆すべし）一立方吋中60,000の光波の時は青色の中にあり尙ほ進んで70,000.80,000.90,000.100,000の波數を得るの時は紫色の極端に至り見る可らざる化學光波を得たるなり以上記述の各種の波群は皆同時に同一立方吋中に存じ毫厘も互に衝突するとあるなし斯の如くして計算し來れば余輩は終にシリアスより來

る所の光波は其數該一立方吋に幾何あるかを知るを得べし但し是れシリアスを以て光燄ある一小點となしての揣測なり其全部を云はゞシリアス直徑幾百萬英里なる偉大の圓球にして其各立方吋皆上述の波群を輸送せるものなり然ども余輩の立方吋に存ずるもの豈獨りシリアスの波群のみならんやアークチユラス（恒星の名）より來る所の波群ありヴ井ガ（恒星の名）より來る所の波群ありカノパス（恒星の名）より來る所の波群ありレギユラス（恒星の名）より來る所の波群あり肉眼を以て見るべき六千の恒星より來る所の波群あり大望遠鏡を以て見るべき二千萬の恒星より來る所の波群あり又如何なる大望遠鏡を用ゐるも微光をだに捕ふる能はざる無數遊星の波群ありて該一立方吋の中に存せり豈驚くべきにあらずや然ども波群の止まる幾瞬時なる歟光線は一秒に十九萬英里を馳する者なれば此立方吋に存ぜる光波は一秒百二十兆の全く新たなるものに變ずるの理なり之れをして空間は空虛と云ふべき歟然ども是れ唯空間の光線に關する一關係を示せるのみシリアスと全宇宙との重力の關係も亦た此立方吋を通過せざるべからず而して此重力線は其達する所無窮なるを以てシリアス星の爲にも無窮に遠長せざるべからずアークチユラス星の爲にも無窮に遠長せざるべからずヴ井ガ星の爲めにも無窮に遠長せざるべからず天河に於ける二千萬の大陽の爲めにも無窮に遠長せざるべからず億兆の遊星の爲めにも無窮に遠長せざるべからず無數の星雲の爲めにも無窮に遠長せざるべからず又星塵の無數の分子の爲めにも無窮に遠長せざるべからざるなり而して此等の者は皆同一時に該一立方吋を經過するものなり獨り然るのみならず此幾億萬の物躰は其一運一動毎に又た別線を該立方吋中に畫せざるべからず幾載里遠路の星たりとも一變化の起る毎に該立方吋に報告せらるゝものなり故に全宇宙の運動は堪へず該立方吋の中に記錄せられて殘す所なし若し天使にして數百萬年研究の後該方吋中に起る所のものを全知し得ば余輩は初めて彼を稱して宇宙を知れりと云ふべきなり上帝の嚴正は該方吋の中にあり宇宙に現ずる結果の數

は無窮なるも一として該方時中に誤記せらるゝことなし其分量も性質も一として精緻ならざるはなし

上帝の經濟は該方時の中に存ず一箇の震動として無益なるものあることなく一箇の波動として十分の結果を生ぜざるはなく一厘の重力として無益に消費せらるゝことなし

上帝の美は該立方時の中に記せらる汝の想像を以て數億萬倍ある顯微鏡を取りて該立方時を熟視せよ各種の光波は皆光明に照らされ各種の適色を現はすと想像せよ其形象も曲線も無窮に相互に交錯すと像想せよ其美如何なるべき歟世人或は日月の光明、湖水若しくは大洋の波面に瀲灔跼躍するを視て其美觀言語に絶すと云ふ然とも之を該立方時の美觀に比せば果して如何ん上帝の美は無窮なり空間と共立するものなり

上帝の愛は該立方時の中にあり、此等の光波は何者の眼目に愉快を與ふる歟畫は何者の心情に快談を敎へ夜は何人の智力に智識を顯はす歟重力によりて保持せらるゝ幾千の世界に居住するものは何者なる歟換言せば凡て宇宙の者は誰の爲に搆造せられたる歟一立方時を經過する權力の數無窮なるも（余輩は全宇宙のもの總て每瞬時に該一立方時の中に記錄せらるゝと云ふを得べし）一として上帝自己の利益若しくは便宜となるものなし萬物は總て受造物たる有限の諸子に向つての恩惠のみ上帝の愛は無窮にして空間と共立する者なり」

信仰深き中世人は上帝の玉坐の前に畏伏せり玉坐の周邊には天使ありて一坐は一坐より高く整立し玉坐の周邊には諸太陽、諸恒星、群をなして輪廻せり上帝は此玉坐にありて空間の諸領地に其意志（矢の濃厚迅速に飛行する狀を畫きて意志を表す）を送り此處にありて天地萬物を整へり聖バーナードは上帝の威權斯の如く重く上帝の愛斯の如く厚きを曉り信仰極はまりて喜悅限りなかりしも彼は未だ空間の一立方時中に存ぜる上帝の權力、智惠、美麗、仁愛の此の如く高大なるを觀想する能はざりしなり

「第三」上帝の嚴正は無窮にして空間及び上帝の他の屬性と共立するものなり

天使マシーシスは常に上帝玉坐の右方に立ち上帝の驚くべき法則を算勘するを以て其權利となし併せて義務となし尊長的に兩翼を疊み確固的に兩足に於て直立し無眩の眼目を以て常住の光榮たる眞篠を眺望し鋼鐵の小机に憑り金剛石のペンを以て上帝嚴正の結果を豫計せり彼女は宇宙に於ける物質各分子の各の運動、各の慄聲、各の動悸を以て自己の物となし諸星の進路を豫告し世界の深淵に宿れる諸大勢力の膨脹を先言し一葉の震動も一波の火花も微花の一點の色も日光、月光、星光の一動悸も彼女の觀察を脱する能はず如何なる骨も筋も神經も血球も如何なる髮頂も植物たると動物たるとを問はず如何なる分子の小變化も悉く彼女に貢物を呈せざるはなし處女の頰側に於ける赧顏も賢人の腦髓に於ける思想も預言者の心情に於ける感應の叫びも聖人の內心に於ける崇拜の絕喜も總て彼女の視察する所となり決して之を離るゝを得ず彼女は各人の心臟鼓動の力を算し一思想の爲めに消費せらるゝ組織の精確なる〆高を勘ふ故に設令ひ如何なる高尙の生活も彼女なければ寸毫の變化も之をなす能はざるなり天運の地は彼女の領分にして凡て有限なる自由の由りて建つ所の盤石なり彼女の言に曰く汝の智は運を知らんが爲めなり此盤石の上に生命の家を建設せよ。盤石一たび汝の頭上に落ちば汝は粉粹する所とならん

「第四」上帝の經濟は無窮にして空間及び上帝の他の屬性と共立するものなり

前百年間の科學は此大問題に向つて長久なる註解なりき十八世紀は物質の破壞せらるべきものにあらざるを發見し十九世紀は勢力の破壞せらるべきものにあらざるを發見せり思ふに二十世紀は心の破壞せらるべきものにあらざるを發見すべきなり夫れ空漠限りなき星羅の空間に於て物質の一分子も損失したることなく一箇の微分子も嘗て其潛勢力千萬分の一を失ひたることなく勢力は依然として減殺せず永久に宇宙に働けり否星羅の空間に於て心は嘗て消失せらるゝことなく永久絕へず上帝の中に生活せり余輩は今日左の如く信ず思ふに明日は其れ斯の如くなるべきなり

世に目的なくして歩行する所の脚足なかるべし」上帝其建設を完成するに一生活をも無益なりとして之を破壞するとなかるべく屑片なりとて虛空に投棄するとなかるべきなり

エマーソン曰く斯の如き宗敎上の記述に疑を狹むを以て笑ふべきとなすの時節到來するは難きにあらざるべしと實に余輩は急速に此時機に到着しつゝあるなり今日空間は無限なりとの眞に就きて疑を懷くものあらば余輩之を一笑に附するを得るなり權力は空間と共立するものなりとの證明ある今日に於て權力は無限にあらずと云ふものあらば余輩は又之を一笑に附するを得るなり無限の嚴正に於ても然り無限の經濟に於ても然り此等は今日既に數學の一部となりつゝあるなり余輩は直に無限の美、無限の正、無限の愛を證し之に疑を狹むものに一笑を附すべきなり

若し上帝の一屬性を見て偉大なりとなすの人あらば若しくは又空間の無限に畏怖し美麗の無窮に驚愕するの人あらば彼を稱して無神論者と云ふ勿れ權力の存在を信ずるに至るも大事なり熱心之を研究するの人にあらざれば此褒賞を得る能はざるなり

「第五」上帝の正義は無窮にして空間及び上帝の他の屬性と共立するものなり

正義の天使マイケールは左手に天秤を持し右手に拔劍を提げ上帝の右側に直立せりマイケールはマシースと雙生兒なり是れ物質界に於ける嚴正は正しく道德界に於ける正義に對すればなり夫れ蒔きたる種は又之を收むべく皮肉に蒔きたる者は皮肉に腐物を苅るべく精神に蒔きたる者は精神に無窮の生命を苅るべし

上帝の正義は至る處に存じ至る處に正をして强からしめ邪をして弱からしめ我欲をして自殺せしむ

大陽系は日に數百萬英里を旅行するも何人として一法の變じたるを見たるものなく一則の傾くを見たるものなし是れ無窮の法は常に至る處に威力あればなり

玆に深く注意を要すべきものあり余輩は故意に上帝を諸屬性に分割しつゝあるなり

人若し赤色の眼鏡を取りて之を用ゐば眼界の達する所

皆赤ならざるはなく青色の眼鏡を取りて之を用ゐは全世界皆青ならざるはなし、樹木、丘岳、家屋皆其關係に於て從前と異なるなきも異なる所のものは色のみ赤色變じて青色となりしのみ

赤眼鏡の赤色を呈する所以は唯赤光を通過せしめ他色を遮斷するが故なり青眼鏡の青色を呈するも亦た同一の理なりとす但し無色眼鏡の凡ての光線を通過せしむるものを用ゐば初めて自然界に存ずる青綠黃等幾千の色澤を見るを得べし

此れと相類し余輩は異色の眼鏡を取りて上帝の屬性を個別に通過せしめ其性を見るを得べきなり

余輩若し正義の赤眼鏡を通過して上帝を仰望せば無窮の空間は總て正義の色なるべく星も系統も廣大なる生活も微細なる正命も唯正義の一色を呈し萬事萬物皆正義を以て適度に比例的に分配せられ正義の外一物なきの觀をなさん然とも空間なきにあらざるなり他の屬性なきにあらざるなり唯余輩は暫時の間だ正義の眼鏡に光輝を與へ深く一性を熟考し他性を影裏に隱すに過ぎざるなり

人或は云はん赤黃青綠皆各異物なりと然とも此等は皆同一の原素より出で異なる所のものは其運動に過ぎざるなり凡ての空間に存ずるイーサーノの大洋は一なり而して赤綠青黃等は總て此一大洋に於ける波狀にして其異なる所のものは波の廣さと高さとのみ豈他異あらんや

人或は權力正義智惠等を以て異物となすものあらん然とも此等は無限なる唯一の現躰より出でたる形狀にして上帝の屬性たるに過ぎざるなり

（未完）

宗教起原論　（抄譯）

オットー、プライデレル

宗教の起原は、神が太古人に奇跡的に直授せるものなりとは、これ其天啓論者が常に唱導する所にして、一見甚だ簡明なるが如しと雖も、深く之を講究する時には、夥多の難問、之に纒綿せるを發見すべし、神の天啓果して斯の如くんば、何故に古來萬邦民人の間に種

々なる宗教散布し、亦彌々古代に遡るに從ひ、其信仰純潔ならず、其理に悖逆する所多き影跡あるは、甚だ了解し易からざる事情ならずや、元來宗教は直接なる神の天啓に發したるものとせば、何故に其信仰は萬國民を通じて同一轍に出で、萬世に渉りて純潔眞誠ならざるや、此難問を避けんが爲に、或宗教家は一種の臆説を搆へて曰く、原始に於て神は人類に授くるに純粹なる眞理を以てせり、故に其人類は一般に同一なる、純粹なる、完全なる信仰を有したり、然れども一回の犯罪に依り彼等は忽ち其高位より墮落し、誠眞の信仰を失ひ終に偶像崇拜に陷り、後世に種々雜多なる迷信妄説の起りて、不完全なる宗教を奉戴するに至りし所以なりと、然れども神已に原始に於て純潔なる眞理を以て人類に授けたりとせば、何故に神は同時に彼れをして永久之を保持するの道を授けざりしや、原始に於て之を彼等に授くると、已に授けたる以後に於て、彼等をして之を保持せしむる法を設くるとは、夫れ將た孰れか難事とするや、太古の人類は未だ幼稚なり、未だ何事も不經驗なり、然らば譬へ一旦純潔完全なる眞理を授くるも、忽ち之を忘德し、忽ち之を紛雜ならしむるは、火を見るよりも明瞭なるにあらずや、神も必ず其事あるを豫知せられしならん、然るに豫め其妨禦の計を講せず、大切なる宗教上の眞理を未熟の人類に放任し、彼等をして數千年間黯黒迷霧の裡に彷徨せしめ、再び新規なる天啓を下し、以て原始の純潔なる信仰に歸らしめんとするが如きは、これ豈完全なる神の智慧に基きたる教育法としては、甚だ不都合千萬なるにあらずや

右の難問は余輩をして稍前述の解釋に伴ふ疑團を懷かしむるに至れり、而のみならず神が自ら太古の人類に授くるに宗教上の智識を以てしたりとの説に倚若干の難題之に纏綿せり、抑神を以て一個の教師の如く見做し、自ら太古の人類の上に顯れ、彼等を教育するの勞を取りたりとするは、是則ち神人同形説の最も甚だしきものにして、余輩は之に向て論難すべき點頗ぶる多端なりと雖も、今は暫く之を措き、玆に余輩が決して

看過し去るべからざる要點あり、凡教育はたとへ如何なる完全の方法に依るも、若し之を受くるものに於て、其授けられたる眞理を智得し、之を了解する能力を有せざれば、決して其效果を見ること能はず、去れば未熟幼稚なる太古の人類は、如何にして至高至難の觀念なる唯一絶對の神、若しくは唯一純盡なる神と言へる如きを了解するを得んや、凡學は已に了解し得たる諸の觀念により、亦是等を了解するに於て、稍熟達したる能力により、新觀念を智得するにあり、されば稍高尙なる觀念を智得するに當り之が爲めには若干の豫備なかるべからず、太古の人類にはかゝる豫備は、之を心理上より講究するも有得べしとは思惟せられず、亦之を歷史上に照するも更に其形跡を認むる能はず、比較言語學の敎ふる所に依れば、後世に至り人類が高尙なる道義上及び心理上の觀念を表證するに使用したる言語の根本は、大低太古に於ては純然たる物質的現象、若しくは覺性的働作を表證したるものなるが、文明の進步に從ひ、漸を追ふて其意義稍高尙となり、終に心靈上の意義を含畜するに至れりと、是に依て之を見れば太古の人類が言語の根本を形造しつゝありし時は、彼等は未だ超客觀的の觀念を有すること能はず、尙物質的現象中に生活し、其觀念の悉く物質的なりしは、恰も方今に於て吾人の小見等の情態に均しかりしならん、方今に於ては吾人の小見等が、僅々數年の敎育により、一躍して物質的境界より心靈的に超越し、種々の高尙なる觀念を知得するに至るを得るは、蓋し彼等の爲めに千百年來、彼等に代り思考し實驗したる祖先の賜物あるが故なり、然れども此便利を有せさる太古の人類に向て、是等の觀念を知得せしめんとするには、譬へ幾千年を經過するも、恐らく其効果を見る事能はざるべし、かゝれは太古にありて神が天啓に依り宗敎上の完全なる智識を人類に授けしとの說は、彼等人類の能力之を受るに堪へさるの事實に接して、全く潰滅したりと言ふべし、或論者は此簡明なる議論の光鋒を避けんが爲めイズラヱル人の宗教を提出して曰く、アブラハムの家族に在りては、太古より變神に對する

眞誠の信仰を持し、之を以て其遺敎と爲せり、是豈原始の天啓を證明する適例にあらずやと、然れども夫のイスラヱル人の祖先に對し彼等は眞誠の信仰ありしと主張する說は、既に現今に於て歷史的批評學者に、其拙劣を看破せられて殆ど剩す所なし、是等は夫の宗敎の口碑には常に有うちの事なる稍發達したる、後世の信仰を直に太古の祖先に推及し、彼等にも等しき信仰ありしと見做す、宗敎心の想像より發したる結果なるに過ぎず、余輩は彼章に至りイスラヱルに於ける、宗敎心の發育を論ずるの段に於て、明に夫の國民の古代の宗敎は頗る劣等なる天然崇拜敎なりしが、漸く進化して終に高尙なる道義的宗敎に達したれども、其間に在て種々なる障碍物の爲めに其進路を妨害せられ、辛ふじて其發育を全ふしたる事實は、明に之を了解し得べし、かゝれば偶々原始の天啓說を辯護せんが爲めに提出する引證も、却てこれ其返對を證明する適例とはなれり。

舊新約書の奴隷たる勿れ

洪　榮三

孟子曰く悉く書を信せば書なきに如かずと何ぞ其言辭の適切にして眼光の銳なるや支那人をして常に此見識と度量とを有せしめば恐らくは中華主義の奴隷となり保守主義の僕婢となり小天地に屈居して內亂廷爭を事とし外人を以て夷狄となし海外を以て野蠻となすの不幸を見ざりしならん然るに後世の學者新見を創し新智を開く能はず論語を以て仁義となし孟子を以て浩然の氣となし易を以て大極となし古書の外に大道の記すべきなく古典の外に道德の錄すべきなしと思ひ古衣に甘んじ糟粕に飽き訓詁註釋を以て一生の事業となし文章筆跡を以て生涯の勤務となすに至りしは豈に哀れむべきにあらずや周茂叔程子朱子陸象山王陽明の諸子に至りては自ら大に曉る所あり發明する所なきにあらず然とも斷然として先聖先賢と其見識の異なる所を明にし獨立の意見を吐露する能はず常に孔を經とし孟を緯とし意見の大に異なるあるも口を極め辯を盡し敢て古道

に違はざらんとを務めしは是れ孔孟堯舜を祖述せるの轍に倣ひ自ら書籍の奴隷となりしによるのみ噫東洋の一大帝國支那をして保守の國となし頑固の社會となし十九世紀の文明場裡に一鞭を附くる能はざらしめし所以のものは全く三年父の道を改むるなきを以て純正の孝道となし時に隨ひ變に應ずるの策を講ずる能はざりしによるなり彼三千年の古帝國をして常に孟子的の人物を出し孟子的の見識度量を有せしめは安んぞ木乃頁（ミイラ）の誇りて受け豚尾の笑を招くの不幸あらんや書籍崇拜奴隷的根性勤めて驅逐せざるべからざるなり

我日本帝國支那の文明を傳へてより孔孟の書籍學者の腦裡に入り仁義の道之によりて大に明に廉耻の德之によりて大に張り其益する所實に少々ならざりしなり楠氏三世の忠義は何者の産物なりし歟封建時代の美風は何者の生産なりし歟武士の氣風は何者の製造なりし歟此等の原素をなせしもの固より二三にして足らざるべきも其第一に位すべきは儒教を措きて他に求むべきものなかるべきなり然ども利の存ずる所には害亦た之に伴ひ益の存ずる所には損亦た之に從ふは天地已むべからざるの法則なるか儒教の功德其大なる斯の如きも其弊害亦た少々なるにあらず孔孟の書を以て神聖犯すべからずとなし之に從はざるものは異端として排斥せられ之に逆ふ者は邪說として拒絶せられ四書五經の外には道德倫理の書なく政治の書なく法律の書なく日本三千萬の同胞は論語に支配せられ孟子に支配せられ政治の原則も法律の確言も論理の證明も其基礎を四書に取り其根底を五經に仰がざるものは一家の私言として顧みられざるの不幸を見るに至り日本も亦た支那の覆轍を蹈み訓詁註釋の腐儒敗學の蹂躪する所となれり豈慨して嘆ぜざるべけんや

下田の砲聲は日本人民に如何なる幸福を與へしか明治の維新は日本社會に如何なる利益を與へしか粗雜迂遠の器物は變じて緻密精巧のものとなり質實野鄙のものは改まりて光澤麗清のものとなり二重の政府は聖天子の直政府となり學問も又た大に其面目を改め倫理政治法律動植物の諸學となり古人の獨り四書五經に汲々た

りしを笑ひ眞正の道理は獨り支那古聖賢の書にのみ宿るものにあらざるを知り目を萬國に配り心を宇宙に擴げ眞正の大道と眞正の仁義を探究せんと欲し二千有餘年間に養成したる習慣風俗を脱却し（出來る丈け）明鏡の如き秋水の如き清潔純白の心を以て科學遠征の途に上り宗敎研究の道に附けり思ふに天下廣しと雖とも萬國多しと雖とも維新後の日本人の如く宗派偏愛の心なく高明正大宇宙の大法則によりて運動せんと欲するの人民鮮かるべし茲に於てか政治進み學問開け機械明に開港以來僅に三十餘年能く東洋文明の牛耳を取るに至れり豈又た盛ならずや是れ他なし日本人民の合理心に應ずるに合理の科學哲學を以てしたればなり是れ書籍の奴隷たらざる人民に敎ふるに眞正の道理を以てしたればなり

顧みて我宗敎社會の顯象を察するに外形の文明と相ひ背馳するの觀なき能はず我人心儒敎に安んぜず佛敎に甘んぜず神道を重んぜず合理的に人心を滿足せしむるものを得て尊敬の目的となし以て身を研き以て德を修せんとす此の時に當り大洋萬里の波を蹴り幾百萬の金錢を費し風雨氣候に生命を賭し親愛なる故鄕を去りて遠く我國に來り新に敎理を布かんとするものは基督敎徒なり其熱心や愛すべく其精神や好みすべし然ども基督敎徒の迷信論者は曰く舊新兩約全書は天啓の書なり上帝默示の文なり此中には一句の誤謬なく一字の修正すべきなし世界は七日に造られたるなり女子は男子の肋骨より製せられたるなりヨナは大魚に呑まれ再び地上に吐き出され生命に恙かなかりしなり耶蘇は磔殺の後ち蘇生して再び出で來り終に天に昇れるなりと其説く所荒誕不稽一も取るべきものなく合理的の眼光を以て之を見ば抱腹に堪へざるものあり而して迷信敎徒は曰く宗敎は感情を先にし道理力は餘り之を用ゐざるを良しとすと然ども人類は獨り感情的動物なるのみならず併せて又た道理的動物なれば感情と道理との應用に於て輕重あるべき筈なく先後あるべき理なきなりしゐて道理力を減殺し感情のみに訴へんとするは是れ開明人をして古代の野蠻時代に復歸せしめんとするものな

り是れ感情力を十九世にし道理力を紀元前にするものなり是れ封建時代の見識を以て明治年間の社會に應ぜんとするものなり一言以て之を蔽へば人類に偏物的廢人的教育を施さんとするものなり其主旨とする所豈誤らずや余輩は新舊約全書を以て大道を顯彰するの書となすものなり然ども又た誤謬の存ずるありとなすものり余輩は道理力を有する日本人なり何ぞ獨り西洋の口碑的教權にのみ依賴し我が合理心を滿足せしむるを得ん余輩は迷信基督教の行はれて我が道理心を窒息せんとを恐るゝものなり

人或は云はん汝ち書籍崇拜の不可を論ずるは即ち可なり然れども汝の信ずるユニテリアン教に於ても亦た書籍を讀み書籍を信じ書籍を崇敬するにあらずや基督の書によりて德を研き孔子の書によりて身を修め佛陀の書によりて教義を說きヅロアスターの書によりて祈禱を捧ずるにあらずや尙ほ汝は書籍の奴隸にあらずと謂ふ歟余答へて曰く然り余輩は奴隸にあらざるなり余輩は新舊約書を讀むも道理に合はざるものは之を信ぜざるなり余輩は法華經を誦するも科學哲學に照して不條理なるものは之を誤謬となすに躊躇せざるなり余輩は四書五經若しくはゼンド、アヴエスターを尊崇するも人類の道理力に訴へて眞理となす能はざる所のものは之を除去するに猶豫せざるなり余輩は書籍を尊崇するにあらざるなり其中に含有する所の正義道德恩愛權力等の大道を尊崇するものなり余輩は聖賢の書中に天下の大道顯然として明著なるが故に之を尊むものなり天下の大道は無窮にして上帝の屬性なり聖賢の書は有限にして屬性の形容たるに過ぎざるなり無限の屬性悉く有限なる有數の書籍に於て盡せりと云ふは論理の許さゝる所余輩は書籍崇拜の奴隸根性を有するものにあらざるなり宇宙の大道大法を知覺し古聖賢によりて其幾億分の一を了解し大海の一助となさんと欲するのみ

夫れ萬國は一邦なり四海は一家なり宇宙の大法大則何ぞ一國一民にのみ私しするの理あらんや何ぞ獨り地中海東岸の猶太人のみに私して大道を天啓し世界幾十億の生民は之を棄てゝ顧みざるの理あらんや國あれば必す師あり必ず君あり萬國然らざるはなし然るに精神界の救世主は唯りヘブリユウ人のみに存じ他の國民に之れなしと云ふ是れ豈至當の論ならんや余輩は迷信基督教徒が少しく其眼光を明にし舊新約全書の奴隸たらざらんとを希望して止まざるものなり

傳記

ヂョン、ハッス及ビヂエロミーの略傳

(前號の續き)

濵西士利亞帝シヂスマンドは諸法王の競爭戰鬪論議決する所なきを慨し百難を排して三法王間に群起せる黑雲を除去し清明の月光を現はさんと欲せしに恰も好し基督諸教國至る處に教會の改革を唱へざるものなく羅馬法權も亦たウヰックリッフ及びハッスの主唱によりて波瀾を起し蕩搖たゞならざる宗教上の紛亂を鎭定せんとの希望を起し十五世紀の三元素結合して玆にコンスタンスの評議會なるもの生出するに至れり

一千四百十四年十一月一日は乃ちコンスタンス都に於て威儀堂々此高名なる宗教上の會合をなせし當日なり席に列なる者は法王ヂョン廿三世を初めとしカーディナル(僧位の名)三十八、大僧正二十八、僧正一百五十人、神學博士及び僧侶一千八百人、其他無數の代議人及び使節(基督教諸國より派遣したる)次を亂さず整々として參會し世俗界及び精神界權力よりなりたる此委員は四年の間だ、葡萄丘、遠山の銀光を反映するの處に教會を恢復せんが爲め評議を凝らし三法王を手上に弄し智を盡し心を盡し將に死せんとするものに與ふるに名藥を以てせんとせしも不幸にして自己の選定したる新法王マーティン五世左手に帝王を懷き右手に選擧侯を携へ法位に上るや否や直に委員會を嘲笑し其會合を解き空手にして各本國に歸らしむ此間だの記事甚だ興味あるも余の言はんと欲する所のものは此點にあらずしてハッスの身上にあるなり

評議會はハッスを召喚せしもボヘミヤ人は「安全通過(セーフコンダクト)」の證書を得ずして其敬愛なる教師を遣はすを欲せず帝シヂスマンド乃ち詔を賜ひハッスをしてコンスタンスに至るの道路を安全に通過し安全に到着し安全に歸るとを得せしむハッス證書を得一千四百十四年十月十一日を以て發程せり王ウエンセスロース乃ちチユラム公レストラ公の二驍士をして同行、保護の任に當らしむ、一行の過ぎる所は村落都府至る所に人民群をなし眞情を以て歎待せり日耳曼の地ベルノー、ノイスタット、ワイデン、ヘルスブラック及びラウフに於ても亦た歎迎を受けフランコニヤの大都ニユーレンベルグに於ては全街人民を以て充塡しハッスに伴ひ其

旅舘に就き評議會は決して氏を害する能はざるべきを切言せり氏は玆に小會を開き自說防衛の演說をなせしに府長、府會議員、市長、及び人民より非常の喝采を博せりハッスはヌウレンベルグよりスウアビアに往き玆に又た意外の丁寧と尊敬とを受けビベラックに於ては人民凱歌の中に氏を護送せり氏は喜び極まり國人に送りし書面に於て歡待の模樣を記し日耳曼を以て第二の古鄕となせり氏は十一月三日にコンスタンスに着し寡婦麵麭師の家に投宿せり

翌朝隨行の驍士二人法王を伺候しハッスの到着を報し兼て帝シヂスマンドの安全通過證あるを以て危難の起らざらんことを希望すとの主旨を述ぶ法王答へて曰くハッスにして余の兄弟を殺すの事あるも余は決して彼の頭髮一毛にも觸れざるべしと此間だ法王黨の諸導者コンスタンスに着し公開場に於てハッスを異敎者となし氏の書中より拔萃し來りて之をカーディナル及び法王に示し其異敎者なるを證し詰むるに敎會の權力に謀反を企つるものなるを以てせり十一月廿八日氏は會場に召喚せられ持說を廢棄すべきを命ぜらる氏答へて曰く余は誤謬を知り之を傳播せんよりは寧ろ死するの優るに如かず然ども我說の虛僞なるを證するものあらは余は決して先信を改言するに躊躇せざるなりと條理井然一點の難すべきなし然るに命なる哉天なる哉不意に武人の圍む所となり擁せられてコンスタンスの牢獄に投ぜらる途上パレクッ、コージスなる二人の敵氏を呼んで曰く余輩は今汝を拘せり汝は過分の過料を拂ふにあらざれば又た出で來る能はざるべしと

驍士チユラム公はハッスの拘せらるゝを見て大に怒り法王の居殿に闖入し帝の安全通過證と法王自身の誓言とを取りて之を詰責せしも法王は唯カーディナルの權力に依賴するものなれば何如んともする能はざるを以てすチユラム乃ち日耳曼、英吉利、佛蘭西、伊太利を代表せる四人のカーディナルに面し其理を詰りしも曖昧益する所なし彼等答て曰く第一評議會は俗世界の證書に向つて總て絕對的の權力を有せり第二異敎者に對して信義を守るの要なしとチユラム乃ち書を裁して帝に奏し其援助と正義とを請ひ同時に使者をボヘミヤ政府に送り又た捺印せる巨大の羊皮紙に帝より賜はりたる安全通過證を貼付し二日の間だコンスタンスの全市街を廻行せしむチユラム又た自身の名義を以て大寺院及び評議會場の門前に張札し評議會は古來未曾聞の暴行を敎授ハッスに加へ前代未曾有の侮辱を帝の安全通

過證に與へたり帝も帝國も決して此不法に服するものにあらざるなりとボヘシャ全國大に激昂しボヘミヤ貴族全躰(殆ど)の調印になれる請願書を評議會に呈する三回報ずる所なし此に於てボヘミヤの各州より願書を帝に呈す帝シヂスマンド之を視て義心欝勃禁ずる能はず遂にアイクスを發し耶蘇の生日にコンスタンスに着せりカーディナルも僧正も皆善く帝の人となりを知り即夜行在所を訪ひ宗教的異教者は又た世俗的異教者なり神机を瀆すの徒は又た玉座を危くするの士なるを論述せり帝時に狂病あり僧正の論に説破せられ安全通過の詔勅を廢棄するの已むを得ざるを誤認せり然ども詔勅を廢棄するは大事なり帝の教會に對する大怒恐ふべし然ども此れ唯岩石を打つ所の波泡のみ教會は帝の援助なき怒に向て唯一笑を附し策略を以て帝の怒心を醫せり之を何とかなす異教者に對して信義を有つの責任なしとの布告是なり此教理は後にトレントの評議會に於て確認せられ爾後廢棄せられしとなし

ハッスは何如ん氏の敵はコンスタンスの牢獄を以て安固なりとせず十二月十五日を以て氏をドミニカン仙僧の寺院に遷せり仙僧氏を幽欝寂寥たる牢屋に投し堅固に之を護衛し鐵鎖を以て氏を壁側に縛し食物を與ふるの空隙は之を閉ぢて暗室となせり氏熱病の犯す所となり殆んど死に瀕せしが牢獄より牢獄に傳じ遂に一千四百十五年六月七日評議會場に引き出され劍戟之を圍み鐵鎖之を繋ぎ其狀暗殺人を遇するが如し然ども氏は其信仰堅確なり此の如き何ぞ恐るに足らん氏は異教宣告狀に對して辯護を試み駁撃を初めしも長老の徒雷の如き笑聲を以て之を妨け言ふ能はざらしむ二日の後氏再び召喚せられ簡單に汝は隔意なく評議會の權力に服從すべき？との問を發せしに氏は又簡單に之に答て曰く否！評議會余に一眼を有すと語るも上帝の感情余に兩眼を有すと告げば余は一眼説を信ずべき？と評議會再び恐嚇的疑問を發して曰く汝は改言すべき？とハッス嚴然として曰く余は總ての神なる上帝によりて汝に白し汝に誓ふ曰く汝は如何なる方法を用ゐるも余をして良心に抗せずんば爲す能はざる所のものを強迫する能はずと是に於て評議會遂に氏をして改言せしむる能はざるを知り七月六日(ハッス四十三歳の誕生日)に集會を開き死罪を宣告すハッス宣告文の終るを聽き膝を屈し祈りて曰く主イエス！余の敵を寛容せ！爾ち大慈の爲めに彼等を寛容せ！と滿堂大に笑ふ氏の敵は烈火の怒を鎮する能はず刑場に於ても靜謐ならしむるを欲せ

ず惡口雜言終に「余輩は汝の精神を地獄の惡魔に委すべし」との言を放ち氏の死灰は之を集めてライン河に投ぜり

コンスタンスの評議會を辯護するものは曰く評議會はヂョン、ハッスを捕縛せしも又た法王ヂョン廿三世をも召喚せり是れ評議會の公平なる所以なりと然ども二人の罪惡として批難せらるゝ所のものは如何ん其本根上に非常の差違あるにあらずやハッスの罪惡は如何？單に神學上の罪惡なり說の罪惡なり氏はウヰックリッフの教理を信じ之を宣傳するとの批難を受け此れが爲めに僧職を止められ言語に絶したる侮辱を受け生きながら燒かれたるにあらずや然るに法王ヂョンの罪惡は何如？彼は數多の罪あり彼は先法王アレキサンダー五世を殺せり彼は一身上の惡德不行儀あり彼は此種の罪狀四十三皆證跡あるを以て評議會の議決已れを廢せんを恐れ微服して遁逃せり而して彼の結局は如何？彼は廢せられたる？入牢せられたる？彼は法王廷の最高位に上り聖校の副教頭となりたるにあらずや噫！後世子孫をしてコンスタンス評議會の長老は公平なり慈悲なりとの斷定を下さしめ！噫！

（未完）

叢談

○科學及宗教

科學は宗教の恐るゝ所にあらず清明の思想は基督教の眞意に反するものにあらず然ども迷信は科學を危ふみ不正の信條と觀念とは科學を惡むものなり蓋し妄信家は科學の光り暗黑を照らし自已の迷信を破らんとを恐れ眞正の宗教家は純正の眞を發見し之に依りて生活し之に頼りて働き宗教をして純正潔白のものとなし其思想をして精確緻密のものとなさんとの希望を有するものなればなり

明太祖曰夫動二天地一感二鬼神一惟誠與レ敬耳、人莫下以二天之高遠鬼神幽隱一而有中忽心上然、天雖レ高所レ監甚邇、鬼神雖レ幽所レ臨則顯、能知三天人之理不レ二則吾心之誠敬自不レ容二於少忽一矣、
出來る丈け正實に上帝の意志を行ふものには又た之を善行するの勢力を賦與せらるゝものなり

朱子曰仁者天地生レ物之心、而人物之所二得以爲レ心一
朱子曰見二古聖賢一朝夕只見三那天在二眼前一

○生命不朽の原始

如何なる力も一層高尚の形躰をなし如何なる宇宙の勢力も一層高等の生存をなすの時には必ず意外の新物生じ實驗以外に驚くべき性質出で來るものなり其然り最終の生出なる人類の精神も亦た此範圍を脱する能はざるなり何故に生命の不朽は人類の出生と共に發育したるものにあらずと云ふ歟教授ル、コントは上帝と自然との關係を述ぶるに當り其の斯の如くなるべきを論し自然の力は一箇のあらざる所なき神勢の異形たるに外ならずとなせり蓋しあらざる所なき神勢は時の進歩に伴ひ漸次に高尚の形態をなし物質と力とは上進に伴ふて漸次に分立するに至れり夫れ普通の神勢は之を總概して無分立のもの弘布のもの凡ての自然界を徹貫するものと云を得べし世の所謂る物理學力及び化學力是なり此神勢高尚の形を取り物質を分立せしめ神勢自身も亦た自ら分立し（然とも其分立不完全なり）所謂植物的生理をなすに至る此勢力尚ほ充分に物質を分立せしめ勢力自身も亦た自ら一層充分に分立し（然とも其分立未だ完全なるにあらず）所謂動物的活力をなすに至る此動物的活力は時に伴ふて其分立一層に一層を加へ人間の精神に類似するものを生じ尚ほ充分の發達を遂げ終に完全なる別個の現存躰となり從つて自覺的のものなりと別個的成立をなし不朽のものとなり所謂る人類的精靈をなすに至りしものなり

上述の論理により之を推究せば植物の生理と動物の活力とは唯精神なるものが未だ自然界の子宮中にありて生出せざる以前に漸次發達を遂げるの階段に過ぎずして其狀植物の種子地中にありて漸次に發芽の方向を取るが如し宇宙の勢力植物に宿るときも動物に宿るときも未だ眞正の精靈にあらずして未形成の胎子として眠れるものなり（動物のときには稍動機あるも未だ生あるにあらず）故に自己を知覺するの力なく獨立的生活をなすの能なく唯自然界と外形的連絡をなすに止まるのみ然ども此勢力一たび人類に宿りて精神となるや自然界と分立し獨立的生活をなし新鮮高尚の成立をなすに至るものなり夫れ有機躰のものも其初めは未形成の胎子なるも生れて世界に出づるに至り一箇分立の物質的世界的生活をなし得る如く精靈も其初めは未形成の胎子なるも生れて人躰に宿るに至り獨立の精神的無窮の生活をなすに至るや明なり只精神人躰に宿りて獨立するに至るも其人躰を脱せざる間は之れが分立決して充分なりと云を得ず精神と人躰との關係連續する限り

は自然界を以て精神の育母となすべきなり人の自然界を脱し之れが乳房を離るゝに至るは唯死後の事のみ

自由とは私欲の請求に應じて之を行ふの權力にあらずして余輩の因りて生活し因りて運動し因りて現存する所の上帝の意志に合順するにあるなり

程子曰天地之大德曰レ生、天地絪縕、萬物化醇、生之謂性、萬物之生意最可レ觀、此元者善之長也、斯所謂仁也、人與天地一物也、而人特自少レ之何耶、

○人は如何にして上帝を知る歟

英國オックスフォールド大學に於て道德哲學教授たりしチー、エッチ、グリーン氏は深く當今の科學的哲學を研究し宗教の前途に横はる困難を知れり氏の筆になりたる文に曰く

卿等は千辛萬苦の捜索を遂ぐるも上帝を發見する能はざるを嘆ず然ども是れ愚痴のみ上帝は眼目の視るべきにあらざるなり耳の聽くべきにあらざるなり上帝成立の事たる決して之を證明する能はず然ども證明する能はざるは上帝遠く耳目の達する能はざる處の遠地に在すが爲にあらずして近く身中に在すが爲めなりせば如何んぞ卿等は決して自己に關係する特別の事實を知る如く上帝を知る能はず否卿等は自己をも知る能はざるなり卿等＝上帝を捜索し得る時の卿等＝は上帝の默示なり卿等は決して能界の頂點に於て若しくは自然界の深淵に於て上帝を發見し得べしと思ふ勿れ上帝の言語は遍く卿等にあり卿等の口頭にあり卿等の心情にあり熱心に眞理を討究し高尚の言を發し苦難愛を説き人類をして今日の道德的境界に進ましめ卿等の良心に於て會話する所のものは神語なり卿等にして上帝と交通せんと欲する所のものは何ぞ卿等の中に宿れる上帝なり

上帝に向つて談話せよ上帝は耳を傾くべく精神と精神と會合すべし上帝は呼吸よりも密接し手足よりも近邇せり

上帝と會話するは耳あるものに談ずるが如くなるを要せず多辯饒說するを要せず唯自己の心情と默話するが如くせば乃ち可なり卿等は如何なる祈禱をなすべきを知らざるべし然ども卿等の精神は之れが媒介たるべきなり卿等の祈禱に對し外形的の報酬を望む勿れ祈禱は即ち報酬なり例へば德行即ち報酬なるが如し正當の祈禱は初發の動作にして德性の外部に形はれたるものなり祈禱は上帝を知覺し願望を決し絶對の法則は如何なるものなるかを確認し人のなすべき眞正の職業を充た

し人性を發達せしめ世界に上帝を建設し道德的生活をなす一行爲に過ぎざるなり祈禱も道德的生活も皆其自身に價値を有しそのもの以外に報酬あるものにあらざるなり祈らずして上帝を證し德法を反證する能はずして絕對的道德法の成立を證せんとするは決して能はざるなり、卿等は上帝と責任とは如何なるものなるか之を確認するを得べきも之を證明する能はず何となれば上帝と責任とは人類の知覺以外に存ずるものにあらざればなり而して此知覺を證明せんと欲せば唯祈禱と克己の生活とあるのみ

眞西山曰夫父兮生レ我母兮育レ我此所レ謂子之天地也、大哉乾元萬物資始、至哉坤元萬物資生、此所レ謂人之父母也事ニ父母ニ之道無レ他全ニ其所ニ以與ヒ我者ヒ而已

人類の歷史は良心教育の歷史なり道德法の觀念常に開發するの歷史なり倫理の範圍次第に擴張するの歷史なり

上帝は獨り余又は卿等のみの天父なるにあらず四海人類の天父なりとは基督が世界に覆らし來りたる大教訓なり

朱子曰天地以レ生レ物爲レ心、而所生之物因ニ各得ニ夫天地生レ物之心一所ニ以ニ人皆有ニ不レ忍レ人之心一也、

○升沈寶鑑

●善を賞し惡を罰するの理は天道あり　（前號の續）

世俗云ふ、善に善報あり、惡に惡報ありと、斯言や、智者は之を鑑み、愚者は之を聽き、賢者は之を惕れ、不肖者は之を忽にし、善を行ふ者は之に任じ、惡を作す者は之を懼る、從つて未だ此語を聽き、信じて眞となさゞる者あらざるなり、詳に古今の鑑史を考へ、遍く天下の人情を閱し、近く本國を觀、遠く異邦を察し、內諸を己に度り、外諸を人に視るに、皆報復ありて隱に其間を攝する者は實理に證據するに非るはなく、天道を彰顯するに非るはなし、則ち知る、善に福し淫に禍するは天道の報應にして、猶ほ影の形に隨ふが如く絲毫も爽はざるものなり、之を譬ふるに水流るれば則ち溼ひ火就けば則ち燥き指南針あれば則ち方向に迷はず燈を執りて光を燭せば則ち隱微を照らすが如く永遠變ぜず一定易はらざるものなり

●上帝賞罰の證

或人曰く善惡は祗吾が心にあり品評は之を世俗に聽く則ち賞罰の理は人に由るに似たりと然り而して奸雄福を得れば志士頓かに天に問ふの想を起し良善災に逢へ

り窃に心を清潔に存ずるもの丶恒に之を懍せんとを願ふなり

●全仁の證

國に仁愛の主ありて良法甚だ周なりと雖ども民を保ちて永く平安を得しむる能はず家に仁慈の親ありて庭訓最も切なるも子をして終に福を獲る厚からしむるを得ず則ち知る君親の撫恤恃むべくして而して盡く恃むべからざるなり天道の賞罰を一觀するに智愚賢否を論ずるなく皆悪を改むれば即ち永世の安を得、善に遷れば即ち疆りなきの福を享くるを知る其人に益ある固より遠く君親に勝る萬々なる者あり蓋し君親の保佑は仁なりと雖ども究に上帝の律法全仁にして而して㡧幪の詑終身之を以てするに如かざるなり

●上帝に是れ依るの證

嘗て世人を見るに愚は好んで自ら用ひ賤は好んで自ら專にし安樂偶ま逢へば乃ち功を命運に歸し患難脱するを得れば便ち自ら其才能を詡げ上帝は人を愛するを以て心となし日として賞罰の權を操らざるはなく時として默佑の恩を施さゞるはなく凡て一切の富貴功名榮華顯耀と死を出で難を離るゝとは皆上帝よりして而して來るを知らず乃ち明々善を賞して而して人善となさず明々悪を罰して而して人偏に悪をなし帝の命に違ひ天の恩に負く是れ上帝人を愛して而して人自ら愛せず並びに上帝を愛するを知らず之を何とか云はん吾れ願はくは士君子天命に於て其義を生前に徵し其情を身後に究め潛思默想細かに其理を明にし誘掖奬勵並びに人々をして皆其理を明にし小心翼々上帝に照事せば律法に誠にして背くなき者なり

●天に順ひ天に逆ふの證

言以て徵するなくして而して信ならず事據ろありて而して憑る可きあり間々嘗て往古を歷考し當今を靜驗するに見聞に得る所のものすでに慕々に勝へず悲々に勝へず乃ち知る德を修するも或は昌ならざるの時あり而も必ず昌ならざるの理なく匪を爲すも亦た殃なきの日あり而も斷て殃なきの條なし萬世を合して以て成敗を論ずるは善悪兩途斯人の大局を定むべく六合を統て以て興亡を觀るに賞罰一律已に造化の天機を洩らす是を以て古の聖賢上帝に肆類し上帝に照告し齋戒以て上帝を祀り郊社以て上帝に事へ諟の天命を顧み迓の天威を敬す夫れ豈故なくして而して然か云はんや以爲らく是の若くならざれば則ち固より以て天休を荷ひ天罰を避くるなしと吾人古人の後に生る即ち當に古人の心を存

ずべし果して其れ心を捫し自ら問ひ對越に慚づるなくんば身前困頓すと雖ども身後定めて幽光の發するを見ん況んや困頓猶未だ身前に有るを必せざるなり儻し躬を撫し自ら思ひ屋漏に愧づるあらば生世顯榮すと雖ども世を沒して天網の誅を免れ難し況んや顯榮且つ未だ生世にあるを必せざればなり天道を欽崇せば永く天命を保つ古往今來符節を合すが如く深心の人にありて之を歷試するのみ然るに非ざる者は天に順ふ者は存じ天に逆ふ者は亡ぶ孟子豈我を欺かんや士善に向ふに心あり人志を修眞に立て仰ゐて天恩に酬ひ默して天理に復り誠敬禱祝を忘るゝなくんば可なり……

●諸書は天道の證たり

大道は方隅に限らず至理は中外に間するなし中外二天なし中外豈に二道あらん書に云く天道を欽崇すと易に云く天道は盈つるを惡むと是を以て天壇の設け中原垂れて制憲となす亦た天を敬するのみ而して吾が教西より東に徂く中國咸皇敕すらく耶蘇聖教は原と爲善の道に係り人を待つ己の如くす自後凡そ傳授習學する者あらば一躰に保護せよと然るに文人學士偏私の見を狹み妄に擬議を生ず而して天道の傳ふるを得れば則ち助け多く之を失へば則ち助け寡く社稷安危の係る攸、國家盛衰の關する所なるを知らず之を天道遡源、萬國通鑑、格物探原、自西徂東、謀道引階、一切の諸書に考ふるに符節を合せ燎として掌に指すが如くならざるはなし特に深考を事とせざる者は未だ其鑿據を得ざる耳吾れ願はくは古を稽ふるもの冒昧して而して天道を歧視する勿らんとを則ち近きに庶からん（完）

道德經文に曰く、寂兮寥兮獨立不改周行不殆吾不知其名字之曰道强爲之名曰大道大天大地大王亦大域中有四大而王居其一焉人法地地法天天法道道法自然○大道汎兮其可左右萬物恃之以生而不辭功成不居衣被萬物不爲主○道生之德畜之物形之勢成之是以萬物莫不尊道而貴德道之尊德之貴夫莫之命常自然故道生之畜之長之育之成之熟之養之覆之○道者萬物之奧善人之寶不善人之所保○古之所以貴此道者何也不曰以求得有罪以免耶故爲天下貴○譬道之在天下猶川谷之於河海○天之道其猶張弓與高者抑之下者舉之有餘者損之不足者補之天之道損有餘而補不足人之道則不然○天道無親常與善人○執大象天下往往而不害安平泰

雑録

○危ひ哉

危坐正念、徐に往事を顧み、粛々として、復たび思を今事に轉らし、断察明解、漸く將に熟せんとするとき、誰か悚然として、私心の專横に慄かざるものあらんや、

嘗て人心の險惡に躓き、無情に嘆き、災厄に倦み、失意に斃れ、再び病痾に悩み、貧困に疲れ、狂妄に陷り、恣慾に死す、天下の衆俗皆これなり、偶々道心、機に觸れて發し、正義の念、微に動くとあるも、時流汪盛、遂に抗し難く、能く毅然として立つもの尠なし、こゝに於て人生の秘奥愈知るべからず、義を忘れ道を失ひ、良心沮喪し、靈命瀆衂す、光明榮耀得んと欲して得る能はず、叨りに暗黒慘憺の苦境に迷ひ、辛ふじて快樂を酒色に貪り、慰偷を耳目に托し、不義を厭はず不仁を慮らず、殺生盜偷これ盡して、徒らに己が驕奢の資を得んとす、然れども、天豈不義の富貴を允さんや、倏にして畫策解崩し、忽にして心算蹉跌す、驕る者寔に久しからず、風前の燈何寧ろ餘光を保たん、子孫千歳の笑を貽して、空しく滅盡せざるもの果して幾千かある、嗚呼この種の事實、古今東西の歴史に往來し、歴々として敗餘の恨を示せり、然るに今の人動もすれば、後この覆轍の愚を履まんとす、咄々何と謂ふ事ぞ、

噫知らず、我亦畫中の人なる歟、今に於ひて仲尼の嘆を再びす、義を見て移る能はず不善改むる能はずこれ吾憂なりと、私情猖獗盖し底止する所なからんや、アヽ危ひ哉。

パウロ曰われ願ふ所の善は之を行はず、反て願はざる所の惡は之を行へり…………
噫われ困苦人なる哉この死の體より我を救はんものは誰ぞやと、

詩に曰くあゝエホバよ助け玉へ、そは神を敬ふ人はたえ誠あるものは人の子の中より消失するなり、人は皆虚僞をもてその隣と相語り滑かなる唇と貳心とをもてものいふ、
愚なるものは心のうちに神なしといへり彼等は腐れたり彼等は憎むべき事をなせり善を行ふものなしエホバ天より人の子をのぞ

みて悟るもの神を尋ぬるものありやと見玉ひしにみな逆きいでゝ悉く腐れたり善を爲すものなし一人だになし、

○我を知るものは夫れ天か

世人擧げて、利慾に耽り名聞の奴となる、聖賢の遺訓、棄てゝ敝履の如く、義人の叫喚、應ぜざると月球の風の如し、笛吹けども、蹈るものなく、鼓打てども、舞ふものなし、人あり熱涙を浮べて道を談じ、德に依りて正義を唱へ、誠切の思を凝らして、人を憂ふれば、彼は狂なり、迂儒なり、時務に通ぜざるの痴漢なりと嘲笑す、ア、顧みれば、モトこれ斗屑の言、丈夫の敢て苦しまさる處、然れどもバベルの塔も亦雲際に聳ふるあり、この時この際、我を知るものはそれ天か、との信仰無くんば、爭で能く節操を維持するを得ん、濁世の穢を避けて、能く自から守るを得ん、知己の同情は、我を奬勵するに於ひて、大に力あるものなり、同情同情又同情、今の世に求めん乎、千載の後に求めん乎、我れ夫れこれを天に求めん。

○神學界の動搖と信仰

福音新報記者は曰ふ、神學界の動搖漸く收まり、信徒の意向漸く沈靜し、今や將に信仰の復活を見んとすと若き老人ありこれを聽きて訴りて曰く、咄何たる謬見ぞや、以て燗眼の譽を貪らんとするか、動搖の收まりたるは、收まりたるに非ずして、力の疲れたるなり、弛みたるなり、盡きたるなり、意向の沈靜したるは、沈靜したるに非ずして、倦みたるなり、厭きたるなり、迷ひ了はりたるなり、疑惑を質して、明解を得るとなく、奇説を信じて、亦自安んずると克はず、理外の理、凡庸の腸に入らず、理性の理、衆俗の胸に落ちず、轉々漂々風吹くがまゝに搖きて定まらざること洋海の孤舟の如し、藻屑に卷かれ、葦に懸り、暗礁の上に遲々するもの、これ豈眞の碇泊ならんやと、余輩屢この言を、事實に徵す、又謹直の輩にして、この冷語を放つをきく、悸然膈膜波騷ぎ、悚然肌膚栗を生ず、學者を以て、自から任ずるもの、今にして勤めずんば、嗚呼この蒼生を如何せん。

○室咲の梅

人あり、今の基督敎界を評して云ふ、生後僅に卅年、猶乳臭の盡きざる少年の如し、志氣凛烈、鋭氣勃々たらずんばあらず、然るに既に老成人たり、脂血髓漿動もすれば、枯燥せんとす、これ不振の一因なりと、豈酷ならずや、余輩説あり、乞ふ述べん、

基督敎の始めて我國に入るや、實に蒙晦の時を以てす、而して英米の人、彼の土の文明を携へて來り、僅々數十の人を集めて道を傳ふ、四邊蠢擾、殺伐の聲熾なり、暗夜漫りに往くべからず、書僞アーメンの聲放つべからず、これを信ずるもの、心感縮し、これを敎ふるもの、亦兢々焉たり、然れども善良の牧夫は其羊の爲に、死をも甘んず、猶牝鷄の雛を憂へて、其身を忘るゝが如し、こゝを以て、彼れ法に據り、金に依り、權に憑り、强に由りて、努めてこれを扞護し、溫愛と智識を盡して、これを撫育す、養はるゝもの、蒙漸く啓け、識稍伸ぶ、文明の事物、世人に先んじて學び、文明の眞意、世人に先んじて了す、傳道敎化の一念、凝りて巖の如く、湧きて潮の如し、臂腕凜々、少壯の鋭氣、欝勃として禁じ難く、一瀉千里、立ち所に僧俗を平げんと思へり、而して漸やく世に出でたり、こゝに於ひて、彼等室咲の梅たるなり、獨り馥郁として、暗香の動く無からんや、大凡そ芬蘢の散ずる處、皆一回は香からざるなし、然れども社會は未だ春ならず、嚴冬肅殺、沍寒尙猶存なり、機運一變、彼等自づから、この寒を冒さゞるを得ず、花凋み香衰ふるもの、豈敢へて怪むに足らん、寧ろ一度は花落ち幹苦しみ、疎影を臘雪の中に晒さずんば、生氣勃々の花、得て求むべからず、况んや果實をや、道にあるもの、深くこの覺悟を要す。

○ペガニズム

人皆これを譯して、異敎といふ又邪敎といふ、佛敎の徒、基督敎を目して邪敎といひ、基督の徒亦佛敎を目して異敎と呼ぶ、彼の笑ふに堪へたる神佛末派の蚊蠅的宗敎に至るまで、各他敎を貶して獨り自正敎公宗を名乘らんとす、然れども宗敎正邪の論、豈徒らに水掛論に終はるべけんや、國民の智識開發して、固有の謬敎衰へ、不信愈熾にして其極に達するとき、人性は再び崇拜を希望するの念を發す、然れども人智の開發は明かに、從前の敎法の謬且愚なるを知れり、たとへこれを恢復するも、純正精確の信仰を得るあるべけんや、唯故意に信仰を造り捺へ、辛ふじて其信を爲さんとするのみ、即ちこの不覺悟なる信仰は、終に情慾の伴侶となり、又迷妄と成り了す、とは先哲の卓言なり、これ豈邪敎の本性を示したるものにあらずや、ニアンデル氏云ふあり、ペガニズムは人民の智識、開發するに隨つて其勢力を失すと、以て判するの鍵とせよ、

○醫藥と宗敎

火くが如く刺すが如く衝くが如く、搔くが如き、辛烈

苦酸の醫藥あり、良醫はこれを用ひて病痾を拯き、刀圭の妙に委ねて、起死回生の功を奏せんとす、然れども口舌の感これに堪ふべからず、糖を加へ飴を交へ、海苔に包み、オブラートに包み、而して強ひて服せしむ、宗教亦これに同じといふものあり、端嚴莊重行はれ難く、正釋大言俚耳に入り易からず、宗教謙讓直に求めず、高潔清純今得べからず、水清ければ魚住まず、先づ濁泉の混々に甘んずと、余輩この説に服せざること久し、

知りて言はざるは、義の滿たざるなり、言ふて行はれざるは、德の到らざるなり、行ふて能くせざるは、力の及ばざるなり、彼の漫然世に諛び、俗に媚ひ、偏に時流に投ぜんとして、如才無きが如きは、これ寧ろ卑怯の極、丈夫の耻辱これより大なるはなし、苟も宗教を奉じ、眞理を求めんとするもの、誰かこの愚を爲さん、古人曰く、人爲的宗教は情慾の伴侶となり、大なる迷妄に陷らずんば止まずと、豈懼れて愼まざるべけんや、

觀ずれば、成敗禍福、これ唯天の命ずる處なり、職務本分是盡し、正義天道是重じ、嘵々として窮餓の巷に走り、諸々として寧樂の園に坐するを得ば、暫らく、以て足れりとせよ、嗟呼宗教の眞意こゝにあり、生命の秘義亦こゝにあり、徒らに猾智を運らし、巧妙の手段を以て、宗教の事を議するは、モトより余輩の徒にあらず、唯宗教を假了するものぞ。

○豪傑

人生の事、豪傑を見ずんば、其貴きを知るべからず、人生の事、豪傑を見ずんば、其秘奥を悟るべからず、猶薄々たる松杉の巍々を見て、其苗を伐らざるが如し、豪傑によりて、人貴まれ、豪傑によりて、人重んぜらる、陋巷に徨ふ懦夫、破擔に月見る賤女、亦皆豪傑によりて、生くるなり、往昔善治巖本君、豪傑を謳ふて、詞佳麗なり、今延ひてこゝに掲ぐ、

鬱々たる蒼木は如何にも物すごく見ゆ、左れど近づきて靜かに其叢を窺へば、鳥は最と安らけく眠りて吟ずるなり、峨々たる巖は何如にもすさまじく見ゆ、左れど近づきて之れを見れば蘭は葉を伸し花咲ひて馥郁として香ふなり、古今の豪傑を見る亦た如此し、遠く望めば毅然として恐るべく勇ましけれど、接して其心腹に入れば温容藹然として慕ふべきもの澤々たり。

○忘憂時

詩人ブラウニング曰く、世には神無しと唱ふる愚者は、

往々にして見受くれども、古今一人として我れ憂愁なしと云へるものあるを聞かずと、蓋し憂愁は猶鞭の如き乎、人擲たれざれば、進まず、逼はれざれば、歩まず、平心憂を釋きて道念光を放ち、誠實愁を愁ひて節操能く保持す、憂愁豈貴からずや、然るに、滔々たる天下、概ねこれを知らず、札然、厭ふて、蛇蝎の如く、しかも、輕んずると、蚊蠅の如し、晩餐一酌、酒は憂の玉箒なりといふ、暫らく酒精に麻醉し其間人事を省みず、以て憂を掃きたりといふ、憐むべき哉、これ憂を忘るゝの時にあらず、商賈算珠を撥ぢきて、厘毛の利を爭ひ、口角泡を飛ばして、儲得を競ふ、暫らく競爭の念に被はれ、其間心靈の事を念はず、以て憂を知らずといふ、憐むべき哉、これ憂を忘るゝの時にあらず、才子才を恃んで、小弱の輩を嘲弄し、辯者辯を恃んで、無學の徒を威赫す、而して其間愉と呼び快と叫び、以て憂を知らずといふ、憐むべき哉、これ憂を忘るゝの時にあらず、焉んぞ知らん、眞の憂愁は、誠に愁ふるの時に非れば、散ぜず、完く愁ひ了はりて、後始めて、忘るゝを得、…………而して誠に憂を憂ふるの法、これ實に宗教の秘義に屬す、こゝを以て余輩喚々して、天下に宗教の要を叫ぶ。

○宗教の生命

人、宗教の生命（ライフ）を得んと欲せば、先づこの世を觀察せよ、然らば不義、爭鬪、嫉妬、仇恨、忿怒、兇殺、汚穢、放蕩、邪情、惡欲、貪婪、淫辭に飽くことあらん、啻に飽くのみならず、厭忌の情、轉々切なるものあらん、こゝに於て、高潔、仁愛、慈悲、眞善、忠信、温柔、撙節、忍耐、優美、善德、自づから慕ひ、おのづから求む、これすでに一着の歩を進めたるなり、更に財を濁らして、貧者に施し、愛情を熱して孤獨を訪ひ、寡婦を慰め、老幼を佑け、病者を尋ね、汚者を諭さは、おのづから生氣勃々、心靈活潑、こゝに始めて、それ活きん。

語に曰く道、眞理、生命の三の者は我にありと、

○味噌と傳道策

天性味噌嫌ひあり、其臭をだも忌む、これに味噌を與へんとするもの、まづ孰れの道をか要す、喋々喃々たとへ、幾百の蘇張を聘して、快辯を揮はしむるも、味噌とし云へば、必らずやまづ甲斐なかるべし、而して彼れモトより、味噌の眞味を知らず、膏料の甘きを知らず、知らずして叨りに厭ふ、厭ふて食はざれば、期する處、竟に如何、これを食はしむるの一法あり、即

ち與ふるとき、納豆といへ、而して一舐玩味せしめよ、其奴粲知るべきのみ、とは方便的傳道意見なり、余輩これを聞きて、啞然。

○雄辯

心靈の發達を圖り、精神の健康を求め、無限の上帝に交はり、人性の歸結を求めしめんとす。この職を荷ふもの、モトより雄辯ならずんばあらず、然れども、唯美麗、唯艶滑、唯流暢、唯饒舌を以て、直に雄辯なりと云はゞ、已に非なり。昔時能仁道を說きて、聲、獅子の如く、ヨハネ教を傳へて、金口と云はれたり、雷の如く、獅子の如く、一聲轟然、天地に響き、心膽恐れ慄くに非ずんば、未だ雄辯とするに足らず、この雄辯に非らざるよりは、未だ人を死活の中に、動かすと云ふべからず、覺束なき辯を恃んで、猥りに得々たるもの、深く猛省を要す、其傲瞞。

○大布呂敷

大布呂敷を擴げて、金銀、瑪瑙、珊瑚、眞珠、金剛石等の寶物を拾集するは可し、馬糞、塵埃、枯木、瓦礫を聚むるは不可なり。

○宗教家の急務

政海汎濫、風激しく波濤高し、斗然油を注ぎて可なり、教育界朦々、霧深く針碇定まらず、嘵々瀛笛を鳴らして可なり、品川の風、高見へは吹き上げず、下層の餘塵、尙未だ平かず、強者強に誇り、權者權に私し、民、平等を失ひ、言論、路塞がり、高潔の文學起らず、頑獘の餘燼再たび燃へんとす、憲法の運用、民法の制定、內治の改良、條約の改正、道德の標準、脩學の本義、社會の制裁、輿論の正邪、凡そこれ等の問題に關して、宗教的裁斷を要するもの多し、瞽者瞽者を導かば、倶に溝壑に陷ちゐらざるを得ず、余輩只これのみ、憂ふ、以て急務とす。

○死活の妙

基督云く、その生命を得るものは之を失ひ、我が爲に生命を失ふものは之を得べしと、
俚言に云く、身を棄てゝこそ、浮む瀨もあれと、

○讀賣新聞と漣山人

嘗てきく、漣山人は基督教徒なりと、又聞く、現今當代の文學者なりと、而して讀賣新聞を見る、又讀賣新聞が風俗汚亂の故を以て、發行を停止せられたるを知る、云はぬは云ふに勝りけり、嘆又嘆。

○「いのち」と田村直臣氏

田村直臣氏の高名、今更に云ふを要せず、諄々の聞こ

へ、夙に熾にして、坊間の新聞、亦これを傳ふに至る、憲に當代のヤリテなり、氏頃日「いのち」といへる雜誌を新刊せられたり、體裁の美、目録の要は、敢へて賛せず、只發行の理由を、轉載して、讀者に介す、

發行の理由に曰く(一)近來諸種の自由的基督教入來して「信者の心に疑惑を抱かしめ」又「改新とか進步とか稱へて「ユニテリアン」に近き神學說を主張し爲に教師社會の思想上に一大波瀾を起さしめたるのみならず一般信者の信仰上に非常なる影響を及ぼして大に傳道事業を不活潑ならしめたる」が故に飽まで此等に反對して舊來の信仰箇條を主張して止まざらんと欲す(二)我國の基督教は中以上の社會に多く行はれ一般の人民に及ばず「余輩深く此點に氣付き自ら進んで平民的說教者となり平民的書籍の著述者となり平民的雜誌を發行せんとす

◎◎◎◎◎
無くもがな。

○暴を以て暴にかふ

浮說一たび飛んで、天主教迷惑す、宣教師慣りて、この飛報あり、兩々必竟其感如何。(奥羽日々新聞)

●天主教も御相伴　東京日々新聞を始め其他二三新聞に民黨の首領か長崎在留の佛國カトリック教の主教某氏より金五萬圓を借りて自黨選擧の運動費に充て其報酬として勝を得たる曉には我黨を悉く天主教に入るべしとの約束を爲したり云々と掲載したるを以て或社友が加特力宣教師某氏に就て其實否を問合せたるに此は以の外の事どもなり御存じの如く我天主教の主義は元より純粹の帝政主義にて世の民黨と唱ひ暗に共和政治を賛成する者の如きは目して悖理者となし曾て或教員が至尊の御影に敬禮を失したる時の如きは痛く之を非難したり尤も目今日本の自由改進兩黨は不測の禍心を包藏し將來に於て彼の佛國の社會黨露國の虛無黨の如き慘劇を演するやも知るべからさるを何とて是等に運動費を貸すは愚か却て日本帝國の爲め私かに此等邪黨の撲滅せん事を朝夕神に禱り居る處なり尤も我教會の規則として主教と雖も羅馬教王の裁可を經されば濫りに金員を費用し難く況んや斯る不正の金をや察する處基督教仲間にて專ら自由民權を唱へ居る或一派が此議員撰擧の機に投じて無根の讒言を搆造し我教をして政府の歡心を喪はしめ而して司教座公署の請求を妨害せんと嫉妬の企より出てゝ斯る事を新聞紙に投書せしものと思はる併し我天主教は徹頭徹尾民黨即ち破壞、共

和等の悪主義政黨の一日も早く撲滅せん事を禱るものなり天主教までが議員撰擧の御相伴を頂戴するとは扨〳〵當惑千萬の至りなり云々と物語られたる由

○豫戒令の公布

こゝにこの公布を見る、吊すべき乎、祝すべき乎、余輩これを見て、其之を要するに到りたる所以を察し、潜に慨かずんばあらざるなり、

○五輪の書

嘗て兵書を閲す、論ずる所、高巍、中庸、知命、不出、垂天、察々として、精神行爲の規範を示す、今に到るまで服膺して得たるの德少なからず、偶々近刊の雜誌「回天」に於て、宮本武藏自著の五輪の書に接す、讀む處、未だ片屑に過ぎずといへども、其深邃明哲必然として期すべし、竊に説あり、兵法の極意と宗教の極意とは、おのづから、和齊合一すと。

○地獄に關する奇説

社會の文不文に論なく下等人民の地獄を怖るゝ其様は子供の狐狸妖怪幽靈を恐るゝものゝ如く一笑に附し去れば夫れまでのことなれども靜に彼等が想像の量を考ふれば又大に味ふ可きもの多し或る人の説に日本の地獄は亡者を劍の山に追上げたり釘拔もて舌を拔たりなどする其趣は器械流の地獄(メカニカル、ヘル)にして西洋の地獄は硫黄で燻ると聞けば化學流の地獄(ケミカル、ヘル)なりと云ふ

ジェローム(紀元後三百四十五年頃出生、同四百二十年死去)ターチユリアン(紀元後百五十年頃出生、同二百二十年又は二百四十年死去)其他、諸家の證明する所を聞けば地獄の火は假空の物に非ずして實に恐しき實物なり無形の物に非ずして有形の物質なり其成分は多分硫黄と溶解せる松脂とにして其中、亡者の鼻を衝くは硫黄と知る可しと宗教無信仰の輩は之を聞て然らば無形の魂魄は如何にして燒かるゝやと難じけるに其は無形の火に由て燒かるゝなりと云ふ左あらば有形の肉體は如何にして盡未來まで燒かるゝやと問へば地獄には石絨の如きもの又は一種の防腐力ありて之が爲め亡者の肉體は焦げれども燒盡きず扨こそ盡未來までも燒けて止まざるなりと

◎地獄には時計なし

ハイステルバッホの僧侶シーゼリアス云くボン府に住める或るウォルターとなん呼べる一人の男、病中に惡魔(セータン)と面會したり其容貌を見るに全く猿の顔にして野羊の角を生したり依てウォルターは其以前物故

したる主人ウイッリャム オヴ ジュリアース伯の死後の運命を問ひたるに悪魔の云く御身は定めしヴォルケンブルヒとヅラッヘンフェルスとの間に在る地面を知りたる可し今、我れ御身に實を語らんが若しも彼の地面と其中に在る山々とをして悉皆、鐵の固りたらしむるも之を取て今、御身が主人の魂魄の在る處に置きなば正に一瞬を出でずして溶解す可しと告げたり地獄の火は幽暗緑色にして唯彷彿の間に見る可きのみ又地獄の中に蛇の如き肉體の物ありとの說は信ず可きが如し又地獄には時計なし地獄の呵責を受て見る影もなき亡者が眠床の中より頭を擧げつゝ哀れなる聲して今は何時なりやと問へば暗黑の中に朦朧たる聲ありて永遠なりと

●ダンテの地獄

有名なる伊太利の詩人ダンテ(千二百六十五年出生、千三百二十一年死去)が書綴りたる地獄は(十四世紀の氣風を示せり)其形、漏斗形にして八重の輪廓を成せり故に毎廓次第〳〵に狹くして其中心廓は正しく地球の中心に達せり地獄の入口即ち門には地獄に行く程の惡人には非ざれども去迚、天道に昇る可き程の善人にも非ず、生前宗敎のことに無緣なりし輩を置きたり此處は四方暗黑にして一星の光明さへなし其の次は即ち地獄境内の第一廓にして名付てリンボーと云ふ洗禮を受けざりし亡者を入れたり有名なる詩人ヴァルジルも爰に在り此廓内に居る者は浮む瀨なくして欲望は却て盛なり第二廓には邪婬の輩、無明の中に呵責の風に苦むあり第三の廓には三頭三面の犬に嚙まれたる貪食亡者が臭氣堪へ難き邊に身を霰のあらしに暴露るゝあり第四は無益に錢金を費す者と吝嗇者との廓にして各々重荷を胸にて坂に押上げ居れり第五廓の中にはスタイジアン レークと云ふ池あり其が腐敗して臭氣甚だしき泥濘の下に蠢蠕く亡者あり是は生前、容易に怒を起して人に迷惑掛けし人の亡き果てなり第六の廓には外道の張本達が火焰の墓に痛み苦んで煩悶するあり第七廓の樣を見るに惡逆非道の輩は血の河に泳ぎ、自殺せし者は其身を瘤々だらけの立樹に變じられ、神佛を罵りたる者は火の雨の下に悶え苦むあり第八は即ちマレボルゲ(十穴地獄)にして男妾(ピンプ)は鬼の爲めに打ちさいなまれ佞人は人糞の中に沈められ宗敎賣官の罪人は倒まに立てられて其頭を之に適したる穴の中に極込まれたるあり首を捻て顏を背中の方に向けられたる預言者あれば沸へたる松脂の池に打込まれたる官金私用人あり人前を飾る似而非善人は鉛の頭巾を被せられ、

神佛を汚したる後生不知は毒蛇の爲めに噛まる、羅馬敎を脱したる者は手足を折られて其用を爲さゞるに苦みアルケミスト（下等の金を貴金屬に變化すると稱する一種の手妻使ひの如き學者）贋金製造人、並に愚民を欺く似而非上人は種々の病の爲めに苦めり第九の廓は頽落の塲處と稱して其實マレボルゲ中の一にして似而非善人の地獄なり爰は氷寒地獄とも云ふ可く其中には謀叛人の凍りつきたるあり又爰には氷に圍まれて身體、紫色になり齒の根も合はず鷄の鳴が如くガタ〳〵振へ居るルシファーとジーダースと云ふ大惡魔あり

（時事）

○妖敎

支那には古來各種の妖敎あり、支離怪誕の說を以て衆を惑はす者歷代史に絕えず、近頃其益甚しきを見るなり、蓋し支那なる一國は民衆稠多にして敎育洽からず、隨て一般下民の智識は甚だ幼稚の間に在り、是を以て妖人一出、荒唐の言をなせは立ろに萬衆を集むるを得べし、匪徒往々之に乘じて志を逞うせんことを思ふ、亦是れ謀叛の一好方便なるべし、今回の事變(馬賊)の白蓮敎、在理敎、喇嘛敎徒に連なれるが如き亦以て見るべきなり、之に關し申報は禁邪敎論一篇を草して大に妖敎遏絕の要を說きたり、其敎法界の狀、預じめ察するに足る、

○靈魂不滅の思想

敬虔なき者、みづから道理と思ひて、實は道理にもあらぬ事由を、曰ひいでけるは、

われらの生命は、短くまた煩はし、人の死は癒すべきやうなく、何人も墓より歸りしものあるを知らず、……われらの現世は、過ぎ去りて、いと幽暗なり、死て後は、絕えて歸り來ることなし、そは甦り來し人のなきは、その確なる證據なればなり、いでや現世のものを樂み、……價貴き酒や、香料を使ひ、春時は艶華を粧ひ、薔薇の凋まざるに先ちて、之をわれらの頭晃におかん、われら貧しき義人を虐げ、寡婦を扶くることなく、白髮の翁を敬ふとなからん、たゞわれらの勢力をもて、審判の律法となさん、そは弱きものは何の値もなければなり、ゆゑにわれら義人を欺かん、そはかれはわれらの友にあらず、かれはわれらの行爲に、正しく逆ひて、われらが律法に背くことを責め尤むればなり、……神を知ると云ふもの、また自ら神の子と呼ぶものは、われら之を見るさへも厭はし、そはその生涯は、他人のごと

くならず、その道は巽れる風儀にして、正義の終は祝福るゝと唱へ、また神はその父なりと高言すればなり、われらその言葉の果して眞實なりや否を驗さん、その終に何事の成るやを證せん、義人もし神の子たらば、神はかれを守り、その敵の手より、かれを放ちたまはん、いでわれら侮辱と苦難とをもてかれを試みん、われらかれの荏弱を知り、またその耐忍を證し得ん、われら恥づべき死をもて、かれを除かん、そはかれ自ら斯くあるとも、なほ敬はるべしと自ら曰ひたればなり、

此等の事由は、敬虔なきものゝ妄想にして、己れの邪曲に由て盲目となれるなり、即ちかれらは神の秘密を知らず、正義の價値を望まず、無辜の靈魂にたまはれる報賞を辨へざればなり、抑ゝ神は人を死せざる者に創造り、その自己の永遠なる像に、之を肖りたまへり、……義人の靈魂は神の手にありて之れを害ふものなし、智からざるものゝ目には之を死亡と思ひ、その首途は不幸と見え、その行くや全き滅亡と見ゆべし、されど義人の靈魂は平康に在るなり、直しや、かれらが人間の判斷をもて、罰せらるゝともその靈魂は死ぬべからざる充分の望ありとす、聊かなる困苦は、却て許大なる報賞を受けん、そは神が之を證し、また自己の爲に之を重んじたまへばなり、宛ら精金の爐にあるがごとく、かれらは、試みられん、是の故に主なる神を信ずる者は、この眞理を知らん、また斯く信愛なるものは、神と偕に在らん、そは神の恩慈は聖徒と偕に在り、神はその兒輩を守りたまへばなり、……故に敬虔なきものゝ望は、風に吹かるゝ塵の如く、嵐に追はるゝ泡のごとし、……

されど義人は、窮りなく生きながらへ、主なる神は之に報賞を授け、至たかき者は之を守護たまふ、

○朝日に匂ふ山櫻花

昨年九月倫敦に開きたる第九回東洋學會大集會の席上に於てヂオシイ氏は「大和魂」と云へる一篇を朗讀したり今「アシアチック、クオターリー、レヴユウ」に載する其要旨を譯記せんに曰く純粹なる日本的精神は之を千八百六十八年(明治維新)の王政復古以前に求めざるへからず第十七世紀の詩人は其國の人口に膾炙せる歌詞に於て之を言ひ盡せり「敷島の大和心を人問はゝ朝日に匂ふ山櫻花」と蓋し日本は勇者の事蹟に富むと敢て他國に讓らず而かも其事蹟たる特に自損と勇氣とを以て表章せらる彼の紀元後三百十六年仁德天皇に就て一

の話あり天皇は人民の窮乏を憫み貢租を減したる上に自ら節倹を加へ以て之を救助せり人に代りて自ら犠牲と爲るは日本人の通性なり而して之に關する著名の例は楠正成に在り正成は後醍醐天皇をして其政略の不良を悟らしめんか爲め自殺を行ひたり其教訓の感する所天皇直ちに其非を改め三十年間楠樹の伐採を禁止せり爾來正成の名は永く子孫に傳はり仰いで國民的勇者の龜鑑と爲す思ふに當時の人は感情のみならす智識にも富みしなり其故は楠樹の如き國富の源たるものにして自由に亂伐するときは消滅すへき恐れあるに因る云々と（大日本子曰く此評頗る穿鑿に過ぎたり）

氏は此の如く述へ去りたる後更に論して曰く今まや日本人は「セーヴヰルロー」の衣服を着「ポンドストリート」の長靴を穿つと雖も幡随院長兵衛の事を聞けば皆な其心臓の高く皷動するを覺ゆ長兵衛とは江戸男達仲間の親分にして第十七世紀の頃其子分の事より浴場に於て槍先に貫れ恐るへき死を遂けし勇者なり而して日本人は如何に當世風に化し如何に泰西の學問に染みたるものと雖も日本名優の忠臣藏を演するを見て感動せさるものは一人として之れあるなし之を要するに日本人は皆な大和魂なる一語の下に統轄せらると謂ふへし而して其大和魂は所謂 Patriotism（愛國）なる語よりも意味廣く更に忠義の思想を含有せり即ち其天子に對する一般の關係のみならす狹き意味に於ては封建の大名慈愛なる主人等苟くも其米を食ひしものより一族、一村仲間の輩及ひ不幸に際する人々に對して懷く所の思想は皆な其中に存せりと而して最後に左の一節を以て之を結へり

多數の歐洲人及ひ或る米國人は枉けて大和魂を解釋し狂激の氣、少なくとも國民の自漫に過きすと爲し鎖港攘夷の精神と同一視するもの丶如し是れ甚た大和魂を誤解せるなり此解釋の如きは畢竟外人攻撃の暴擧より判斷したるものなれとも其事たる十中の九は私怨の爲め若くは國辱の疑念より生する特別の事件たるに過きす假令外觀に於ては日本國民の性質漸く泰西普通の程度に墮落し貪婪、娼嫉、汚俗の風に移るが如くなるも其内心は倘ほ古精神の光輝燦然たるものあり而して日本人の變化に巧みなる必す大和魂を新奇の風習に應用し敢て之を失ふことなかるへし故に大和魂か既往の日本に於て爲せし所のものは復た將來の日本に於て之を見ることを得へし希くは其の山櫻の朝日に匂ふか如く永く榮えて易はる勿らんことを　（日本）

○基督の石像

靜岡市元と本丸の内なる字紅葉山より二三日前堀出したる一枚石は丈三尺五六寸横八寸許周圍は十字架の形をなし其表面に刻みたる人物は洋服を着し面部の邊は頽壊したる爲め判然せされ共石の形十字をなすを見れは基督の像の樣見受けられ石色に依りて見れは二百余年間も土中に埋沒しありしものならんか扨て其紅葉山は東照宮勸請の地なるに當時嚴禁の基督の像を其地に埋めたるは奇異と云はさる可らす兎に角果して基督の像ならんには以て考證上の好材料と爲すに足らんか

（靜岡大務新聞）

○拇印の効用

拇印は我國に於て古來慣用せられたる所にして敢て珍しからぬことなれとも其の効用に就きては世未た深く研究したる者あるを聞かず近刊の佛字新聞に此の事に關して英人フランシスガルトン氏の考說を掲けたるを閱するに彼國人の常に斯る微細の事にまて其の意を致すは誠に感するに餘あり今其の要略を記さんに凡そ拇印は人々相同しからさること猶ほ其の面の如し而して其の最も有益と稱すへきは拇指の理紋年を經て變らさるに在り眼色及毛色は時に從りて變り體軀は年齒と倶に替り頭顱の形、指の長さは天然若くは偶然に變ることあれとも拇印即ち拇印の腹面に渦巻きたる細線は死に至りても變ることなく且死後と雖其印章は全く其人に特有の者なりガストン氏は倫敦に開設せんとする衛生及人口學列國會議に於て其の研究の成績を說明せんとし先つ其略說を倫敦の一新聞に掲載せしめたり

抑々ガルトン氏の既に論したる如く某人の必す其の人なることと若くは世人の疑ふ所の人にあらさることと又は某人は或る帳簿中に記入しある人名中の一人なること若くは否らさること等を證明確知するは許多に場合に於て利益あることと今日世人の普く知悉する所なり此等の場合に於て生涯變替することなく且何時にても證明するに簡便なる同一の符印あらは是れ實に貴重すへきものと謂ふへし然り吾人は皆此の貴重なる不變不滅の符印を所持す此の符印は甫て生るゝの時より大約三月以前に在りて吾人の雙手の裏面に自然と畫かれたるものにて死骸の腐朽するに非されは磨滅せさるものなり英人サー、ウヰリアム、ゼ、ハルセルは曾て孟加拉に法官たりし時始て拇印を使用せしめたり氏の集めたる拇印は幾と四十年前のものにして現にガルトン氏の手に歸せり而して當時拇印を押捺せし人々の中今日往々再

會することありて益其の永久不變のものたるを確實ならしめたりサー、ウヰリアム、ゼ、ハルセルは自ら押捺したる拇印も其の一にして此は千八百六十年と千八百八十八年との兩度に二十年を隔てゝ押捺したるものなりガルトン氏は此の他尙ほ數千の拇印を集めて仔細に研究し其の中に就きて階級を立て種類を別つに至れり蓋し研究用のために鮮明なる拇印を得んことは極て容易なりとす即ち油烟少許を硝子版に取り指端を其の上に壓し而る後之を紙上に押捺すればそれにて充分なり然れとも此の仕方にては永く之を保存し難し因てガルトン氏は自己の便利を謀り且は新に研究を試みんと欲する者のため衣囊に納むへき小器具を工夫したり此器具は一片の硝子版、精製の印刷用墨を容れたる小管、墨を指端に點するための小施墨機及一たひ押捺したる後指端の黑痕を洗除するための汁液等を備へ之を用ひて押捺したる拇印は永久に保存するを得へし此の種の印章は之を證書類に用ふるときは他人の摸擬を防くは勿論通常の印章と共に又は之を所持せさるときに利用せらるゝの塲合尠からさるへし想ふに寫眞師か此の天然の印章を寫眞に附寫し其の習慣漸く普及するに及ひては終に各文明國に於て常に不便を感する旅行劵に換用せらるゝに至るへし　（日本）

○耶蘇狐

北海道千島の色丹島に狐多きは彼の地方に遊びし人の常に言ふ所なり殊に其の狐族の中には毛色の美麗なるが多くして赤白黑の交毛あり純白あり深黑あり就中脊上に黑色を以て十字形をなすものゝ如きは其の摸樣は恰も十字架の如くなるを以て大に耶蘇敎徒の好みに適し其の皮一枚の價値十圓以上四十圓に至るものあり殊に近來は露佛等に於て此皮を襟卷又は外套の裏に用ふると流行し漸次歐洲各國より北海道物產會社に向つて注文を申込むも多く今や殆ど臘虎皮を凌ぐの勢ひを呈せりと札幌よりの特報に見ゆ其輸出や好し然れども其の取締法を設けざれば又外人の濫獵臘虎獵の二の舞たらんことを恐る　（九州日々新聞）

○曹洞宗中學林耶蘇敎師を招く

東京麻布幷町の同中學林は每土曜日に芝區二本榎の明治學院より耶蘇敎師吉川一之助氏を招きて新約全書の講義を生徒一同に聽かしむる由右は破邪顯正上該敎の敎理をも辨へずして濫りにその章句に就て破するときは啻にその肯綮を得ざるのみならず大に佛敎家の笑を殘すものなればとの趣旨に出でたる由なり

○宗教學校

日本全國廣しと雖ども學校の數多しと雖ども純粹の宗敎を科學的に攻究し宗派的の感情を有せざるもの恐らくはなかるべし其の是れあるは東京々橋區加賀町八番地惟一館に設立せらるゝ自由神學校なり此學校は宗敎の何者たるを敎ゆるものなれば目下宗敎論旺盛の時に際して之を學び他日の用に供するは最も必要なるべし同校は無束脩無月謝にて全科若しくは一科を選修するを得卒業後と雖ども一定の契約なきものは自由なりと云ふ

彙報

○神田ゆにてりあん講義所

從來の神田講義所(神田錦町二丁目六番地)手狹に付き本月より神田錦町一丁目十二番地に移轉せられたり然るに目下天然痘流行神田を以て中眞となし大に恐るべきものあるを以て開場式擧行の日時も延引するとなれりと云ふ右新講義所開堂の上は日曜の說敎は勿論水曜の質問も從前と異なるなくウヰリアム、アイ、ローレンス氏之を司どられ臨時に内外諸名士を聘し講演を開かるゝと云ふ

○麹町講義所

從前の通り高田太郎氏の盡力にて異狀なき由

○日本ゆにてりあん弘道會

地方との通信日に盛大なりと云ふ

論林

將來の教會

エム、ヂエー、サヴエーヂ

世界の文明と共に思想上に一大變更を來し從つて宗教上に一大改新を生じ舊制漸く廢たり從來最も尊崇せられたる教會も漸次其勢力を失ふに至れり是に於てか一疑問生ず曰く然らば則ち教會は到底其位置を保つ能はず地球上の權力たる能はざる？と答へて曰く若し運動の方針をして人類の道理心に依賴せしむるに非ざれば能はざるなりと、然り、如何なる制度も古代に於て强固なりしが故に今日に於ても强固なりと云ふ能はず古代に於て人類に大事業をなせしが故に今日に於ても然りと云ふべからず夫れ世人の常に口にする所を聽くに曰く汝現在の價値は如何ん？汝の生力は如何ん？汝は實用の人物なる？等是なり今之を轉換して商人の言となさば左の如くなるべし曰く汝は某事件に向つて某の仕拂をなし得る？某事は汝の金錢、汝の事業、汝の愛、汝の時間を與ふるの價値ある？某事は暫時たりとも汝の注意を引くの價値ある？等是なり而して此等の疑問は將來の教會に適用すべき問題にして教會の因りて活動し死滅する所以のものも亦た之に存ず其れ然り余輩は左の基本的疑問を起さん曰く教會には永遠の基礎ありて存ずる？人類果して教會を求め教會を要するの本性を備ふる？天理果して教會の存立を要する？と請ふ余をして簡單に宗教の精髓たり宗教永遠の基礎たるものを述べしめよ

上帝の思想

宗教の精髓となり第一要件となるものは吾人の周邊を圍繞し宇宙に表彰せらるゝ大權力と個人たる吾人との關係是れなり此大權力は余輩の生出以前に地上に於て其働きを顯はせるものにして余輩の死後と雖ども又た然るべきなり余輩は宇宙に就きて如何なる理論を採用するも一有神論を取るも無神論を選むも精靈論を採る

も物質論を擇むも—此大權力に由りて生ぜられざるものなく如何なる理論に由るも上帝の子ならざるはなし換言せば上帝なる語を用ゐずして自然若しくは宇宙なる言辭を代用するも余輩は此大權力の見子たらざるを得ざるなり余輩生命の一分一秒も余輩の全ての繁榮も余輩の全ての平和も余輩の全ての成功も其他人類の幸福に關する健康の如き生命の如き悉く此大權力に因らざるはなく此大權力を識得するの多少に因らざるはなく此大權力の法則に從順なるに因らざるはなし然らば則ち吾人の愛も喜悅も希望も平和も皆此關係の中に存ぜり而して此關係や一時のものにあらず中止すべきものにあらず又た經過し去るべきものにあらず永遠無窮にして最も重要なるものなり之を上天の側面より論ずれば精神の天父に對する形狀を云ひ人類の側面より論ずれば人類の同胞に對する形狀を云ふ故に大權力との關係は此二者を包含し合理、高尚、豪勇なる生活の基礎なり、人、宗教に就きて如何なる主義を有するも此關係は事實にして決して逃るゝ能はざるなり、然り、宗教は永遠なり宇宙的なり無窮なり人生の他の關係の如く同じく自然なるものなり而して此等は如何にして社會に顯はるゝ？見よ技術は自然に組織團躰に於て著はれ技術會社、科學協會等として世上に現ずるにあらずや音樂も然り其他人類百般の利益も亦た皆外部の形躰に於て現はれざるはなきなり然ば則ち人類利益の最大なる宗教に於てのみ然らずと云を得ん余故に曰く教會は其團躰に於て其禮拜に於て其儀式に於て其建物に於て凡て外形の顯はれに於て神聖的なるのみならず又た自然的なり否人類的なりと

宗教の必用

余は宗教及び之れが自然の表彰たる教會は永遠の者なるべきを論ぜり余は今一歩を進めて宗教は人類の利益に關して如何に要用なるかを告げんとす夫れ人類は事業に忙はしく特に商賣は常に最高開化の先導者として尊まれ世界を席巻するの勢あり而して商賣の目的は物產の直接的交換にして物質以下に止まるものなり換言せば以て吾人の住居する家屋を飾らんが爲めなり以て

吾人の構造する道路を堅牢にせんが爲めなり以て吾人の建設する都府を美麗にせんが爲めなり以て吾人の計畫する公園を清淨にせんが爲めなり一言以て之を盡さば所謂生命の外形的要求を充さんが爲めなり余は大に物質的の開化を好むものなり余は高大なる物質的開化建設せられて精神の身躰となすにあらざれば高等美麗の精神的開化をなす能はずと信ずるものなり故に余は商賣の社會に大功あるを認むるに躊躇せざるなり然ども茲に注意を要すべきは物質的開化は何程之を高尙にするも何程之を美麗にするも之をして獨り物質的範圍に止まり其他を知らざらしめば是れ唯燦爛たる具足の動物のみ決して萬物の靈たる人類をなす所以にあらざるなり何をか美術と云ふ美の愛を自然的に表明するものにして生命の家屋を裝飾し人類相互の交際を修養甘美にする所以のものなり何をか音樂と云ふ精靈無限の情—悲哀の情若しくは喜悅の情—を顯はし之を口にし之を筆にする能はざる所の感動を示すものなり何をか科學と云ふ是れ唯機關車の前燈のみ人類進步の道路を照らす燭火のみ此の如き物質的文明は凡て甚だ要用なり然ども決して宗敎を以て本主となす高等の境域に達する能はざるなり物質的文明は生命の輔助なり而して宗敎は生命を造るの本主なり宗敎に非ざれば眞正の男子を造る能はざるなり宗敎にあらざれば眞正の女子を造る能はざるなり宗敎にあらざれば余輩が上帝及び同胞に對する最も高大なる最も高尙なる關係を說明する能はざるなり凡ての物質的文明は宗敎の自然的奴僕なり附屬品なり換言せば宗敎は生命其自身にして凡ての他の物は生命の奴僕なり宗敎の使役となりて尊敬的怜悧的に使用せらるべきものなり

精神上の自由

余輩は如何なる權利によりてユニテリアン敎會を設立するを得る? 余は信ず基督敎國宗派多岐の世に於て新に敎會を設立せんと欲せば特種の理由なからざるべからず新たに上帝よりの天啓なからざるべからず他の敎會に於てなさゞる否なし能はざる公道公役の附着するなからざるべからずと余輩は如何なる特種の理由ある

？請ふ其二三を語らん
元來余輩は自由を欲するものなり思想及研究の最大自由を願ふものなり然るに少時沈默して一考せよ古來自由を許せし敎會ある？余輩は上帝と人心とに無限の信任を置ける最初の宗敎團躰なり余輩は何處にも制限を置かざるものなり人若し無窮の中に圓形を畫くあらば其直徑幾億萬哩ありとなすも之を無窮と比せば其圓形狹少ならざるを得ざるなり余輩は廣濶自由に研究の門戶を開くものなり余輩は天父なる上帝を信ぜり而して其信ずるや人智及び人心の正義に賴り如何なる疑問も如何なる答辨も其根底は上帝の光榮と人類の善良とに歸着せざるなきを信ずる者なり余輩は敢て自由の充分ならんとを願ふものなり世人或は云ふユニテリアン敎は信仰ケ條を有せざる敎會なりと、實に然り、而して又た實に然らざるものあるなり余は茲に三十九ケ條若しくは幾十ケ條の信仰條を認め得るなり調印し得るなり余は其舊敎會に屬せし時よりも今日に於て尙ほ一層許多の信仰を有するものなり余は舊時の信仰は何者をも之を拋棄せざりしなり余は上帝の言語より出で來る所の新愛新道を知り以て正道無限の富となさんが爲め兩手を開きて之を待つものなり余輩の信仰ケ條を制せざる所以のものは一定の範圍を設け却つて新知を閉塞するの恐れあればなり上帝の言語は書籍に於て盡すべきものにあらざればなり余輩は常に眼睛を明にし上帝の心情より出で來る所の新光輝を獲取せんと欲するものなり而して如何なる道義も一たび之を確認せば直に之を信ずるに躊躇せざるなり然ども茲に人あり信仰ケ條某々を認め之に調印し敢て他異なきを誓はゞ是れ自ら信條の奴隷となりしなり思ふに信仰ケ條の君子となり正人とならんと欲せば勢ひ信條以外の事を學ぶ能はざるべし何となれば學びて其知りたるを公言せば其結論を採用せざるべからず之を採用せば僞君子たるを免れざればなり之に反し學びて之を知るも隱して顯はさず密かに知らざるマ子するも亦た僞君子たるを免れざればなり此れ余輩が記載的、儀式的、誓言的の信仰ケ條を難する所以なり余輩は上帝今日に於て尙ほ其意志

を世界に表白しつゝありと信じ其正言を聽かんと欲するものなり豈敢て他あらんや

信仰の自由

余輩は單に自由をのみ主張するものにあらず余輩は其信仰に於ても亦た舊敎會に比して濶大の意義を有する者なり余の見解を以て不信心なる語を釋せば余輩の敎會に於けるよりも舊敎會に於て幾百倍不信心の形跡あるを見る舊敎會は曰く上帝は確實超自然の天啓を下せりと然ども人若し一疑を起すものあれば彼等は全身震慄せり此れ彼等の信任缺乏すればなり上帝眞に確實の天啓を下せりとなさば何故に之を精討するを恐るゝ?精確の撿討にあらざれば人心に永久の眞理と强固の基礎とを建設する能はざるなり世人多くは信仰なる意味を誤釋せり信仰豈迷信ならんや信仰豈兩眼を閉ぢ人の與ふるものは其何たるを撰まず口を開きて呑服するの謂ひならんや人生最大の要素たる信仰は道理の子なり文明の學問によりて說明し科學によりて蓄積したる眞理の上に立つものなり信仰豈迷信ならんや

茲に人あり犯罪の嫌疑により引致せらるゝと假定せよ此時に當り余にして其犯罪を信ぜす大に彼に信仰を有せりと云はゞ可ならんか曰く否余は彼を知らざるなり余は彼に信仰を有するの權利なきなり之に反し余の親友にして犯罪の嫌疑により拘留せらるゝと假定せよ余は現場にあらざりしを以て彼の無罪を誓ふ能はず然ども余は我が生命を賭して其無罪を主張すべし此れ眞正の信仰なるものなり余は彼の生活は何如なりしかを知る余は凡て彼の過去の傾向と進路とを知る彼は決して斯の如き罪過を犯す能はざるなり此れ道理上の信仰なり人類の經驗より生ずる信仰なり過去の事實と實驗とを基礎とするの信仰なり」信仰の性質斯の如し故に人は歴史に就きて信仰を有すべき權利なきものなり假令ば第四福音はヂョンの手に成りしや否や耶蘇磔刑の午後は暗黑なりしや否や此の如きは皆事實の疑問にして決して信仰なる文字を用ゐるの權利なきものなり此れ辭書の妄用なり余輩は未だ天啓せられざる事物に向つて信仰を有す然ども此等の事物は善く世界の生長と一

致し既に天啓せられたる事物を一層高尚に進歩せしむるものたるに過ぎざるなり
余輩の自由教會は上帝と人類の未來とに合理的信仰を有し見るべからず觸るべからざるも高大なる海の如く確實なる山の如きの信仰を有するものなり

崇拜

余輩は崇拜を主張するものなり世上高貴の人にして崇拜を難し之を以て卑屈となし人類の品位を損ずるとなすものあり其言に曰く上帝は賞讃追從を要せず上帝は玉坐にありて兒子の膝を屈め塵埃に沒入するを要せざるなりと余輩は此種の說明を上帝に與ふるを欲せざるなり余輩は此の如き過去の誤謬を抛棄し高尚に論究し大に上帝の思想に價値を與ふるものなり余の朋友にして多く教會及び崇拜の有益なるを曉るものあるは抑も崇拜其自身に就きて彼等の思想變化せしによるなり崇拜とは如何ん？之を分解せば尊崇なり才能誠心の人、高貴、高尚、美麗者の面前に於て尊崇を表する形狀なり崇拜の形狀は理想と連絡し人類成長の根本なり譬へば茲に自己以上の理想的人物を發見する能はざる種族ありと假定せよ此種族は決して成長發達の能力なきものなり人類は其未だ到達せざるある物を尊崇せざるべからず然らざれば種族將來の希望なきものなり而して此理想あらん者は自ら崇拜者たらずと云ふも尙ほ崇拜者たるを免れざるなり見よ人類は美妙なる自然界を見て其志を高尚にし浩蕩たる海水を見て大に感激し高貴豪勇の事業を讀みて之に倣はんと欲し仁愛の功業と犧牲の行爲とを聞きて大に奮勵するにあらずや此れ無限なる生命の面前に於て尊崇を表すると異なるなきなり此れ崇拜なり古代の希臘人は人類を稱してアンスロプと云へり上方眺望者の意なり而して人の人類として明確に他動物と區別せらるゝ所以のものは其上方眺望者たるにあるなり崇拜者たるにあるなり此れ余輩の教會に於て崇拜を主張する所以なり

仁愛及勞役

余輩は又た大に仁愛及び勞役を主張するものなり耶蘇教ゆるに天下の大人は皆世界の奴僕たるに過ぎざるを

以てせしは人の知る所なり請ふ萬國歷史を繙きて之を一讀せよ大人豪傑偶起して各其大望を遂げし者少からず然ども其名聲赫々として尙ほ今日に存し天下に尊崇せらるゝ所以のものは皆世界の爲めに忠直の事業を企て天下の爲めに誠實の企圖を畫し當時を益し萬世を利せしによらざるはなきなり此れ耶蘇が人類の勞役を以て宗敎の大眼目となし「凡て汝の心情を以て上帝を愛せよ汝の隣人を愛する汝自身を愛するが如くせよ」と云ひし所以なり此敎義は人類勞役の根底にして崇拜の基礎なり夫れ人類勞役の道路は惟上帝に往くの道路のみ余輩は形躰的生活に於て人類相互の勞役を主張し智力的關係に於て人類相互の勞役を主張するものなり余輩は倫理を主張す何となれば倫理は宗敎を人類の側面より觀察したるものにして宗敎は倫理を天神の側面より觀察したるに過ぎざればなり余輩は世界の最大道德を主張し神靈の現躰たる人類の勞役を主張するものなり余輩は精靈たる人類の爲めに勞し上帝の子たる人類の爲めに務め無限の生命の種子の宿所たる人類の爲めに働くものなり余輩は大に他物を重んじ他業を尊むも其最も勞し最も勵む所のものは人類の爲めなり是れ何故ぞ蓋し人慈善の業をなし博愛の行をなすも時に飢を救ひ寒を助くるの至り難きを嘆ずるとあるべく人を助くるの道は惟人をして眞正の人類たらしむべきの眞理を發見すべければなり

某に投票したりとて決して政治の純精を製造し得るものにあらず眞に政治をして精眞潔白のものとなさんには投票の背後に眞正の人物を要す然らざれば啻に害悪の原素たるに過ぎざるなり

社會改革者何如に細密精緻の理論を搆成するも決して大功をなす能はざるべしベラミー氏は其有名なる「回顧」に於て國民的組織は人類間に事物の完全なる情態を製造するを得べしと云へり然ども余輩は之を信ずる能はざるなり

夫れ不完全なる個物は何如に其關係を變ずるも到底不完全たるを免る能はずされば其結果に於て完全なる組織を見るべき理なきなり設令へばAを取りてBの塲所

に置きCを取りてDの所に置くも其各個の性質に變情を呈するの理なく不完全の原素よりして完全の結果を生する理なければなりベラミー氏の思想此に及ばざりしは奇と云ふべし」余の言にして過ちなからしめば敎會は人性を造り之を完全にするを以て最高最大の目的となすものなれば世界を整頓し之を純正にするの點に於て他の組織躰より一層善良の事業をなしつゝあるや明なり夫れ此世界に於て善をして惡に勝つを得せしめしは個人たる諸男子個人たる諸女子をして其惡德を除去せしめしによらずんばあらず各個人にして善良完全の高德を備へば組織躰は自ら完全すべきの理なり敎會の事業は個人的男子と個人的婦人とを造り之を發達せしむるにあり此事業たる人類勞役の最高最貴なるものにして地球をして完全の世界となす所以のものなり」敎會は天より地に達する暗黑の天幕に耳を傾け切りに萬民永遠の希望たる未來世の耳語を聽かんとを主張するものなり敎會は今世を以て一個の學校となし玄關となし未來の爲めに現世の試惑を受くるの價値ありとの信任と希望とを主張するものなり諸友よ敎會の高大なる希望をして信ならしめば生命をして塵土の中に沒するものにあらざらしめば地上の小經驗を終り無窮の大事業に入るべきものならしめば未來世に於ても亦た親愛なる上帝の手によりて引導せられ保護せられ支持せらるゝものなりせば今世に於ける幸不幸は意とするに足らざるなり俗界に於ける貧賤富貴は恐るゝ所にあらざるなり余輩の心を用ゆべきは未來の如何なるべきかにあり請ふ瞑目して熟考せよ今世の凡ての苦難、悲哀、試惑は天父の智惠及び慈愛と矛盾する所なきを知るを得ん其然る所以を知らば之に滿足するを得ん滿足するを得ざるも堪忍するを得ん堪忍するを得ざるも未來の信任を有ち希望の正當なるを曉り自己に正直なるを得ん斯の如くにして死し斯の如くにして不朽なる光榮の天啓を受くべきなり」以上述べたる所のものは余輩の敎會に於て主張する所の二三なり請ふ一考せよ此れより高尙なるものある？此れより高大なるものある？此れより正直名譽なるものある？滿天下を搜索するも人

類の繁榮を來し希望を滿すの點に於て敎會に勝るものなかるべく全世界を精査するも時を用ゐて功あり熱心を用ゐて利あり金錢を用ゐて益あり謙遜忍堪を用ゐて德あるもの恐らくは敎會に越ゆるもの勿るべし敎會は眞正の男子眞正の婦人を造り之を修養し之を發達せしむるの謂ひなり地上に於ける上帝の王國の謂ひなり未來に於ける上帝の光榮なる無窮の王國の謂ひなり

ユニテリアン敎の日本將來に及ぼす勢力

米國法律學士　三好太郎

我輩過般宗敎第三號の餘白を藉り英米に於けるユニテリアン敎と題してユ敎の觀念ユ敎の起原及その歷史を畧述するを得たり是れ只万分の一見にして悉くユ敎の本源を說き盡したるものにあらず然れども讀者も亦只万分の一を知るを以て滿足するとなさばユ敎の一般は了解し得られたるならんユ敎は元來近世紀に於て宗敎社會に湧出したる新主義にして現今歐米至る所に贊同せられ學者社會の心中には最早舊敎主義を破壞してユ敎の說を樂むもの日に多きを加へ眞理の發見とユ敎の發達は相併行するものなるべきの事實を示せりされば後世眞理に基き社會の道德を維持せんとするものはユニテリアン敎に外ならざるべしとの判斷を下すも亦過言にあらざるべきなり

さて我國宗敎社會の現狀を考ふるに維新前にありては全く鎖國の主義を取り近隣の事情之を知るに至ては僅かに支那朝鮮の二國を以て限りとなし從て人心を敎化し來りたるものは神佛二敎に外ならずたま〳〵基督敎の傳播したるとありしも一塊の砂礫となりて永く繁榮するとを得ざりし然るに一たび國を開きて外物注入の道を通してより變化樣々の世となり政治に敎育に交際に日常の衣食に至るまで悉く推移し來り今日に於ては今更停止する能はざるとなれりこれ畢竟社會進步の勢力にして數の免かるべからざるものなる歟茲に至て基督敎積年の萌芽再燃の勢日に加はり誠に驚くべきの結果を致し却て神佛を凌駕し他日日本國をして基督敎

國と公言せしむるとは未だ知るべからざるも已に日本在來の神佛二敎の外に更らに一敎を加へたるとは事實と云ふも可ならんか

然るに近年に及んで玆に亦宗敎社會に一大革新を來しつゝあるものはユ敎これなり該敎の我國に使節を送りし以來日尙ほ淺くして充分の進步をなすの運に至らざるも徐々識者の考案に上り後進生の研究を促し腦中一團の新主義を成果せしめて早晩一大基礎を定めんとするものゝ如く然りこれ我國在來の諸宗敎の爲めに不幸と云はんか將た幸福と云はんか敎敵とせんか將た眞友とせんか我國人の冥福希望墮落せりと云はんか榮光增大すべしと云はんか兎に角識者の討究を要する時代に到着したる問題なるべし是れ余が玆に本論を揭げて論述せんとする所以なり抑もユ敎は基督敎の一派と云ふは免かるべからざるも其の他派と異なる處は

一ユ敎の奉して神聖と仰く所のものは陰となく、陽となく、密となく、粗となく、活となく、不活となく、動となく、不動となく、天地萬物を抱羅主宰する所の微妙の精氣にして形とならず、影とならず、生とならず、死とならず、不朽不滅の精神にあり

二天地間にこの精神あり、宇宙裡にこの精氣あり、是を以てユ敎の觀念は陰顯幽明至らざる所なく亦及ばざる所なし

三ユ敎は基督を以て神にあらず萬物主宰絕對的の精氣にあらず啻に百万世中復た得易からさる人物として斷然評下するものなり

その觀念既に斯の如し基督を信ずる亦斯の如し是れ社會に行はるゝ普通の他派と氷炭相ひ容られざる所以にして其間だ天地の差あるを見るべし而してユ敎の目的に至ては古來迷信の囊中を脫し一躍自然の大空に突飛し純然たる眞理に基き口碑的一切の謬說を排し無限にして圖るべからざる無究にして窮むべからざる天地の精氣と人智の發達に從て全社會の道德を高尙ならしむるに在て存するものなり眞理の存する所はユ敎の目的標準にして眞理の開發上達するに從て上、宇宙を主宰する精氣と下、之れが爲めに生育せらるゝ萬物との關

係次第に照明の位置に臻り其の間だ幽神鬼怪の存するなく其達する所無邊と云ふべし夫れ然りユ教の目的一に眞理を以て標準となし道德を維持せんとす果して然らば眞理講究の期盡くる時なく今日倚ほ其中途にあるものにして未た決して完了したるものにあらざるなり否その講究の終焉何世紀にあるか今日之を豫めすべきにあらざるなり人或は云はん然らば則ち其間だ如何なる標準を以て社會の幸福を增進せしめんとするかとこれ一應尤もの疑問なるも之を解答する又た容易なるべきなり即ちユ教の敎義として他宗を敎友となすも亦た是にあるなり

基督其人の行ひを以て論ずるときは大智大德の大宗敎家と云を得べし孔聖佛陀の大德も亦無究の眞理を顯せる者甚だ多しこれ等先哲の計營辛苦したる敎訓は固より社會の幸福を增進し得べきの大典にして從て信仰し得べきもの甚だ多し之を以て眞理の未だ推究し足らざる所はこれ等先哲の道を奉し以て道德の標準となす何んぞ必ずしも道理の外にあらんや今や社會は宗敎衝突の日なり硝烟砲聲勢猖獗ならんとするの時なり眞理に合するものは勝ち眞理に合はざるものは斃るゝの時なり故に道理を離れ眞理に合はざるものは數千年の命脈を維持し來りたる信仰と雖ども將來に希望を維く能はざるなり况んや妄誕不稽の誤謬をや

古來神佛の我國に利益せしと少からず我國民を敎化せしと甚だ大なり然れども現今に於て千有餘年の事歷は徒に妄誕無稽の偶像敎と信ぜられ全國至る所の寺院の莊觀は益々其證跡を社會に明かにし神佛眞誠の事蹟は千古迷習の爲めに蓋はれて如何ともする能はず夢裡煙滅聳雲堂裏一點の光明ありて僅かに如來の眞眼を照らしつゝあるのみ然れども我輩は信ず釋伽豈に偶像敎を起すを以て身を捨て道を說き辛苦計營せしものならんや基督と雖とも亦然り然れとも如何せん大聲俚耳に入らず兒戯に類する祭禮を以て尊崇せられ延て今日あるに至りしものなるを

我國古來有眼の士高德の師に乏しからずその說きし道高尙にしてその行ひし義潔白なりしも一人の力能く百

人に對すると能はず百人の勢も克く一社會に敵すると能はず遂に善智善能の博識をして進んで社會の迷夢を破り此れが改革を企つる能はず空しく一生を終らしめたり是れ畢竟宗派の分裂之れが一因をなせしと雖とも又た古來持續し來りたる世躰風俗を蟬脫し眞理を以て諸宗敎を消化し盡すの能力なかりしに因らずんばあらず蓋し社會は一變せり宗敎も亦然り當今は宗敎の宗敎たる所以の奥義を戰はすの時なり徒に千年の經過を誇稱するの時にあらざるなり妄誕の奇蹟に憑據するの日にあらざるなり是れ人智進步の許さゞる所なり眞理の首肯せざる所なり而してユ敎の觀念目的果して眞理にありとなさば最終大勝利の歸する所又た多言を要せざるべし去りながら我國に於てユ敎の大に其步を進むるに至ては熟考と注意とを要せざるべからず何となればこれ全く社會人心の變化なればなり人心の變化は國家の變化なればなり我輩之れを社會の歷史に徵して熟考注意せざるべからず否我輩は之を現時の勢運に徵して大に熟考と注意とを要せざるべからざるなり

見よ軍兵十隻の鐵艦威儀壯大なりと云ふべし防禦全備せりと云ふべし之を以て國家の興隆を期すべくとれを以て國民の安寧を保つべく之れを以て一國の獨立を維持すべし然れども亦之れを以て國家を亡すに足るべく之れを以て獨立を失ふに足るべく之れを以て萬民を塗炭に苦しましむるに足るべし然りと雖ども未だ軍艦陸兵のみに依賴して一時に數國を滅せしものあるを聞かざるなり否數萬億の兵艦ありと雖ども誰れか克く全社會を雲霧に歸せしむるの神力を有せんや獨り人心の狂變に至りては則ち然らず嚴然たる帝國も人心惑亂すれば一抔の塊土となり森然たる社會も人心激變すれば阿房の一火となる羅馬大帝國の滅ぶる所以も此にあり那翁大帝國の轉覆も亦た此にあり人心の社會に及ぼす勢力豈少々ならんや余は大にユ敎擴張者に警醒する所あらんとす曰く西洋のユニテリアン敎を丸呑みにする勿れ曰く宜しく我が人情風俗に應じて之を擴張し決して國家の根底を害する勿れ曰く人心をして激變せしむる勿れ敢てユニテリアン敎の日本將來に及ぼす勢力を論

ずると然り

上帝

神學士サミユエル、アール、カルスロープ

「第六」上帝の智惠は無窮にして空間及び上帝の他の屬性と共立するものなり

天使若し—宇宙は至る處に上帝現存し上帝を外にして宇宙に存ずるものなし然ば則ち何如にして物質界及び有限心界は生出せらるゝ？—の問題を與へられなば彼れ恐らくは大に困却せん

上帝は何如にして不測の深淵に海岸を造り境界を造りし？何如にして無限なる空間の中心に小地球の家屋を建設せし？如何にして燕雀は無窮なる殿堂の庇に於て家を建て巢を作りて其雛兒を保育すべき？如何にして純粹不可見の空間より物質的球圏を製すべき？此等は高遠なる疑問なり而して此等の疑問は皆充分の明答を得たり

智惠とは何如ん或る大目的を成就する爲めに或る大圖を畫する所のものなり故に智惠の如何は計畫の能く目的に適應すると否とによりて之を驗するを得べし讀者諸氏にして若し此大宇宙の有せざる大權力を有すとなさば大なる誤謬なり諸氏は計畫すべき或る才能を有せり今全宇宙悉く上帝の高大なる目的に驚駭すと假定せよ人類は何如に瑣少なるべき！夫れ上帝の創造計畫は古來人類の理會する處となる能はざりしは事實なり又た多數の人類は創造の計畫に就きて迷信を懷き尊崇を致せしも事實なり古人は以爲らく上帝は今日吾人の見るが如き諸星、諸大陽、諸地球、諸遊星、諸植物、諸動物を悉く無より造れりと然ども此等の妄想は既に消滅し復び歸る期なかるべし今日は尙ほ高大なる尙ほ驚くべき上帝の計畫を信ぜり諸氏は分子存在の前に上帝の思想ありて全創造を計畫せるを理會すべく上帝の現躰より無數の分子流出して可見世界をなし各個の比例も全躰の比例も皆能く適應して高大なる全躰の結合を建設せしを曉るべく萬物斯の如く計畫せられ斯の如く創造せられ萬事皆善ならざるはなきを知るべく無窮の

古代より一分子も嘗て其大さに於て變りたるとなく內運動の速力に於て改まりたるとなきを知るべく其初めに於て熟考せられたる分子の比例は今日尙ほ支持せられて變ぜざるを知るべく物質の測るべからざる跳躍は過古に於ても善良なりしが如く未來に於ても善良なるべきを知るべく而して各分子の結合は其目的たる結果に達すべき最良の計畫なるを曉るべきなり酸素と炭素と結合して水をなすべしとの思想は絕對的に完全の思想にして永久善良なるべし而して此理は萬物に照らして皆違ふなきを見るを得んシリコンも窒素も炭素も皆完全なる神想より出で完全なる神働によりて結果せしものなれば皆善ならざるはなく此等各元素と他の諸元素との結合も亦た其宜しきを得ざるなく又其各部と全躰との比例完全ならざるはなし」分子と其運動とを許容せよ至る處に上帝の現存を許容せよ茲に初めて天河を預言し得べし無窮の靈中に有限なる靈の自由運動を許容せよ茲に初めて天河に住する所の自由精神を得べし

上帝は諸世界諸分子の存せし前に各分子の大さ、形躰、及び運動の速力を計り分子の各類をして凡ての他のものに適應せしめ玉へり然り一時の中には瑣少にして自立せる無窮の酸素神十核を置き其形躰、構造全く相同じく其働作も亦た相同じからしめ又た其同一時中に二十核の瑣少にして自立せる無窮の水素神を居き其形躰構造凡て相同じく凡て精密に半數の酸素神と共同せしめ玉へり其計畫豈驚くべきにあらずや諸氏若し之を顧みず自ら不思議の中に隱れ自立分子の不可思議は創造の不可思議に異なるなしと云はゞ余は將に云はんとす宇宙に於ける非常の不可思議は瑣細なる小不可思議よりも百億倍信ずべきの理あり而して此等の小不可思議はチプチユーンの全軌道に書するに顯微鏡にあらざれば見る能はざる細字を以てするも尙ほ之を盡す能はざるべきなり

分子は常に上帝の耳に完全無窮の內容ある小歌を奏せり是れ分子も造者も共に完全なるを知ればなり分子は絕對的の從順を以て無窮に上帝の意志を滿たしむるも

のなり見よ分子にして或は日光中に浮ぶあり或は花瓣に窈むあり或は數百年の間だ鑛山の暗黒裏に伏し或は數万年地球中眞の火爐に幽せられ或は大陽の熱を以て跳躍し或は極天の空間に寒冷を以て震慄せり夫れ分子は時の何たるを問はず場所の何たるを擇ばず一定不變の喜悦を以て上帝不測の創造中に僅少なるも必要缺くべからざる位置を領するものなり分子は大に上帝に奉使する能はず然ども常に彼に奉使し彼をして十分に喜悦せしむるものなり

汝ぢ若し最も高尙なる生活を知らんと欲せば請ふ分子に問へ彼れ應に其秘密を語るべきなり」分子は意志なきも人なる汝は意志を有せり

「第七」上帝の愛は無窮にして空間及び上帝の他の屬性と共立するものなり

スウェーデンボルグ曰く余に某人の滿腔の愛を告げよ余は應に其人となりを語るべきなりと又曰く余に某人の行爲の總計を示せ余は之によりて滿腔の愛を知るを得べきなりと然ば則ち余輩をして上帝の行爲によりて彼を判斷せしめよ鐵と石とは何人の物なる？數千の小丘に逍遙する家畜は誰の物なる？波は誰の爲めに泡立つ？風は何人の爲めに吹く？樹葉は誰の爲めに鳴る？地球は何人の爲めに果物を生ずる？大陽の日中に輝くは神の爲めなる？月の夜分に明なるは上帝の爲めなる？上帝は住所として諸星を造りし？幾億の光波は上帝に使節を送るが爲めなる？重力は上帝の頭上に家屋を支ゆる爲めなる？總ての造物は何の爲めなる？何人の要求を滿たしむるものなる？何人の智力を刺激するものなる？何人の生命を造り防禦し光榮にするものなる？此等の疑問に對して唯一の答辯あるのみ曰く全ての天河の建設せらるゝも重力の牽引するも光明の輝くも電氣の震ふも分子の結合して諸世界をなすも皆上帝全く諸子の爲めに之をなせしのみ全宇宙は上帝の愛を表示せる一表章のみ

チンダルにして自然は人類の悲哀に對して無關係なるか如く論じ自然を一物となし人類を他物となし二者全く二様の異躰によりて造られ二様の異宇宙に成立し二

權力を制限しつゝあるにあらずや」と然とも余は將に云はんとす否此れ上帝自ら其權力を制限しつゝあるなりと

余輩は上帝の讓與絕對的なるを知るにあらざれば決して其讓與の完全を理解する能はざるべし上帝は其諸世界を抛棄し又た之を恢復する能はず彼は其諸子なる余輩に與ふるに物界上の支配權を以てせり上帝は決して天河中の一物をも自己の物として保有せざるなり今は總て絕對的に諸子の所有なり上帝は之を防衞し利導し贖回し援助し寛容するの權利を有し之を愉快にし慰喩し强健にするの權利を有し併せて又た强者を押へて弱者を保護し隣人を苦しむるの人を觀察するの權利を有せり

耶蘇は自性を發明せしにあらず彼は之を發見せしなり自性は宇宙の大眞法にして上帝の心情なるを發見せしなり耶蘇は之に從ひ之を愛し之に生活し之に向つて一身を投ぜり

上帝は愛なり此れ福音にして凡ての囚人に自由を布告

樣の異目的を有するが如く示せしは奇なりと云ふべし其實無關係なるが如く見ゆるは神愛の高大なる勝利を示せる所以なり物質界に於て上帝は人類の幕下に附屬し上帝自ら奴隷の形躰を取りて人類に從ひ上帝自ら絕對的に人類の命令に從順なるものなり物質の法則に從ひ汝の欲する所に從ひ之を改造せよ何如なる模形にも從はざるはなし火を以て之を打て鐵槌を以て之を擊て物質は之に從ひ決して抗するとなし今日の大製造所に於ては「上帝此處にあり余は之を知らざりしなり」と呼ぶ所の幾多のヂヤコブ存在すべし物質界に於て上帝は奴隷なり人類は主人なり故に人は其欲する所を計畫し又た之を行ふものなり物質界に於ては上帝其王國の領分を割き諸子をして自ら一ヶの王國を爲さしむ上帝の愛是れに止まらず夫れ上帝此王國を建設するも其本質は自己以外に存ずるものにあらず故に上帝は變躰の神爲によりて物質界に宣言すらく「取れよ取りて之を食せよ是れ余の體にして汝等に與へたるものなり」と斯の如く論ぜば讀者或は云はん「汝は汝自身に上帝の

し凡ての悲哀者に愉快を與ふる所の善言なり此れ弱者たると強者たるとを問はず凡てに對しての善告なり實に上帝は愛なり

茲に夫に死なれ子供に別れ朋友に見捨てられ寂寞憫れむべき借屋の破室に住する一老婦あり時既に夜、日中の勞働に羸弱の躰質大に疲れ壁側に踞りていと樂しき生活を始めり彼女は獸脂の蠟燭に光りを點じバイブルを取りて上帝の人民に死後を教ゆるの章を誦讀し死したる先人は善良幸福なる天國に往きて上帝に生活するを示すの句を復讀し不知不覺の中に天國を實驗せり此の哀れむべき破室に存ずるものは落ちたる床、倒れたる壁、破れたる煖爐、及び一ヶの椅子と机と周邊の空間とを外にして別に存ずるものある？然り存ずる者あり彼女は讀經に餘念なかりしに死したる愛顔再び來りて彼女に微笑を呈するが如く又た寂寞たるものあるとなかりき然り無窮の愛は彼女を圍み彼女をして再び安眠を得せしめり

彼女は天國に往けり愛人彼女に會し忠心誠意の諸人の處に導かれ救はれたる人の生命の歌を聽けり彼女は其初に於て精神大に愉快を感ぜしが暫時にして恐る〳〵其嘗て讀みたりき第三天を仰望し上帝身自ら大陰及大陽となれるの場所を問ひしに彼等は直に彼女を携へて幸運の處に送れり然ども彼女は今何處にある？嗚呼！彼女は今老屋の破室に立ちつゝある！此は煖爐なり彼は倒壁なり此處に彼女の用ゐ慣れたる普通の物悉く備はれり然ども見！今は落ちたる壁も曲りたる煖爐も破れたる椅子も机も光輝を生じ光澤を呈し凡ての超愛なる神愛の一部となれり彼女は上帝を見たるなり萬物に滿たしむる處の上帝の充滿を見たるなり

余輩は一日凡て左の如く感ずる時あるべし

卷き物分れて散亂すと雖ども全幅開けて余の眼前に來り曇りなき光輝によりて昔時に變はらぬ色香を呈すべきなり

―――――――○―――――――

自然感化力と宗教

土谷忠治

事の成るは、成るの日に於ひて、成るにあらず、事の敗るゝは「敗るゝ」の日に於ひて、敗るゝにあらず、火勢炎々として燃ゆ、焉んぞ知らん之れ酸炭の素、互に合するなるを、雲霧蒸々として、水より出づ、焉んぞ知らん之れ熱素の加はるなるを、世上の事物概ね皆然らざるはなし、源因なきの結果ある事無く、結果ありて源因の存せざるなし、我國今日の現象を見よ、果して巍然たる富岳の如きものある乎、爛熳たる東台の花の如きものある乎、道徳の腐敗、滔々として人心を席捲し、人情の輕薄、些々として愈激しく、父母に孝なく、兄弟に友なく、朋友信篤からず、恭儉地を拂ふて驕奢瀰滿し、博愛衆に及ぼすとなく、唯利これ求め、東奔西走これ疲る、以て富岳に恥ぢざる乎、以て櫻花に誇るに足る乎、思ふてこゝに到れば、斷腸の感、果して如何、噫之れ豈獨り我國のみならんや、廣き三千世界を擧げて、一に皆其揆を均ふせざるはなし、釋迦、孔子、キリスト、をして若し今日あるを得せしめば、彼等これを何とか云はんや、こゝに於て吾人筆を投じて憮然たらんとす、

孔子曰く「弟子入則孝、出則弟、謹而信、汎愛衆而親仁、行有餘力、則以學文」、今人之を履踐し得るや、經典に曰く「汝心を盡し、精神を盡し、意志を盡して、主なる汝の神を愛すべし、これ第一の誡なり、第二もまたこれに同じ、自己の如く、汝の隣人を愛すべし、これより大なる誡なし」と、今人之に適準し得るや、佛説に曰く「之等の事は世にありての難事なり、」=即ち貧にして慈善に、富豪にして信心なること、運命を免るゝこと、色慾食慾を制すること、他事を顧みず、自己の本務を盡すこと、眞理を研究すること、賢愚の差別を立てざること、自尊自重の心を去ること、善なるべく又之れと同時に能く學び、且つ巧みなること、言行一致すること、爭論を避くること、是れなり」、今人これに服して得々たるか、余輩敢て之を口にするを欲せずと雖ども、已にこの事實あり、結果あり、必然と

して原因なくんばあらず、其原因を探究して之を撲滅するは豈吾人の本分にあらずや、乞ふ之を論せん

吾人人類の百言百行は、抑も命令ありて行動するか、將た命令なくして活動するか、命令なくんば不活動のみ、死物のみ、蓋し一言一行として、命令なきに活動するものはあらざるなり、此命令者、之を廣き意義にては内心或は精神と云ひ狹き意義にては思想と云ふ、而して外部に發現する諸の言行は、善にもあれ、悪にもあれ、皆内心活動の現象にあらざるはなし、社會の道德をして高尙ならしむるも内心にあり、又今日の如く腐敗せしむるも内心にあり、社會道德の敗壞は即ち内心の敗壞のみ、今日の如く斯く内心をして卑賤粗薄ならしめたるは何者ぞ、之れ即ち内心嫩芽の未だ可塑性を有する時に於て、其培養の法、當を得ざりしを以てなり、然らば云はん、今日の道德敗壞は一に内心の培養を司る所の普通教育の罪にあらざるを得ずと、豈敎育を以て任するもの、顧みる處なくして可ならんや、習慣は第二の天性なり、習ふより慣よとは古人の格言なり、大凡そ人類は習慣の忠僕、動物は習慣以外に生活し與ふものにあらず、而して其習慣は抑も何によりて來るか、其因多くは外界の感化によるを知る、抑外界の勢力たるや、實に偉大にして、金剛石も猶能く之を動かすべからず、竊に思ふ、何を以てか、普通教育にのみ、道德衰頽の責を歸すべけんやと、ヨシ假に普通教育の任とするも、人類が其境内に呼吸するは僅に數年間のみ、他は皆社會自然の敎育、即ち感化力にありと云はずんばあらずと、而して其勢力の善悪を司どるもの、即ち社會一般の敎育を司どるものは何ぞ、其勢力を善悪左右するものは何ぞ、換言すれば、今日の道德衰頽は普通敎育の責のみにあらず、猶多くの關係を有つものなからんや、嗚呼これ眞理探撿の先導者、哲學應用術なる宗敎にあらずして何ぞや、

斯く宗敎は重大なる勢力と責任を有するものなれば、何人といへども、道德敎育を以て、其任とし、社會を發達せしめんと欲するの士は、宜敷一定の信仰を捧げて、其法を講すべきなり、世に無宗敎を唱へて、恬然

たるもの往々にしてありといへどもこれ必竟無識の徒破壞の輩下愚の賊寧ろ憐むべきの極にあらずや
以上論究する處に於ひては、固より所究の一班をだも盡くさず、爾後益切磋の功を積み、漸く其堂に上らんとを期す、以て無限の靈智靈能、無究の恩惠慈愛なる、神に近づかんと欲す。

拾珠教と玉石教

洪　榮三

某年某月某日某處に於て自由基督教熱心家某氏の説教を聽聞せり、説教の躰裁宜しきを得、諄々として説き去り説き來り、勇夫あらば之をして立たしめ、學者あらば之をして感服せしめ、老婆あらば之をして感泣せしむるの辯舌を振はれたり、余も亦た席後に在りて大に其の説に感じ、平生の持論を顧みず、手を打ちて快と呼べり、蓋し感情七分道理三分の説教なりしを以て少許の間だ感情の欺く所となり道理力全く窒息せられしによるなり
某氏の説きし所如何ん其要に曰く舊新約書を讀むものは須らく批評的に之を解すべく迷信的に之を誦すべからず之を道理に問ひ事實に徴し歴史に依頼し取るべきは之を取り捨つべきは之を捨つべし舊新約書には誤謬少なからず然ども其中に眞理の光り燦然として光彩を放てり余は舊新約書を愛讀するも決して迷信基督教徒の如く之を崇拜するものにあらず余は天の一民に私しせずして萬國民を同視するを信ず余は舊新約書に眞理の存ずるが如く儒書にも佛書にも眞理の存ずるを知る云々氏は一歩を進め自ら問ふて曰く他の宗教にも眞理存ずとなさば何ぞ各宗教の善良なるもの丶みを抜萃し來りて所謂拾珠宗教なるものを造らざると氏自ら答へて曰く宗教は生命あるを以て貴しとなす而して生命は人によりて生ずるものなれば不世出の大豪耶蘇の如き人物出で來るにあらずんば決して其目的を達する能はず故に余は舊新約書を以て自ら甘んずるものなりと氏又た拾珠宗教の不可なる所以を論じて曰く余は嘗て嵐山の櫻花を見向島の櫻花を見又た吉野山の櫻花を見た

り然ども余の最も快とし最も樂しとなす所の者は嵐山の櫻花なり是れ何故なる？向島の櫻花美ならざるにあらず吉野の櫻花麗ならざるにあらず然ども滿目美を以て充ち麗を以て競ひ却つて人をして目倦み心厭かしむ余は吉野向ふ島の櫻花の俗なるを知る之に反して嵐山の櫻花を見よ老木欝蒼として滿林白花を着くるも枯木の之を遮ぎるあり蒼苔の之に纏ふあり折枝の河水に垂るゝあり千種萬様古色蒼然雅致極まりなし余は大に嵐山の櫻花の古雅なるを賞す舊新約書も亦た然り批評的に之を讀み此處に誤謬を認め彼處に虛誕を認むるも眞理大道の之を一貫するあるを以て大に古雅愛すべきの狀あるは恰も嵐山に似たり之に反して儒教より佛教より基督教より金科玉條をのみ拔萃し來らば全巻莊麗美観を盡すべきも是れ向ふ島吉野山の櫻花のみ俗物的のみ嵐山の風致あるに如かざるなり云々」と余は某氏演説の大要斯の如くなりしを信ず請ふ余をして少しく評論する所あらしめよ

本論に先だち一言せざるべからず曰く余は某氏の主張する玉石教を難するものにあらず余は某氏をして舊新約書批評的愛讀の念を飜へし儒教佛教等より善良のものゝみを拾ひ來り之を信ぜよと云ふにあらず信仰は自由なり高天ヶ原を歌ふも南無妙法蓮華經を誦するもアーメンを云ふも人心自ら之に滿足するあらば則ち可なり米穀を食むも豚羊を嗜むも以て健康を進め以て生命を保ち以て口腹を滿足せしむるを得ば則ち可なり何ぞ木綿を以て賤しとなし綾羅を以て貴しとなし之を以て彼を笑ふの必要あらん、酒を賣る者あり、餅を賣るものあり、砂糖を賣るものあり、購買者は各其嗜好に從つて之を求むべきのみ、神道を以て儒教を笑ふは上戸の下戸を笑ふに似たり、耶蘇教を以て佛教を嘲けるは唐物屋の瀨戸物屋を嘲けるに似たり、其然り余は拾珠教の美を主張すると雖ども決して他人の信ずる玉石混合教を詈罵し之を非難するものにあらず余は拾珠敎の何如なるものなるかを示し余の信ずる所を吐露するを得ば則ち可なり、余は讀者諸君の之を以て攻撃の文と誤解し、之を以て他人の信仰を害する者と誤認する勿

らんことを希望して已まざるなり

某氏は曰く舊新約書を讀むものは宜しく批評的に之を愛讀すべく迷信的に妄信すべからずと、然り、余輩は實に其語の至當適切なるを知る余輩は自由を欲し束縛を好まず余輩は獨立的なるを愛し壓制的なるを嫌ふ余輩は書籍崇拜を排撃し道理愛重を賞讃す今某氏は其說敎の發端に於て批評的愛讀を主張せらる余輩豈兩手を擧げて賛成を表せざらんや然ども一言以て注意を要すべきあり曰く無我にして書を讀むは批評的に之を讀むの謂にあらざるなり既に批評的に之を愛讀すと云ふ是れ合理的の眼睛を以て條理のある所を明にし誤謬の存ずる所を正すの謂なり是れ無心なる我を智情意の三元素に分割し先つ智をして活働せしめ情意は暫時之を背後に隱すの謂なり是れ他人の天啓なり默示なりと崇拜する所の宗敎書を前後左右より智力の利刀を以て無情にも切斷し玉を以て玉となし石を以て石となし批評機を以て其時代を考へ事實に徵し新に順序を整へ再び之を連結せしめ玉と石とをして其排置宜しきを得せしむるの謂なり是れ智力をして情意の基礎を造らしむるの謂なり換言せば批評的愛讀とは合理的探究の謂なり大道講究の謂なり眞理搜索の謂なり智力に過重を置くの謂なり古人の解釋を以て甘んぜざるの謂なり古人の編纂に過誤ありとなすの謂なり其說く所大膽なりと云ふべく其論ずる所正當なりと云ふべし是れ先つ余輩自由論者の意を得たるものなり余輩贊成せざらんと欲するも豈得べけんや

某氏は又た儒敎佛敎にも大に眞理の存ずるを承認せり是れ亦た余輩の大に贊成を表する所なり葢し天や一視同仁決して一國一民に私するものにあらず人民あれば必ず國あり必ず師あり必ず道德あり（不完全にもせよ）必ず法律制裁あり（不充分にもせよ）以て社會を導き以て文明を助く而して此等の道德法律は決して人性に抗ひて生出せしものにあらず必ずや神子たる人類の本性を（多少）基礎として自然的に形成せしものなり故に西洋の道德も東洋の道德も其本躰に於て決して異なる所あるなく其基礎に於て決して違ふ所あるなきなり

唯其說く所の點に於て大に彼我其趣きを異にする所以のものは時勢に應じ國情に適し文明に伴ひしによるなり顧ふに耶蘇と孔子とをして其住地を交換し其國情を交換し釋迦マホメットをして其位置を交換し其社會を交換せしめばコーランは釋迦の手に成り法華經はマホメットの口より出で論語は耶蘇の心情より發し山上の教訓は孔子の靈性より出でしやも知るべからざるなり余は未だ地上に水魚の游泳するを見ず空中に獸類の翺翔するを知らず是れ萬物悉く外界の爲めに其形躰を搆造し外狀に適應せしむるによるなり空中を飛揚するの要具は羽翼のみ鳥雀是に於てか羽翼を具ふ陸地を步行するの要機は脚足のみ獸類是に於てか脚足あるなり其人物に於けるも亦た然りカントの出でしは歐洲の學問之をして然らしめしなり秀吉の出でしは日本の時勢之をして然らしめしなりワシントンの出でしは亞米利加歐羅巴の時勢(亞米利加の革命戰爭は大に歐洲の影響を蒙むれり故に云ふ)之をして然らしめしなり凡そ天下の事物大より小に至る迄決して偶然に生じ偶然に滅するものにあらず必ずや因りて來る所の源因勢力なかるべからず故に西人云へるあり亞弗利加の中央にはニウトン出でずアメリカ、インヂヤンにはデカート生れずと深く此意を味ひ大宗教家の出でし所以を考へ之を當時の人心に徵し當時の社會に考へ併せて之を天下の大道に問はゞ如何なる宗教にも幾何の眞理の存ずべきは又た多言を要せざるなり況んや東洋中華の國をして二千餘年の久しき能く其國たるを失はず忠と孝とを以て支那全國を維持せし所の儒教に於てをや況んや印度の一隅に起り當時隆盛の婆羅門教に抗し進んで支那暹羅緬甸朝鮮日本に入り殆んど三千年を經過し嘗て老色なきの佛教に於てをや此れ余が大に某氏に贊成して儒教佛教にも眞理の存ずるありと云ふ所以なり

某氏は之れより一轉して拾珠宗教の不可なる所以を論じ宗教の貴きは生命あるが故なり人品あるが故なり耶蘇の如き大豪傑にあらざれば眞正の拾珠教をなし難し故に余は舊新約書に甘んずるものなりと余は大に某氏を信任するものなり概して某氏の說を喜ぶものなり然

ども拾珠教の如何に至りては大に某氏と其意見を異にし之れが正反對に立つものなり請ふ其理を語らん余は書籍を讀むに批評的に愛讀するものなり智力を働かしめ情意は之を隱影に居くものなり書中の虛僞眞實は智力によりて之を判斷するものなり換言せば眞理を求むるに塲所を擇まず大道を搜索するに人を選まざるものなり某氏は其の新著の卷首に於てエマーソンを拔萃し「耶蘇及び沙翁は精靈の 碎片のみ余は愛を以て之に勝ち我が智覺的領內に之を塊團せしむるものなり」と其意以爲らく上帝は無限にして其屬性も亦た無限なり故に有限なる人類は設令ひ衆を拔ぎ羣を出づるも唯無限なる精靈の碎片のみ上帝の子たる人類は其良心によりて諸聖賢の模範に倣ひ理想的の靈性を琢磨すべきなりと其卓見驚くべし某氏の之を卷首に置ける豈偶然ならんや獨り怪しむ某氏は此卓見を有し耶蘇を以て精靈の一粹片となしながら舊新約書を以て其本尊となすの不見識に陷ゐりしや某氏は口に理想的の靈性を崇尊すと云ふと雖ども先入主となり舊新約書の奴隷たるにあらざるなき？某氏は理性を以て批評的に愛讀すと云ふと雖ども惟舊新約書の狹小なる範圍內に於てするのみにして決して之を各國の宗教に照らし萬國の教理に鑑み古今の時勢に問ふの云ひにあらざるが如し夫れ人心は精靈の碎片なりとせばある線路によりて兩者の間だに連鎖なからざるべからず此連鎖は人心をして一層一層を強くし一歩一歩を進め精靈の本躰を知らんとの念慮を起さしむるものなり夫れ井中より天を窺ふ者は天を以て小なりとなすと雖ども少しく理心ある者は之を以て足れりとせず平地に出でゝ之を觀、高山に登りて之を察し、望遠鏡によりて之を瞻、種々の方便と機械とを用ゐ其目的たる天躰を探知せんとを勉むるものなり夫れ然り宗教に於ても孔教を以て足れりとせず佛教を以て足れりとせず耶蘇教を以て足れりとせず世界の大宗教家を消化し來りて無限の眞理を探究せんとの希望を起す豈偶然ならんや某氏は批評的に舊新約書を讀むと云ふと雖ども既に其初めに於て之を以て宗教中の最大著述と斷定し他の宗教を以て第二位に置くものなり

余は某氏が果して能く萬國の宗教を精査し然る後ち此の如きの斷定を下せしを信ぜざるなり何となれば某氏は儒教佛教にも眞理の存ずるを承認し舊新約書にも誤謬の存ずるを承認しながら何如なる點が儒教佛教の基督教に劣る所以ん何如なる點が基督教の儒教佛教に優る所以を說明せざればなり」某氏曰く宗教は生命あるを以て貴しとす人品あるを以て重しとすと其れ或は然らん然ども人心既に不滿の處あり安んぞ生命あるを得ん既に智力を働かし理性を動かし之をして不滿足の境界に陷らしむ安んぞ人品あるを得ん自ら生命人品を失ふの所行をなし今は却つて其の之れなきを理由とし智力の活動を止め情意に一任せんとす是れ謂ふべくして行ふべからざるなり是れ一たび溺人を救ひ再び之を水中に投ずると異なるなきなり是れ寧ろ普通信者に傚ひ智力を第二位以下に置き情意を第一位に置くに如かざるなり何ぞ必ずしも高言誇大自由基督教徒と稱し他と區別するの必要あらん

某氏は又た拾珠教の不可なる所以を論じ嵐山の櫻花を以て例證とせられたり蓋し某氏は智力の利刀に依賴するは大に自家に不便なるを知り演說家政治家普通宗教家の顰に傚ひ全く道理の前門を閉鎖し感情の後門より侵入し日本人の風雅心に訴へ苔蘚の賞すべく枯木の讃すべきを說かれたり然ども某氏にして斯の如く重きを感情にのみ置かば初めより智力を奮興せしむるの必要なきなり既に智力を奮興せしむ又た之を滿足せしめざるべからず是をなさずして徒に感情のみに訴ふるは是普通宗教徒と五十歩百歩のみ其異なる所知るべし何ぞ新たに旗旆を飜へして異名を附するの要あらんや

人或は云はん然らば則ち子は獨り智力のみに依賴し情意は之を用ゐざるの謂ひ歟是れ智力の利刀あるを知りて信仰あるを知らざるなり是れ人智の達する所あるを知りて人智の及ばざる所あるを知らざるなりと此の駁論たる未だ余の眞意を解せざるものなり夫れ信仰とは智力のみによりて之を敎へ得べきものにあらざるなり感情のみによりて之を導き得べきものにあらざるなり意志のみによりて之を示し得べきものにあらざるなり

其智と云ひ情と云ひ意志と云ふは抑も一心の知覺より分岐したる三元素にして之を譬へば知覺なるものは大湖の如く智情意なるものは之に注入する所の叉た之より流出する所の小河川の如し世人の道理を鬪はし議論を上下する所以のものは此知覺的領内より分岐したる小河川の戰ひのみ智究するも知覺に還り情極まるも知覺に還り意究まるも亦た知覺に還り智も其力を施す所なり情も其感を發する所なく意志も其傾向を示す所なし是に於てか信仰生じ是に於てか崇敬生ず信仰なるものは決して三元素個別の働きにあらざるなきなり分派したる小河川に於ける小戰にあらざるなりエマーソン氏所謂る精靈の碎片たる耶蘇も沙翁も我が知覺領内に塊團し然る後に鬱勃として興起する活動の結果なり豈特り智のみならんや豈特り情のみならんや豈特り意のみならんや否三者の本源たる知覺の活動にあらざれば眞正の信仰をなす能はざるなり」余をして某氏の說を評せしめば某氏は智情意の分岐したる小河川に於て信仰を求めんとするものにあらざるなき歟三元素の小派流に於て宗教の基礎を求めんとするものにあらざるなき歟舊新約書を以て智情意の歸着する所となし依りて以て信仰を形成せんと欲するものにあらざるなき歟然ども如何んせん既に智力を以て舊新約書を批評裁斷するを許せり智力一たび馳せて獨り舊新約書に安んずるものにあらず必ずや各國の宗教に依賴するの已むを得ざるに至るべし此の時に當り急に舊新約書に還りて其信仰を求めんとするは能はざるなり否決して信仰の生ずべき餘地なきなり余は嘗てフリーマン、クラーク氏の大著十大宗教なるものを讀み左の圖解あるを見たり

蓋し某氏もクラーク氏と同一の意見を有せらるゝにあらざるなき歟然ども余を以て之を見れば是れ宗教崇拜者にして偶像崇拜者と異なるなきなり余輩は天下の各宗教を形成せる本源に遡ぼり人類の一心に存ずる良知によりて無限なる宇宙大權力の敬すべく愛すべく畏るべきを知らんとするものなり然り宗教は我が良知を擴充して天心に達するの階段なり而して此階段を以て獨り舊新約書に存ずとなすは愚の至りなり大權力は無限なり絶對的なり此觀念に到達し眞正の信仰を得んと欲せば宜しく我が良知に憑據し公平の心を以て萬國の教義を研究し一旦釋然として大權力の無窮なる所以を晤了すべし故に余はクラーク氏の圖解を修正して左の如くせんとす

其意萬國の宗教は皆精靈(大權力)の發現なるを以て如何なる宗教によりて攀縁するも幾分か大權力の微光を認むるを得べきなり然ども一たび智力を應用して自己の經典を疑ひ自己の踏み臺を批評するに至らば其勢ひ宇宙各宗教の大道眞理を基礎とし高大無邊異常絶對の大精靈大權力の觀念に到達し智も其力を施す能はず情も其感を發する所なく意志も其傾向を示す所なき不知不覺の認知、覺識に達し而して後ち初めて眞正の信仰生ずべく眞正の崇拜起るべし批評的眼光を以て自己の經典を判し其誤謬を認め不完全を證し再び歸りて之により信仰を形成せんとす難ゐ哉騎虎の勢は制し易からす破竹の勢は中止し難し、難ゐ哉玉石教、條理ある哉拾珠教、

余は未だ充分の意見を盡す能はざりしを恨む然ども紙數限りあり他日再び餘白を借りて論究するの榮を得ば余の幸福之に過ぎざるなり

學者心事を高尙にす可し

吉村秀藏

我か日本人頻りに泰西の文物を採用し近來に至り漸く其頂上に達す其中最も昌んなる者は葢し泰西學術の右に出る者あらじ政府は年々歲々巨額の金を費し一私人に在ては苟も學問修行の爲とあらば祖先傳來の財產をも惜まず況んや勉學の勞に於てをや、就中資力有る者は蹶然海外に留學し甚しきに至ては無資力の一寒書生にても名譽の慾心押へ難く或は友人の愛顧に依り其他八方奔走し辛ふして船賃たけ拵へ其餘は彼地上陸の上一時外人の奴隷となるも他日靑雲の志成るの時を熱望し韓信は人の股をくゞり老婆に食を乞ひ普蘭屈林は活版の職工を勤め時に自ら市に荷車を引く寧ろ一時の恥を忍ぶも他日大元帥たり理學博士たるの樂園を待つに若かずとの意氣込にて世の壯年の學問に熱心なるは誠に吾人の喜ぶところなり然りと雖ども是等の志士學成り志遂ぐるの日再び日本に歸朝し其の爲すところを見れば槪して何れも一途に出づるものゝ如し即ち多くは何々博士の學位を得て帝國大學の敎授其他の學校敎員となるに過ぎず勿論學校敎員貴からさるにあらず其責任重大なりと雖とも憾くは今一步を進めて一層高尙に一層社會に必用なる事業を執らざるを、吾人の所謂る一層高尙なる一層必要なる事業とは何ぞや、道德の事業是れなり、人或は曰はん是れ腐儒の說のみと否決して然ざるなり洋行學士諸氏の立身の故鄕たる十九世紀學術の泉源たる泰西諸國を見よ彼れ學術の隆盛と共に道德の事業亦た頗る昌なるに非ずや之れ留學諸氏の熟知する所にして或は留學中彼の國社會の輿論と共に日曜日には必ず會堂に至り說敎を聽聞したるともある可し、然れども歸朝後は我國道德の輿論彼國の如く喧しからざるを僥倖して默して口にせず我國に道德の必要を心私かに感ぜざるに非らずと雖ども一たび之れを口にする時は自己の一言一行は世人の以て注目する所にして萬一言行に瑕瑾あるに於ては乍ち世人の攻擊を受け自ら禍を招くに至らんそれより通常人の如く通常の職務を成し數年苦學したる技倆を示し豐かなる報酬を

得て安樂の浮世を渡るこそ策の得たるものなるべしとの心事にてさては通常人に卓越したる事業をなさゞるか然りとは遺憾の至りならずや、時にロッチェー、ハルトマン、スピノザ、王陽明を論ずるは博識多才心事の如何にも高尙なるを他人に示し且つ面白きことならんされども是等博識の才ある人士にして一朝蹶起し專ら力を德育に盡し上野の公園に芝の公園に或は公會堂に普留那の雄辨を振ひその上古りにし昔亞典の街に佇立して俗人の耳に入り易き言語を以て道德を說きし瑣屈羅底斯を演するあらんには其名聲天下に轟き、覆はんとするも得べからず恰も山上の城の如く我邦の品位を高め海外人にまで尊敬の意を厚ふするや必せり人或は云はん是れ瑣氏にあらざるよりは能はざるところなりと是れ誠に然り余や必ずしも日本に一瑣氏を出すを望まず只半瑣氏若くは四分一瑣氏にても滿足するところにして之れ必すしも能はざるにあらず爲さゞるの罪なり、人或は道德の事は頗る難事なりと思ふ者もあらん然れども醫學、法學、理學、哲學、是れ必ずしも易事にあらず頗ぶる難事と云ふ可し殆んと十年前後の苦學を積み初て業を成すべきのみ苟も斯れ程の苦辛を爲すの決心あらんには道德の事業とて何ぞ出來ざるの理あらんや只た一の勇氣を缺くのみ要するに當今の學生は頗ぶる名譽心に富み隨て勇氣に乏しからず然れども其名譽と思ふところの者は最高の名譽にあらす通常人の望む名譽にして必しも學士に限る名譽にあらず美麗の邸宅を搆へ車馬之に隨ふ之れ俗紳士の羨む所にして、俗人の名譽のみ、其勇氣や、衣食美なれば以て止む之れ匹夫の勇のみ、然れども我輩は必すしも衣食邸宅の美を賤むものにあらず唯我人は自己の衣食充實せるを以て足れりとせす猶ほ一步を進めて極點の名譽を求められんことを希望するものなり、試に今我日本に瑣氏の半分に相當する人物の輩出するあらば其名譽榮光は俗名譽に戀々たる人々を勵まして一層高尙有益なる生活に導くや疑ひなし、衣食憂ふるに足らず、德孤ならず、必ず隣あり、大厦高樓肥馬鞭ちて通常人の如く又兒戲の如く可もなく不可もなくして此世を去ると、中人の

活計を爲しても日本人の生活の目的を高くし芳名を千載の下に殘して此世を辭すると何れか優れるや、渺茫たる砂漠豈に一本の棕櫚樹なからんや、必ずしも社會は燕雀の群集のみにあらず早晩鳳鳥の舞ふ時あるべし是れ我輩の希望するところなり

傳記

ヂヨン、ハッス及びヂエロミーの略傳

（前號の續き）

然ども勇敢なる武士として鋭敏なる神學者として火情ある演説家として深沈なる哲學者として熱心なる弟子として其名高きヂエロミーは何處にある？氏は親愛なる其師を戰場の中央に捨てゝ顧みざる？曰く否ヂエロミーはパリスに往きヴ井ーンナを見舞ひハイデルベルグを訪ひポーランド、リスアニア、ロシアに往來し無比の能辯と不可思議の誘聲とを振ひ大に誤謬を排撃し大道を顯彰し少しも畏避する所なかりき氏は自ら以爲らく余は諸國を遍歴し宗教改革を唱ふべきの天命を有せりと故に基督教諸國足跡の遍からざるはなく請ふ者あれば直に奔馬に鞭つて之に應ぜり氏の反對者は常に牢門を開きヂエロミーを以て其掌中にありとなせり然ども氏は又た非常の熟練を以て敵の蛛網を脱し直に路傍に於て兩手を振ひ新聽衆に向つて能辯に教を説けり氏はハッスのコンスタンスに幽せらるゝを聞き直に往きて其情を探知せしは實にハッスの審問未だ終らざる以前なりき然ども其身も亦た大に危きを知り窃かに之を去る四哩なるユーベルリンゲンの小都に退き大に熟慮する所ありき氏は志を決してコンスタンスの諸門、カーディナルの住屋、及び諸教會の門前に羅甸、ボヘミヤ、日耳曼の三國語を以て張札して曰く余ヂエロミーは評議會の面前に出で己れに對する非難の辨明を辭せざるなり但し往來の安全證を附せらるゝを要すと評議會之を見て大に激し直に氏を縛し鐵鎖によりてコンスタンスに送致し一千四百十五年五月評議會場に召喚せり議會の諸人は皆氏の知る所にしてパリスに於てコローンに於てハイデルベルグに於て氏の火の如き能辯によりて其論鋒を挫かれ權力、位階、口碑を破壞せられ忿怒に堪へざるの諸人なりき氏の舊敵は交る〻立ちて或は嘲弄或は罵詈或は鈍刀を取りて論戰を試みしも

氏は嘗て窮する所なく熟練に應答せしかば彼等は却つて大に怒り呼んで曰く「此奴を引出せ！此奴を焚殺せ！此奴を焚殺せ！」と氏は沈毅動する色なく四方を見廻はし謂つて曰く「諸君にして余の死を欲せば上帝の名に於て來らしめ！」と評議會は乃ち氏をリガの僧正に委せり僧正は猛獰を以て其名高く直に命じて氏の頸を縛するに鐵鎖を以てし暗黑の牢獄に入れ直立せる豚槽に投ぜしかば氏は坐する能はず動く能はずして十一日の間だ—二日は水なく食なく九日は水と麵麭とを得て—生存せしが評議會遂に激怒せる帝王の請を容れ將に死せんとするヂェロミーをして虎口を脱し其猛獰を寛にするを得せしめたり

ヂェロミーは自由を愛する情火の如く運動の自由を愛する天性の如く嘗て感觸に疣せしとなく嘗て自由思想を塞ぎしとなし此自由の人今は三百四十日の久しき牢獄に幽せられたり其苦悶思ふべし氏の精正に盡き生將に死に瀕せんとす茲に於て彼等は親切と甘言と約束とを以て氏を誘ふて曰く改言せば直に救助せられん然らずんば焚殺の刑目前にありとヂェロミーは永月の間だ痛ましき幽囚に疲勞し青天白日を見んと欲するの念禁ずる能はざるの時を機とし評議會は氏を召喚せりヂェロミー乃ち其受けたる非難の正當なるを承認しウヰックリッフ及びハッスを以て異教者となしウヰックリッフの名の上に併にハッスの身躰の上に附せられたる宣告文を正當となし異教を改言するの文章を朗讀せり（宗教子曰く肉躰の欲恐るべしヂェロミー且つ然り—設令ひ一時となすも—况んや常人をや）

ヂェロミーは斯の如き不實の行爲によりて自由を買ひたる？否其精神を賣りて身躰の自由をも買ふ能はざりしなり氏は再び牢獄に還され大に失望せり氏の牢獄は內外共に暗黑にして晝夜共になすべきなく唯橫臥するの一事あるのみ氏公衆に向つて演說の公許を請ふて止まざりしかは遂に一千四百十六年五月二十三日の朝たに評議會場に召喚せらる氏は嚴峻なる幽囚によりて健康大に衰へ身躰大に疲れしも此危機に於て大に活潑の行爲を示せり氏は今其改言を正當に防衛せんとする？否氏は自己に逆つて提起せられたる非難を一々防禦し歷史的に全ボヘミヤ運動を說明し一段は一段より明に評議會をして其行爲と事業とを知らしめたり、氏が講話は其躰裁宜しきを得しかば評議會員も疲勞粗野の人を圍み沈默して謹聽せり、氏は數時の間だ彼等の眼光を已れに引き、長久暗黑なる歷史の道路によりて彼等

を導き、火情の能辯に辭を嵌め、節々に苦き譏智と辛き諷語とを加へ彼等をして全身戰慄せしめしも彼等は尙ほ謹聽せり氏は防禦の第二日に於て不意に其進路を轉じ學問の廣濶なるは人を眩迷せしめ能辯の勢力あるは凡ての精神をして跳躍せしめ傳記的に殘忍猛惡の犧牲となりたる諸人の長目錄を述べ基督敎史ヂユウス敎史若しくは又た異基督敎史の書籍に記せられたる僧侶の猛惡詭計を暴露し次ぎてヂヨン、バプチストの牢死とステフエンソンの義死とを告け併せてソクラテスの鴆毒とセネカの湯沐とを記し最後に炎々たる光焰の中より天に昇りたる其師ハツスの事に及び彼に附するに歷史的記錄の最も高大なる賞讃を以てし彼れが百難に當りて屈せざりし純粹の性質に及び其死罪は大に惡むべく耻づべきものなるを論ぜりヂエロミーは是に於て聽衆の面色頗ぶる苦しむを見諸侯僧侶學者等凡ての人をして知らしむらく余の心に最も深く耻づる所の罪過は曩日余が悲しくも死罪を恐れて神聖なる諸人に對する罪過の宣告を正當となせしにあるなりと氏是に於て再び其改言を改言し英國のウヰツクリツフ若しくはボヘミヤのハツスに逆言せし一言一句を反言し又た己れに反照して曰く余は猛惡なる僧侶の最後の犧牲にあらざるべきなりと氏は終に無言なる裁判官に面ひ公平の裁判を賜はらんことを請ふの旨を發して演說を終れり

當日の聽衆にポツヂオ、ブラクシオリニなるものあり氏は古文學の復興に心を傾け、コンスタンス評議會公役の演說家なり氏は又た七人の法王に演說を筆記し評議會の處分に付き公平なる歷史を後世に殘したるの人なり氏は智力に於て大に秀でしも宗敎上の感情に於ては全く缺乏したるの人にして嘗てヂエロミーの信仰に同情を表せしとなかりき然ども其一友に送れる書面に於てヂエロミー當日の能辯を賞し大膽を讃し大に聽衆の感動を引けるの狀を記せり今其文を摘記せん

ヂエロミーは三百四十日の間だ暗室に幽せられ動植物氣の侵す所となりて苦痛に其日を送り見る能はず讀む能はず又た書く能はざりし余は日夜氏を刺擊せし心裡の怒りを記せざるべく又た此より結果する記憶力の減殺を述べざるべし然ども氏が廣く學者賢人を引照し來りて自己の持說を固めしは恰も平穩靜和の中に智力を研き永日の幽囚を切瑳に送りしが如く實に天晴の人物なりき氏の演說は愉快なりき明瞭なりき其聲調は能く四方に徹し中に一種動かすべからざるの威嚴を存じ其身振りは求めざるに能く人をし

て怒らしめ願はざるに能く人をして憐れましむるの力ありき氏の屹然として直立し恐れず撓まず大膽に死を蔑視せしのみならず却つて之を要求せしの狀は之を稱して第二のカトーと云ふも可ならん歟嗚呼！如何なる人物！後世忘るべからざるの人傑なる！

フローレンスの大學者ポッヂオ、ブラクシオリニの感情此の如く評議會員も亦た大に同憐の情に勵まされ之れが救助を耳語する者さへありき貴族及び僧正の心ある者は氏の牢獄に來り追從温言氏を慰藉し再び改言せしめんとせしも氏が以前の克己は既に精神の自由を妨け之を苦痛に陷ゐれたり豈又た不本意の言語を發し精靈をして再び自由を失はしめんやヂェロミー今は頑たると巖の如く少しも之に應ずるの氣色なし評議會是に於て新に會議を開き死罪を宣告しヂョン、ハッスと同一の刑場に於て焚殺の刑に處せり氏死に至る迄詩を誦し讃美歌を唱へて其聲を絶たざりき

公平の證人ポッキオ、ブラクシオリニは往きて「第二カトー」の刑場を視察し人に告げて曰くヂェロミーは確乎たる精神を以て火と苦悶とを受け其平和なるとソクラテスの鴆毒を飮みしよりも靜穩なりと氏は退きて都府に歸り其夢にだにも知らざりし信仰勢力の高大なるを賞讃せりエーニアス、シルヴ井アス（後に法王パイアス第二世となりし人）も亦た曰くハッス及びヂェロミーは不屈不撓の精神を以て死を受け火刑場に往くに饗燕に往くの思をなせりと以てポッヂオの言ば過大に失せざるを知るを得べきなり

ボヘミア人は大膽にハッスに黨せるものなり然るに今評議會は無法暴虐に其親愛なる二教師を焚殺せり國人の愈々益々羅馬教會を嫌惡するに至りしは又た已むべからざるなりボヘミア國人是に於て長文の記念書を認め一百以上の貴族一千以上の權家之れに調印し不法の處置を鳴らせり」ハッスの朋友にして氏を愛する者甚だ多く遂に刑場の土をボヘミアに運び、牌、畫、碑等を造りて記念となし氏の誕生日を以て祭日となし永く之を祝せり

余は今ボヘミア人が其二教師の忠死に激して義戰を興せし次第を記せざるべきも二人の火花は日耳曼半國を焼き悪情大に熱し悪行狂言至らざる所なく世は修羅の街と變せり然ども時未だ來らず宗教改革は來世紀を期せざるべからずボヘミア人は自由苦爭の後ち帝シヂスマンドを奉じて正統の主宰者と仰ぎしや否や帝と法王とは其大權を振ひ此忠愛なる不幸の土地を壓服せしか

ばハッス黨の權勢及び光榮漸く衰ふるに至れり蓋しシヂスマンド帝の權勢及び僧族の壓制は國民をしてハッス以前の哀れむべき情態に陷らしめしなり然らば則ちボヘミア全國一もハッスの勢力なき? 曰く否此後殆んど一百年ボヘミア及びモラヴヰアに於て膝をバァールに屈せず良心を羅馬に奉ぜざりし二百の敎會あるありしはハッスの餘勢にあらずして何ぞ實に十六世紀の大戰は虛平を終へ歐洲に宗敎自由の曉光を導きし所以のものにして皆ハッスの國人及び從士の力にあらざるはなきなり

（完了）

叢談

○實行的道德

行爲の善惡は眞に個人的のものにして之を決するは其行爲若しくは習慣果して行爲者の最高思想に合するや否を攻究するにあり汝若し某事を行はゞ汝ち自身に其行爲の正義なるを確認せざるべからず然らざれば此れ汝を不正に陷るゝものなり余若し某事を行はゞ余自ら其行爲の正義なるを確認せざるべからず然らざれば此れ余を不正に陷るゝものなり余輩は相互の良心を交換する能はず理想的の道德は眞に個人的なり故に又た絕對的なり換言せば理想なるものは無制限にして如何なる條件にも何如なる事情にも關係なきものなり道德の標準は常に同一にして人の才能の如何に關するものにあらざるなり思想に於ては行爲の如何なる進路をも考ふるを得べし唯余輩は其以て理想的正道となす所のものを取りて之を行爲と習慣とに應用すべきのみ之を行の難易は其問ふ所にあらざるなり衆論異議は其顧みる所にあらざるなり全世界擧つて我に抗論するも我は唯良心に訴へて正道となす所のものを行ふべきのみ

○ユニテリアン敎の意義廣濶なり

ユニテリアン敎は其意義廣濶にして正統派と一致する所あり科學と一致する所あり倫理講究の運動と一致する所あり無神論と一致する所あり精靈敎と一致する所あり自由宗敎と一致する所あり人靈敎と一致する所あり然ども決して此等の一に偏する者にあらざるなり
ユニテリアン敎徒は正統派と共に上帝に於て宗敎に於て崇拜に於て生命の正義なるとに於て信ずるものなるも唯此等に就きての解釋異なるのみユニテリアン敎徒は科學者と共に科學を以て眞理發見に於ける正統優等

の方法と信ずるものなりユニテリアン敎徒は倫理講究の諸會合と共に品性及び行爲に非常の尊敬を置くものなり惟ユ敎徒の基礎とし動力となす所のものは一層高大にして命令的なりと信ずるものなりユニテリアン敎徒は無神論者と共に宇宙の無窮に就きて深遠なる思想を有す惟前者は智識の限界を附するを以て倘ほ早しとなすものなりユニテリアン敎徒は物質論者と共に硬固の事實に尊敬を置き現世界の實在と諸勢力との要用なるを信じ併せて物質を以て善となし惡となさゞるものなりユニテリアン敎徒は精靈敎徒と共に生活は形躰の製造者にして眼耳等の普通感覺は宇宙の測定機にあらず天地に於ける萬物は人類の哲學に於て夢想する如きものにあらずと信ずるものなりユニテリアン敎徒は自由宗敎家と共に他の信仰を尊敬し萬國の宗敎は皆上帝を感じつゝありとなすものなりユニテリアン敎徒は人靈敎徒と共に人類を以て萬物の靈長と信じ人類をして地上に於て高等の生活をなさしめんことを勉むるものなりユニテリアン敎說の他敎と一致する所斯の如し然ども此等の一は未だ以てユニテリアン敎をなすに足らず此等の總てを未だ以てユニテリアン敎をなすに足らずユニテリアン敎は此等に加ふるにあるものを以てしたるものなり

ユニテリアン敎徒は信神敎徒なり人靈敎徒なり科學者なり倫理學者なり宗敎家なり又た崇拜に於て信ずるものなり

さればユニテリアン敎は宗敎的崇拜的敎會にして世界を保育しつゝある世界の凡ての他の團躰の特性を有し併せて自由思想を信じ天啓の進步的性質を信じ人類の生命に觸れる所の眞理は其何たるを問はず皆神聖なるを信じ凡ての精神は皆聖域に達すべき運命を有するものなるを信ぜり

白虎通曰、三綱者何謂也、謂君臣父子夫婦也、君爲臣綱、父爲子綱、夫爲妻綱

○上帝なる思想の進化

上帝なる思想の進化に三大階段あり

「第一」上帝なる思想は其最下級に於て人類的なり彼は强大なるの外全く吾人と異なるなく自然界に於ける彼の働きは直接にして其意志に法則なく嘗て人類に異なることなし

「第二」上帝なる思想は其二大階段に於ても倘ほ人類的たるを免れず然ども稍高倘にして帝王の如し彼は自

然界以上の玉坐にありて儼然端坐せり彼は直接に自然界に働くものにあらず物質力及び自然法に頼りて間接に其意志を行へり之を譬へば上帝は領地に住せざる地主の如く自然法及び自然力を制定し之を以て代理人となし一切領地を掌どらしめ時ありて自ら直接に新事を起し若しくは悪事を修正するのみ」此思想は十八世紀に於て其頂點に達し當時勢力ありし科學的思想＝宇宙の秩序法則は初めに於て制定せられ萬世不易なり有機物の形躰も固定して變ずるものにあらずとの思想＝より來りし所の結果なり若し然らずとなすも此と同意義なり上帝は外物の上に働き物質の爲めに制限せられたる大工なり大建築者なり彼は其初めに於て現時世人の見聞する如く萬物を建設し今日に至るも少許の變更あるとなしと此觀念は今日尚ほ宗教家多數の心を支配し勢力を有する鮮からず然ども此の如きは上帝を人類の愛以上に置くものなり上帝は世界の建築者なり眼界の構造者なり宇宙至る所に存ずる君主なり然ども彼は未だ慈父にあらざるなり余輩は彼の造物なり然ども未だ彼の兒子にあらざるなり

「第三」上帝なる思想進化の最上段は眞正の靈的神教なり上帝は内着普遍にして自然界の各處に住するものなり自然界は上帝の住居たる諸家屋の建物なり自然力は凡ての時に於て凡ての場所に於て直接に働き自然界の顯象を決する所の上帝の力の顯はれなり自然法は在らざる所なき神力の働きの形容にして不變なるものなり自然界の物躰は神知の物躰的せられたるものなり外形的せられたるものなり物質的せられたるものなり神の思想、神の意志に因りて物躰的せられたるものなり斯の如くして余輩は再び上帝直接の働きに復り貴的靈的神的の形躰に於て上帝を認識するものなり斯の如くして余輩は再び上帝に近接し余輩の愛に復るものなり斯の如くして余輩は上帝の中に生活し上帝の中に動き上帝の中にあるものなり斯の如くして萬物は上帝によりて成り萬物は上帝の中に成立し上帝なくして一物あるとなく一事あるとなきものなり此の意見は凡ての時代特に基督教時代の初世に於て學者の間に行はれたる説にして今日の學問によりて證明せられ進化の理法によりて説明せられ最早他の意見は其地位を保つ能はざるに至れり是れ宗教上基本的の變化なり然ども人或は云はん上帝と自然界との關係斯の如くならば凡神教と何ぞ異ならん是れ宗教の大基礎たる神の人品を破壊するものなり此見解の爲め上帝は不知不覺必然の理によ

りて働く所の自然界活原理の一種となるものなりと然ども余輩は人品に交換するに不知覺的勢力、必然的働力を以てするものにあらず余輩は人品に交換するに人品以上の非常なるあるものを以てするものなり然ども言語不完全にして心理的顯象を著はすにも外形的形像を用ゐざるべからざるの不便あり然ども人類の自覺的人品を上帝の本性に擬似せしは恐らくは今日吾人の知り得る若しくは考へ得る所の最高最貴なるものなるべし但し之を以て無窮の實物と比較する能はざるや明なり

朱子曰量レ力所レ至一約二其課程一而謹守レ之、字求二其訓一、句索二其旨一、未レ得二乎前一不三敢求二其後一、未レ通二乎此一則不三敢志二乎彼一、如レ是循レ序而漸進焉則、意定理明、而無二疎易凌躐之患一矣是不三惟讀レ書之法一、是乃操レ心之要、尤始學者之不レ可レ不レ知也、

◎ユニテリアン教義問答、
宗教的信仰の部

○其一、神、

第一問、神の觀念とは果して如何なるものなりや、

其答、現今文明世界に在て行はるゝ處の最も濶大なる意義に於て神とは無究常住有の義にして氣力、智識、慈悲圓滿にして宇宙の原因、開導者、管理者なり、

第二問、斯くの如き觀念は果して神の完全なる實證定義なりや、

其答、固より完全無缺の實證定義と云ふを得ざるものありと雖も是れ現今文明世界に於て夥多有識の學者が人生の上に於て實驗せし不可思議力の實事に就て想像し得る最上の定義なり、蓋し人智は有限なるものにしあれは此の無究常住の神に就て適當なる定義を下す事は決して望むへからざるものなり、

第三問、然は神の觀念は其實價値を有する者なりや、

其答、文明世界に在て此の觀念は實に人生を裨益する事少々に非ざるなり、即ち人類は此の高尙完全なる觀念を有するに依り、自ら完全高尙なる域に到達するの途を開くを得るを以てなり、且つ吾人は總へて何物をも知る能はずとせは止まん、されとも人若し或る事物を知る事を得ば此の神、即ち最も高尙最も完全にして無究常住なる實在者の觀念の如く確然なるものは非ざるべし、如何となれは吾人は何事に就て論し或は考ふるも須らく先つ普通の有の觀念を有せざるべからず、否らざれは是れと云ひ彼れと云ふの觀念を起す能はざれはなり、

神は人類思想中其最も高尚最も卓越なる觀念よりも遙かに高尚完全なる者にして是れ恰も原因たる者は少くも其結果と同等なるか或は之れに勝る事あるも劣るへからさるの謂にして、約言せは創造者は少くも受造物と同等なるか或は之れに超絶せさるへからさるものなり、而して將來吾人は神に關して完全なる智識を得るの曉には必らず大膽にも＝神の觀念は文明世界に於て行はるゝ人類の最も高尚なる理想に等しきもの＝たるを明言し得る者なり、

第四問、此の觀念は所謂神人同形神(アンスロポモーフイズム)と差異ありや、

其答、吾人の神は決して神人同形神即ち宏大なる人間樣の者に非さるなり、雖然或る意味に於ては又た神人同樣の理なきにしもあらず是れ必竟吾人の智識上最とも高尚なる品性は人間自己の本性なれはなり、故に吾人は神の屬性に就て猶ほ一層滿足にして眞實なる思想を得んと欲すれば之れを劣等なる無心物質の屬性に比して考ふるよりも遙かに之れを人間の本性を以て考ふるの勝れるに如かさるなり、＝勿論意思は勢力と等しく神聖なる被造物なり、精神も亦物質と等しく神の內に存在すれはなり＝雖然吾人は單だ此の意識は無意識よりも高尚なる者たる事を信する者なるか故に神を以て人類に比し意思及ひ意識なる言語を以て之れを論するは天然物を論するに勢力及ひ物質の言語を用ゆると毫も差異なきものなりと信す、

第五問、神の觀念には人品性を抱合せるものなりや、

其答、現今神の觀念には古代の觀念の如く人品性を具有するものに非らず、古代人智の發達未だ幼稚にして眞に無究常住有の意義を了解する能はさりし頃に於て此の神は恰も不可測なる存在者にして限りある形躰を以て人に顯はれ且つ人間と全く同樣の意思感情を有せしものゝ如くにして暴惡なる野蠻人の神は文弱柔和なる人種の神よりも野鄙なる形躰野蠻なる性質を有するか如し、現に宗敎思想の益々發達して一神を奉して世界の支配者とし尊崇するの時代に達するも猶ほ其神は宏大なる一王者に過きずして世界以外に居住せしものゝ如し、如此人品性は近世の神の觀念中に抱合せられさるものなり、雖然、自覺性唯一神としての性質は吾人の思想中より放拋せさるなり、如何となれは人類は被造物として猶ほ自覺性一箇人の性を有するに、神即ち之れか創造者の性質中少くも人間の自覺性一箇人性を有せさるへからさる

や明かなり、如何となれは神は無意識、無唯一にして同時に人間の意識及ひ一箇人品の原因たる事能はされはなり、神は吾人の創造者にして吾人は之れを無究常住の勢力と信す然らは實際神の實在中に幾許の唯一人品物を具有するものたるや恐くは吾人は之れを盡くす能はさるものなるへし然る時は神の實在内に吾人々類よりも正確なる唯一神性を具有する者たるや明瞭なり、

第六問、如何なる理由に原き神は無究常住なりと云ふを得るや、

其答、精巧なる望遠鏡を以て天空を窺ひ、至精なる顯微鏡を以て塵埃を驗するに何處に於ても唯一なる勢力、及ひ秩序を發見する事を得へし、吾人は之れに依て大は天空より小は塵埃の間にも生氣ある神の聖旨の行はるゝを認識するものなり、此の天空、此の塵埃は人をして物質界勢力は永久無限に存在せる者たるを感覺せしむるものにして之れに依て神の永遠無究に常住なる實證を得るに難からさるなり、夫れ神は無究の有なるか故に吾人は其容積に就て考へ年齡に就て思惟する事能はされは大なる者にも非す又小なるものにもあらす或は遠近なる者にも非さるなり、神は永遠絕對にして他物を以て之れに比し之れに較する能はさる者にして全く之れに超絕せるものなり、

第七問、又如何なる理由に依り神は永久常住なりと云ふを得るや、

其答、吾人の智識は如何に論及するも此の物質界の起原を知る事能はさるなり、又之れと同時に吾人は此の物質界の原因なる神は何時に於て顯はれし者なるやを論究する能はさるなり約言するに吾人は此の時即ち變化の起原及ひ終局を論する事能はさるものなれは是れと共に神即ち其時の原因たる者は何時に於て發現せしを論するは徒勞たるを免かれさるなり、且つ神は絕對常住なる有にしあれは時或は變化すへき時代の上に超絕し決して時代の爲めに變化を蒙る者に非す永久不變の者たらさるへからざるなり、故に神は無始無終にして何時も現在なる者なるを以て之れを有限人界の老幼を以て語るへからざるや萬々なり、永久とは即ち吾人の斯の如き絕對的常住者に奉する處の形容詞にして勿論時間の上に獨立せる者なり、

第八問、神は宇宙の原因、開導者、管理者なりとは如

何なる意義なりや、

其答、人は其生活中經驗する事物に就て常に其原因を知らんと欲し之れを探究する者なり、而して常に甲の原因は乙の結果となり乙の原因は必竟丙の結果に過ぎざるを發見し其局吾人は終に萬因の因にして全く因果の理法に依賴せさる大元を要求するものなり故に吾人の常に探究する此の宇宙の原因に向て一つの解釋を與ふるに當てや必らす茲に其原因を問ふへからさる一つの絕對常住の有より來れりと論せさるへからさる要用に迫れり、吾人は之れを神と尊稱し以て宇宙の元理原因とす、此の字義は即ち單に有の義にして、自ら己れの原因となり以て萬果を產出する者なり、

宗敎子曰、是れ人間智識の終局にして人類智識の起原なり

吾人は又之を開導者と稱す、如何となれば、吾人は何處に於ても常に勢力の活働し以て生々化育の道を幇助するを見る、此勢力も亦萬因の因の下に在らされは存在する事能はさるなり、人類又は諸動住物に於ける天然の氣力、思想、感情、意匠等は何れも神聖なる神の勢力、及ひ元氣の現象に外ならされば全く之れに依て開導せられたるものなり、

吾人は又之れを宇宙の管理者なりと信す、如何となれは總て有限なる存在物は此の無限常住者の管轄下にあれはなり、故に凡そ有限にして他物に依賴せさるへからさるものは盡く無限獨立なる常住者に依賴し之れか管轄部內にあらさるへからさるものなり、人若し自ら其有限にして他物に依賴せさるへからさるを知る時は此の結論は實に其人に向て至要至當の議論なるを知るに至るや明かなり、

第九問、神は唯一常住の有にして此の精神界並に物質界の宇宙も亦他の有なるや、

其答、否な決して然るものに非さるなり、然る時は未た以て絕對常住有なる意義を了解せさる者と云ふへし、如何となれは吾人の所謂神の觀念は全く神以外なる觀念を離れたる者なり、否らされは茲に二個の無究絕對有を見るに至らん、抑も絕對有とは全全の意にして其物以外の思想より斷然として超絕せしものなりされは其物以外に關係すへき物も無く全く絕對の絕對たる所以を明かにせるものなり、然りと雖も同時に其內部に向ての關係を有する者にして譬へは宇宙の萬有は盡く神なる有の內部に在て之れに依

賴し之れに管轄せらるゝものたるか如し、

第十問、然らは凡神論とは如何に區別し得るものなりや、

其答、凡神論に在ては此の宇宙即ち萬有の總計は神なれは此の萬有を離れて神あらす又神を離れて萬有あらさるなり故に萬有は盡く神なりとの論説なり、勿論神と萬有とは實に相關係して離るへからさるか如しと雖も吾人は原因と結果とを同一視せされは此の宇宙なる結果と神なる原因とは全く同一なりと論定せさるなり、或は物の一部分と其全躰と全く同一なりと論ぜさると一般なり、故に吾人は萬有の盡く神より出て之に依て生々化育の道を行ふものなりと信するも直ちに此の萬有は盡く神なりとの論斷を下ささるなり、吾人の現今最も適當なりと信認する神の觀念は即ち吾人人類の精靈の如し而して萬有は智、情、意の三識の如し、然る時は吾人の智識は决して意識と同一のものに非す情識も亦意識と同一のものなりと云ふを得さるなり且つ此の三識は吾人の精靈より獨立して存在するものに非れは全く之に依て起り之に依て支配さるゝものたるや明かなり、此の智、情、意の三識は單に吾人精靈の能力の一形狀に過きされば之を鎔合したりとて决して吾人の精靈を作爲する者に非さるや萬々明瞭なり、キリストの使徒パウロは神の觀念に就て云へるあり＝萬物は彼れより出で彼れに依り彼れに歸れはなり＝と盡せるの言と云ふべし、

凡神敎の宇宙は即ち神なりとの説と吾人か此の宇宙に於ける思想の神より發生し神の內に在て神に屬するものなりとの思想は天地の差あるものなりと雖も獨だ恐る吾人は此の有限なる記號を以て永遠、無究、常住有の純理に解説を與ふる往々不適當の判斷を下す事少からさるを、

第十一問、神の屬性とは何ぞや、

其答、吾人の神に歸する處の或る性質を云ふものにして吾人の意中に神の觀念を確認するの法を云ふ、而して此の法は吾人に無究なる神と此の物質界宇宙幷に吾人人類との關係を解釋するに最良の法なり、吾人は信す神の屬性は權力、智識、能力、全善、慈愛、恩惠及ひ神聖なりと、何となれは是れ等は人類の思想中最も高尙なる性質なれはなり、雖然吾人は自ら斯く信するの故を以て是れ必らす神の絶對屬性なりと云ふ事を得さるなり吾人は只だ有限なる人類の最も

高尙なる思想よりは神の屬性は遙かに高尙なりと信し彼の絶對なるか故に吾人有限の智識の尺度し盡くす能はさる者たるへしと信す、

第十二問、然らは神に向て如何なる稱號を附して可なるや、

其答、神に向て最も善良なる記號或は稱號とは之れを天父とし或は人類の父母として尊崇する時は吾人の意中實に云ふ可からさる温良の感を起こさしめ之れに依て吾人の産れ、之れに依て生活し、其階級に於ては天壤も只ならさるの差ありと雖も亦吾人は之れに類似せる事を信し從す自重の確信を厚ふし、且つ神は常に吾人の上に在て吾人を照臨し吾人の福利安寧を保護する者たる事を信するものなり、故に此の大原因に向て天父なる記號を附するは最も適當最も高尙なる意匠にして單に之れを物質的機械的の稱號勢力、氣力の名號を附し或は智識上の稱號に依て思想意思等の名目を附するに勝る事あるは萬々なり、如何となれは此の天父なる尊稱中に勢力、氣力、思想、意思を含有するのみならす之れに加ふるに倚ほ高尙なる生命、目的、及び愛の精神をも抱藏すれはなり、

第十三問、神は獨だ人類の觀念にのみ止る者に非して眞に實在せる者なりや、

其答、神の實在に就ては古來其説を爲せし者少しとせすと雖も未だ曾て之れに滿足なる證明を與へし者あらさるなり、蓋し世上神の實在のみ滿足なる證憑を得る能はさる者に非すして吾人各自の實在と雖も眞に完全なる證明を與ふる能はさる者なれはなり、雖然吾人は自覺性存在者なり、而して此の自覺力は吾人自らに關する終局且つ原始の智識なり故に人若し自己に就て論せんとするに當てや須らく先つ自覺力の斷定に依賴し其自己の實在を假定せさる可からさるや論を俟たさるなり、

飜て吾人が日常此の世界に在て得る處の經驗に依れは宇宙間到る處此の不可思議超絶の勢力の現象せさるはなし且つ吾人は自己幷に萬有の原因は如何なる者なりやとの質問を起こし其局終に吾人をして玆に絶對無限常住の有なる原因なかるへからさるの觀念を起さしむるに至るべし、人若し無限絶對常住の有なる智覺なき時は止まんされども此の觀念あるを如何せん是れ決して吾人の經驗或は智力に依て得たる者に非す其本源なる有より天然に賦與せられたる者なれはなり、如何となれは吾人の經驗吾人の智識は

僅かに限りあるものなれば此の限り無き神の觀念を其内より産出する事能はされはなり、是れ恰も原因は結果より大なるも小ならさるへからさるの謂にして有限の智識は原因となりて無限の結果即ち神の觀念を生せりとは論法に協はさる議論と云ふべし、故に吾人の智識は終に神の觀念をして空想に非ず全く神自らの實在せる眞證たる事を明示する者なり、

（以下次號）

朱子曰爲學之道莫レ先二於窮一レ理、窮理之要必在レ讀レ書、讀レ書之法莫レ貴二於循一レ序而致一レ精、而致精之本則又在レ於二居レ敬而持一レ志、
董仲舒曰、仁義禮知信、五常之道、王者所レ當二修飾一也、

雜　録

○軟文字の無効

曙光灩々、風鈴の聲喧しく、我か門を叩ひて、新聞を投ず、讀過讀了、一年三百六十日の間、手に新聞の觸れざること、甚稀なり、今の世の風俗、新聞大に行はれ、貴賤老若、又皆讀まざるなし、而して古來、未だ新聞によりて、起つあるの懦夫を聞かず、感奮激勵して、身を立て道を行ひたるものあるを見ず、これ果して何の故ぞや、彼れ、新聞記者が漫に時流に投ぜんとを謀り、一意專心、吾人の讀み易からんを欲して、流暢艶麗の筆を弄するの罪ならずんばあらず、早く成るものは破れ易し、易く讀み得るものは力に乏し、これ當然なり、請ふ見よ、當時流行の小說を、老若の婦女子、爭ふて之を讀み、春陽堂の金庫、爲に豐ならんとす、而してこの婦女子に就ひて、其讀みたる處を問ふに、彼の讀み難き八犬傳に比べて、其記臆に存するの甚少きを知るなり、請ふ更に見よ、學者講學の經驗を、雪窓に向ひ、螢光に對し、呻吟刻苦、字書に縋がりて、辛ふじて一卷を讀むの日と、熟學又熟學、目に難字無く、スラ〳〵と讀み得るの今と、其記臆に存して、我を刺衝するの力、夫れ孰か大なる、難字難問は、猶人躰の骨の如し、骨無くんば、クラゲのみ、人躰は立つを得べからず、今の世の文學、多くは、文何に勞し、詞辭に苦み、無智の少女が、猥に嬋娟を衒ふが如き、單に虛飾麗粧をこれ務む、矯世慨風の効に乏しきも、又所以無きに非ざるなり、噫、吾人硬骨文學の起るを待つや久し。

○俗解

博く衆を愛し、萬物を以て己が一躰の如くに感し、一視同仁これ即ち仁なり、我か邦むかしより、陰を賤しみ、陽を貴ひ、生を愛し、死を悪むを以て、神道の教とせるは是なり、この仁の萬物に應し、萬事に接すると瓦石よりは、草木をおしみ、草木よりは鳥獸を愛し鳥獸の爲に人を害はず他人を以て親類にかへす、親族を以て、父母にかへす、手足を以て頭目をふせき、口腹をいやしみ、心志を尊ひ、賤きより貴きを敬し、厚きを親しみて、薄きに及ぼし、一ッとして賤しみ捨る心なくそれ〴〵の程に服ふ所の名を禮といひ、萬事の裁斷、各宜しきに叶ひて、あたらさる事なき所の名を義といひ、是非黑白をわかちて、毛頭の違ひ、なき所の名を智といひ、よく父母に事ふる所の名を孝といひ、よく兄長に事ふる所の名を弟といふ、如此それぞれに應ずる所に從ひて名はかはるといへとも、皆一ッの德より出でざる事なしと、假令は身は一人の人なれども、親より見る時は子也、子より見れは親なり、君より見れは臣也、僕從より見れは君也、兄よりは弟、弟よりは兄といひて、身一ッにして、此五編の名をひとつに具足し居るが如し、と某書に見ゆ

○耶蘇教ノ日本ニ嚴禁セラレシハ人ノ知ル所左ノ伴天連追放文及ヒ宗門檀那請合之掟ハ以テ當時ノ摸樣ヲ推知スルノ一助トナルヘシ

◎伴天連追放文

乾爲レ父、坤爲レ母、人生ニ於其中間一、三才於レ是定矣、夫日本者、元是神國也、陰陽不測、名レ之謂レ神、聖之爲レ聖、靈之爲レ靈、誰不ニ尊崇一、況人之得レ生、悉陰陽之所レ感也、五體六塵、起居動靜、須臾不レ離レ神、神非レ求レ他、人々具足、箇々圓成、迺是神之體也、又稱ニ佛國一不レ無レ據、文云、惟神明應迹國而大日之本國矣、法華曰諸佛救世者、住ニ於大神通一、爲レ悅ニ衆生一故、現ニ無量神力一、此金口妙文、神與レ佛、其名異而、其趣一者、恰如レ合ニ符節一、上古緇素各蒙ニ神助一、航ニ大洋一而遠入ニ震旦一、求ニ佛家之法一、求ニ仁道之教一、孜々屹々而內外之典籍、負將來、後來之末學、師々相承、的々傳受、佛法之昌盛、超ニ越於異朝一、豈是非ニ佛法東漸一乎、爰吉利支丹之徒黨適來ニ於日本一、非ニ啻渡ニ商船一而通上レ貪財下、叨欲レ弘ニ邪法一、惑ニ正宗一、以改ニ域中之政號一、作ニ己有一、是大禍之萌也、不レ可レ有レ不レ制矣、日本者、神國佛國而、尊レ神敬レ佛、專ニ仁義之道一、匡ニ善惡法一、有ニ過犯之輩一、隨ニ其輕重一、行ニ墨劓剕宮大辟之五刑一、禮云、喪多而服五、罪多而刑五、有ニ罪之疑一者、乃以神爲

レ證、誓定ニ罪罰之條目一、犯不犯之區別、纖毫不レ差、五惡十惡之罪人者、是佛神三寳、人天大衆之所ニ棄捐一也、積惡之餘殃、難レ逃或刺罪、或炮烙、獲レ罪如レ是勸善懲惡之道也、欲レ制レ惡、惡易レ積、欲レ進レ善、善難レ保、豈不レ加ニ炳戒一乎、現世猶如レ是、後世冥道閻老之呵責、三世諸佛難レ救、歷代列祖不ニ奈何一可レ畏可レ畏、彼伴天連徒黨、皆反ニ件政令一嫌ニ疑神道一誹ニ謗正法一破レ義損レ善、見ニ有刑人一載欣、載奔、自拜自禮、以是爲ニ宗之本懷一非ニ邪法一何哉、實神敵佛敵也、急不レ禁、後世必有ニ國家之患一、殊司ニ號令一不レ制レ之、却蒙ニ天譴一矣、日本國之內、寸土寸地、無レ所レ措ニ手足一速掃ニ攘之一、强有ニ違命者一可レ刑ニ罰之、今幸受ニ天之詔命一、主ニ于日域一秉ニ國柄一者、有レ年ニ於玆一、外顯ニ五常之至德一、內歸ニ一代之藏敎一是故國豐民安、經曰、現世安穩、後生善處、孔夫子亦曰、身體髮膚受ニ于父母一不ニ敢毀傷一孝之始也、全ニ其身一、乃是敬神也早斥ニ彼邪法一彌昌ニ吾正法一旣雖レ及ニ澆季一、益神祠道佛法、紹隆之善政也、一天四海、宜ニ承知一莫ニ違失一矣、

慶長十八龍集癸丑臘月日

●宗門檀那請合之掟

掟

一　切支丹の法は、死を不レ顧、入レ火も不レ燒、入レ水も不レ溺身より血を出して、死を成すを、レ成佛と立る故に、天下の法度嚴密なり、依レ之死を輕ふする者、可レ遂ニ吟味一事

一　切支丹に元付ものは、闥單國より、毎日金七厘を與へ、天下を切支丹に成べし、神國を妨る邪法なり、此宗に元付ものは釋迦の法を不レ用ゆへ、檀那寺の檀役を妨け、佛法の建立を嫌ふ、仍レ之可レ遂ニ吟味一事

一　頭檀那なりとも、其宗門の祖師忌、佛忌、盆、彼岸、先祖の命日、絕て參詣不仕もの判形を引、宗旨役所に斷、急度可レ遂ニ吟味一事

一　切支丹不受不施のものは、先祖の年忌僧の弔を不レ請、當日宗門寺に一通り志を述、內證にて俗人一類打寄、弔僧の來る時は、不興にして不レ用、仍而可レ遂ニ吟味一事

一　檀那役を不レ勤、然も我意に任せて、宗門請合之住僧人を不レ用宗門寺の用事、身上相應に不レ勤、內心邪法を抱きたるを、不受不施とたつると、可ニ相心得一事

一　不受不施の法は、何にても、宗門寺より申事を不レ請、其宗門の、祖師、本尊、寺用に不レ施、將又他

宗の物を不㆑受、是邪法なり、人間は、天の恩を受て、地に施し、親の恩を受て、子に施し、佛の恩をうけて僧に施す是正法なり、仍㆑之可㆑遂㆓吟味㆒事

一　切支丹、悲田宗、不受不施、三宗ともに一派也、彼尊む處の本尊は、牛頭、切支丹、丁頭佛といふ、ゆゑに丁頭大うすと名乘なり、此佛を頼み奉り、鏡を見れは、佛面と見え、宗旨を轉て犬と見ゆる、是邪法の鏡なり、一度此鏡を見るもの深く牛頭、切支丹、丁頭佛を信仰し、日本を魔國に成す、雖㆑然宗門吟味の神國故に、一通り宗門寺へ元付、今日之人交はりし、內心不受不施にて宗門寺に不㆓出入㆒、仍㆑之可㆑遂㆓吟味㆒事

一　親代々より、宗門に元付、八宗九宗の內、何宗に紛れ無㆑之とも、其子如何成、勸めにより、心底邪法に、組し居可申も不㆑知、宗門寺より、可㆑遂㆓吟味㆒事

一　佛法を勸め、談義講釋をなして、參詣致させ、檀那役を以て、夫々の寺法用、修理建立勸さすべし、邪法邪宗は、寺の事一切をす、世間交り一通りにて內心佛法を破り僧の勸めを不㆑用仍㆑之可㆑遂㆓吟味㆒事

一　死後死骸、頭に剃刀を與へ戒名授け申事、是は宗門之住僧、死相を見屆け、邪宗にて無㆑之段慥に合點之上、可㆑致㆓引導㆒なり、能々可㆑遂㆓吟味㆒事

一　宗門寺を差置、外寺の僧を頼吊ひ、其宗門寺の住持人を退け申事、別して可㆑致㆓詮議㆒、邪宗邪法、可㆑遂㆓吟味㆒事

一　天下一統、正法に紛れ無㆑之者には、判形を加へ、宗旨請合可申候、武士は其寺の請帳に印證を加へ差上、其外血判難㆑成ものは、請人請合を以て證文可㆓差出㆒事

一　先祖の佛事を、他寺へ致㆓持參㆒、法事勸め申事、堅く禁制、雖㆑然他國他住にて、死たるものは格別の事、且持佛堂、佛像、畫像、備へ物に至るまて、能々見屆け可申、且又毎年盆廻りの儀、其宗門の佛檀吟味として、相廻り可申事

一　相果て候時は、一切宗門寺の指圖を請、取行ひ可申事

一　天下の敵、萬民の怨は、切支丹、不受不施、非田宗なり、馬轉連の類族、相果て候節は、寺社役所へ相斷り、檢使を請て、宗門寺の住持吊ひ可㆑申事、役所へ不㆑斷吊ひ申時は、其僧の越度、能々可㆑致㆓吟味㆒事、將又横樣無躰に、檀那役等其もの分限、不相應

の儀は宗門寺より、可レ有ニ用捨一事、信心をもつて、佛法を尊み、王法を敬ふものは、正法なり

右十ヶ條之趣、一ッも於ニ相背一は、上は　梵天帝釋、四大天王、五道之冥官、　日本伊勢大明神、其外　氏神、日本六十餘州之神明之可レ蒙ニ神罰一もの也

慶長十八年癸丑十一月日　　奉　行

天下之諸寺院、宗門請合之面々、此内一箇條も、相背き候而は、越度可レ被ニ　仰付一能々可レ被ニ相守一也

諸宗役寺血判

○黒住教の海外布教

先年朝鮮國へ渡りて彼國土人情を視察し神道布教に力を盡せし神道黒住派の中片山秀實氏は同國人正三品安駉壽氏を初め同國人の信徒も追々增加したれば此際京城に一大教會所を新築せんとの計畫を起し吾居留人民も大に贊成し土地金圓を寄附するもの多きより氏は一と先歸朝して周ねく朝野の協贊を得んとて昨年上京し皇族、華族より有志の門を叩きて布教の實況を具陳せしに是亦大に贊成を得故祭主宮朝彥親王殿下の如きは御感不淺種々の賜物あり其他貴族、紳士百餘名の贊助を受け殊に舊臘二十九日有栖川大將宮殿下に伺候して言上に及びしに宮にも御喜びありて即時に玉串料若干を賜はり尋で備前長船祐包の太刀を御寄附在らせられたれば氏は此恩賜に感佩して此事を京城なる信徒に電報し此御劍を以て永く京城教會所鎭護の神器となさんとて不日自ら護衛携へて同國に赴き倘此機會を以て益布教の境域を擴め露領浦潮斯德等へも渡航せんとて目下頻りに計畫中なりと云ふ

（每日新聞）

○神德社教會

同教會は舊臘十二月中旬頃茨城縣豐田郡豐加美村なる本橋宗八氏の創立に係るものなるが同縣下には既に數百名の信徒ありて漸々擴張の爲各事務所長添役等を各地へ派遣して專ら布教に從事せしむる趣にて昨今府下に於て時々見受くる結髮黒裝の連中は同教會の事務所長添役等が布教の爲に上京せしものゝ由又聞く處によれば同教會制規の符印は竹の杖白風呂敷結髮（勿論是には趣旨ある由）の異風なるが其の教會の社則には第一四足を食することを止む第二人と物言爭ふ事を止む第三惡しき行ひなかるべし等の各條にて若し右の條規に背きて赤法被を着たる者は一代名義を替へざる内は再び同宗たらんとを願ふも一切指令せず尤も魚と玉子は兇すべき事とある由近頃珍しき教會と云ふべし

（讀賣新聞）

○結婚式を神前に擧ぐるの議

石川縣下の神官諸氏が日本臣民の結婚式を神前に擧行するとにせんとの議を主唱し檄を全國の神官に飛ばしたる事は同地よりの電報に依りて既に記載せしが今其の主意なりと云ふを聞くに我が四千萬の同胞は天神降臨の末裔なれば結婚の如き大禮は神靈の支配を受けざるべからず我國開闢の初め諾册の二尊天神の神勅に從ひ合巹の契を結び玉ひしより後世臣民の結婚するもの總て之を神明に誓ひ其の大禮を神社に於て執行せしは上古の歷史上徵すべき所にして今猶其の遺風の存するものあり結婚を神明に誓ふは既に我國上古の典例なるのみならず泰西の文明各國に於ても結婚には必らず天帝に誓ひ僧侶の公證を得るを要する制ありと云ふ去れば結婚を神明に誓ふは遠く之を神代に徵するも謬らず廣く之を海外に千むるも悖らず是れ我國臣民たるべきもの丶宜しく古に反り彼に則るべきの一大美風なり然るに近世風俗壞亂人情澆薄男女の醜行日一日より甚しきものあるは實に痛嘆の至りにして之を矯正するは吾々敎導職の任なれば此際鋭意其の衝に當り輿論を喚起し貴衆兩院の協賛を得民法人事篇中の結婚の式を神前に擧行するの明文を揭げ上は法を以て之を命令し下は敎を以て之を布說せんと欲す云々と云ふに在りて全國神官の一致協賛を得たる上は帝國議會に向て其の請願書を提出する筈なりと云ふ

（每日新聞）

○他宗又は異敎者の埋葬を拒絕するも妨なし

明治十七年內務省達乙第四十號第三條に墓地は種族宗旨を別たず其町村に於て死したる者は何人にても之を葬ることを得其從前別段の習慣あるものは此限にあらずとあるより是迄寺院と町村人民との間に紛議の起りたること珍らしからざりしが右に付府下本鄕駒込眞淨寺住職寺田福壽氏は昨年十二月十八日園田警視總監に宛て左の伺書を差出したるに去る五日指令第八號を以て墓地埋葬の件伺の通との指令を得たるよし、

明治十七年內務省達乙第四十號第三條に墓地は種族宗旨を別たず某町村に於て死したる者は何人にても之を葬ることを得其從前別段の習慣あるものは此限にあらずと有之候へば拙寺住職の管理する元寺院境內墓地の如き從來拙寺擅家の外他宗派異敎者等を葬らざる別段の習慣有之候墓地はたとひ該地使用者の子孫等より其習慣に適せさる他宗派幷に異敎者を葬らるるとして他共葬者の感觸を害し終に爭論を喚起致候樣の恐れあるときは管理者に於て之を拒絕し得べ

き儀と存候右樣心得候て宜敷御座候哉爲念奉伺置候
也

府下本郷區駒込蓬萊町二十三番地
眞淨寺住職同二十四番地墓地管理者

○教育勅語

回顧すれば我　叡聖文武皇帝陛下の教育に關する勅語を下し賜ひしは實に明治二十三年十月三十日なりき爾來我教育社會は孜々亀々其効を致さんことを勉めり獨り怪しむ耶蘇教徒は聞きて聞かざるまねし讀みて讀まざるまねし或は第一高等中學某氏の擧動となり或は熊本英語學校教員解雇の沙汰となり世人をして轉た深意のある所を疑はしむるに至れり迷信教徒の中或は耶蘇の謂ひし「地に泰平を出さん爲めに我來れりと意ふ勿れ泰平を出さんとにあらず刄を出さん爲めに來れり夫れ我が來るは人を其父に背かせ女を其母に背かせ媳を其姑に背かせんが爲なり人の敵は其家のものなるべし我よりも父母を愛むものは我に協はざるものなり我よりも子女を愛むものは我に協はざるものなりその十字架を取りて我に從はざるものも我に協はざるものなり」との言を楯とし教育勅語と基督教主義と全く相反するや將た又た外面相反するが如きも其内面精髓に至りては同一なるにあらざるや否を講究せず漫然妄信の毒刄を振ひ國家を傷けんとする者なきにあらず豈誤れるの甚しき者にあらずや雜錄子嘗て勅語の要義なるものを公にし中に謂へるあり

噫余輩五尺の短身能く日本國人たるの榮譽を有し東海の一島に銷睡するを得る所以のものは誰れの恩ぞ亞弗利加にネグロあり亞米利加にインヂヤンあり彼等も亦た余輩と同じく人類たるの資格を有し天地の間に生を有するにあらずや然るに余輩は東洋の天地に鷹揚して日出の國民なりと誇稱するも彼等は境土日に削られ山を見て隱れ林を見て逃れ人口日に減じ歐米人を見ると蛇蝎の如く鬼神の如くなるにあらずや余輩と彼等とを比較し來らば其幸不幸果して如何んぞや而して是れ果して誰れの賜ぞや日本帝國の賜にあらずや我が連綿たる皇家至仁の心を以て下民を御し玉ひし所以にあらずや我が祖先愛國の念を以て君に事へ國に盡せし所以にあらずや然らば則ち余輩臣民たるものは一身を以て此帝國に奉じ忠義の心魂と勇猛の義膽とを以て平素事なきの日は智力と百般の事業とを以て公益を廣め國民を利し世務を開きて國光を擧げ一旦緩急事あるに當りては七寸の草鞋を

足にし銃劍を提げ敵軍の衝に當り以て天壤無窮の皇國と皇室とを擁護すべし是豈余輩の義務にあらずや責任にあらずや其れ然り平素學を修めて道を講じ以て智識を開き業を習ひて職を求め衣食飽實し以て德器を成就するにあらずんば安んぞ臣民たるの本分を盡すを得ん余輩聖勅を奉讀し其言の深淵にして意義の高遠なるを嘆美せずんばあらず余輩にして果して聖意のある所を明にし萬分の一だに之れを實行するを得ば蓋し陛下忠良の臣民たるに背かず祖先の子孫たるを得べし余輩夙夜に勵精せざる可けんや

余竊に以爲く以上の聖勅は日本帝國建國以來自然に發達したる國民の氣風と義務とを明にしたるものにして明治更革の際稍其光輝を失ふの觀あるを以て至仁なる　聖天子特に之れを發揮し給ひしのみ　夫道一而已矣、道之在二天下一也猶二日月一也、日月者天下之日月也、非二一國所一レ私有一也、道亦然父子君臣夫婦無二國無一レ之、而慈孝忠義有レ別不レ雜皆在二於自然一非レ有レ待二於人作一也とは賴襄子成が論ぜし所なり彼れ四方閉鎖の世に生れ進化學の何物たるを知らざるなり社會學の何物たるを知らざるなり然るに既に明かに日本の道德は日本に發達したるものにして外人の手を以て成りしものにあらざるを明かにせり何ぞ其眼光の銳なるや然るに十九世紀の今日に生れ四海開放の世に處し頑固論者は傲然として曰く日本の道德は儒學と佛敎にあらざれば維持する能はず聖勅に依りて之れを考ふるも日本道德の方針は儒敎にあり佛敎にあり明治の照代に生れ儒を學び佛を信ぜざるものは違勅の罪逃るべからずと噫是れ何の言ぞや賴子成又云へるあり今天下之仁義也、儒者指而私レ之曰、是漢之道也、有下稱二國學一者上斥而外レ之曰、是非二我之道一也、皆非也、道豈有二彼此一哉レ之以レ文、彼較舊レ於レ我、彼來而貢レ之、我取而用レ之、與二釀治織縫之工一何異と何ぞ其胸襟の大なるや我に自然的の道德あり外人の道德にして此道に違ふなくんば此れ吾れと其軌轍を一にするのみ之れを我の道德と稱するも可なり彼の道德と稱するも可なり耶蘇敎にして我の道德に符合するあらば之を取る何ぞ妨げん儒學にして我の道德に反するあらば之を捨つる何かあらん之を要するに我に一定の標準あり外國の敎義にして之に背くなくんば何ぞ之を嫌惡するを用ひん余が曩に孝友和の三者を釋するに當り孔孟の言を借らず余の自言を用ひず西人の言を以て之れを釋したるは國家異な

愛國家の精神を發揚するの進路を取らんとを希望して已まざるなり

〇狩野亨知著支那教學史略

世界に不可思議なるもの多し而して支那其一に居る埃土の如きバビロンの如き希臘の如き印度の如き羅馬の如きメキシコの如き建國の舊きと文物の進歩とに至りては支那と相伯仲せり然ども能く其文明を保持し能く其位置を固守して弱敵來らば之を足下に踏み强敵來るも能く彼をして我が文明に漸浸せしめ堯舜を祖とし孔孟を先とし朝を代ゆる二十餘、年を歷る四千餘其間治亂興癈なきにあらざるも能く東洋に屹立し中華の名稱を失はず其版圖に至りても多く古代と異ならず四億の人民を御するに立君獨裁政治を以てし文に長じ武に長じ能く列國競爭の波上に立つの能力を有せり此れ豈不可思議の人民ならずや」此舊國に生長發達せし教學の有様如何ん蓋し教學は之を國民の生命と稱ずるも不可なきものなれば之に依りて人民の智能を知り之に賴りて文明の性質を曉るを得べきものなり」されば世人支那の教學を學ばんと欲するもの少からず然ども其書浩瀚專門の士深く心を玆に留むるものにあらざるよりは其の要領を得る能はず徒に有爲の士をして茫洋の嘆を

りと雖も習慣異なりと雖も人倫の大義に至りては其進化に自然の順序ありて決して亂るべからず道理力の應用に至りても文明の程度同一なるものには自ら同一の理法あることを知らしめんが爲なり此の如く孔孟の解く所も西哲の解く所も東西符節を合はすが如しとなさば賴氏が道一而已矣、非二一國所二私-有一也、と云ひしは豈非ならんや然らば即ち聖意のある所豈儒道にあらん豈佛教にあらん耶蘇教にあらんマホメットにあらん唯我國自然に化成したる愛國愛君愛民の大道を文字に顯はし玉ひしのみ是れ天下の公道にして決して一宗一家に偏する家言にあらざるなり過去幾百の道德も聖勅の中に存じ現今幾千の教義も聖勅の中に存じ未來幾萬の宗教も聖勅の中に存ず何ぞモルモンの不可を云はん何ぞバラモンの不理を鳴さん其要我が自然的の道德に背かざるや否を講究するにあるのみ

余輩は佛教徒には尊皇奉佛大同團あり、耶蘇教徒には日本的基督教徒あるを以て、必ずしも深く以て憂となさゞるなり、然ども衆口金を鑠すの古言あれば迷信教徒の妄言未だ以て意とするに足らずと云ふべからず、余輩は基督教徒が敬神愛人を主張すると同時に敬勅語

懷かしむ寧ろ之を支那文學の缺點と稱ずるも可ならんか」狩野氏の此著は實に能く此缺點を補へるものと云ふべし特に氏の宗派心なく皓々たる明月の心を以て歴史的に說明し其總論及び敎學論に於て儒敎の倘ほ發達し得べく支那文明の進歩せざりし所以は儒敎其全權を握り競爭者の跡を絕ちしに因ると痛論せられたるは卓見と云ふべし」氏の文章は平易を主とし腐儒者流の筆になれる文字の如く拮屈聱牙の形跡あるなし故に其文漢文なりと雖ども少しく文字あるものは容易に之を理解するを得べし」蓋し氏は其名によりて明言せられ其實學主義によりて吐露せらるゝ如く王陽明學派の人物にして敎學の主義自ら淵源するものあるに似たり

○神學博士スピンデル著 牧師三並良譯　基督敎約說

本書は基督敎に對する自由基督敎徒の解釋と位置を明にせるものなり上卷敎理約說に於ては第一篇基督敎の原書第二篇基督論第三篇基督敎の發達第四篇神論第五篇人間論に分ちて再び之を細別せり下卷倫理略說に於ては第一篇自己に對するの義務第二篇世に對するの義務第三篇信仰を强むる特別の方法となし明確簡約に論究せらる人若し公平無私の心を以て之を咀嚼し深く之を味はゞ基督敎の意義瞭として日を睹るが如くならん基督敎を知らざる者は之によりて敎義の大要を了得すべく舊新約書を講究するものは之によりて其方向を迷ふの恐れなかるべし又其譯文の流暢にして澁滯なく簡明にして俗に流れざるは此書の特色と云ふべき歟此書恐らくは基督敎徒の山上の城とならん此書恐らくは基督敎義の鹽の味とならん唯余をして備はるを求めしめは神論に於て凡神論との關係を說く詳かならず倫理略說に於て基督敎主義と國家主義との關係を說かざるを遺憾となすのみ宗敎子スピンデル博士を知らず又た三並牧師を知らず然ども獨逸はスターッウヰッセンシヤフトの鄕土なり國民主義の本國なり基督敎主義を以て國家主義を說明する精妙の倫理說なからざらんや

彙報

加賀町第一ゆにてりあん協會　は今後毎日曜に有名なる宗敎家學者等を聘し午前十時より講義を開かるゝと云ふ

神田ゆにてりあん講義所　は目下天然痘流行の爲め休講中なるも遠からざる中に開會せらるゝとの事

麴町ゆにてりあん講義所　は舊の如しと云ふ

高田太郎氏は日本橋區有志家の懇請により新に同區內に講義所を開かるゝと云ふ

論林

一身を眞理に奉ずべし

ウ井リアム、シールド、リスカム

ベーコンは其論文眞理に於て―ベーコンの論文は概して上乘のものなり然ども其眞理は大に瑕瑾あるが如し―謂へるあり曰く「人の虚言を愛するは單に眞理發見の途上に横はる困難あるが爲めのみにあらず將た又た發見の後に人の思想を過勞せしむるが爲めのみにあらず實は人類其れ自身に虚言を愛するの本性を具有するによるのみ近世希臘の一學派深く之を講究し終に虚言を以て快樂となす所の詩人にあらずして將た又た虚言を以て利益となす所の商人にあらずして巧に虚言を搆造する所以のものは虚言其者を愛するが爲めに外ならざるべしとの決論を得たり然ども余は（ベーコン）此眞理を以て無色淸白なる日光の如く假面を表せず假裝を顯はさず浮世の凱陳を示さず其美麗なるとに於ても其甘美なるとに於ても之を夜間の燭光に比して其半ばにだに及ばざるものと斷論する能はず眞理は恐らくは日中に於て最好色を呈する所の眞珠の價値あるべきも然も燭火に照らして最好色を呈する所の金剛石若しくは夜光の珠の性質なかるべし夫れ虚言の混入は常に快樂を添ふるものなり」と思ふに害惡を目的として害惡を樂しみ虚言を目的として虚言を樂しむ如き卑汚なる人心も或は之を想像中に畫くを得べきや明なり然ども之を以て人類の特質となすに至りては狂者にあらずして誰れか之を首肯するものあらん」夫れ均齊平調の人心にして事實の知識を好まず却つて誤謬を愛するとは信ずべからざるの説なり蓋し人類はある目的ありて之を誘引するにあらざればある動力ありて平常普通の行路を妨ぐるにあらざれば概して其言語に誠實なるの稟性を有するものなり實に人類の過半をして通常自己の言語に誠實ならざらしめば又た概して他人を信ぜざらしめば虚言者自身も決して他人に信ぜらるべき機會な

の文明國を去りて亞弗利加のホッテントット族太平洋南島のダイヤクス族若しくは亞米利加の赤印度族等の如き宗教も發達せず倫理學者も起らざりし野蠻人種の中に往くも眞理の標準は高尚にして嘗て世界大教師の道德を遵奉するの諸國民と差違なきを見るべし此等の事實によりて之を推究せば人の眞實なる知識を尊み眞實なる言語を敬ふの傾向は人類の特性に外ならざるの結論を得べく時に特性の虧缺を生ずる所以のものは必竟自己に利益快樂名譽等を得んが爲めに德性を棄て個人たるの性質を崩壞せしに因るのみ古賢云へるあり「眞理は大なり勢力を制すべし」と其意蓋し人は眞理を愛し之を闡究するの念百物の上に出づるを以て誤謬は終に眞實の制する所となり僻説は終に眞理の服する所となり邪惡は終に正義の勝つ所となるの謂ひならん

眞理探究の念は常に最も高尚なる人類に於て强健なりきソロアスターに於ても孔夫子に於ても孟子に於ても老子に於ても釋迦に於てもソクラテスに於ても耶蘇に於ても其他幾多の熱心此業に從ひし達士に於ても皆然きの理なり故にベーコンは其「復讐」なる論文に於て一層廣濶充分に其理を陳述して曰く「然らば則ち如何なる人も惡を目的として惡をなすものなし唯惡をなす所以のものは之によりて自己に利益快樂名譽等を博せんが爲めなり」と

斯の如く殆んど普及的の傾向を有する者は人類天賦の稟性と云ふべき？此れ人心其れ自身の組織より生長せしものなる？此れ事物の眞性を基礎とせるものなる？將た又た單に教育及び道德修養の結果なる？文明上進の人民にして後者の意見を取るもの少からず基督教徒は之を以て基督教の勢力に歸しヘブリユウ人は之を以て猶太教の倫理的教訓に歸し佛教家は之を以て釋迦の指揮に歸し孔子教徒は之を以て孔子及び孟子の教義に歸し婆羅門教徒は之を以て婆羅門教の道德法典に歸し道教徒は之を以て老子の命令に歸せり然とも此等教訓の廣く世界に成立する所以は何故なる　思ふに此の如く習慣の普及なる所以は人類普及的の稟性凝結し宗教的倫理的系統となり社會に現はれしのみ余輩此等

らざるはなかりき世上皆な富を逐ひ權力を慕ひ熱心に森林を開き平野を耕し舟船を造り鑛山を堀り商賣工業に從事し中には大軍を指揮して國民を征服し王統政治を建設し寵愛を貪りて他を擠排し勢位の爲めに名譽を犧牲にするの時に當り眞理討究者は天に向つて其隱秘を明にせんとを求め歷史を討究して人類社會の現象を詳にし人身の精靈を闡明し宇宙の法則及び秘密を搜索し生命の實在を認識し人靈の本質及び之れが世界と造物者に關係する所以を知らんとを勉め或は寒冷の中に或は熱暑の中に或は健康の中に或は疾病の中に或は富貴の中に或は貧困の中に撓まず屈せず其業に從事せりされば太陽は高く天路にありて日中之を觀察し諸星は高く天際より幾億の眼目を以て夜間之を洞視し晝に於ゐて彼等の勞働怠りなく夜半に至るも嘗て止む時なく曉星來りて數々彼等が熱心に不朽不死人類惟一の眞實を求むるに汲々たるを視察せり噫此等聖賢の辛苦困難果して如何んぞや此等の諸人を以て富を貪り名聲を爭ひ權力を求むるに汲々たるの徒と比較し來らば其懸隔果して如何んぞや請ふ孔子とジンギスカンとを列記せよソクラテスと歷山大王とを列記せよカントとナポレヲンとを列記せよミルとロスチヤイルドとを列記せよ其人心に與ふる感情果して如何ん征服者と賢人との差違は啻に天地の差違のみにあらざるなり眞理探求者と金錢探求者との懸隔は啻に月鼈の懸隔のみにあらざるなり

眞理探究者は寛大の精神を以て僻說を撤去し悅んで新得の事實を採用すべし人或は前說を確定せんが爲めに探究する者あり反對者を攻擊せんが爲めに探究する者あり其妄想を喜ばしめんが爲めに探究する者あり虛望と高慢とを滿足せしめんが爲めに探究する者あり然ども其初めに於て既に此の如きの希望を有するは是れ一個の僻說を固守する者なれば假令ひ其目的とする所を成就し得るとなすも眞理の爲めに盡す可き所甚だ僅少なるを免れず此れ古來學者宗敎家の多く陷ゐりし弊害にして此れが爲めに火刑の苦しみを受けし諸人あり此れが爲めに慘虐なる戰鬪に類みし諸國あり此れが爲め

に殘忍なる最期を遂げし社會あり而して其目的とする所のものを問へば唯後世の學術によりて全く邪惡となせし所の僻說を維持せんが爲めに過ぎざりしなり夫れ然り眞理探求者は須らく公明の心を以て謙遜の心を以て事に當り我が前說も時に之を拋棄し之に代ふるに他說を以てするの決心を有し併せて人たるものは皆誤謬に陷ゐり易きものなるを記臆し他人の光明を借りて自己の智識を增大するに躊躇すべからずプレトーの「チヤーミデス」中に此高貴なる精神あるを見る此文に於てはソクラテス主人公となり嘗て同氏がクリシアスと談話せし節酒論を掲載せるなり談話漸く進みソクラテス曰く

余は今如何なるものが智慧ならざる？如何なるものが智慧にして科學ならざる　を知らんと欲す

クリシアス曰く

ソクラテス！此れ全く古人の陷ゐりし誤謬なり汝は如何なる點に於て智慧と科學と異なるかを問ひしにあらずや然るに今汝は前問を取りて二者相類似する者の如く論ずるは抑も非なり何となれば全ての科學は他の事物に就きて論究するも科學其者に就きてなす所なし之に反して智慧は諸科學の科學にして又た其れ自身の科學なればなり余は信ず是れ汝の熟知する所然るに今如上の疑問を提起し來るは必竟議論の正路を去りて余を難せんとする者なり是れ汝の戒むる所にあらずや

ソクラテス曰く

假令ひ余にして汝を難するとなすも如何ん余は不知不覺の中に自ら知らざるものを知るが如く妄想するにあらざるかを恐れ身躬ら之を試驗するの外決して他意なきなり此の時に當り余は實に自己の爲めに疑問を提起するものなり然も又た幾何か朋友の利益となるものなくんばあらず何となれば事物眞實の發見は全ての人類に普及の善を與ふべければなり

クリシアス曰く

然り實に然りソクラテス！

ソクラテス曰く

然らば則ち汝の心情を柔げ余の疑問に答辯を附せよ此れが爲めにクリシアス難せらるゝもソクラテス難せらるゝも決して問ふ所にあらず唯一心を論議に注ぎ此れよりして如何なる結論の來るかを見よ

是れ誠實なる探究者の眞精神なり此精神をして世界に普及ならしめば眞實の進歩は如何に迅速なるべき！如何に速かに智識の黃金時代に到着すべき！然とも悲ゐ哉此黃金時代今は未來の暗黑中に蔽はれて見るべからざる！

眞理一たび發せられば之を護るに熱心なる宜しく之を發見せし時の如くなるべし見よ人は其富を保たんが爲めに倉庫を造り之を防衛せんが爲めに裁判所を設立せるにあらずや國君は其權力を維持せんが爲めに番卒軍兵を以て己を圍み堡壘海軍を以て己を守るにあらずや貴族は非常の注意を以て其特權特許を保護するにあらずや然るに其價値に於て天下無比なる眞理に至りては之を防衛するの軍兵なく之を守護するの倉庫なく其權利を保持するの法廷なし眞理の住家は獨り人心にあり眞理の法廷は獨り人類の判斷にあり眞理の防衛は獨り智識の平和なる言語にあり—而して此言語には其要求に於て實に之を大砲よりも强大なるある者なり—然り故に其心情は眞理を愛し之を歡待するものなるを要す其判斷は眞理を褒賞するものなるを要す其唇頭は眞理を談ずるに恐れず撓まず眞理の敎訓に反覆せざるものなるを要す夫れ强敵四圍の中に眞理の能く其生命を保持する所以のものは眞理の眞價を明知し人類扶助の道は唯眞理の仁和なる領地を擴張し人をして之に賴らしむるの外なきを確認し艱苦を辭せず耻辱を甘んじ死を輕んじ眞理の燭光をして世界の面前に明かならしめしもの少からざりしによるなりミルトン曰く「自由公開の戰鬪に於て眞理の惡地に陷ゐりしを知るものある？」と然とも余は謂はんとす「如何なる戰鬪に於ても眞理の永遠に惡地に陷ゐりしを知る者ある？」と見よ一敗地に塗れたるの觀ある眞理も常に再び興起して强健新鮮の生氣を吐くにあらずや一方に於て嚴刑の爲めに窒息されたる眞理の熱火も他方に於て一層煌々と其

光輝を放つにあらずや牢獄の中に隱閉せられ消滅せりと思惟せし眞理も不意に高く山嶺に輝き天下をして之を仰望せしむるにあらずや思ふに眞理一たび人類の明解する所となりしものは嘗て死滅せしことなく又た死滅することなかるべしされば探究者は決して眞理の美服爭鬪の爲めに其華麗を損ずと思ふ勿れミルトン復た謂はずや「眞理は日光の如き外形的の感觸によりて汚さるゝものにあらず」と蓋し眞理は泥土の中に千回之を沒入するも毅然として清淨なる白衣を着け無窮の光明と共に立つものなり

然ども眞理の爲めに爭ふ者は智慧を以て爭ふべく眞理の爲めに死する者は無益に死せざるを期すべし無智にして機を知らず妄に眞理を防衛するものは單に之を扶助する能はざるのみならず却つて之を害し其朋友たらんと欲する者をして變じて敵となし其擊たんとする所の劍鎗は翻つて自己を刺す所の刄となるものなり假令ば二に二を加へて四をなすは通理なり然るに茲に人あり二に二を加へて五をなすと主張するものあるも之れが爲めに生命を犧牲にし其不理を鳴すは愚の至りなり余輩は思想の常係を解する能はざる心性の缺點に向つて憐憫の情を表すべし然ども懇論切訓之を曉す能はずんば止まんのみ何ぞ必ずしも眞理の爲めには其何たるを問はず必ず之れが爲めに生命を奉ずべしとの謂ならんや世上此種の眞理少からず是れ皆各自最高上の智識を以て判定すべきものなり人或はガリレオを難するに羅馬刑官の面前に於て地球回轉の原理を維持せざりしを以てするものあり然ども深く之を究めばガリレオの死せざりしは又た異とするに足らざるなり夫れ地球回轉の虛妄ならざるは明白なる實事なり然ども之れが爲めに死すべきの價値ある？若しくは又た獻身を以て當時の事情果して智慧の働きとなすに足るべき？地球回轉の眞理は數年を出でずして勝利を制すべきは明白なり何ぞ必ずしも一身を犧牲にするの必要あらん況んや當時に於て生けるガリレオ死せるガリレオよりも眞實の爲めに盡す所多きに於ておやガリレオは其所行に於て正當たるを失はざるなり然どもギオルダノー、ブル

ノー、ブレスシアのアーノルド、ハッス及び其他に至りては其境遇全く異に眞實の爲めに生命を犠牲にせしは至當の事なり彼等は新サーモピリーに於けるスパルタ人にして一死の外他に名譽と兩立すべき行路なく其死は單に希臘を危難の中に救助するのみならず併せて又た未來永劫勇敢功業の大神と尊崇せらるゝの位置に立てり此時に當りて踏跙逡巡せば卑陋の人たるを免れずされば其死せしや光榮なり而して彼等の因りて死せし所の眞實は彼等を焚殺したる周邊の熱火より光輝を得て決して盡くる時なかるべし

夫れ天下の諸人悉くカントの如くアリストートルの如くプレトーの如くソクラテスの如く釋迦の如くヂーサスの如く眞實の發見者たる能はざるや明なり然ども此等諸大人の發明に係る眞實を世界に傳布するに至りては萬民のなし得る事業にして之に因りて献身の實を表せば其榮譽又た決して彼等に劣らざるべきなり人賤しと雖ども眞理の領地を擴張し之れが光明をして世界に一層の光輝と美麗とを放たしむる能はざるの理あらんや人愚なりと雖ども眞理の大軍に列なり平和の勝利を制し人類の品位を高尚にするの凱陣に加はゝるを得ざるの理あらんや

獨想二題

文學士　大西祝

矛盾の一致

人間の生涯は矛盾撞着を以て充てり人間それ自身が矛盾的の生物なり爾が生活と云ひ生長と云ふもの是れ矛盾的の事柄にあらずや爾が呼んで「我」と名くるもの是れ常に己れ自らと撞着しつゝゆく活潑々の一妙物にあらずや動いて息まず滿ちて足らさるの一怪物にあらずや人は思ふ昨日の「我」は今日の「我」なりと否な昨日の「我」は既に逝いてあらず今日の「我」來つて彼を排斥し彼を取て過去と名くる有耶無耶の境に投し去りぬ母の懷を住家として猶ほ廣きに過るとせし赤子は赤子の状態を否定して母に見上げらる一巨漢となるにあらずや紅顏の美少年は半死の白頭翁に否定さるゝにあらすや

吾人の生活は夫れ此の如く前なる狀態が後なる狀態に否定さるゝ矛盾的のものたるのみならず「生」なるものそれ自身か彼の不可思議なる「死」なるものに否定され終るにあらずや昨日實有と思ひて何よりも大事がりし「我」なるものは今日は何處にかある今現に實有と思ひて大事がる「我」も一瞬の後には何處にか逝くしかはあれとも又「我」ばかり世に實有なるものありや此机此室、幻夢たるべし庭前の樹木も幻夢たるへし空ゆく雲も幻夢たるべし但だ幻夢を浮ぶる「我」は幻夢たらじ彼の希臘の先哲をして語らしめは有無の相衝突する處、相撞着する處、相交叉する所是れ人間の生活なり是人間なり是れ「我」なりと云はん古歌に曰く

世の中は夢か現かうつゝとも
ゆめとも知らず有りて無ければ

人間の生活より一切の矛盾撞着を除き去らんとするは是れ活潑々の人間をして死物たらしめんとするに等し若し人間をして法界の衆妙理を悟得し了したる完滿無欠の者たらしめは知らず彼れ苟くも有現の者たる以上は矛盾撞着は事の當に然るへき所にあらずや我れ有限なるが故に無限を渇仰す然れとも無限にして有限を渇仰する是れ既に根本的の矛盾にあらずや而かも此根本的の矛盾か是れ正さしく萬法同躰衆理歸一の妙趣を知らしむる所以にあらずや噫人生は、噫天地は貧相なる一致を打破するの矛盾、而かも矛盾を融會せしむるの富贍奥妙なる一致なり妙法界とは是れ此の謂にあらずや、

入相告くる鐘の音を誰れか悲しとのみは聞くらん春の朝に匂ふ花も憂き身には中〳〵に物の哀れをや增しぬらん得意なれば天地は恰も觀樂境の如く失意なれは春風鶯歌の世界も寂寞たる荒野に異らず我年少の友としたりし書に對して今はほと〳〵昔日の興味を怪しむは何んぞ昨日は他人の手を觸るゝたも許さゞりし玩具をは今日は我れ自ら打毀つは豈三才の童子のみならんや今日の「我」は昨日の「我」に矛盾す是れ左に振つて右に還るなり左右の振動迭に否定されつゝ行く是れ人間の進歩にあらずや人間の進歩は一直線を成さず絶えず上下

に波動を描く上れる波下れる波相反して而かも相和す若し反動を滅せん歟調和も共に滅すへし地球は太陽を離れんとしつゝも太陽に引かれ引かれつゝも離れんとするにあらずや而して始めてそこに廻轉の調和を爲すにあらずや汝若し汝の「我」に汝自ら矛盾するとを恐れは活動進歩の世界を汝は辭し去らざるを得ざるへし世の斗筲の輩が見て「合理」と呼ぶ死したる一致に拘る勿れ活きたる矛盾的の一致を看取せよ汝何すれぞ戰々兢々として矛盾せんとを恐るゝ乎「汝撞着せり」と云はるゝを何すれぞ其の如くには忌み嫌ふ乎汝の世に生るゝや其性とする所既にそれ矛盾的のものにあらずや一塊の土を住家として三千の世界を觀するにあらずや宇宙の廣きに比ぶれは一粒の芥子にだも價せさるの身を持なから無究の天地を究めんとするにあらずや否な虚空の宏き時間の永き皆我心中の者なりと迄觀ずるにあらすや禽獸と共に其慾を等うして猶ほ神聖の性德、善美の光明を慕ふにあらずや否な既に之を心靈の根底に懷くにあらすや地を踏みつゝも天を仰ぎ蜉蝣と共に死して永久ならんことを冀ふ人は天地を觀して不可思議と云ふ天地果して不可思議なる乎抑もまた觀するもの自らの不可思議なるか吾人(われひと)の心身は幾多の矛盾に相集れるものなるぞ人動もすれば此等の矛盾に躓かんとす何の故ぞ只だ夫れ流轉を離れて安立を求め變化を離れて不變を求め多を離れて一を求め不完を離れて完全を求め待對を離れて絕對を求め天地を離れて神を求むるか故にあらずや流轉變化を離れて安心立命を求め矛盾撞着を離れて一致和合を求むるは是れ半可通の學者のなす所、生煑半(なまにはん)の宗教家のなす所なり天眞爛熳の少兒はしかは爲さざるなり少兒は無覺的にしかせず汝は有覺的にしかせざれ汝は流轉變化の中に於て安立を求めよ矛盾撞着の中に於て一致を看取せよ

人生は夫れ矛盾を以て充てり而して其矛盾を離れて一致を求む可からず矛盾の中に一致を求むべしとせば「自力と他力」の如きは是れ其一例にあらすや一人(ひとり)は云ふ我れ他力に依らずんば救はれずと一人は云ふ自力に依らずんばある可らずと而して反目して相爭ふ爭ふて

益々救に遠かる救何處にかある救は論談にあらず而かも救を論談せんと欲せは自力即他力、他力即自力の妙趣を悟るを要す請ふ猶ほ少しく論辨する所あらんか

自力と他力

虫の中最も卑しむべきものを何そと云はゞ吾は寄生虫ならんと考ふ獨立獨歩の精神ばかり世に尊ぶべきはあらじ我の運命は我に懸ると知る是れ量るべからざるの奮力を生ずる所以なり我が行くべき路は我れ之を切り開かざる可らず我が爲すとは我れ之れが責に任ぜざるへからず此間毫も魔術の施すべき所なしと知るの一念は人をして我が爲し得ずと思ひしとをも妙に爲し得しむるに至る人の疾とする所我れ爲し得ずと思ひて他人をして我に代りて爲さしめんとするにあり他人の汗したる粟を喫はんとするにあり活きたる人を殺すものは是れ此盜人根性にあらずや他人をして我德を立てしめんとす他人をして我分を盡さしめんとす世に之よりも猶ほ非道なるとありや此非道心が、此卑屈根性が人をして無間の地獄に陷らしむるに非ずや我れ我手を動かさずば縱令ひ天地に號泣するも天地は我手を動かさしめずと知らは如何我は畢竟我たり他人の衣を纏ふも我は十分我の價値を增減せずと知らば如何天地に胡魔化しのきく所なしと知らば如何思ふに人をして生れ更へらしむべし然るに人動もすれは不善を爲しながら恰も不善を爲さゞるものゝ如くあるを得ると思ふ此法界はそれ程に嚴しきものにあらずと思ふ間々見落のあるならんと思ふ我は大方其見落の中に入るならんと思ふ不善を爲しながら何時かは如何にかして曾て不善を爲さゞりし者の如くになり得ると思ふが故に一刀兩斷不善を斷ち得ざるにあらずや優柔不斷「我は爲し得ず我は爲し得ず」と歌ひ居る者に向ての福音は汝爲さずは汝亡びざるを得ずとの儼然たる法界の宿命を知らしむるにあり彼れ一度眞に之を知らば彼は救はるべし彼れは蹶起すべし彼れ其力の何處より來りしかを知らざるべし然れとも彼れは現に力あるものとなる彼れは只だ不思議にも求に應じて彼が存在の根本より力の湧き來るを覺ゆへし恰も汲むに從て井水の湧き來るが如くなる

を覺ゆべし彼れ今迄は足なへたり今は歩むを得然れども何故に歩み得るかを知らざるべし彼れの蹶起するや恰も基督が立てと命じて立ちし跛者の如くなるべし突然立てり只だ立てり一は基督の聲を聞いて立てり一は彼の「宿命」の聲を聞いて立てり彼の「宿命」なるもの豈に基督の聲よりも弱からんや「宿命」豈人を絶望せしめんやそは只だ宿命の皮相を見る者の過ちのみ法界不變の秩序たる眞實の宿命を知らば罪惡の絆を斷つを得ん基督の聲を聞いて始めて此の宿命を知る者あり此宿命に面するや彼の跛者が基督に面したる如くなるべし其生し來る結果は一なり豈に亦妙ならずや一は我を措いて我を立たしむるものなしと知りて立つ一は我より外の者我を立たしむと知りて立つ共に立つを得豈妙ならずや彼れ「宿命」の聲を通して基督の聲を聞く乎此れ基督の聲を通して「宿命」の聲を聞く乎宿命の聲は自力の敎なり我の外我を救ひ得る者なしと知るの敎なり我れ眞に我を救はんとせば救ひ得ると知るの救なり我に其知き妙力の備はるありと知るの敎なり何ぞ必ずしも吾人人間を弱はしと云はんや噫何ぞ吾人人間の價値を信ぜざるの甚しき吾人の價値を信ぜざるは吾人の造化主を信ぜざるにあらずや吾人が心靈の根底に何ぞ吾人を救ふの妙力なしと云ふや基督に存ずるの妙力何ぞ吾人に無しと云ふや佛陀に存ずる妙力何ぞ吾人に無しと云ふや噫何ぞ造化主を信ぜざるの甚しき婦女子告げて此の重荷を負へと云ふ彼れ負ひ得ずと云はん而して試みるに果して負ふを得ず如何に力むるも負ふを得す故に自力之を負ひ得ずと云ふ乎見よ一朝事あるの時を見よ我家の將に火焰に埋れんとするを見せしめよ我を措て他に負ふ者なしと知らしめよ彼れ是れを負ひ去る負ひ去つて而して後自ら之を負ひ得しを怪しむ造化主我を造れり我豈我たるべき者たるを得ざらんや自力豈にそれ程の事を爲し得さらんや只だ人の一生懸命にならざるのみ我が存在の根底に具はれるの妙力を振はざるのみ此の妙力を振はず一生懸命にならざるは彼の宿命を知るもの未た足らざるのみ儒敎の實際的なる所是れ自力敎にあらずや佛法の聖道門是れ純然たる自力

獨り暗涙を咽むの時我が一片の衷情を知る人もがな我か此赤心を見る人もがなと思ふ時吾人の心は自ら吾人以外の吾人以上の高大靈妙の者に向はざらんや吾人豈に此流轉の世の中を冷笑し去るを得ん流轉の中言ひ難きの意味あるにあらずや吾人豈に雲水花月の天地を悉皆空と觀ずるを得ん「雪の降る日は寒くこそあれ」「花の降る日はうかれこそすれ」噫吾人は石にあらず傷き易き皮肉を有てり吾人は涙ある生物なり悲しさにも喜ばしさにも涙を流す生物なり吾人は弱點をもつて形つくらる旅は道づれ世は情人生の情を知らずんば共に人生を語るに足らず吾人に告けて他の情を求むる勿れ自身獨個に具はれる者を以て滿足せよと云ふは豈こゝろなの至りならずや天地に號泣する勿れと云ふも人は天地に號泣す依賴心を斷てよと云ふも人は有限の者にてある間は依賴心を斷たざるべし若し依賴心が宗教の骨髓ならば犬は最も宗教心の深きとならんとはヘーゲルがシェライエルマヘルを嘲りたるの言なるが犬を見て宗教心深しと云ふに何の妨くる所あらんや犬は人間に教にあらずや此等を目して妙趣なきの教と云ふ吾人を救ふに用なきの教と云ふ只だ井蛙の見のみ富贍なる法界の妙理を知り得たる者とは云ふ可からざる也基督既に自らを救ひ得しにあらずや釋迦自らを救ひ得しと云はざるは僻見のみ

噫惑ふ勿れ吾人は法界の至尊者にあらず五十年を一期とする哀れの一小生物なり如何に獨立獨行を誇るとも要するに天地の一寄生虫たるに過ぎず萬物の靈と自稱する者猶ほ雨露の恩を仰いで育つにあらずや況してや同胞の親愛をや誰人の生涯にか悲哀なからん落膽なからん懺悔なからん苦悶なからん英吉利の詩人の句にある如く

Alone, alone, all, all alone
Alone on a wide wide sea!
And never a saint took pity on
My soul in agony.

と嗟嘆するとなからんや哀別離苦の世の中に我れ淋しと思ふ時、正義を踏んで世に容れられず孤忠を懷いて

依頼す人は或は阿彌陀佛に依賴し或は耶蘇基督に依賴し或は宇宙の妙理妙力に依賴する差別は之れのみ夫に取りての妙理妙力は人間にあらさるを得んや或人に取りての妙理妙力は阿彌陀佛耶穌基督にあらざるを得んや「歸依」「歸命」てふ語は人間の物いふ間死語となるの期なかるべし豈歸依せざらんや豈に歸命せざらんや豈に渇仰せざらんや夫れ吾人の理想とする處は恰も雲霓の如く追ふに從ふて吾人を離れゆくにあらすや而かも理想は吾人を麾いて欲まず吾人は亦之れに到らんと欲して欲まず是に於て乎吾人以外の大力を假りて之れに至らんとするの念を起す豈不條理と云ふべけんや我欲する所の善は之を爲さす我欲せざる所の不善は之を爲すとは豈獨り羅馬の學者のみの嘆息ならんや使徒保羅のみの嗟きならんや欲する善を爲さずとは何たる矛盾撞着ぞや我が爲さんと欲するとをば爲さず爲さんと欲せざるとを爲すとは何たる怪事ぞや吾人は此人間界の此の最大怪事に惑ふ天上の妙力を假りて此の最大怪事の跡を斷ち此の矛盾撞着を脫せんとするは是れ最も自然の事にあらずや吾人の眠食する娑婆は何たる處ぞ罪惡の多きを如何せん誘惑の多きを如何せん吾人の孱弱なるを如何せん吾人自らの罪障を如何せん吾人獨力にして此娑婆を渡り彼岸に到達せんとするは恰も怒濤の中に一葉の舟を浮べるに似たり吾人を救ふ者なしと聞く吾人は足なへ手なへて遂に溺れなん吾人を護る者ありと聞く必死の力を極めて漕ぎゆかん豈に之を美はしき迷ひとのみ云はんや起よ起よ我れ汝を救はんと云ふ者の聲を聞かずは起き得ざる者あるを如何せん一旦其聲を聞ひて立つや此程のとならば自力にても爲すべかりしをと思ふらん然り自力にても爲し得まじきにあらず然とも他力を見て始めて其自力も自力のあるだけを振ひ得しにあらずや天の祐助あり「聖靈」の交りありと信して善念を養ふ誠によからずや若ししか信ずると同じ程に善念を養はゞ歸する處は一ならん然れども しか信せずはしか信ずると同し程に善念を養ひ得ざるものあるを如何せん是れ宗敎界に於て豈輕々しく看過すべきの現象ならんや彌陀を信ずるものは大慈大悲の本

願の力に頼りて此の世の罪業を解脱して淨土に生るゝを得ると考ふ彼等は思へらく一度眞に彌陀の救ひを信ずれは大慈大悲の彌陀佛に對しても惡業は爲されず我は我か善行によりて淨土に往き得るにあらず我が救はるゝは只〳〵彌陀佛の本願の功德による然れとも諸の善行は彌陀佛に對する報恩の心より自然に湧き出づへしと而して彌陀の本願を信じて善人となる者あるとは否む可からざる事實なり耶蘇基督を信ずる者は其贖の功德によりて罪の赦しを受けて神の子となり死して天にゆき得ると考ふ然れども信仰あらば行は求めずして從ひ來ると考ふ我を永遠の滅亡より救ひし基督の惠を思へは基督の十字架を思へは難有さに夢にだも惡事のなさるへきやと考ふ而して基督の贖ひを信じて善人となる者のあるとも疑ふ可らざる事實なり此等は最も通俗的の他力說なり我が弱きにより他力に縋りて救はれんとするは卑屈と云はゞ云へ最も人間らしきとにあらずや他力的の思想は啻に基督の贖を信じ彌陀の本願を信じ聖靈の交りを信じ佛の三身を信ずるか如きにのみ止らす天命を信ずると云ひ天道を信ずると云ひ天地に通貫する道德的の秩序を信ずると云ひ詮すれは他力に依るの思想なりと云ふを得ん

如何なれは他力と自力とは斯くも各々自己の妙理を有するか如くにして而かも彼れ此れ相容れざるが如くなる乎噫怪しむ勿れ一方より見れは他力敎は他力敎にして自力敎にあらす自力敎は自力敎にして他力敎にあらず然れとも他力と自力との眞に効力ある所の根本を質さは其遂に一に歸するを見ん此れを叩けは彼れに響き彼れを叩けは此れに響くの理を悟るべし異にして而かも一なるの妙趣を悟覺すへし何ぞや一本の草花の咲く獨り花の咲くとな思ひぞ全宇宙の妙力が花に咲くと思へ名も知らぬ路傍の花見ても「處に餘るの思ひ」をは詩人の思ひ浮ぶるは是れ此れか故にあらずや全宇宙は一滴の露の中に己れを圓ならしむとエモルソンは云へり一心三千と說かは是れ之を佛說に飜へしたるに外ならず我の活くるは我によりて活くるにあらず我にある神によりて活くるなり我は對待の中にあり然れとも亦

絶對者を離れず對待の中にある吾人個々のものは皆有限なり皆不完なり然れども此の有限不完の者の中に無限完滿の者存ずるあり故に一方より見れは我自力即ち我自力のみにあらす然れども亦一方より見れは我自力を措いて我と等しく有限不完なる個々の者の自力を措いて外に無限完滿の他力に接す可からす天地個々の者を離れて神の力を見んとするは迷誤なり神の力を他力といふ乎よし我力を自力を云ふかよし神我が中にあり我れ神の中にありと見れば自力即ち他力他力即ち自力の妙趣をば悟得し難からん天地個々の者は個々のものなると共に又個々の者たるのみにあらす「我」を一個の我れとして見れは有限不完微弱の者ならん然れども此の一個の「我」に法界の力を擧て働く者ありと見れは「我」は一個の我にあらず一方より見て我れの自力と云ふ者即ち他力なり吾人は弱き肉を有てる者なれとも天地の神の子なり吾人は素と人間界に轉生し來れる一凡夫なれとも佛性を具ふ我は神にあらず然れとも我れ神にあり神我にあり自力に依らずんは依り處なしと覺悟して奮起す他力を得たりとて勇み立ちて自ら奮ふ共に奮然蹶起し得るは一妙力の然らしむるのみ是れ要するに自力即ち他力。他力即ち自力なるが故なり兩者を一にすることなくしては分つを得ず分つことなくしては一にするを得ざるの妙境こゝにあり豈に殊更に自力と他力とにのみ於て然らんや天地間如何なる事物を取りて撿するも早晩此の境に至りて止まざるを得ざるはなし矛盾の一致我れ其の何の故たるを知らず然れとも「我」なる者か既にその如きの一致なり全法界かその如きの一致なり「矛盾の一致」之れを知るとあるの言とや云はん將た知るとなきの言とや云はん我は只問ふ實に此の如きにあらずやと

宗教の進化

神田佐一郎

進化なる熟語は近來泰西の文物我か國に輸入せられし頃より頻に我が學者社會に在て喋々するを聞く、而して進化とは天然に一定の順序を追て進み化するの意味

にして進化論者の言に依れは宇宙間森羅萬象は盡く此の進化の德に浴せさるはなしと、今又此れに似て非なる處の文字あり卽ち改革と變化なり、夫れ改革とは單に文字の上より見る時は改め革むるの意なりと雖も深く之れを推し究むる時は惡しく改むるの意ならんよりは寧ろ善良に革まるの意にして改良と異字同義たるが如し、然れとも改革は進化の如く天然自然に行はるゝよりは專ら人爲に成るものを意味し、隨て改革は常に進化に比するに其變革の迅速なるものにして時としては案外なる弊害を伴ふが如き事往々見る處なり、故に泰西の諺にも「進化は改革よりも獨ほ善良なる文字なり」と云ふを以て見るも亦此の弊の伴ふが故なるべし」變化或は變遷は又進化に類似の熟語なりと雖も、是れ前の進化と改革に比する時は遙かに濶大の意義にして進化と改革は勿論其他退化、改良等も盡く此の變化の圍範內に在るものなり、之れを譬ふるに、植物の種子土中に播かれしより地中温濕の媒介に依り二葉を生し日光雨露の德澤に依て生々繁茂し年月を經るに隨て終に雲表に聳ゆるか如き大木と變するは進化にして、彼の松柏の薪と化し桑田の海と成るは退化と見るも可なりと雖も是れ等しく變化なり」兎に角く進化とは退化に非すして改革と異る處は天然の順序を追て進み行くを云ふ、約言すれは進化とは成長なり卽ち小より大に進み劣等下級より高等優美に進み化するの意にして變遷改革とは正しく差異ある熟語なり、

余輩は玆に宗教の進化と題して微意のある處を陳ふるに當てや固より宗敎と雖も必らす進化の原理を離るゝ能はさるものなりと信する者なり雖然論者或は云はん否な、宗敎は元來天啓のものなるか故に確固不抜なり固より進化變遷すへきものに非らさるなり、又た一定不變の眞理を基礎として立つものなれは雀の蛤と化し自然薯の鰻鱺に化すると同一の論に非さるなりと、又曰く、眞理は一定不變、千古萬古を貫くものにして已に完全なり何そ成長を俟たんやと、夫れ然り夫れ或は然らん然りと雖も余が今日論せんとする處は宗敎形態の進化を云ふものにして決て宗敎其物の進化に非さる

なり、如何となれは余輩は實際宗教其物の眞に何たるを知る能はされはなり、余輩は只だ自己の本心の智覺上よりして宗教なる一の觀念あるのみ、故に此の觀念が言語文章の上に現象として顯はれたる時は一の形態なり、此の形態は眞に吾人の意中に存在する觀念と小異なきものなるやは即ち一つの解するに苦しむ問題なり、今又一歩を進めて考ふるに此の觀念は必らずしも宗教其物とせんか而して人々智識の程度に依り各々此の觀念に高下の階級あるや明かなり、然る時は宗教は一定不變の眞理なりとは何處の邊に指針を定むるものなるや實に漠然捕ふる事能はさるものならすや、併し余輩は一歩を讓り此の本心知覺上一の宗教觀念を以て天啓なりとするも、古今萬國到る處の人民は此の宗教的觀念を有せり是れ盡く天然に啓示せられし觀念にして余輩は猶太人の如く又或るキリスト教徒の如く特に一國民一宗派の徒のみに此の宗教は天啓せられ他は全く暗黑世界に放逐せられたるものなりとは信する能はさる者なり、

如此宗教は等しく天啓即ち自然に人心に出でたるものなりと雖も國民の境遇氣候の變遷等に依り識らす知らすの間に習慣風俗を別にし終に文化の程度を異にし隨て人智の階級衣食住其他百般の事物に自然差異ある現象を呈するに至りしは之れを古今の歷史に徵して明白なり、就中宗教の形態も大に其趣を異にし甲の人種は其觀念益々高尙優美にして乙人種に比する時は赤紫も只ならさるに至れり、然りと雖も必竟赤紫は共に同一の色に附する名稱の差のみ、同一の色素の現象を異にせしのみ、如何となれは誰れにても赤紫其物を知るに由なくして只だ一定の光線屈折の角度を以て已れが眼中に反射せる光線の度數に赤色と云ひ紫色と云ふ名稱符號を假りに下せしのみにして等しく太陽或は發光躰より放射せる同一の光線に過きさるなり、故に返す〲も余輩の所謂進化とは宗教其物の進化に非ずして單に吾人の心に映する處の形色に於ける進化を云ふものなり、

扨て太古曚昧の世に溯り考ふるに何れの人種も盡く此

の宇宙間に自己以外に大不可測の勢力存在し人間の吾が儘ま勝手を制御する者なる事を信するものゝ如し、譬へは湖上に漁する時に際すれは風波の靜淑ならん事を欲するも時としては暴風を起こし激浪怒濤を捲き己れが乘りし處の漁舟も覆へされ辛くして九死の間に一生を得て歸り、四季に於ては通例春時雨多く河川の漲溢は終に大洪水となり人畜家產を押し流し、夏候は大雷を爲し秋は大風颶風を起こし、冬は嚴冬肌を刺し加ふるに大風雪の爲めに其住所を埋沒せらる、其他動物植物の成長繁茂より噴火山の灰燼を噴出し地震の家屋を倒し大地凹落して湖水を生し富嶽の一夜に出現するが如き天變地異に感じて玆に大不可思議なる勢力の存在する事を覺知し到底此の勢力に向て勝敗を爭ふへからさるに依り終に之れを尊崇し、之れを樂ましめ、之れと和し、之れに依て自己の危難より守護せられん事を願ふものにして、迅雷風烈日月星辰より名山大川を祭り之れに供養するは此の觀念より出つるものなり、此れより人智漸く進むに從て如此天然の現象は如何なる存在者の其裡に在て然るものなるかの考を起こし、恰も兒童の人形も等しく自己と同樣の性質を具へ感覺智識を具備するものなりとして之れと談話し之れを叱し之れを愛するか如く彼の迅雷風烈日月星辰も亦自己と同樣の性質を有する諸神なりと信し、之れを恐れ之れを崇むる者にして、必竟天然力の恐懼より生したる諸神なれは古代の神は常に善神よりは惡神の多きを見るも亦其一班を知に足るべし、且つ之れに供養するに當ても亦自己の最も愛するものを以て此れ等の諸神も愛重せりと信する者にして犢牛山羔を屠て之れを獻せしは其國民の肉食人種なりし證據にして米麥を獻するは其國土に在て米麥は必須の產物にして酒を供へ魚を具ふるも獸肉を具へさりしは其國人は一般に肉食せさりしの一徵なるべし、又野蠻に於て猛惡なる種族は間々人命を犧牲とせしが如き事實は歷史上往々見る處なり、故に何れの野蠻種族の內に至るも其人種の剛柔を知らんと欲せは先つ其人種の宮殿に到り彼れ等の禮拜する諸神の偶像を見る時は粗ぼ之れを窺ふを得べし、

如何となれは暴厲殘忍を逞ふする人種の諸神は恰も其人種の如く暴惡なり、偶像の形狀一見肌に粟を生せしむ、又之に反して美術心に富める國民の諸神は何となく優美にして佳趣あり現に今日希臘の古代諸神の像を以て美術の表本とするを以て知るへきなりき、

時代の變遷は人心に變遷を及ぼし人心の變遷は終に其事業に變遷を及ぼすものにして古代エジプト國の隆盛なりし頃彼の國に起こせし大土木工事の內今日迄で現存せるは處々に散在せる古刹古塔の舊跡なり、彼れ等の建築は宏壯無量の大盤石を以てし寺院の如きは多く巖を鑿て造れる穴寺なり、其內部は數千人を容るゝの容積あるも其門口は反て僅小なる蟻の穴の如く內部は殆と暗黑にして僅かに二三の小孔より光線を引くのみなり是れ即ちエジプト人心の幽邃不可思議なる觀念に富むの實證たり、グリース國の寺院宮殿は一般に白色大理石を以て疊み善美を具備せしものなりと雖も其諸神は國民の面のあたりに見るを得、又其國民は諸神の宮殿に接近して業を營み遊樂を諸神と共にするを見れはグリーキ國の諸神は人間的のものにして此の世に屬するものなり、ローマに於て彼の有名なる「パンセオン」の宮殿は即ち隣國を征服せし時携へ歸りし處の各國の諸神を鎭坐せしむる宮殿にして人若し此の宮殿に入る時は過きし昔のローマ大帝國の威勢を思ひ起こし、此の國民は曾て他國を併呑しローマ大帝國の法度の下に世界を置かん事を企てたるを知るに至るべし、其他中世「ゴジック」の建築は歐洲諸國に於て今猶雄觀を恣にせり此の宮殿寺院には必らず方錐或は圓錐形の塔を具し恰も此の世界を以て假り寐の旅と見做し遙かなる天國の彼方にあるを指示するが如し、

如此人心の變遷は其事業に變遷を來たしたれは中世に至るに及んで神の觀念も大に古代諸神の觀念と異にして神は今一層高倘なる者なりとの考を起し、物質的の諸神を去て精靈的の一神を信ずるに至りしかども、猶ほ此の精靈的の一神を全く靈として其胸裡に寫す能はさるを以て終に釋迦氏を以て佛陀として佛敎徒が禮拜の目的物となし、耶蘇氏を以て「キリスト」敎徒は神

の顯現し玉ふ者なりとして禮拝するが如く或は「ローマンカソリック」の徒は法皇或は寺院を禮拝する者の如く新敎徒に在ては新舊兩約書を以て神の聖なる約定書として尊崇するか如きは他より之れを見る時は神より外に神ありとして禮拜するものゝ如し

然るに近世に至るに及んでコーパルニカス出でゝ世界は總ての古典聖經に論するか如く平坦なる者に非すして球形なりとの說を立て、其球形なるか故に回轉するものなり、太陽は地球を回轉するに非すして反て地球は太陽系の一遊星に過きさるの原理を發見するに當てや、地球も宇宙の中心たる事能はさると同時に古典聖經の神敕は逆理妄誕となり、其局終に宇宙萬有は人間の爲めに創造せりとの尊大の信仰は何處へか奔竄し地球は天空の一微塵末に等しきものなれば、人間は此の塵埃に發生せし裸蟲なりと悟りし曉に至り其昔「人は萬物の靈長なり」と云ひしは只た僅に地上の論にして此の宏大無量悠久なる宇宙に比する時は決して萬物の靈長として誇稱すへからさるに至れり、此の時に當てやコロンバス氏出てゝ東西兩洋交通の便を與へんが爲めに歐洲より印度に直航を企て、大西洋を西航し案外なる新世界南北アメリカ洲を發見せり、當時歐洲諸國に在て文學の再興として古代のグリーキ文學幷に哲學を研究するの風行われ、之れと同時に活版術の發明あり、古今未曾有の機械を製して海陸の運輸を便にするに當り、昨の迅雷風烈も案外恐るゝに足らす雷公も終に遞信省の雇丁となるが如き有樣に立ち到りたれは勢ひ宗教的觀念及び形態に於ても適當なる進化を見さるへからさるに至れり、

現世紀に於て學術研究の方法として自由討究產れ、自由討究は自由信敎を產み、此の自由信敎は終に進化せし宗敎ユニテリアン敎を產み出せり、

扨て此のユニテリアン敎の信仰は古代中世の信仰より數層上達したるものにして、其尊信する處の神は古代中世の如く物質又は人間の如く宇宙間に生存せりとの意に非すして、此の宏大無邊の宇宙は唯一なる神の內に在て生々化育の道を行ふものなれば所謂神人同形の

神に非す又物質的人間的の者に非さるや明かなり、此の高尚なる理想を吾人の心裡に寫すと同時に完全なる人間の理想をも之れを釋迦、孔子、耶蘇等の如き先輩の生活のみに求むる事なく、進んで吾人相互の胸中にも如此優美なる理想的人間の生活せるを發見し倍々之れを開發せしむるものなり、如何となれは吾人も人なり彼の聖賢と何ぞ撰ばんや、吾人も亦彼等聖賢と等しく此の天地の大元にして純粹潔白なる神の宮殿なり、然れとも實際吾人が今日の位置は彼の聖賢と相並んで劣らさるや、余輩は固より其德の古人に如かさるを知る、然れとも嘗て耶蘇が比喩せられし如く天は吾人にも同等の種子を播かれたるなり然るに古聖賢哲は豐饒の地にし吾人の種子は荊棘の中に落ちたるものなるべし、否な、聖人も吾人も等しく同樣の土地に播かれたるなり併し乍ら彼等は荊棘を排して生へ吾人は痴情私慾の雜草に埋沒せられ義の太陽を見る事能はさる者なり」人智未だ幼稚にして日月山川を祭る頃に於て天堂地獄を其心以外に求め、或は眞神を以て人間なりし釋迦、耶蘇の上に求むるは猶ほ恕すべし、然るに今日文化の普く行はれ、村夫子すら猶ほ外國語に通し天文地文の學に精しき時代に產れ乍ら猶ほ痴情の雜草を排して萠へ出つるを知らず已に陳腐の舊說を墨守するが如きは愚も亦甚しと云ふべし如何となれば諸君と余輩は已に高尚なる理想を有するの程度に成長せり吾人の方寸已に進化せし宗教を映ずるに足るの智識に發達せり、此の秋に際し吾人は猶ほ進化せし宗教を發見し能はすと云はんか是れ能はさるに非すして爲さゝるなり、何となれは是れ泰山を挾て北海を超ゆるの類に非れはなり

宗教は皆信ずべし

文學士　澤柳政太郎

人に貴ぶ所は智識にあらずして道德にあり智識貴からざるにあらずと雖も道德の更に貴きに及ばざるなり是れ古來東西の賢哲の士が常に唱道したる所にして未た嘗て智識を以て道德の上に置きたるものあるを聞かず會、智識を貴ぶものあるも道德に對して爾るにあらず

道德と一致する所の智識を貴びたるなり然るに何れの國何れの時に於ても道德は常に智識の進歩に及ばざるが如し風俗澆季に赴き人心の敗頽せりとは何れの世に於ても聞かざると稀なり然れども此の歎聲あり此の慷慨ありて初めて世道人心を維持したることを忘るべからず

制度文物燦然たる明治年間に於て吾人か耳にする道德の腐敗は夫の歴史上何れの時代にも見る所の歎聲と一般異る所なきか余は大に其然らさるを信するものなり僅々の歳月の間に智識技藝の進歩せること由來久しき我歴史中に未た曾てこれあらざりしが如く其間に道德の敗頽せること決して之れを他の時代に見ることを得さるなり蓋し其弊極度に達せしによるか近年道德の論甚た盛にして既に教育界に於ては大に面目を新にせるものあり今より將來を推すに聊か慰する所あり然れどもこれ今日の德育か其果を結ふの時に屬し直に之を現在に望むを得ず故に吾人は他に救濟の策を求めざる可らず

抑も風敎を維持するものは宗敎の力に如くはなし我國數百年の間宗敎の性質を有せざる儒敎が實際社會の道德を維持したりしは別に原因の存するものにして別個の問題なり況んや將來にありては儒敎なるもの道德を維持するの力なきこと明なるに於てをやされは玆に宗敎以外の力能く德敎維持に堪ゆるや否やを論ずるの要なかるべし否今日に於て道德の敗頽を防ぎ世道人心を維持するもの之を宗敎に求めざるを得ざるなり、

宗敎は實に道德を維持するものなり而して宗敎は流派二三にあらす神道あり佛敎あり基督敎あり又其内に數多の小派あり甲の宗敎にして正ならんか他の宗敎は邪ならん乙の宗派にして優れりとせんか他の流派は劣れるならん玆に於て宗敎の正邪優劣を論ずるの必要あり是れ第一に起る所の問題なり余敢て之を否と云ふものにあらす然りと雖も余は此問題を研究するを以て一般信者の必要となさゞるなり學者宗敎家に對しての必要とするものなり

余の觀る所を以てすれば我國人の宗敎心は近年欝然と

して勃興せるものゝ如く宗教信仰の必要を覺れるものゝ如し而して多くは何れの宗教をも信せず五里霧中に彷徨するもの比々然り揚言して曰く何れの宗教を以て果して正となすへきか何れの流派を以て果して優となすへきか決する所を知らず是れ未だ何れの宗教をも信仰する能はざる所以なりと信仰の順序果して此の如くなりとせんか人は生を終るまで遂に信仰するに至らざるべし世界數多の宗教を研究し其正邪を定むるは專攻者の猶ほ達すること能はざる所なるべし幾多の宗教を比較し其優劣を究めて而して後信仰すへしと云ふは喩へは世間幾多の業務を比較し其自己の性質嗜好に最もよく適當したるものを選みて以て從事すへき職業を定むべしと云ふに異ならず斯の如き人は終生無職業なると必せり苟も慣發して爲すことあらんとせは志を定めて斷然從ふ所なかる可らず苟も宗教の信仰すべきものなるを覺らば先つ信仰する所なかるへからず而して余は其信する所の何れの宗教たるを問はざるものなり如何となれは何れの宗教も皆信仰すへきものにして又何れの宗教も皆善良の敎訓を含有すれはなり固より甲の敎を信するの乙の敎を信するに勝ることありと雖も如何なる宗旨を信ずるも其全く信することなきに勝る萬々なり故に曰く宗敎は皆信ずへしと

國人皆誠心に宗敎を信仰せんか其宗敎の何たるを論ぜす余は德義の大に上進することあるを確信す故に余は余の信仰の何たるに拘らず我國人が各々適當となす所の宗旨を信ぜんことを希望するものなり

四海兄弟主義と國家主義

洪　榮三

世人往々世界と地方とを誤解して全く別物となすものあり然ども世界豈其根底に於て地方と衝突する者ならんや地方豈其基礎に於て世界と矛盾するものならんや世界とは何ぞ地方の擴張して地球の各部に及べるなり地方とは何ぞ世界の縮少して一區域に畫せられたるなり然らば則ち世界と云ひ地方と云ふも必竟土地廣狹の區別にして其基礎根底に於て大に異なる所なし豈之を

以て別物となすの理あらんや

四海兄弟主義と國民主義とに於ても亦た然り世人往々二者の主義全く相反するが如く論ずる者あるも余輩は之を解する能はざるなり夫れ地球の住民啻に億のみならず然ども同じく耳目鼻口を具へ萬物の靈長として生活し天父の兒子として生育せり故に之を一地方區畫の團躰より論ぜば各々或る種の國民に屬するも之を地球の全躰より論ぜば共に四海の人民なり故に人にして國民ならざるはなく（國の形躰をなさゞるもある團躰的結合をなすものを稱して國民と名づく）併せて四海の民たらざるはなし其れ然り國民主義と四海兄弟主義とは唯關係の大小を示すものにして其基礎根底に於て差違あるを見ざるなり

然ども世の極端論者の主張する所を聞くに二者の衝突免れざるものあるなり一は曰く人たる者は國家の保護により祖先の功業によりて今日あるを致せり國家は吾人の生命なり夢寐の間だも之を忘るゝ勿れ一擧一動國家を目的とし一進一退祖國を基礎とし國家の爲めには生命を捨て祖國の爲めには苦難を辭せざるべしと之に反して四海兄弟論者は曰く人は其誰れたるを問はず共に天父の兒子なり國家何かあらん肉親の關係何かあらん吾人は天父によりて今日あり救世主によりて今日あり崇拜は人生の第一義なり國民の區別をなす勿れ種族の區別をなす勿れ人類たるの德性によりて四海皆兄弟たるを記臆せよ一言一行も天父を畏怖し一擧手一投足も人類を憑據とし兄弟の爲めに獻身の實を表せよと余を以て之を評せば一は國家あるを知りて四海あるを知らず一は四海あるを知りて國家あるを知らず共に極端論偏頗說たるを免れず是れ諺に所謂る楯の側面を觀察して金色銅色の爭をなすと一般なり眞正の國家主義眞正の四海主義豈此の如く淺薄なるものならんや

余輩は四海主義國家說に於て本末すべきものあるを見ず然ども其孰れを先んずべきか孰れを後にすべきかに至りては自ら說あり請ふ之を論ぜん夫れ小より大に入り特種より一般に及ぶは物の準則なり豈感情獨り然らずと云を得ん一身一家の愛より一鄕一國の愛を起し遂

に世界の愛に及ぶは自然の理法にして人性普通の感情なり未だ父母を愛するを知らずして能く國家を愛する者あるを見ず未だ國家を愛するを知らずして其愛世界に及ぶ者あるを見ず物質界に於ける重力の原則は實に能く精神界に於ける愛の法則を説明するものなり夫れ重力は物質の各分子を他の分子に結合せしむるも引力は距里の平方と反比例をなすものなれば實際上此處にも幾多の小分子結合して一物躰をなし彼處にも幾多の小分子結合して一物躰をなし一方の小分子妄に遠地の物質に吸引せらるゝの憂なく能く萬物と一般の結合を保持せり人類の愛も亦た然り最も善く世界を愛するの人は最も多く地方的の愛を有するの人なり自國を愛する能はざるもの安んぞ能く世界を愛するを得ん隣人を惠むに吝なるもの安んぞ能く天下の人民に施すを得ん如何に四海兄弟主義を主張すれば迚自己の生母と他人との間だに特種の區別をなさゞるものあらんや父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し朋友相信ずるは愛の初めなり此愛延ゐて一鄕一國に及び遂に四海に達するは愛の終りなり余故に曰く愛に本末なきも先後あり國家主義は先んずべく世界主義は後にすべく而して後ち四海相愛の義實行すべきなりと

目を轉じて萬國の林立する所以を見よ治者あり被治者あり法律あり習慣あり陸には數萬の軍兵を備へ海には數十の艦船を浮べ敵來りて仇するあれば銃砲劔戟彼を撃ち彼を倒し彼をして覬覦の念を絶たしむ國人是に於てか各其堵に安んじ商賣工業を營み己れを利し併せて他を利するを得るにあらずや國家强健ならずして文學發達するを得る？製造盛んなるを得る？醫術進歩するを得る？道德行はるゝを得る？文學振はず製造興らず醫術進まず道德振起せず然も能く世界に仁愛の行をなし得べき？是れ蓋し木に緣りて魚を求むるの類なり國家なきのヂユウス人を見よ彼等は自國の賴るべきなく僅に他國の保護によりて生活し北に逐はれ南に走り居所定まりなくヂユウス人全躰として世界に盡す所なきにあらずや彼等の祖先をして靈あらしめばモゼスは切齒扼腕我有を呼びて再び亞剌比亞沙漠の苦難を辭せざ

るべくヂヤシェアは耶和華ヲ呼びてヨルダン河の不思議を祈るなるべし一身を愛するは父母を愛する所以なり父母を愛するは一家を愛し一郷を愛する所以なり一家一郷を愛するは一國を愛する所以なり一國を愛するは世界を愛する所以なり彼此豈本末あらんや唯先後する所異なるのみ

人情より之を論ずるも國家主義の先んずべく世界主義の後にすべきは大に正當なるが如し山川草木我に親しみて笑ふが如く名都の美觀人を引くも未だ古山の風色我を迎ふるの喜ばしきに似ざるなり外國の文物制度美ならざるにあらず然ども幾多の歷史を有し幾多の變遷を經過し我が習慣風俗をなせる古國の愉快なるに如かざるなりされはある特種の事情あらざるよりは祖國を去りて他國に移轉するものあるなく國を奉じて他國に服從するものあるなし否國民の其特性に誇るは人情なり希臘人は美術に誇り獨逸人は哲學醫學に誇り英人は立憲政治に誇り佛人は才智と華美とに誇り米人は商賣に誇る是皆其長所を慢するものにして敢て異とするに足らざるなりワシントンを稱揚すれば米人喜びナポレオンを誹毀すれば佛人怒り孔子を稱讃すれば支那人雀躍し豊太閤を罵詈すれば日本人憤怒す獨逸の悦ぶ所未だ必ずしも佛人の同意する所にあらず英國人の悪む所未だ必ずしも米國人の一致する所にあらず人誰れか父母の善聲を聞きて喜ばざるものあらん兄弟の毀貶を聞きて憂へざるものあらん近きより遠きに及び卑きより高きに登るは人情なり人類の特性なり誰れか國家主義と四海兄弟主義とに先後なしと云ふか

我が日本四千萬の同胞よ白扇倒まに東海の天に聳ゆるものは何者の表章ぞや青光麗かに近江の奥に輝く者は何者の記念ぞや我國の面積狹しと云ふ？然とも人種の混合せざると國土の外人の爲めに蹂躙せられざるとは以て萬國に誇るに足らざる？我國の文明進歩せずと云ふ？然ども二千五百年の皇統連綿たると君臣の秩序整然たるとは世界に誇るに足らざる？見よ其天候温暖にして風景の雅致なる世界得易からず其人民は天上人種と稱せられ活潑鋭敏美術に巧に忠義の精神と温厚の德

とに富み其君主は仁愛にして常に善く功臣を撫し下民を親しみ君民の間だ慈母と孝子との如く萬國の景慕する所たり嗚呼此土に生れ此れが人民たる者其僥倖果して如何んぞや日本國民たる者誰れか楠氏の誠忠に誇らざるものあらん誰れか四十七義士の義膽を稱せざるものあらん此國土は我が同胞の生命なり此歴史は我が同胞の活力なり此生命と活力とは日本人をして日本人たらしむる所以のものにして此二者滅亡せば我が同胞兄弟何にか存ぜん見よ日章は翩々として東風に飜へり我が愛國の情を喚起するにあらずや誰れか世界主義は國家主義に先だつものなりとの妄言を吐露する者ぞ

凡そ經濟上の原則として分業より善きはなし一人にして履を造り米穀を造り衣服を造り鋤鍬を造り筆硯を造るは假令ひ行ひ得べしとなすも此れ唯一個人の私欲を滿足せしむるに過ぎず所謂る天地の化育を助け文明の實をなすに至りては到底望むべからざるの事なり手をして足の働きをもなさしめ目をして耳の働きをもなさしめ鼻をして口の働きをもなさしむ可ならん歟耳目鼻口手足頭腹各天與の職を盡し敢て過勞せず敢て過逸せず茲に初めて健全安康なるを得べし人類に至りても亦た然り世界分れて英國となり佛國となり露西亞となり亞米利加となり支那となり某となり某となる然ども是れ人類の五官なり手足なり頭腹なり英人は自ら其國を愛し佛人も其國を愛し露西亞人も亞米利加人も各其本國を愛し國民たるの義務に於て缺くる所なくんば人類全躰の繁榮幸福期して待つべきなりロスチャイルドを出すの國とヘーゲルを出すの國とロックを出すの國とは其國狀氣風時期自ら異なりヘーゲル國にして併せてロスチャイルド氣を學びロック國にして兼ねて孔子質を摸せば我れ未だ其可なるものを見ざるなり天の經濟は分業にあり美術國は美術を以て秀で學者國は學者を以て擢んで商業國は商業を以て職分を盡し各々其業を分たば天地の化育を賛する人類の義務に於て缺ぐる所なかるべし而して此特種の國風を維持し特種ノ國性を發達せしむる所以のものは愛國の本義にあらざるはなし否四海兄弟主義の本色にあらざるはなし誰れか二者

の間だに衝突する所ありと云ふ是れ本末の論と先後の說とを誤解するものゝ致す所なり

余は今愛國主義の陷り易き弊害と四海兄弟主義の陷り易き弊害とを述べて本論を終らんとす何をか愛國主義の弊と云ふ曰く自國あるを知りて他國あるを知らず自國の尊きを知りて他國の尊きを知らず自國の山川風色は歷史の着色習慣の裝飾あるが爲めに絕美の觀をなすものにして絕對的に美麗なるものにあらざるを忘れアルプス山の絕景もアンデス山の奇色に及ばずと思ひ琵琶湖の風色もヒマラヤ山の好景に及ばずと思ひ互に相擠排する所以のもの豈に正當の論ならんや人各其住する所に辟し其親しむ所に偏するのみ何をか四海兄弟主義の弊と云ふ曰く人類あるを知りて自他の別あるを知らず國家は自愛他愛の本根にして人類の職分を盡す所以なるを忘れ妄りに地方的破壞の擧動をなし天父を尊崇すれば異敎徒なる地上の實父母は之を賤しめ得べしと誤認し救世主を奉ずれば俗界的の國家、浮世的の兄弟を蔑視し得べしと誤解せり是れ愛情の法則の距離と反比例をなすの事實を忘たるの致す所なり豈正當の論ならんや蓋し國家主義と四海兄弟主義とは各其長する所あり短なる所あり我の長する所は彼の短なる所彼の短なる所は我の長する所故に二者の大眼目たる標的に達せんには須らく二者の力を假りて相提携するにあらざれば決して眞正なる國家主義の目的を達する能はざるなり眞正なる四海兄弟主義の目的を成就する能はさるなり之を譬へば國家主義は木根の如く世界主義は木葉の如し木根の健植を望まば併せて木葉の繁茂を圖らざるべからず木葉の繁茂を圖らば併せて木根の榮養を怠るべからず國家主義世界主義豈其根底に於て衝突する所あらんや豈其基礎に於て矛盾する所あらんや唯其の異なる所は先後の論のみ二者豈本末の別あらんや

宗教者の神經病

在長崎　嵯峨榮氣

一條の純金あり金工之を斷て圓錐形となし方錐躰とな

し或は各邊不同の角柱となす事あり其方其圓其平其直其意に應じて其形躰を異にする所以のものは必ずや己れが目的の用に恰當せしめんと欲すればなり然るに元條の純金更に其形躰の變するを見て以て之れか純金の質を失ふものと云ふものあらば誰れか其愚を笑はさるものあらんや方圓平直假令ひ其形躰を變ずるも純金の質は敢て其一部を失はざる可し

宗教なるものは一條の純金なり世界數千種の宗教は方圓平直其必用と其目的に因て之れか形躰を異にするものなり故に耶蘇教も金條の一片なり佛教も亦其一片なり回教神教も亦其一片のみ然るに世の俗論者は自ら其偏狹の思慮に縛せられて論して曰く余は佛教を信す耶教は眞教にあらずと耶蘇教家亦曰く佛教は眞の宗教にあらす回教は僞教なり高天の原は云々なりと甲論乙駁各一方に傾斜して徒に他教を罵るは猶純金の元條之を打ち之を斷り其形躰の變するを見て是れ鐵なり銅なり眞銅なりと云ふが如し純金の寃罪も亦茲に至て極れりと謂ふ可し

余が郷里に觀世音菩薩を祭るところあり其信徒數千人朝より夕に至るまで香火の消するときなし而して信者自ら曰く該菩薩の靈驗殊に著しく之を信じ之を祭り之を祈ると深ければ百病爲めに癒するのみならす菩薩の靈躰髣髴として夢寐の間に現れ諄々として語るが如く告るが如しと噫彼等數千の信徒其疾病の癒ゆるも其靈躰を目にするも之を信するの深き遂に神經の作用に出て迷誤に出ると云ふとを知らざるか宜なり東京淺草觀音の門前往來山の如く朝に夕に其距躂を絶たさるは豈に散歩的の信者のみならんや必ず其靈驗の跡彼れ等が神經の作用によつて其腦裡に一種不可思議なる感情を惹起すの徒多ければなり又看よ法華(ホッケ)宗の信徒が終夜祈禱に凝つて疾病妖禍を避けんと欲するも神經の作用爲めに其感動を起すとなくんば數百年間數千の信徒が信仰の爲に形容枯槁するも尚且顧みさるが如きとあらんや

耶蘇宣教師常に余等に告げて曰く基督教は深玄高妙にして世界數千種の宗教に卓越するのみか之を信ずると

深ければ能く神靈を感じ之を祈ること厚ければ百疾癒やすことを得千禍避くることを得神の形躰を見ることを得神の語言を聞くことを得可しとこれらは彼の神經の迷語によつて彌陀佛を目擊し觀世音の靈躰に接することを得ると云ふの輩と毫も異なることなしされば聖書中の奇蹟を信ずるの徒は神は能く水を以て葡萄酒を作り一本の人骨を拔きて徒手能く完人を作ると云ふが如きの類皆信じて疑はざるなり然ども此等の奇蹟を信ずるものとせば高天原を信ずるの徒が國尊立の尊がスッテキの滴より「オノコロ」島を作れりと云ふも亦虛談にあらざる可し蓋し世界千種の宗教は大概不可思議なる奇蹟を以て其布教の必訣となすものなれば今事新らしく之を攻擊するにあらずと雖ども各宗教家が信ずる所に沈溺して互に誹毀する如きは宗教家の不見識と云はざる可からず否不見識は之を恕す可し不可思議なる感情を惹起して「ミダ佛」を目擊し清正公と面會し「ゴッド」と肱を交ゆるが如き神經病を煩ふを思へば憫然の至りに堪へず我國田舍の古俗に鰯の頭を信仰して瘧（ギャク）を癒やすものあり而して彼等傳へて曰く之を信ずること深ければ鰯頭も烱々として光輝を生ずと余曰く神經の作用此事なしとせずされば「ゴッド」を見る人「ミダ佛」に遇ふの人何ぞ異しむに足らん世の宗教家よ「ゴッド」の靈躰を見たるもの「ミダ佛」なしと云ふことなかれ「ミダ」の靈驗に感したるもの亦「ゴッド」なしと云ふことなかれ清正公の靈に感したるもの亦鰯の頭に光輝なしと云ふことなかれ自宗教が金條の一片たるを知らば他宗教も亦金條の一片たるを悟了せざる可らず況や世界數千種の宗教は人民の文野國運の消長時勢の如何によつて各其色を異にし其方法を不同にすと雖ども要するに人を善に導き惡を懲らすの筌蹄たるに於てをや

（未完）

傳　記

ヂヨン、スチユアート、ミルの傳

スチユアート、ミル氏の自傳を讀みし者は氏の生涯に二大時期あるを記臆せらるべし其一大時期は氏がウェ

ストミニスター、レヴヰウ（雜誌の名）との關係を初めしの時にして此れが直接及び終局の結果は實に重要なりき氏は其性勤勉にして孜々怠らず終に神經力の病を起し深沈憂鬱全く氏を强迫し去れる者の如くなりしが其ベンザム主義を懷抱しウエストミニスター、レヴヰウを興すに至り初めて一生の目的を定め改革者たらんとの大望に依り一時の間激浪天を衝くの勢を以て世の反對論者を博擊せしが反對論者も亦た旗幟を飜へし矯言激語一世の氣力を振ひ狂激なる改革者を反駁せりミル今二十歲―之を世人に比せば少年なるべきも三才に於て希臘語を讀み七才に於てプレトー、アリストーテルを讀みし氏に取りては老年とや云ふべき―思想猝かに異狀を呈し神經遲鈍に平時愉快となす所のものも無味無關係となり恰もメソディスト改宗者が初めて自ら其有罪を確認せし時の如くなりき氏自ら問ふて曰く汝が一世の目的悉く實行せられ汝が前途に希望する諸制度諸論說悉く世の容るゝ所となると假定せよ是れ大に汝を悅ばしめ汝を幸福にするに足る？」と氏自ら答へて曰く否！◎否！◎と此に於てか生命は空虛となり精神は內に沈み非常の價と非常の注意とを以て建設したる思想希望目的の美屋は夢の如く消失し人類を愛するの心も秀逸を愛するの情も磨滅して其跡を留めざるに至れり氏自らコレリッヂの詩を引き正しく其心情の然りし所以を明にせり其詩の大意に曰く

其憂愁たるや苦痛なく空虛暗黑恐怖にして言語嘆息涕淚の以て之を發出するなく窒息せられて情意の鬱結する物すごき憂愁なり

ミル氏又た自ら之に附加して曰く「余は自己の感情を他人に語りて愉快を求むることなかりし余をして全く我が憂愁を一任し得る一世の親愛あらしめば其情態斯の如くならざりしなるべし」と

氏が斯の如き不幸に陷ゐりし所以のものは他にあらず氏は信任の何者たるを知らず愛情の何者たるを知らず從つて靈的生命の俄然湧出するに當り此等の門戶の必要なるを知らざりしによるなり否氏は其萬事憑據する所の父ヂェムス、ミルに於ても信任愛情の心情存ぜしを知らざりしなり氏が其父より受けたる敎育は乾燥にして此等の危急に應ずるの用意なかりしかば氏は光明を得ず暗黑の中に苦難を忍べり氏が此時に於て此の如き惡結果を來せし敎訓其者に就きて疑問を起さゞりしは奇と云ふべし氏は父の敎育の原理を疑はざりしにあらず然れども氏は分解的習慣の訓練を以て父の過ちと

なし家庭教育に於て怠慢に附せられたる人類的愛情人類的行爲の缺點を見出す能はざりき氏の生活は今まや理想なき生命となれり其幼時に於て拒絶せられ委棄せられたる勢力勃然として感起し内心に向つて喚呼するも對ふるものなく氏は孤り沙漠の中に冷然として難澁の返響を聽くのみ氏は之を以て自己の特性となすも是れ決して特性なるにあらず避くべからざるの結果なり余輩は他日精靈的生命及び生長の法則を知り之を精算し熟知すると倘ほ身躰的生命及び生長の法則の如くなるべし今スチユアート、ミルの實驗によりて之を徵するも熱心に生命の巡禮をなす者は影溪を横ぎり玆に惡魔と開戰せざるべからざるを知るに足らん

此影溪より氏を救出せるものを何とかなす氏自ら謂へるあり「余は偶々マルモンテル氏の記念文を讀みしに氏の父の死を記し家族の難澁を記し併せて氏が兒童ながら不意の感應により家族に對して萬事となく父の代理となり得べきを感ぜしを記せり余は之を見て當時の形狀を活寫し來り大に感情の動かす所となり思はず暗淚を催ふせり是れより余の心情稍輕快となり從來感情の湮滅によりて抑壓せられたる思想も今は稍壯快となり木石にあらざる前途望みなきにあらざる一人物となり幸福の材料たる凡ての人性凡ての才能已れに存せざるにあらざるを知るに至れり」と

余は再びマルホンテルを呼びて讒語家と爲さゞるべし此の如きの人は失望の深淵より斯の如きの人を救出し世界をしてスチユアート、ミル自殺の爲めに失はれんとする所のものを保護せんが爲めに天の降したる使者なるべし多育の少年スチユアート、ミルが利學の爲めに若しくは叉た感情の源泉乾涸せるが爲めに苦痛に堪へず將に自殺せんとするの時に當りマルモンテルの紙上に發動せる勇膽、熱心、實義の感情は氏を刺激して生命の爲め世界の爲め氏をして自殺の念を絕たしめたり爾來誰れか感情を誹謗するものあらんや、

此實驗より生ぜし三重の結果あり(第一)氏は父の辛苦なる訓練によりて小兒の時より壯年に至る迄道德は組織物の如く惡行には苦痛伴ひ良行には愉快從ふ者なりとの敎訓を受けしも氏は其道德力分解の才能によりて將に其本根を破壞せんとせしが感情の一擊は氏に深重なる警戒を與へり(第二)氏は功利的生活をして快樂ならしめんには宜しく感情を養ひ併せて推理力及び活動力を實認し根本的思想と信仰とに於て全く其意見を異にせしコレリッヂ、ウオーヅウオース等の記者と同憐

の新氣を呼吸し其感情を容るゝに至れり是れ氏の文章に包容の音調を與へ氏の屬せし功利派に風致上實際の優等を與へし所以にして氏をして其勢力の範圍を擴張し心理一學派の辨護人より一躍して諸學派の深沈なる批評家となりし所以なり（第三）氏は此時より生活の新説を構造せり是れ氏の得たる實驗の最大根抵なり勿論氏は尙ほ幸福を以て人類の善を度るの度量となし行爲の規則の試驗石となし生活の固有の目的となし生活をして價値あらしむる所の唯一のものとなせり然れども氏は幸福に就きて左の特性あるを發見せり曰く幸福を得んと欲するものは他物を狙ふべし幸福は反飛して來るものなり最良の兵學は側面より進むを善しとす夫れ然り善く幸福を得る者は他物を狙ひ理想的目的を目的とすべし幸福は之に伴ふて自然に來るものなりと氏曰く直接に幸福を求めんよりは路傍に於て之を求むるの機會あるに如かざるなりと、

然ども功利論者をして人類成立の絶對的唯一の目的たる幸福は直接承認の目的となす可らず唯此大目的に從屬せる他物を標的とするに非ざれば眞正の幸福を得る能はずとの註釋を與へしは不思議なる論理と云ふべく功利論者をして其哲學の基本たる思想に就き其信ずる所の眞理に就きて最大なる疑惑を懷かしむるに至りしは奇と云ふべし茲に菓子を好むの老人あり公然直接に棚上に之を求めんよりは之を紙閣に藏し之を書中に貯へ不知不覺の間だ偶然之を得るの旨きに如かずと云はゞ又一理なきにあらず然ども眞正なる人生の目的を以て老人の菓子に比するは奇怪なる恩惠と云ふべし老人は菓子を以て眞正なる目的となす者にあらさるなり眞正なる生活の目的は眞正なる生活の目的として思考し勤勞すべきは當然にして偶然的第二の目的こそミル氏が大目的を得るの最上手段となす如く之を側面より觀察すべきは世上一般の通則なり若し幸福をして生活の眞正なる標準眞正なる目的ならしめば何故に求めざる所の諸人の掌上に落つべき？直接に幸福を求むるの不可なる所以は是れ幸福なる者は生活の固有の標準固有の目的にあらざるが故なり是れ幸福なる者は其れ自身重大なる目的物にあらずして一層高等なる目的を求むるの時に當り自然に結果し來る所の褒賞なるを知るに足らん實に人類行爲の唯一の標準及び最良の果物にして深く劣等なる諸目的のひだの中に包含せられ之を味はゝんと欲する者は偶然的に觸れざるべからずとは信ずべからざるの説ならすや愉快を以て生活の最大目的

となさゞるの時は其快樂愈々大なる所以のものは蓋し此等の快樂なる者は生活の最大目的たるにあらず唯此最大目的に到達せんが爲めの偶然的奬勵に過ぎざるの事實を明にするもの〻如し余は此等の批評を試みしも深く之を考へ人生の最大幸福を以て德、親切、無慾にありとなさば道德論に於ける功利論者と他學派との異なる處は唯言語上の爭論たるに過ぎざるなり

スチュアート、ミル氏は上述の說を立て併せて後年結婚の伏因をなせし女人と交際し玆に氏の生活に重要なる二大事を生ぜり氏が其目的を確定せる其一なり氏が後來の著書を感應せる其二なり世上傳記多しと雖どもミル氏とテイロル夫人との間だの如く其結合堅固なりし美談なかるべし二人の風致は相混入し生活の目的は一にして其大望も亦た同一なりき氏がテイロル夫人を賞讃する所のものをして愛情の小說ならざらしめば氏が著書の感應は全く此女婦の賜ものなりと云ふも不可なかるべし實に彼女は氏が尊敬の目的物となれり蓋し人として崇拜心なきはなく宗敎心なきはなし是れミル氏が彼女を以て崇敬の目的となし終に結婚の大儀を擧げミル夫人の光榮なる名目を與へし所以なり

ミル夫人（元テイロル夫人）は美容芳顏の姿色を備へ怜悧溫厚の心性を具へ併て淸亮明確の音調を有せり通常の交際に於て夫人を知れる者は特種の詼謔に秀で特種の才能に擢づるとして稱揚せり夫人は其性丁寧親切之に加ふるに自由の愛あり人類の愛ありて其精神に一段の愛情を養成せり夫人は直覺の力に於て明暸緻密迅速にして之に加るに情的熱的の賦性を以てし其天眞をして益々爛熳たらしむ夫人の其夫に於るは猶ほ朝に飛揚する所の雲雀の歌の如く其音調や純白にして露滴の如く其調子や淸明にして夜影の正に去りたる空氣の如しミル氏が其妻女を記するに當りて筆力自ら活動し音調に精氣的靈氣的のもの存ずるが如きは此れが爲めの故なり特に妻女の思想に富み併せて實行に富みしはミル氏の思辨をして實行を越へ直接の方針を取らしむるの効力を有せり世の文學史上に於てミル氏夫妻の如く風致目的事業に於て交錯せるものなかるべく又たミル氏の如く公然妻女の援助に向つて感謝を表せしものなかるべし

テイロル夫人との交際以來ヂョン、スチュアート、ミル氏が若年の氣風を造りし所以のものは全く廢絕せりと云ふも不可なかるべし蓋し氏は少より三十年に至る迄一生の著述の爲めに持說を造り材料を集めしものなる

が如し其初めは父の研究になれる嚴正なる心性の訓練を受け次にベンザム及びヂェームス、ミルの學派の影響を受け次に自己の實驗によりてベンザム主義及び哲學的根本主義を脱離して生活の稍廣潤なる區域に入り人類及び社會の稍寛恕なる境界に進入し最後に妻女の感應を受けり氏の傳記に於ける此等の容形は凡て自然的の結果を生じ氏をして思辨的哲學の領分に於て當時最大の英人となせし所以なり

（未完）

叢談

○感應

感應は一宗に限ぎられ一時代に制せられ一國民に止まるものにあらず其廣きは世界に均しく其普遍なるは上帝の如く人類の初代に於て數人に與へ數人をして之を專有せしむるものにあらざるなり卿等も余も世界の老耄時代に生し零落時代に出でたるにあらず見よ諸星は烱として光輝を放ち嘗て初世と異なるなく「最古の諸天も新鮮强健」にして鳥雀も清心快活に嘗て上古と異なるなし上帝は今日尙ほ自然界の各處に在せり竿にも棒にも在せり岩にも山にも在せり愛の鼓動する處に上帝在し嘗て祝巫預言者等の心に在せし時と異なるなしゲリジンもヂェリユサレムも耶蘇が善者の心の如く聖なりとて惠みし土地も上帝の存在に於て他と異なるなし此感應は決して單に學者のみに與へられたるものにあらず大人賢士のみに與へられたるものにあらず誠實なる神子は皆與へられざるなきなり」世界は人躰に密接し上帝は精神に密接せり見よ蒼天偏する所なく大人も少年も皆其覆ふ所たり人をして其帽を脱せしめよ彼と無窮の空との間だに何者か存ずる見よ上帝黨する所なく何人か其恩惠に俗せざるものあらん精神をして情、慾、罪を脱却せしめよ精神と上帝との間に何者か隔つる上帝の精神に注入するは光線の空中に來るが如く心清き者の上帝を觀るを得るは猶ほ晴眼の光線を視るを得るが如く誠實の生活をなす者は上帝の面前にあるを感ぜざるとなし

然とも此れ實驗併びに抽象的推理の敎理なり其何人たるを問はず心を盡し誠意を盡し大に祈禱せるものは此敎理の眞實なるを知るべし人にして天命の重きを感じ徒費せる光陰の思想我を擊ち失望せる戀愛の情我を刺

し人類の悪性を歎じ我が徳性の卑汚なるを慨するの時あらざるはなし此等外界內界の試惑人をして方向に迷ひ心意を沈淪せしむるの時に於て精神を靜かにし內心を上帝に奉ぜば光明、愉快、平和彼の上に來り諸種の苦難は履上に於ける露滴の如く敵心、嫉妬、希望、恐怖、浮聲、俗恥、其他塵生の不幸は見界の外に消失し彼れが背後に殘したる溪谷の雲霧の中に覆はるべし是に於てか決定心强健なる双翼を張りて來り眞理の明かなる日中の如く信仰の精神上帝に突進し玆に初めて不可思議終りを告ぐべし　（セオドル、パーカー）

○スペンサー氏と門弟との問答

ハーバート、スペンサー氏の進化倫理學に欠點あるは余輩の信ずる所なり今まビックスビー氏著書の一節に於て表題の如き有益なる想像問答を記せるものを取りて左に譯載す

スペンサー派の倫理學に於て免るべからざる權威の欠點を明にせんが爲め余輩をして具躰的事實を取り充分に精考せしめよ余輩をしてスペンサー氏の一弟子に其徳性遺傳の汚す所となり不幸にして自愛の心、他愛心の上に出づるものありと假定せしめよ此弟子其住屋已れに屬せずして隣家の富人に屬せるの證文を發見せりと假定せしめよ弟子は其性遺傳によりて我欲なるが爲めに密かに證文を破棄し不正に家屋を私有せんと決心せりと假定せしめよ時にスペンサー氏來りて始終を聞き其不正を尤め論辨せしと假定せしめよ偖スペンサー氏は如何なる道理によりて論辨し弟子は如何なる基礎によりて防禦すべき？思ふに其問答左に掲ぐる類なるべし

スペンサー氏曰く　卿は此證文を破棄せんとす是れ甚だ不可なり

弟子曰く　何故に然る？

スペンサー氏曰く　家屋は卿の隣人に屬し卿は隣人の幸福を減殺するの權利なければなり

弟子曰く　隣人は既に財產に富み其管理に苦しめり今此を取りて余の有となすも彼の幸福決して減殺せざるべし之に反して我れ之を失はゞ余は病妻兒子と與に苦難に沈み餓死するに至るも知るべからずされば余の行爲は自己及び他人に幸福の大なる聚合を與ふるものなれば正當なり是れ貴下の平生敎示する所なり

スペンサー氏曰く　卿は余が常に幸福の聚合は直接に算量すべ

きものにあらず將た又た直接に目的とすべきものにあらずと云を忘れたる？幸福を得んと欲するものは不變なる安康繁榮の形狀に注目するを善しとす正義の如きは其最もなるものなり

弟子曰く　苦痛と愉快とは細密に之を量定する能はざるにあらずや然るに貴下は如何にして正義なるものが一般の安康繁榮に緊要なるを知らるゝ？

ス氏曰く　卿自身の良心是を告げざる？

弟子曰く　貴下の教示せらるゝ如く良心の聲は神性を有するの權利なきに反つて是れありとなし甘言以て人を欺くものなり用心を離れたる義務の思想は貴下の平生教示せらるゝ如く唯「幻影的の獨立」に過ぎず良心の玉坐は褫奪せられ良心の冠笏は「連想」なる謀略的仙女の奇計によりて搆造せらるゝにあらずや余輩は斯の如き欺騙者(良心)に對して一も從順の負ふべきなし人の行爲は其如何なる塲合たるを問はず單に用心不用心によりて其善悪を決すべし其他は關する所にあらざるなり

ス氏曰く　兎にも角にも良心の聲は過去より積み來りたる實驗なりされば此聲は不正義より生ずる悪結果を教ふる所以のものなり

弟子曰く　貴下は自ら余に教ふるに古代に於ては迷信の徒不明の士多く今人は大に古人に優る所以を以てせしにあらずや無學野蠻なる余輩の祖先にして善悪の如何に就き若しくは又た自己及び他人の安寧繁榮に就き今人よりも特に進化學の大眞理によりて開發したる學者の道理力よりも一層善良の思想を有せしとなすは余の信ずる能はざる所否貴下も亦た自ら信ずる能はざるべし余は常に正邪を決するは他人によらず自己の道理に依頼すべきものなりとの教旨を拜受せりと思へり貴下の數々熱心の音調を以て輿論を正當となす所の諸人を訓戒せしにあらずや其然り今人の輿論未だ必ずしも正不正をなすに足らずとせば古人の輿論も亦た必ずしも正邪を決ずるに足らざるなり貴下は余をして余輩祖先の道德的思想を悉く信用すべしと云ふにあらざるべし貴下は「倫理の基礎」に於て高等なる感情の無上權は唯「條件的無上權」(クオーリファイド、スツペリマシー)なるを示し併せて劣等簡單なる感情は通常に於て高等複雜の感情に劣るべきも反つて「時に大なるとあり」と教へしにあらずや

ス氏曰く　然り余は卿の言によりて其然りしを回想せり然ども余は又た天稟の正義の觀念は其形を正しく

し併せて分解的智力によりて之に適當の琢磨を與へて精密にせざるべからざるを明にせり

弟子曰く　今回の事に於て余は貴下の敎示せる如く爲せり

ス氏曰く　然ども如何なる分解を用ゐるも不正を以て正より善良なりとなし得るものなかるべし正は其特別なると一般なるとを問はず幸福を獲得する一般的標準的の好方便なり

弟子曰く　然り貴下の謂へる如く正は方便にして幸福は目的なりされば目的を得るは方便を用ゐるよりも重し夫れ正邪は貴下の敎ふる如く外界の狀態によりて變ずるものなれば余の外界なる家族の事情は一般法則の變形を要するや明なり若し余をして單に正義のみの行爲をなし家屋を拋棄せしめば家族と余とは貧苦に沈み餘生誠に哀れむべき境遇に陥ゐるべし貴下は「社會學の研究」なる書に於て是れと類似の例を語り自由追求を論じ「方便の價値は目的の獲得せらるゝ分量によりて度るべし故に假令ひ名目のみ充分に方便のみ善美なるも唯其目的の一部分を得るに過ぎずんば是れ不充分なる方法を用ゐて一層充分なる目的を得るの優るに如かざるなり」と余が今正不正なる方便を用ゐて幸福なる目的を求むるも亦た然り此場合に於て不正は眞善の方便なり何となれば快樂をして苦痛の上に立たしめ最上の善を得べければなり貴下は「倫理の基礎」に於て謂へるあり曰く「全て個人的、普及的、直接的、間接的に生ずる諸結果を總合し人類の幸福を進捗するものを名けて正生の法則となさば直接の結果は悉く之を拒絶し單に遠隔の結果のみを承認するは不條理の甚しき者なり」と今直接の結果は同音余に語りて曰く家屋の他人に屬する證書を破棄せよ是れ余と家族との幸福を保持するに最も安全なる最も迅速なるの方便なり否夥多の財產あるが爲めに却つて之れが處理に苦しめる隣人の幸福なり

ス氏曰く　然とも人皆斯の如くせば社會は解崩すべし正義は社會的秩序のセメントなり卿今不正を行ふ是れ相互の信任を瓦解し一般の義氣を溶解するの傾向を生ずるものなり而して信任と義氣とは社會を繁盛にし之れが事業を高尚にする所以なり

弟子曰く　貴下請ふ尊慮を勞する勿れ余は其行爲を廣告せざるべし貴下と余を外にして天下知る者なしされば擬似者を生じ若しくば又た他人の行爲將來の行

爲を動かすとなかるべし假令ひ世間之を知るとなすも余は唯無名の一人物なり其例未だ以て世を影響するに足らず况んや余は深く之を秘し他をして知らざらしむるを期するおやされば惡結果生ずべしとなすも記するに足らざるの小事なり後日の惡果をして今日の余と家族とが直接に得る所の善果に超越せしむる如きは萬是れなかるべし超越する所のものは快樂にして行爲の正當なるや論を待たざるなり

スー氏曰く　卿は忘れたる？余は卿に人に苦痛を與ふるものは充分に正當なるものにあらずと敎へしにあらずや而して卿が今日の處置は何事ぞ余をし震慄悲哀に沈ましむ

弟子曰く　實に余の行爲は絶對的に正當なるにあらざるなり否貴下の敎示せられし如く今日の不幸なる外界に接し不完全なる進化の時代に於ては如何なる行爲も絶對的に完全なる能はざるなり余をして眞正の所有主に家屋を返却せしむるも是れ未だ十分に正當なるにあらざるなり何となれば貴下の「倫理の基礎」に於て敎示せられし如く「行爲の完全的に正當なるは唯特別的普通的に將來の幸福を誘ふのみならず併せて直接的に快樂を與ふるもの丶みなればなり」其れ然り余は今日證書を破毀するも之を破毀せざるも幾何の惡行をなすものなれば寧ろ快樂の直接的個人的にして安全必至の者を選み普及的にして一般の繁盛を來すも其報酬遠隔にして不確實なるものを取らざる所以なり

スー氏曰く　余は卿が斯の如く我欲心に吸收せられ斯の如く他愛の憐情を忘却したるを怨まずんばあらず見よ他愛の憐情なくんば他人を顧みるの行爲なく他人を顧みるの行爲なくんば社會の開發すべき理なきなり

弟子曰く　貴下は明に純粹の「他愛心は自殺的なり」と云ひ又た「自愛心は内心刺激の順序に於て他愛心に先だつものなり」と云ひ又た「他愛心は社會の完全に發達するに從ひ其範圍を擴大するものにあらずして却つて縮少するものなり」と云ひしにあらずや余は此等の原理の正當なるを確信するのみならず併せて此等の原理に從ひ機會の乘すべきあらば之を實行せんとを期せり

スー氏是に於て沈重の顏色をなし其「社會學の研究」中の一文を誦しつ丶出で往けり其文に曰く「倫理學の功利的組織は今日に於て僅少の學者尙ほ且つ正當に

了解する能はず知るべし是れ全く多數人の心力外にあるものなるを

熊澤了介曰佛と云ひ神と云ひ聖と云ひ名を爭ふこそむつかしけれ大虛に二道あらむや教は水土によるべし三種の神器にて心法も教も政もよく調て欠るをなし堯舜傳授の心法は則天下を知るの政なれども執中の二字に過ず我は佛をも信ぜし儒者ともならず只天下に二なき道を學ぶべし上に名なくして叶ましくば我國の事なれば神道とやいふべき

雜　錄

○白狐

白狐あり駿河臺にあり形なくして能く言ひ躰なくして能く聲をなす是れ稻荷大明神なりと迷ふ者往き嗅ぐ者往き驚ぐ者往き不思議がる者往き學者迄も往けり」白狐茲に於て得々たり託宣を傳へ預言を傳へ疾を癒し禍を避け福を與ふ一犬虛に吠へて萬犬實を傳へ遂に警察の手に繫り一家悉く捕縛せられ稻荷の本元下女のおきん其正躰を現はし罰金を頂戴せり」我が皇國文明に進みたるか天下何ぞ愚人の多きや皇城の下白晝人を欺き恬として自ら愧づる所を知らず何ぞ社會制裁力の薄弱なるや」學者教育家宗教家！願はくは其上層に用ゐる處の全力を擧げて社會の下層に埋伏する迷夢を攪破するにあらずんば此社會を如何んせん此日本帝國を如何んせん

左の一篇は田口卯吉氏が諸新聞に投書して江湖に明示せられたるものなり自由討究の精神に於て大に余輩と其意見を同ふするを以て茲に之を轉載す

○神道者諸氏に告く

久米邦武氏が「神道は祭天の古俗」と題してものせられたる一文は、實に古人未發の意見にして、余の最も敬服せし所なりき、是を以て余は之れを我史海に掲載し世人をして成るべく之を一讀せしめんとを欲し、特に神道諸氏をして熟讀の上之に對して其意見を表白せしめんとを望めり、

然る所以のものは何ぞ余は我邦神代の諸事は尙ほ學士に向ひて十分に研究の餘地を存するありと認めたればなり余は我邦に於て神代の諸事を最も綿密に研究せるものは神道者に多しと推定したればなり余は我邦の神道者は必らず喜びて久米氏を迎へ共に眞正の事實を世に顯はすことを勉むるなるべしと信したればなり

此點に於いて余は先づ辯明せざるべからざる一事あり余は耶蘇教信者にあらざると是なり、余は嘗て信者の一人たりしとあり、然れども數年前に於て既に退會したり、故に余は異宗の故を以て神道を敵視し、之を破壞せんと欲するものなりとの邪推は切に御免を蒙むらざるべからず、然るを況んや皇室の尊嚴を打破し奉らんとするの邪推に於てをや、余と雖も憚りなから日本國の一民なり、國家萬一の場合に於て孱腕たりとも國家の干城たるに於て、未た必ずしも神道者諸氏の後にあらざるとを期するものなり、憚りながら余輩武夫は斯る場合に於ては往時の神道者流か天神地祇を祭りて怨敵退散を祈りしか如き方法を以て忠義の極意とは認めざるものなり、余は久米氏も必ず此點に於ては余と同一の人なるとを保證するものなり、余は久米氏の文に於て一點も神道を敵視したるの意志を發見せず、又た久米氏の位地と從來の履歴とに徵するに氏は斷して皇室に對し不敬の文字を陳列するの意志ある者にあらざるを知るなり、嗚呼豈に久米氏のみならんや此の如き愚見は今日に當りて日本國中第一等の瘋狂者を誘ひ來るも之を口にし之を筆にするものあらんや、

唯々問題は日本古代の歴史の研究は今日の儘に放擲して可なるやと云へると是なり、本居平田等が古事付けたる解釋(或る反對者か余を評したる語を借用す)の他に今日の人民は新説を出すへからさるや否や是れなり新説を出せは皇室に不敬なるや否や是なり、嗚呼余は之を信せざるなり、余は固く信す、日本人民は隨意に古史を研究するの自由を有するとを、余は固く信す、隨意に古史を研究するも皇國に對し不敬に渉らざるとを余は固く信す、神代の諸神は靈妙なる神靈とならずして、吾人と同一なる人種則ち飯も喰ひ水も飲み踊も踊り夢も見玉へるものとなるも、決して國躰を紊亂するものにあらざるとを、余は固く信す、皇室を敬し國家を愛するの氣は、彼の本居平田等の如く單に古事記の語義を尋思して研究するよりも、廣く人種、風俗、言語器物、等に就いて研究するの間に於て盛に發揮すべきとを、余は固く信す、平田等か靈の眞柱に於て述ふる所の造化三神の說は耶蘇の三位一躰の說に類し、吾人をして信せしむるに足らざるとを、余は固く信す、若し此の如き舊說の外に新說を發表するは國躰を紊亂するものなりと云ふが如きあらば、有識の人物は復た古史を繙くなきに至らんとを、見よや、彼の水戸の義公が古史を隨意に研究したるを見よや、思ふに公の皇室

を重んじ國家を愛したるとは、神道者諸氏の洽く首肯する所ならん、然りと雖も公は大日本史に於て神道者諸氏が最も尊信する所の神代史を抹殺し去りしにあらずや、其神武天皇紀中に神代の事を記する所ありと雖も、造化三神も國常立尊も神異不測の四語を以て抹殺せられたるにあらずや、今神道者諸氏か久米氏を責むるを見るに、曰く天御中主神以後一系連綿たる皇統も架空の説に歸すべきなりと然れは大日本史か全く之を抹殺し去れるは如何假令想像たりと雖も自ら信すべき部分を執りて之を記するは尙ほ信用を存すと云ふべし神異不測として抹殺するに至りては復た諸氏か國祖とする所の神名をだに知るべからず諸氏之を何と云ふや諸氏が皇室の尊嚴を損し國躰の秩序を紊亂すると云ふは恐くは久米氏にあらずして水戸義公にあらざる乎余か歷史を研究するの方法は諸氏と異なり、余は大日本史と同く信すべからざるものを抹殺するなり、久米氏と同しく苟も信すべきものあらは之を採擇するなり余は之を以て皇室に忠に國家に愛なるものと信するなり、夫れ史家の邦國に於ける猶ほ忠臣の其君に於けるか如し、事々物々君意是れ奉する必しも忠義にあらず頌言美辭是れ記する必すしも良史にあらず、支那に於ては堯舜禹湯文武周公の如き賢君、若くは桀紂の如き惡君の世を經て春秋と云へる亂臣賊子の方に其暴横を逞うせる時代、西洋に於てはバビロン、アスシリヤ、フヒニシヤ、埃及等の文明を經過し、希臘諸國互に相攻戰せし時代に當りて、東海の一孤島なる日本帝國は尙ほ神靈の坐せし時代なりと稱するも、決して國躰を貴からしむるに足らず、故に余は神代を研究するに當りて勉めて吾人の祖先は吾人と同一なる人種なりとの主義を執るなり、余は却りて之れを以て國史を改良するものにして、實に皇室に忠に、國家に愛なるものと信ずるなり、

然りと雖も余は敢て神代の尊命達（ミコトミコト）を以てカミにあらずと云ふにあらざるなり、舊史を案するに神代の尊命達は、申すに及ばす、神武以後と雖も自ら稱して「カミ」と云へるもの多し、萬葉集の諸歌を閲するに、天智、天武の如きも、「クニツミカミ」と稱せられたり、思ふに時世の悠遠に從ひ古代偉人の神靈に近邇するは各國皆な然り、然れども我邦の如きは「カミ」と云へる語を以て神祇の二字に配せしより、上古の尊命皆な神靈と成れるにあらずや、若し夫れ我舊紀にして是非とも神代の尊命は神靈の如く解釋せざるべからざる義あらば、

余と雖も敢て好みて異論を立つるものにあらずと雖も我舊記は尊命達を以て吾人と同一なる人種なり、即ち吾人の祖先なりと解釋するも差支なし、何ぞ殊更に平田等の解釋を遵奉することを是れ爲さんや、

余輩は古事記の解釋に於て斯く自由なる主義を有するのみならず、古事記其物の本文と雖も、字々句々皆な眞事實を記するものなりとは信ずる能はさるなり、此點に於ては余は先づ神道者諸氏に向ひ古事記の編輯如何にして成りしやを述べさるべからず、是れ古事記の序文を研究するに如くなし、曰く

於レ是天皇詔レ之、朕聞諸家之所レ賫帝紀及本辭、既違ニ正實一多加ニ虛僞一當ニ今之時一不レ改ニ其失一未レ經ニ幾年一其旨欲レ滅、故惟撰ニ錄帝紀一討ニ覈舊辭一削レ僞定レ實、欲レ流ニ後葉一時有ニ舍人一姓稗田、名阿禮、年是廿八、爲レ人聰明、度レ目誦レ口、拂レ耳勒レ心、即勅ニ語阿禮一令レ誦ニ習帝皇日繼及先代舊辭一然運移世異、未レ行ニ其事一矣、伏惟皇帝陛下、得レ一光宅、通レ三亭育、(中略)於焉惜ニ舊辭之誤忤一正ニ先紀之謬錯一以ニ和銅四年九月十八日一詔ニ臣安萬侶一撰ニ錄稗田阿禮所レ誦之勅語舊辭一以獻上者云々

此文を熟視せば一は以て古事記の成る所以を知るべく一は以て古事記に對して幾何の信用を置きて可なるやを知るべし、蓋し我邦に於ては皇室を始め朝廷名族の諸氏に於て皆な知るべからざるの古代より、口々に相傳へたる舊辭ありしなり、推古天皇の二十八年に至り聖德太子は蘇我馬子と共に、天皇記及ひ國臣記、連、伴造、國造、百八十部幷公民等の本紀を錄し玉へり、是れ蓋し皇室及ひ諸家に傳へたる舊辭に因りて之を輯錄したるなり、說者曰く是れ則ち今日傳ふる所の舊事記なりと、或は然らん、然れは是より以後一方には漢文にて綴れる歷史あり、一方には口々に傳へたる舊辭ありしなり、天武天皇は則ち其口に傳へたる舊辭を訂正撰錄せんと企て玉へるなり、天皇の勅に見るに或ひは曰く既に正實に違ふと、或ひは曰く僞を削り實を定むと當時舊辭の紊亂したりしを知るべし、夫れ聖德太子蘇我馬子の時より以後既に一方に漢文の歷史あり、然るも尙ほ虛僞を傳へたり、然らば則ち知るべからざるの古代より聖德太子及馬子の時に至るまて、日々相傳へたる舊辭に虛僞なきことを保證し得べきや否や、且つ又た聖德太子と馬子とは果して正當なる歷史眼を備へたるものなりしや否や、然り而して天武天皇は討ニ覈舊辭一とあれは、此等の歷史及ひ諸家の口誦を討覈し口つ

から稗田阿禮に敎え玉へるなり、天武天皇の討覈は果して一々其當を得たりとするも、稗田阿禮が此勅語舊辭を天皇より承りてより和銅四年に至るまで二十餘年を經たり、一字一句能く忘却するなかりしや否や、然り而して太安麿亦之を撰錄すと云へは、多少取捨せしなるべし、殊に其序文中左の文あり、曰く亦於姓日下謂玖沙訶、於名帶字謂多羅斯、如此之類隨本不改、と然らは則ち古事記撰錄の時亦た舊本に據りしなり、其舊本とは必ず聖德太子馬子等の撰錄せしものならざるべからず、而て安麿の史論に至りては余は最も不賛成を表する者なり、夫れ壬申の一亂は其事情實に錯雜すと雖も、弘文既に即位し玉ひし後に至りて天武兵を興して之を弑し天位に即き玉ひしを見れば其正非知るべきのみ、然るに安麿は此變を記して曰く

杖矛擧威、猛士烟起、絳旗耀兵、凶徒瓦解、

と云へり、夫れ正統の天子弘文の官軍を稱して凶徒と云ふ、是れ實に阿世の小人なり、吾人何ぞ之を筆誅せざるを得んや、之に因りて之を思へば古事記の原料は第一に其君を弑し奉り、且つ神道を排斥したる蘇我馬子と、之を傍觀し玉へる聖德太子の撰錄を經、第二に一たひ剃髮して沙門となり、次きて弘文の天下を奪ひ玉へる天武天皇の討覈を經、而して阿世の小人安麿の撰錄に成りしものと云はざるべからず、余今日古事記を見るに實に憑據すべきもの多し、故に余は其人を以てせずして其言を採ると雖も、事々之れを信せされは國躰を紊亂するか如きものとは信せざるなり、余は聖德太子蘇我馬子若くは天武天皇太安麻呂の如く僞を削り實を定むるの自由を有することを知るなり、而して余は神道家が斯る人物の手を經て成れる古事記に對して非常に信用を置くことを怪まざる可らず、

余か古事記を見ること此の如くにして、而して其解釋に於ける彼か如し、故に久米氏か新論を吐かるゝに當りては余は實に神道家諸氏は十分に自己の信する事實を擧げて、之を辨駁するなるべしと信したるなり、然るに今日まで世に顯はれたる所にては單に「國家の秩序を紊亂するものなり、皇室の威嚴を損するものなり大學敎授に不適任なり」と云ふに止まるか如し、是れ余の大に感服する能はざる所なり、抑ゝ久米氏の論文は其後治安に妨害ありとの主意を以て發賣を禁せられたり、而して其身も亦た非職を命せられたり、故に諸氏の意見も政府に貫徹したるなるべし、然れども諸氏の國家に立つは敎理と條理とを以て立つものならずや

諸氏は決して國家の秩序と皇室の尊嚴とを保つべきの職任あるにあらず、然らば則ち久米氏の議論を辯駁せんと欲するに於ては、筆を執りて一々證を擧げ其誤謬を指摘するのみにして可なり、莊子曰、庖人雖レ不レ治レ庖、尸祝不下越二樽俎一而代上レ之と今まや政府國家の秩序と皇室の尊嚴とを保つに於て、未た曾て其職を失はざるに、諸氏先づ之を論す、是れ尸祝樽俎を越ゆるに類せずや、余や敢て久米氏と徹頭徹尾意見を同うするものにあらず然りと雖も、博識高才なる氏にして此の如き新論を出すに當りて、之を叩きて以て古史を討究するは、天下の大快事なりと信したるか爲めに、之を神道家諸氏に紹介したりしなり、然るに諸氏之を受けず却て之を稱して國躰の秩序を紊亂し皇室の尊嚴を毀損すと云ふ、抑も何等の擧動ぞや、嗚呼苟も上古の尊達（ミコト）を以て神靈なりと信せずんば、國躰の秩序を紊亂し皇室の尊嚴を毀損するものなりと云はゝ、日本の神道は殆と羅馬教の千六百年代に於けるか如くなり、余輩新説を唱ふもの皆異端たらんのみ、余輩豈に古史研究の自由を唱へて、彼の神道者流の之を忌むものを諭さゝるを得んや、思ふに彼輩にして古事記の性質を知るあらは、庶幾くは大に覺知する所あらん乎、

○自由不自由

一本の手を有し一本の足を有するものは之を二本の手を有し二手の足を有するものに比すれば不自由なり然ども之を手なく足なきものに比すれば自由なり陋屋に住し粗粥を啜る者は之を大厦高樓に住し肉食輕衣する者に比すれば不自由なり然ども之を家なく食なく路頭に迷ひ門前に乞ふ者に比すれば自由なりランプの光明は之を瓦斯燈に比すれば不自由なり然ども之を行燈に比すれば自由なり木版は之を寫字に比すれば自由なり然ども之を活版に比すれば不自由なり日刊新聞は之を毎週新聞に比すれば自由なり然ども之を朝夕新聞に比すれば不自由なり馬車は之を歩行に比すれば自由なり然ども之を滊車に比すれば不自由なり其他彼れと云ひ此れと云ひ共に自由不自由の比較ならざるはなし

思想の自由宗教の自由も亦た然り法律を議し制度を論ずるは自由なり然ども虚を以て實となし國性を害する能はざるは不自由なり野蠻の宗教を信ずるも自由なり文明の宗教を奉ずるも自由なり然ども人を殺して神前に供する能はざるは不自由なり共和を論じ專政を談ずるは自由なり然ども之を實地に某國に應用せんと論ずる能はざるは不自由なり耶蘇を以て神となし釋迦を以

て覺者となすは自由なり然ども劍戟を以て之を某人民に壓する能はざるは不自由なり、然り、世間豈絶對的の自由あらんや世間豈絶對的の不自由あらんや自由不自由は抑も比較的の語なり何ぞ獨り天を以て神と論ずるの自由にして、、、、を以て〇〇〇〇となすの不自由なるを怪まんや

〇本と末

草木の繁茂せんとを欲せば宜しく其根底に培ふべし枝葉は末にして根幹は本なればなり世人皆謂ふ道德敗壞秩序の以て社會を整ふるなく義心の以て世道を維持するなしと然ども道德の本源、秩序の本源、正義の本源、何處にある、一方に於ては宗教を度外視し一方に於ては宗教にあらざれば發見する能はざる本源を搜索せんとす是れ山に入りて魚を求め海に入りて薪を求むるの類なり難ゐ哉經世家の願望之を本末を誤まると云ひ之を先後する所を知らずと云ふ

〇美人献上

此一奇事は肥後國風の遺物なるにや去る廿一年には熊本二本樹東雲樓及某亭より各々某宗の僧侶へ妓を賜りたりと聞けるが今又左の投書に接せり献上するものもするものなれば安閑として之を請取るものも請取るものなり

頃日某宗の僧侶藤岡某へ二本樹新玉樓よりマツといふ娼妓（十七年）を献上せり當日の摸樣を實見するに供方の者共一同袴を着し婦人娼妓を新調の人力車に乘せ前後左右を警護して恭しく其事務所へ屆けたり其添書面は左の如し

一婦女　　壹人

右は御法禮として奉献上候也

斯くて事務所書記某は左の領收證を與へたりと

一婦女　　壹人

右は御法禮として獻納せられ正に請取候事

と毎日新聞に見えたるが如何に末法なれば迚人類を物件となすは奴隷賣買の因りて起る所佛教徒の恬然顧みる所なきは豈刻ならすや豈奇ならずや

〇前號に於て伴天連追放文其他を掲げしが今又た當時の定めなるものを載す以て耶蘇教の嚴禁せられし一般を推知するに足らん

●定

一　切支丹宗門之事、累年雖レ爲二御制禁一、御代替りに付而、彌以無二斷絶一、急度可二相改一之旨、可レ被二仰出一也、自然不審成者、有レ之者、可二申出一

此以前者伴天連之訴人、銀貳百枚、伊留滿之訴人、
銀百枚被レ下、自今已後者

一 伴天連之訴人　銀三百枚
一 伊留滿之訴人　銀二百枚
一 同宿并宗門訴人　銀五十枚

右之通爲ニ御褒美一、被レ下候若隱置仍レ顯レ自ニ他所一者、
其五人組まで、可レ被レ行ニ曲事一者、仍執達如レ件

明曆元年八月二日　奉行

私書寬文元年延寶六年御制札右に同し

●定

きりしたん宗門は、累年御制禁たり、自然不審成者、
有レ之者申出べし、御褒美として

伴天の訴人　銀五百枚
いるまんの訴人　銀三百枚
立かへり者の訴人　銀同斷
同宿并宗門の訴人　銀百枚

右之通下さるべし、たとひ同宿宗門之內たりといふ共、
申出る品により、銀五百枚下さるべし、隱置他所より
顯はるゝにおひては、其所之名主他并五人組迄、一類
共に、可レ被レ行ニ罪科一もの也

正德元年五月日　奉行

十三箇條御定目

一寬文二年、酉四月、從ニ公議一、被ニ仰出一者、伴天
連入滿、耶蘇宗門之儀者、堅御停止に而、右各寺檀
那之もの、門前召抱乃者とも、急度可レ遂ニ吟味一、若
不穿鑿にて、脇より訴人於レ有レ之者、急度可レ爲ニ
曲事一

一三宗者、國家安靜之、仍レ爲ニ御祈願所一、寺中に而、
喧嘩爭論、其外亂りヶ間敷事、無之樣に可レ爲ニ寺護一、
殊に奉レ戴ニ擔
御勅宣、御綸旨一、寶祚長久之御祈禱、朝暮無ニ怠慢一、
可ニ相勤一事

一寺院住持、移轉交代之砌、先住後住、檀那之者立合、
諸校割相改、猶又寺中之境
御朱印地、黑印地、新古寄附之、田畑山境共に、急
度相改、重て及ニ爭論一、不申樣帳札を以、其本寺え可ニ
差出置一事

一法地住持、長老後住之相續之儀、伽藍二物、印證を
以相定可レ申候、大檀那、小檀那、相對之上、寺檀
相應之長老、可レ有ニ契約一、其上に而右寺之本寺又は
國之錄所え可レ遂ニ披露一何方より相支へ候とも、仍レ
爲ニ印證之契約一、雙方相對之外、不レ可レ爲ニ無沙汰一

事

一檀那之儀者、滅罪一通りにては無レ之候、從二公儀一御法度之邪宗門御改之、依レ爲二役寺一其檀那血脉、相續之儀、急度相改可レ申、別して近年於二遠國一切支丹類族、公儀え敵對有レ之、當六月諸國之國主、地頭官領幷新御條目、御觸出可レ奉二承知一、稠敷檀那之者え申渡、此上にも怪敷、隱密之寄合仕候族、有之者急度相改、宗旨御役所え、相斷り可申事

一檀那之者、出火之爲二本人一は、罪過未糺明之内は檀那寺え引取置、御役所之可レ預二裁斷一事

一檀那之困窮に及ひ、相續難二相成一、村役人親類斗り之存寄にて、役所を　する者、若其者とも押領も有レ之哉と、檀那寺より可レ遂二詮議一、猶又他之血脉より、致二相續一候半々檀那寺より立合、相對を以可二申付一事

一王法、佛法、御兼帶大切之、御定法に候間、佛法、不歸依之輩有之、仕方無レ之樣に可二申付一、其上にも不レ用輩有レ之は、御役所え相斷り急度可レ爲二曲事一

一殿堂建立等者、不レ及レ申修覆等之儀も、住持微力にて、及二破却一候節者、檀那之者、分限相應之割付にて加二修理一及二大破一不レ申樣に急度可レ爲二寺護一其砌少も及二違背一者、有レ之者其趣を以、其國之寺社役所に相斷り、急度曲事可二申付一事

一住僧官位之儀、宗旨之仍レ爲二印證一、檀那之者可レ有二助成一、勸化其外從二諸本山一勸化等者、檀那之者、分限次第割渡し可申事

一住僧困窮に付、檀那え預二助成一度候はゝ、双方之相對を以て、可二相賴一、及二違背一共、役所之不レ及二裁斷、不レ得止事一之者、無理に申付候はゝ、其住持可二爲二越度一事

一寛文年中、御定目にも、被二仰出一之通、檀那之者病死之砌、怪敷躰者勿論、惡名之聞へ等、有レ之者、其家內親類ともに、急度致二吟味一、子細有レ之者、役所え申出、詮議申請候而、御役所之差圖次第、可レ有葬送一、若し隱置候而、後日露顯有レ之者、檀那寺、可爲二越度一事

一雖レ爲二四邪宗門之外一、其宗旨之外法邪法、修行仕もの有レ之者、急度相斷り、法行之次第を以、御役所え相斷り可申事

右之條々急度相守可申候、若違犯之者、於レ有レ之者可

レ爲ニ曲事ニもの也
貞享四年卯十月

〇ゆにてりあん藥研堀教會々則

會堂位置　日本橋區藥研堀廿二番地

第一條

一本會を名けて藥研堀教會といふ

第二條

一本會々員たらんと欲する者は本會の教旨を遵奉し本會の隆盛を企圖する者に限る

一本會々員たらんと欲する者は入會式擧行の前日或は前々日に於て役員會に出席し自己の信仰を告白すべし

一入會は本會員の紹介を經本會役員會の許諾を得べし

一入會時は會堂に於て其入會式を行ひ同時に役員會の許に定めたる誓約を爲すべし

一入會の上は本會を維持するが爲に必用なる計費を分擔せしむ

　但し前月に於て豫算額を定む

一入會の上は本會の擴張費及公共慈善費に充つるか爲に應分の喜捨を爲すべし

一本會員にして退會を乞ふ者は其理由を明記し役員會へ届出づべし

一本會員にして本會の教旨に戻り或は不倫敗徳の所行ありたる時は役員會に告發し總會の決議に依り退會を命ずる事あるべし

第三條

一本會は毎日曜日會堂に於て禮拜敬虔の典を執行す

一本會は時々內外知名の士を招聘し演說會を開くべし

第四條

一本會は左の役員を置く

理事　一名　會計　一名

理事は本會一切の事務を整理し會計は出納を掌どる

一役員の撰擧は總會に於て投票の上之を定む

一役員の任期は各一ヶ年とす

　但し再撰するとを得

第五條

一會議は役員會及總會の二會議より成立す

一役員會は理事會計及牧師を以て成立し例月第一日曜日を以て會議の定日とす

一總會は會員全躰を以て成立し例年三月上旬を以て定期とす

但し十五歳以下の男女はこの會に參與するを得ず

一緊急要用の場合に於ては臨時會を開を得

但し役員會は各役員一名の申出でに依る

總會は役員會の申出て又は會員三分の一以上の申出でに依る

一凡べて決議は多數決とす

第六條

一本會は例年三月十日を以て紀年會を開く

第七條

一本會々則の修正は凡べて總會に於て之を行ふ

右の七ヶ條は堅く遵守致すべき者なり

藥研堀敎會（ゆにてりあん）

〇扶桑評論の佛敎西漸基督敎東漸論

釋迦亞細亞に生れ基督亦亞細亞に生れ均しく亞細亞の產なりと雖も然れどもその敎の傳はる一は歐米に盛にして一は亞細亞に旺なり

今吾人は一とたび之を取り換へんと欲する也吾人が爾か欲せざるも現に宗敎の風潮はその方向に進みつゝあるを見る也夫れ凡そ物永久なれば汚弊に流れ易し西洋に於ける基督敎徒の內部の事情は之を他日に讓り東洋に於ける佛敎徒の內幕は甚しく汚俗弊習を釀したること

とは萬人異口同音に鳴らす所と爲れり基督の愛釋迦の慈は万古に亘りて朽ちざるのみならず文明が進めば進む程その美光を放つに相違なかるべしと雖も之を傳道する者之を信奉する者ゝ心永年の間には知らず識らず次第次第に清鮮の氣を欠き熱心眞面目の信を失し妄信と偷安と情實と敎儀敎式の末とに趨りて腐敗の淵に沈み寧ろ世道人心に害あるも益なきに幾からんとす東洋に於ける佛敎僧侶間の有樣同信徒間の情態實に方に此弊に陷落しつゝあるもの丶如し但基督敎漸入以來僧侶等も少しく反省する所あるが如く將來稍々革新を呈し來らんとするは蓋し不幸中の幸と謂ふて可なり今それ已に斯の兆候あり之より益々基督敎の新元素を加へて宗敎界に一政紀元を喚起せば思ふに東洋亞洲の大局面も政治貿易と共に新勢力を加へ來るや必せり基督敎は支那に入るべし安南に入るべし朝鮮に入るべし日本に入るべし印度に入るべし緬甸に入るべし暹邏に入るべし基督敎が亞洲に入りて佛敎其他諸種の宗敎と戰ふや一般の人心必ず一變すべし一般の人心一變せば必ず自他の宗敎徒亦活氣を加へ來るや必せり此の活氣此の一變實に是れ人世に福祉を伴ひ來るものたることを知らざるべからざる也

オルゴット氏一流の人物を歐米に生ずること多々ならんことを望み新島襄氏一流の人物續續として東洋に出でんことを望むは宗敎界を勃興隆盛ならしむに就ての一大必要たらずんはあらざる也

世には口を極めて宗敎を非難する者ありそれ然り文明開化の極度に到達せば宗敎或は必要を感ぜざるに至るやも知るべからず然れども世界今日の現狀にては唯り宗敎のみならず學術なり美術なり禮樂なり苟も人心を修治するに足るものあらば採りて以て修治の具と爲さずんばあらず修治の事勉めて且つ强め然も猶ほ且つ及ばざらんことを恐るゝは人心改良の事也一瞬豈に怠るべけんや

是の故に基督敎は益々東洋に入り來らんことを欲し佛敎は愈々西洋に進み入らんことを欲せずんばあらざる也然り而して双方共從來盛なるの地に在つては素とより各々愈々益々隆盛ならんことを望まずんばあらざる也兩者各各新勢力を以て新地を拓開せば兩者共に大にその自己固有の特性を一層發揮し來り得べし他敎の新入に勵まされて互に活氣を加へ來るべく爲めに各自内幕の舊染汚風を一洗するに至るべし是の如くして漸く腐敗を極めんとするを防禦し得べし是の如くせずんば基督の大愛釋迦の大慈も終に地を拂つて去り其功德を薄ふするに至らんことを杞憂せずんばあらず

○アイノの基督敎

兩三年來アイノ土人中基督敎を信仰する者頗る增加し米國宣敎師デッユー氏外一名の日本人專ら傳敎に從事し居る由なるが言語の能く通せざると智識の皆無なるとより傳敎上大に困難を極むる由又右土人中親子相通じ兄弟相姦する等は珍らしからぬとにて若じ其不德なるとを說諭すれば只笑ひ居る抔想像外の始末多しと云ふ

○禁酒の効能

人口十萬に對し禁酒家と非禁酒家とが各年齡に於ける生殘比例は左表の如しと或る衛生家の統計なり是では長生を欲するもの禁酒せざるを得ず

年齡	非禁酒家	禁酒家
二十五歲	八一、九七五	九五、七一二
三十歲	六四、一一四	九一、五七〇
三十五歲	五〇、七四六	八六、八三〇
四十歲	三九、六七一	八二、〇八二
五十歲	二一、九三八	七〇、六六六
六十歲	一一、五八六	三六、三五五
七十歲	五、〇七五	三五、二二〇
八十歲	八七六	一三、一六九

○海外に神道を布かんとす

神道各敎派中最も古き修正派は海外移住民を主として

外人中にも之を信ずるものあるより此際朝鮮支那を初め米國等へも宣教せんと管長新田邦光氏は目下盡力中なり

彙報

●日本ゆにてりあん第一協會　は去月各日曜日定期の集會ありクレー、マッコレー氏ウヰリヤム、ローレンス氏神田佐一郎氏等の説教あり相應の集會なりき

●神田區講義所　神田區錦町三丁目二番地に新設したる新講義所は久しく天然痘流行の爲め開會を見合せ居られしが同病も稍衰滅したれは今月三日を以て献堂式を執行されたり因に曰く同所はモト錦町二丁目六番地にありたるを移し更にローレンス氏が一層の盡力を加へて布教を圖らるゝといふ

●麹町區講義所　仝所は從來高田太郎氏の盡力さるゝ處なりしが今回同氏は日本橋區本所區淺草區深川區有志者の懇請に依り新に藥研堀に教會を開かるゝ爲同講義所を閉ぢられたり從來同所に屬せし會員の一半は神田區講義所に行き一半は新講義所に屬する事となりたりと云ふ

●藥研堀教會　日本橋區藥研堀廿二番地に新設せられたる同教會は日本橋區本所區淺草區深川區有志者の發起盡力に依りて成立せり贄田剛橋氏專ら會務を整理せられ高田太郎氏牧會の任に當り其他二三の有志者非常の盡力を以て大に布教を企てらる日曜日の集會に來聽者多く殊に夜會にはいつも滿場立錐の餘地を存せず其會則は載せて本號雜錄にあり

●仝會開堂式　藥研堀教會開堂式は去月十日を以て擧行せらる會堂の修飾行き屆き會衆無慮八十名晩れて來りし者は入場するを得ざりしとか聞く贄田剛橋氏、クレー、マッコレー氏、神田佐一郎氏等交る〳〵演説せられ高田太郎氏會を司どり謹嚴なる祈禱を捧げられたり

●神田區講義所　四月三日午後二時ゟ開堂式ありて高田、神田、マッコーレー、ローレンス諸氏の禱告、説教、演説等あり來會者多く會堂寸地を餘さゞりしと又た同所に於て四月八日午後七時三十分よりマッコーレー氏の「ガッソン氏の傳を論じ併せて米國奴隸禁止論に及ぶ」の講義あり四月十日午前十時よりローレンス氏のユニテリアン説教あり四月十五日午後七時三十分より大西祝氏の「儒教道德附現今の德育問題」の講義あり有志諸君は續々來聽あれとの事

明治廿五年八月廿五日印刷
全　年八月廿六日出版

定價二十五錢

發行兼印刷人　前川太郎
編輯人　神田佐一郎

東京京橋區加賀町八番地
發行所　日本ゆにてりあん弘道會

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
印刷所　秀英舍

宗敎定價表

一冊		六錢	凡ベテ郵稅ヲ要セズ
六冊	(半年分)	三十錢	
十二冊	(一年分)	五十錢	

廣告

一行五號活字廿四字詰　一頁　六十二行
一行以上　一回　八錢

(注意)
送本幷ニ廣告共一切前金ニテ申受候事本誌幷ニ廣告料ノ代金御拂込ノ節郵券代用ハ御斷ハリ申上候不得止地方ハ五厘券一割增ノ事
郵便爲替ハ東京芝口郵便局ヘ向ケユニテリアン弘道會宛振込ノ事
前金切レタル節ハ包紙ヲ朱書キニ致シ置候間早速御送金願上候